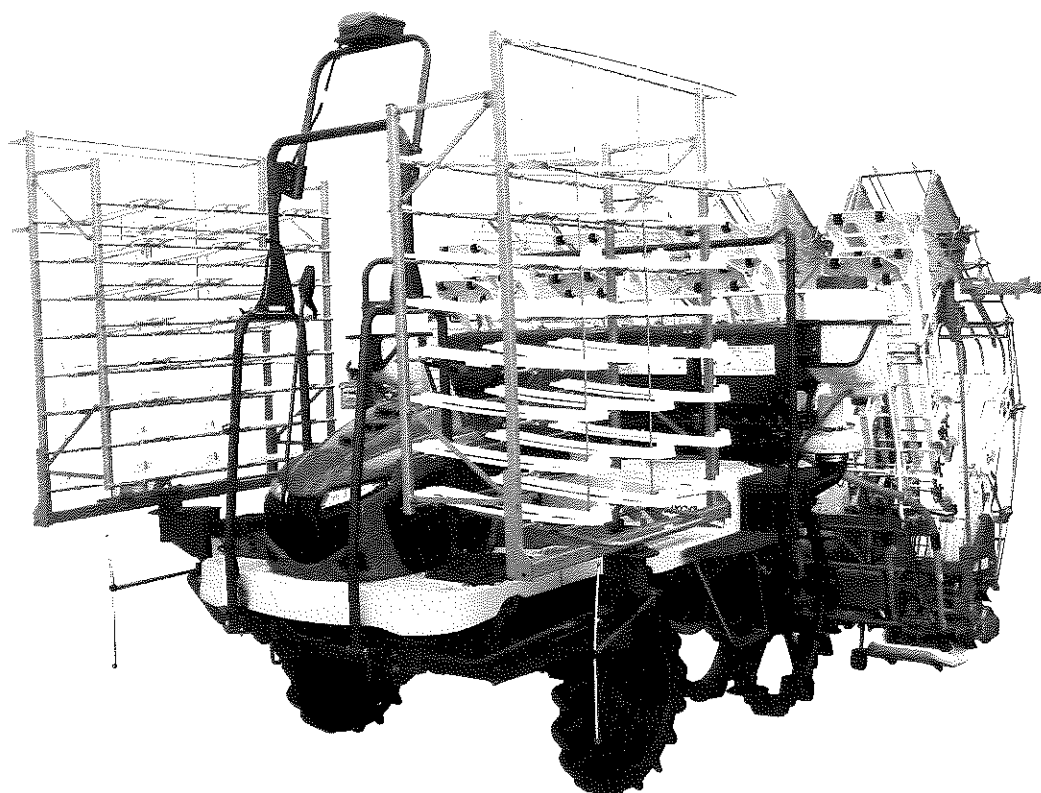


使用する前に必ずよく読んで正しく使いましょう

みのるポット成苗田植機 RXG-800〔乗用型〕

取扱説明書



操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。



ヘッドランプ



エンジン停止



エンジン油圧



エンジン水温



バッテリー充電異常



燃料



エンジン回転数 [低回転]



エンジン回転数 [高回転]



e-stop



苗切れ



施肥 (肥料)



株数



肥料切れ



肥料詰まり



施肥全条停止



お知らせ



警報



GPS 受信測位



直進キープ可否



作業面積



機能設定



モノロー



画面輝度



条間アシスト









車輪スリップ

専門用語の説明

• パワーステアリングハンドル	油圧式の操向操作ハンドル
• 主変速レバー (HST)	【前進】・【後進】・【停止】の切り替えと走行速度およびエンジン回転をコントロールするレバー (油圧式の無段変速装置)
• 副変速レバー	【圃場作業】(低速位置)と【移動】(高速位置)を切替えるレバー
• 十字ポンパレバー (二段)	植付部(苗のせ台)の上昇↔下降、植付部への動力伝達の【入】、【切】および筋付マーカの出し入れを行うレバー
• ブレーキペダル	踏込むとブレーキが掛かるペダル
• バックアップ	主変速レバーを【後進】側に操作すると植付部が自動的に上昇する機能
• フィットセンサ	ほ場条件による植付部の感度を設定するセンサ
• モンロー	マイコンのはたらきで植付部を常に一定の水平状態に修正・保持する自動装置
• 安全クラッチ	植付爪に障害物が詰まったとき、植付部のギアの破損を防止するために植付部への動力を断つ装置
• コントローラ	運転席下部、植付部にある自動制御をコントロールするマイコン部
• スローブローヒューズ	メイン回路保護のためのヒューズ

はじめに

- このたびは、本機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
- 本機は、水稻の田植えをするための機械です。他の用途に使用しないでください。
- この取扱説明書は、本機を使用する際に、ぜひ守っていただきたい安全作業に関する基礎的事項、本機を適切な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成しております。
- 本機を初めてご使用になるときはもちろん、日頃の運転・取り扱いの前にも入念に読み、内容を充分理解された上で、安全確実な作業を心がけてください。
- この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるように保管してください。
- 本機を貸与または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を充分理解していただき、この取扱説明書を本機に添付してお渡しくください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに販売店にご注文ください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、本書の内容及び、イラストなどの一部が、本機と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- もし、ご不明な点がございましたら、ご遠慮なく販売店にご相談ください。
- 本取扱説明書に記載した注意事項や機械に貼られた  の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
- なお、 の表示があるラベルが破損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に連絡し、必ず所定の位置に貼ってください。
- 本取扱説明書では、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について次のように表示しています。

表示	重要度
 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しております。
 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性のあるものを示しております。
 注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものを示しております。
 重要	また、商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。よく読んで商品の性能を最大限発揮してご使用ください。
補足	その他、使用上役立つ補足説明を示しています。

目次

安全に作業するために	5	1.2 メインパネル(作業関係)	36
安全に作業するために次のことからを 必ず守ってください	5	1.2.1 苗切れ警報	37
安全ラベルと貼付位置	14	1.2.2 肥料切れ警報	37
安全ラベルの手入れ	19	1.2.3 肥料詰まり警報	37
使用上のポイント	20	1.3 液晶モニタ	38
サービスと保証について	23	1.3.1 液晶モニタ	38
装置の名称と取扱い	25	1.3.2 液晶モニタの表示と設定について	39
機体方向説明	25	1.3.3 メイン画面:[作業条件] (4分割画面)	40
各装置の名称	26	1.3.4 メイン画面:[作業面積]	41
走行装置の名称とはたらき	30	1.3.5 メイン画面:[GS表示]	41
1. エンジン操作関係	30	1.3.6 メイン画面:[お知らせ]	41
1.1 メインスイッチ	30	1.3.7 メイン画面:[警報]	42
1.2 アクセルレバー	30	1.3.8 メイン画面:[機能設定]	43
1.3 非常エンジン停止ノブ	30	1.3.8.1 画面:[植始め位置]	44
2. 走行操作関係	31	1.3.8.2 画面:[施肥量微調整]	45
2.1 主変速レバー	31	1.3.8.3 画面:[施肥残量感度]	45
2.1.1e-stop 機能について	31	1.3.8.4 画面:[施肥詰り感度]	45
2.2 副変速レバー	32	1.3.8.5 画面:[画面輝度]	45
2.3 ブレーキペダル	32	1.3.8.6 画面:[スリップ補正]	46
2.4 駐車ブレーキレバー	32	1.3.8.7 画面:[スリップ率]	46
2.5 パワーステアリングハンドル	33	1.3.8.8 画面:[条間アシスト調整]	46
2.6 運転席(シート)	33	1.3.8.9 画面:[条間アシスト]	46
2.7 前輪デフロックペダル	33	1.3.8.10 メイン画面:[モンロー]	47
2.8 メインパネル(走行操作関係)	33	2. 植付操作関係	47
2.8.1 燃料計	34	2.1 十字ポンパレバー	47
2.8.2 水温計	34	2.2 フィットセンサダイヤル	49
2.8.3 アワーメーター	34	2.3 自動植付[入]/[切]スイッチ	49
2.8.4 充電ランプ	35	2.4 あせぎわスイッチ	49
2.8.5 オイルランプ	35	2.5 油圧ロックレバー	50
2.9 コンビネーションスイッチ	35	2.6 マスコット・マスコットランプ	50
作業装置の名称とはたらき ..	35	2.7 筋付マーカ	51
1. 操作パネルとメインパネル	35	2.8 隣接マーカ	51
1.1 操作パネル	35	2.9 予備苗のせ台	52
1.1.1 マルチスイッチ	35	2.10 セットレバー	52
1.1.2 戻るスイッチ	35	3. 施肥装置操作関係	52
		3.1 ホッパ	52
		3.2 ロールケース(繰出部)	52
		3.3 ブロワ	53

目次

3.4 計量ボタン	53	1. ほ場の準備	73
3.5 残肥排出レバー	53	2. 苗の準備	74
4. 水洗装置関係	54	田植作業前の準備	76
4.1 タンク(水洗装置)	54	1. 筋付マーカのセット	76
4.2 電源スイッチ(水洗装置)	54	2. 隣接マーカとマスコットのセット	76
4.3 エア抜きキャップ・ポンプスイッチ	54	3. 植付部スタンドの収納	76
4.4 調量ダイヤル(水洗装置)	54	4. 各レバー・ダイヤルのセット	77
5. 直進キープ装置の名称とはたらき	54	5. 各レバー・ダイヤルの設定	77
5.1 基準登録スイッチ	55	植付作業のしかた	78
5.2 GS スイッチ	55	1. ほ場の出入りのしかた	78
5.3 GPS アンテナユニット	56	2. 植付作業の手順	78
5.4 GPS 測位精度について	57	3. 植付けかたと旋回のしかた	81
運転のしかた	59	4. 自動植付作業のしかた	83
運転前の点検	59	4.1 植始め位置の調節	84
1. 日常点検項目	60	5. 変形田の植付け	85
新車時の扱いかた	63	6. 安全クラッチについて	85
1. ならし運転について	63	6.1 植付爪の安全クラッチについて	85
エンジンの始動と停止のしかた	63	7. 苗の補給のしかた	86
1. 始動のしかた	63	7.1 空箱の取り出ししかた	87
2. 暖機運転について	64	8. あぜぎわの植付けかた	87
3. 寒冷時の始動のしかた	64	9. 残り苗の取り出ししかた	88
4. 燃料切れ後の再始動のしかた	64	9.1 ガイドに残った空箱の取り出ししかた	90
5. バッテリーが上がったときの始動のしかた	64	10. 直進キープ機能について	90
6. 停止のしかた	65	10.1 安心機能について	95
移動走行について	65	11. 条間アシスト機能について	97
1. 移動走行前の準備	66	11.1 条間アシスト幅の調整	99
1.1 アンテナフレームの収納のしかた	68	12. スリップ補正機能について	100
2. 田植作業前の準備	68	12.1 スリップ補正機能使用の切り替え	100
2.1 アンテナフレームのセット	68	12.2 スリップ率の調節	100
3. 発進のしかた	69	13.10 アール (a) お知らせ機能について	101
4. 旋回のしかた	70	施肥作業	103
5. 停車・駐車のしかた	70	1. ほ場と肥料について	103
輸送について	71	1.1 施肥作業時のほ場条件	103
1. トラックとあゆみ板の準備	71	1.2 肥料について	103
2. トラックへの積込み時の本機の準備	71	1.2.1 一発肥料使用時の注意	105
3. トラックへの積込み・積降ろしのしかた	71	2. 施肥作業前の準備	106
4. トラック上での処置	72	3. 施肥作業のしかた	108
田植作業のしかた	73	4. ホッパ内の肥料の排出のしかた	110
ほ場と苗の準備	73	水洗装置の使いかた	112
		作業に合わせた各部の調節・調整のしかた	114
		1. 植付株数の調節	114

2. 植付株数および苗の使用量について	114	6.2 エンジンオイルの点検、補給、交換	146
3. フィットセンサダイヤルの調節	114	6.3 ミッションオイルの点検、補給、交換	146
3.1 設定位置	114	6.4 後車軸ケースオイルの点検、補給、交換	147
4. 油圧感度調節レバーの調節	115	6.5 植付ミッションオイルの交換	148
5. 植付深さの調節	115	6.6 植付中間ケースオイルの交換	148
6. モンローの調節	116	7. ラジエータ冷却水の点検、交換	148
7. 苗支持板の調節	117	8. ラジエータフィンの掃除	150
8. 整地板の調節	117	9. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換	150
9. 施肥量の調節	118	10. 燃料フィルタアッシの交換	151
9.1 肥料の流れ	118	11. エンジンバルブクリアランスの点検	151
9.2 施肥量の調節範囲	118	12. エアクリーナエレメントの点検、掃除、 交換	151
9.3 施肥条止めのしかた	120	13. パイプ・ホース類の点検、交換	152
メインパネルによる異常と処置	122	14. ミッション駆動ベルトの点検	153
メインパネルによる警報と処置	124	15. オルタネータ駆動ベルトの点検、調整	154
メンテナンス	129	16. ミッションオイルフィルタカートリッジの 交換	154
各部の開閉と脱着のしかた	129	17. タイヤの点検	154
1. ボンネットの開閉	129	18. 前輪エアタイヤ、後輪タイヤ [エアタイヤ装 着時] 空気圧の点検、調整	155
2. リヤカバーの脱着	129	19. 施肥ブラシの点検、掃除、交換	155
3. 運転席下カバー (右) の脱着	130	20. バッテリーの点検、交換	156
4. ホッパ部の開閉	130	21. ワイヤハーネス (配線) の点検、交換	159
5. ロールとブラシの脱着	130	22. 各ヒューズの交換	160
各部の掃除と注油のしかた	132	22.1 スローブローヒューズの点検、交換	162
1. 各部の掃除	132	23. ランプ (電球) の点検、交換	163
1.1 施肥部	132	植付作業後の手入れ	164
1.2 肥料搬送ダクト	134	1. 毎日の作業後の機体の手入れ	164
1.3 ブロワダクト吸入口	134	2. 長期格納時の手入れ	164
1.4 水洗装置の掃除	134	2.1 長期格納時の各部の掃除、注油、補修 のしかた	164
1.5 植付部の水洗い	135	2.2 長期格納時のラジエータ冷却水の手入れ のしかた	164
2. 注油のしかた	136	2.3 長期格納時のバッテリーの手入れのしかた	165
2.1 注油、グリス塗布・注入箇所	136	2.4 長期格納時の各レバーその他の手入れ のしかた	165
定期点検	139	2.5 水洗装置の手入れのしかた	165
1. 廃棄物の処理について	140	不調と処置	166
2. 洗車時の注意	140	不調と処置	166
3. 使用者が行ってはいけない修理	140		
4. 定期点検一覧表	141		
5. 給油、注油 (水) 点検一覧表	143		
6. 燃料、オイルの点検、補給、交換	145		
6.1 燃料の補給	145		
6.1.1 給油	145		
6.1.1.1 満タン警報ブザー	146		

目次

- 1. 植付作業時の不調と処置 166
- 2. 直進キープ機能の不調と処置 171
- 3. 自動供給装置の不調と処置 172
- 4. スイッチ・電気関係の不調と処置 173
- 5. 連続欠株センサーの不調と処置 174

サービス資料 175

- 主要諸元 175
- 付属部品 176
- オプション（別売品） 177
- 消耗部品 178

⚠ 安全に作業するために

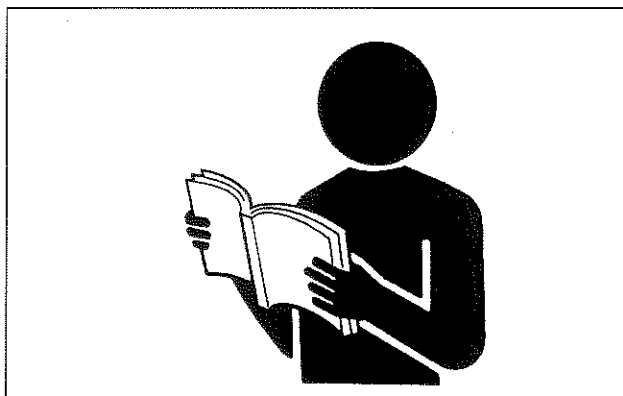
安全に作業するために

本機をご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも、本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

安全に作業するため次のことがらを必ず守ってください

1. 安全指示順守

- 本書および本機の安全ラベルをよく読み理解してください。

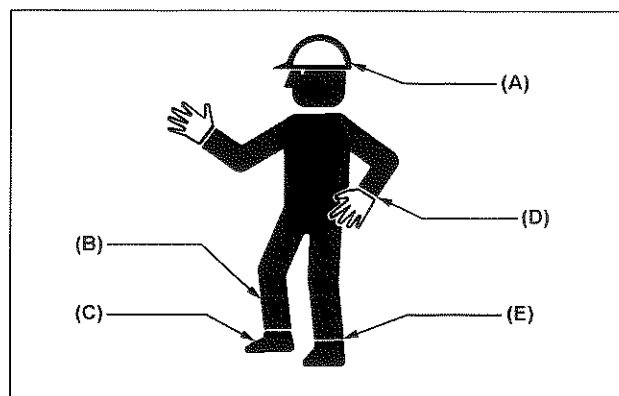


- 本書および安全ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
- 安全ラベルはいつもきれいにしておいてください。また、破損・紛失したときは注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転、作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり、機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても安全には細心の注意を払ってください。
- ほかにの人に機械を貸すときは、取扱方法や安全のポイントをよく説明し、この取扱説明書をよく読むように指導してください。

2. 作業に合った服装および健康状態

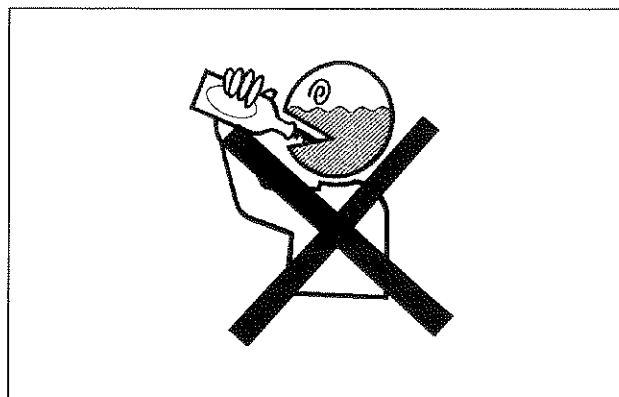
- 作業に合ったキチンとした作業着を着用してください。
- だぶついた服装は、回転部に巻込まれやすく危険です。また、靴はすべらないものを使用してください。

- ヘルメット、滑りにくい靴を着用し、必要に応じて安全靴、保護メガネや手袋などを着用してください。



- (A) ヘルメット着用
(B) 体に合った服
(C) 滑りにくい靴
(D) 袖口きっちり
(E) スズきっちり

- お酒を飲んでいる方、睡眠不足の方、妊娠中の方、過労、病気の方は使用しないでください。

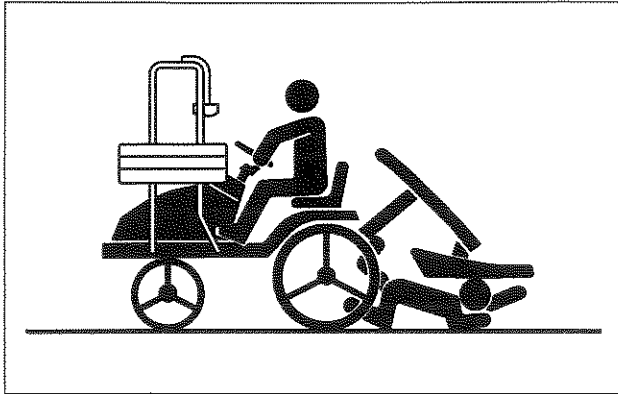


- 初めて運転する人は、操作に慣れるまで低速で運転してください。

3. 子供が近づくのは危険

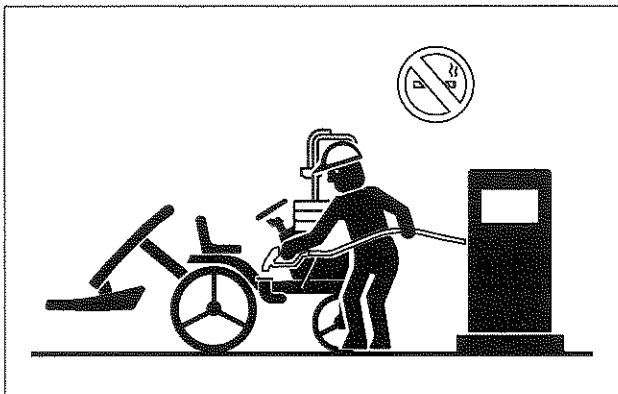
- 点検・整備中および田植作業中機械に子供を近づけないでください。見えないところで機械に触ったりかかれたりしてたいへん危険です。

⚠ 安全に作業するために

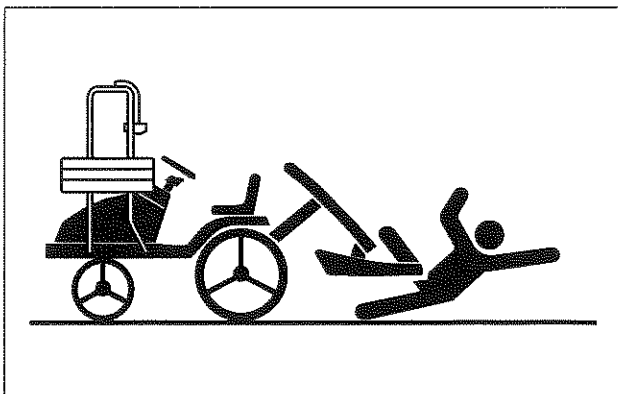


4. 使用前の準備・点検

- 使用前の点検は必ず行ってください。
- 燃料の給油・オイル交換・注油・機械の点検は、エンジンを止めて行ってください。
- 火気厳禁。
- e-stop 中に燃料を給油しないでください。

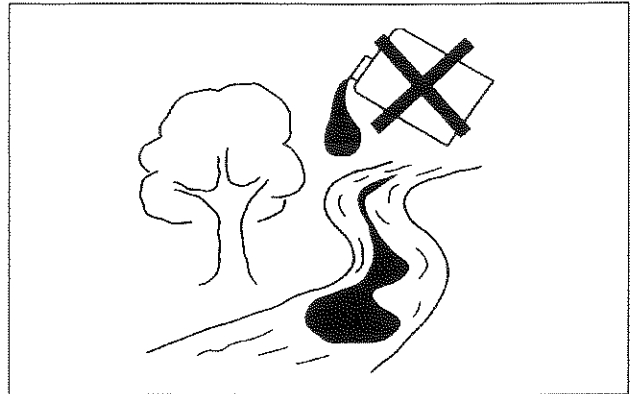


- 平坦な場所で駐車ブレーキを掛けて行ってください。
- 植付部を持上げて植付爪などの点検をするときは、油圧昇降ロックをするとともに、台などで支えをして落下を防止してください。



5. 廃棄物の取扱い注意

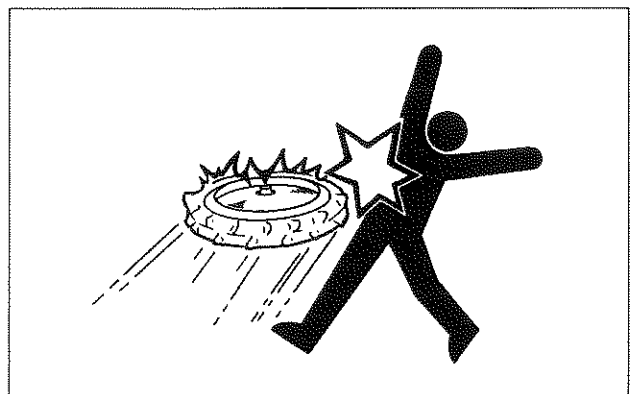
- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。



- 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先または、産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。

6. タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。

- 空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。

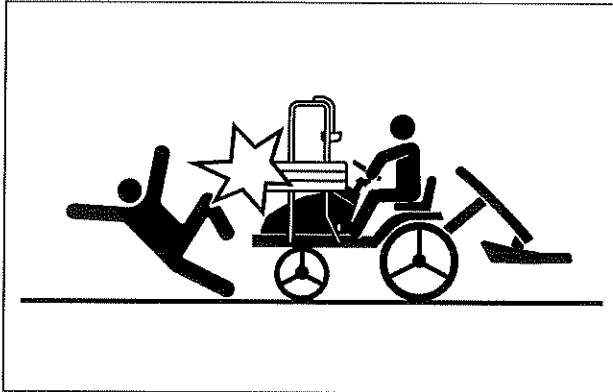


- タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
- タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は、必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行うように、法で決められています。）

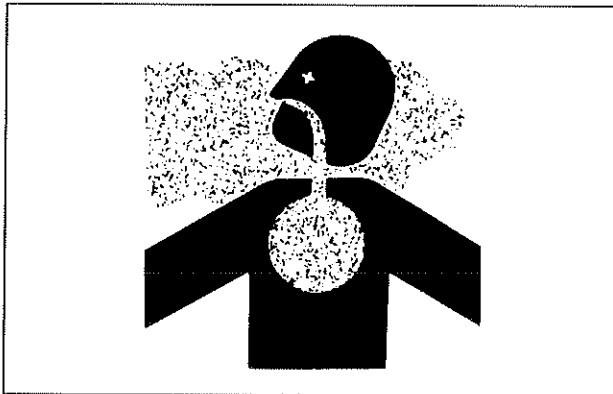
▲ 安全に作業するために

7. エンジンの始動

- エンジンの始動時、運転席に座り、主変速レバー、副変速レバーが[N]（中立）になっていることを確認してから始動してください。
- 機械の周囲の人・物に充分注意し、ブレーキペダルを踏んでから始動してください。

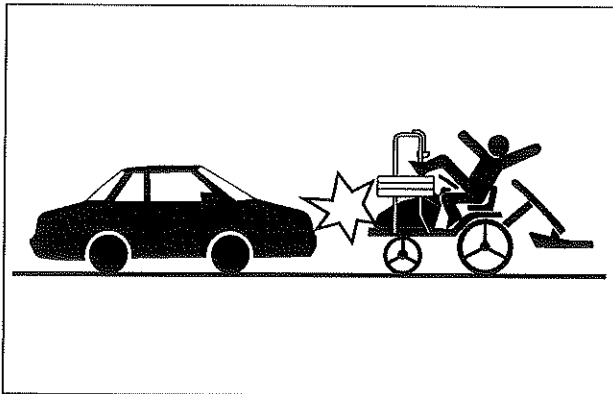


- 屋内で始動するときは、窓・扉を開け、外気が充分入るようにしてください。



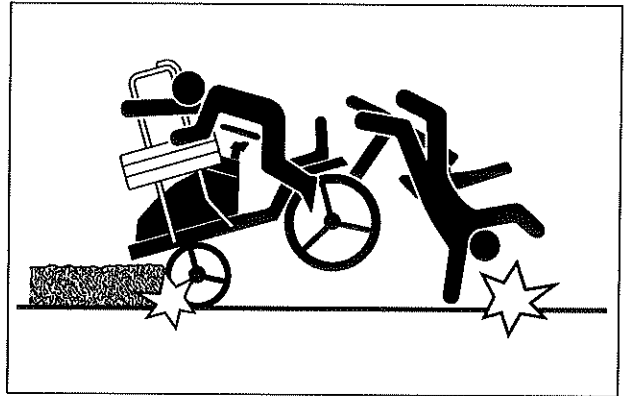
8. 走行運転

- この機械は一般道路を走行できません。

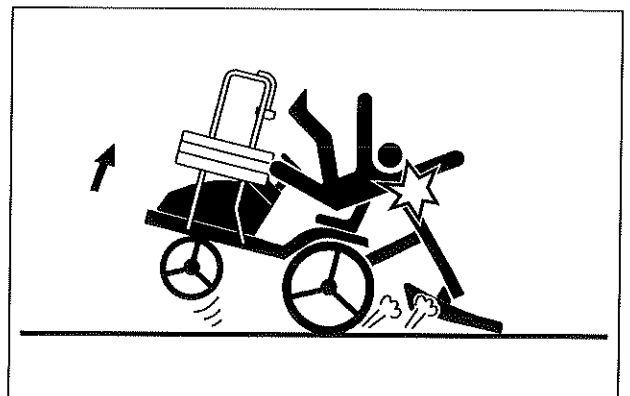


- 一般道路はトラックなどで運搬してください。
- 発進前に必ず植付部が持ち上げられているかを確認してください。

- 機械の周囲の人・物に注意して、ゆっくり発進してください。
- 初めて運転される方は、操作になれるまで低速で運転してください。
- 道のりが遠くても、その他どのような場合でも、絶対に運転者以外の人を乗せないでください。



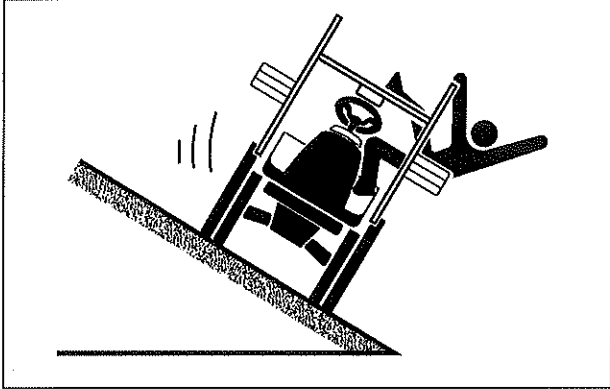
- 予備苗のせ台の上などに物を乗せないで、荷物はめんどどうでも、別にトラックなどで運搬するようにしてください。
- 植付部を最上昇位置にしたあと、油圧ロックレバーを[閉]位置にして植付部の落下防止を行ってください。
- 急発進・急停止・急旋回はしないでください。



- 発進するときは、ブレーキペダルを離してから主変速レバーを[N]（中立）位置からゆっくりと操作してください。
- 停止するときは、必ず主変速レバーを[N]（中立）位置に戻してからブレーキペダルを踏込んでください。
- カーブ・曲り角では早めにスピードを落としてください。
- わき見・手ばなし運転はしないでください。気のゆるみが重大事故につながります。
- 隣接マーカ・マスコット・筋付マーカを収納状態にしたあと、筋付マーカをロックしてください。
- 周囲の障害物に接触しないよう、ゆっくりと運転してください。特に、苗のせ台の接触には注意してください。

⚠️ 安全に作業するために

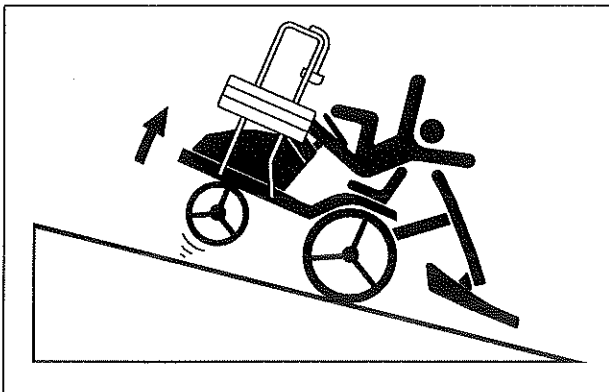
- 機体が右または、左に大きく傾き、転倒するおそれがあるので、傾きの大きいところでは走行しないでください。



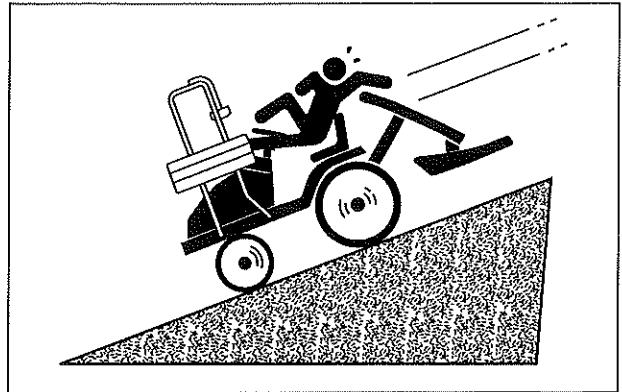
- ホッパ内やホッパの上などに物を乗せないで、荷物はめんどうでも、別にトラックなどで運搬するようにしてください。
- ホッパのふたを閉じてフックが掛かっていることを確認したあと、ホッパのふたにゴムバンドを掛けてください。

9. 坂道走行

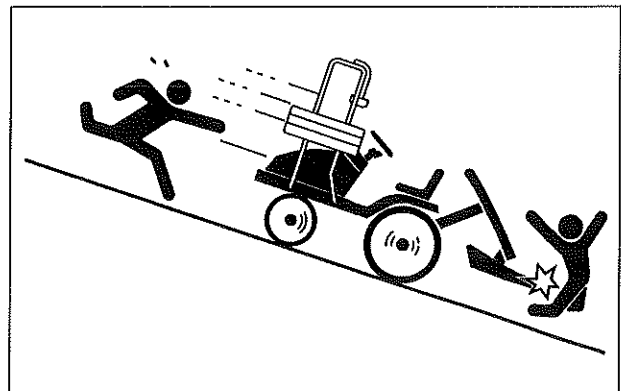
- 坂の手前で一旦停止して、副変速レバーを[圃場作業]に切り替えてから、坂道の登り降りをしてください。
- 発進・停止するときは、必ず主変速レバーを操作してください。
- 急発進は禁物。
- 坂が急で、前進で登ると前が浮上がるおそれがある場合は、後進で登るようにしてください。



- 坂の途中で副変速レバーを[N] (中立) にしないでください。



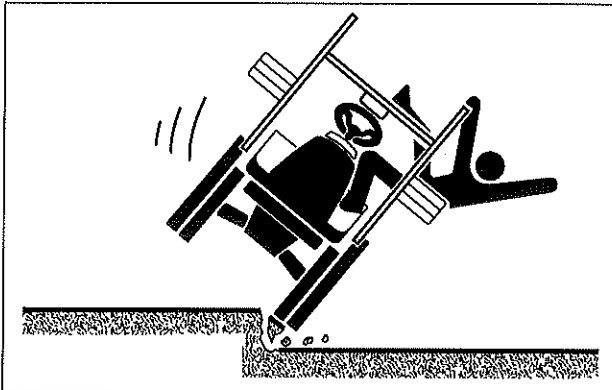
- 坂の途中で危険回避などのためにやむを得ずブレーキペダルを踏むときは、ブレーキペダルをいっぱい踏込んでください。
- 坂道では、特別なとき以外には駐車しないようにしてください。
- 駐車する場合は、駐車ブレーキを掛けて、石や木片などで下側の両輪に車止めをしてください。
- 駐車中は、副変速レバーを[圃場作業]または[移動]に入れておいてください。
- 転倒による重大事故のおそれがあるため、後部作業機 (植付部など) を取り外して本機側単独で坂道走行しないでください。
- 坂道では e-stop でエンジンを停止しないでください。車輪が中立状態になり暴走するおそれがあります。



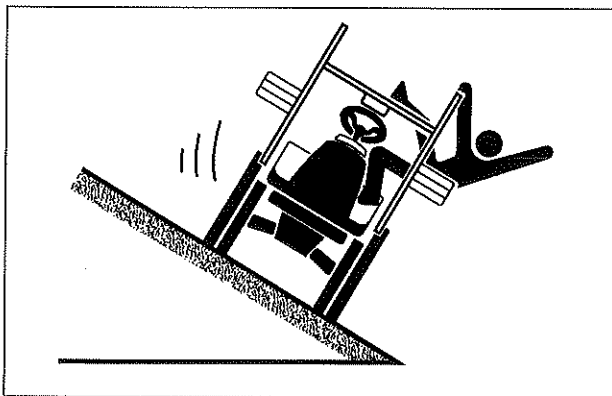
10. 農道、ほ場の移動

- 副変速レバーを[移動]にして、植付部を上昇させて、ゆっくり走行してください。
- 路肩くずれに注意してください。

⚠ 安全に作業するために



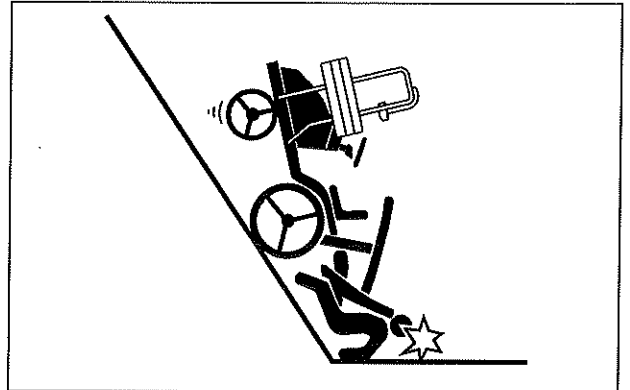
- 草などでおおわれていて路肩がわからないときや危ないと思われる所では、機械から降りて確認するようにしてください。このとき、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキを掛けて行ってください。
- 雨あがりのとき、狭い農道では、速度を落として慎重に走行するようにしてください。
- 対向車をさけるときは、無理に端いっぱいには寄らず、一旦停止して対向車をやりすごしてください。
- 油圧昇降ロックをし、植付部の落下を防止してください。
- 隣接マーカ・マスコットを収納し、筋付マーカをロックしてください。
- 周囲の障害物に接触しないよう、ゆっくりと運転してください。
- 機体が右または、左に大きく傾き、転倒するおそれがあるので、傾きの大きいところでは走行しないでください。



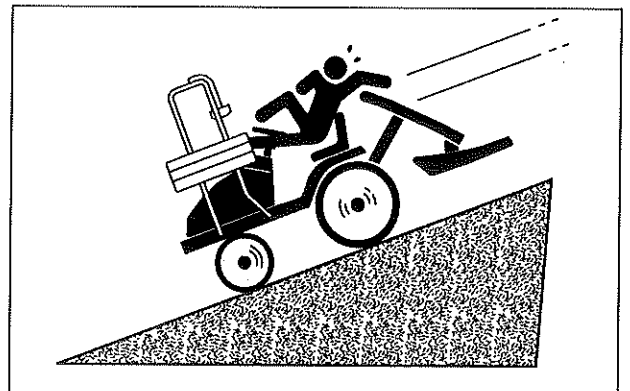
11. ほ場の出入り

- 機械をあぜ・溝に直角に向けて止め、副変速レバーを[圃場作業]にし、十字ポンパレバーで植付部を下げ、主変速レバーを低速で、ゆっくり発進してください。後輪があぜに上がると同時に、植付部を上げてください。
- 農道が狭い場合は、ほ場に出入口の傾斜をつくり、溝は渡り橋をつくってください。
- ほ場の出入り、土手などの急斜面の登り降り、溝越えのときには、必ずあゆみ板を使うか、ほ場に出入

口傾斜や渡り橋をつくって、後進で登ってください。



- あゆみ板は、機械の重量に耐える強度（金属製）で、段差に対して4倍以上の長さのもの、また、横サンとスベリ止めのついたものを使用してください。
- あゆみ板を登り始める前に、前輪デフロックペダルを踏むことを忘れないでください。また、前輪でデフロックペダルを踏み込んだままの状態に登ってください。
- あぜ・溝に対して機械を直角に止め、左右の2枚のあゆみ板が機械の両輪に合い、平行になっているかを確認してください。
- ハンドルを真直ぐに直し、真直ぐに登ってください。
- 急傾斜面の移動で斜面を下るときは、副変速レバーを[圃場作業]で、前輪デフロックペダルを踏んで前輪を左右ロックしてください。
- 走行途中で副変速レバーを[N]（中立）にしないでください。

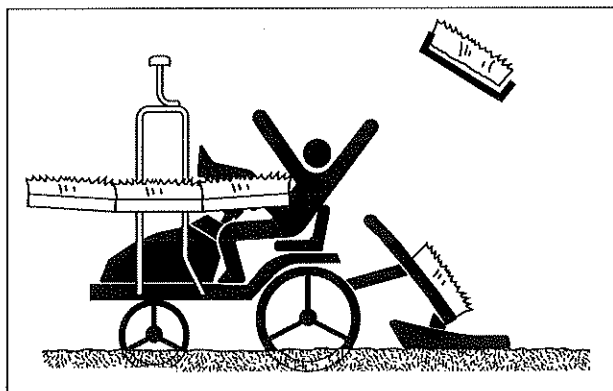


- 走行途中で危険回避などのために本機を停止させたいときは、ブレーキペダルをいっぱい踏込んでください。ブレーキペダルの踏込みが足りない場合は、暴走するおそれがあります。
- 出入りの途中では、e-stopでエンジンを停止しないでください。車輪が中立状態になり暴走するおそれがあります。

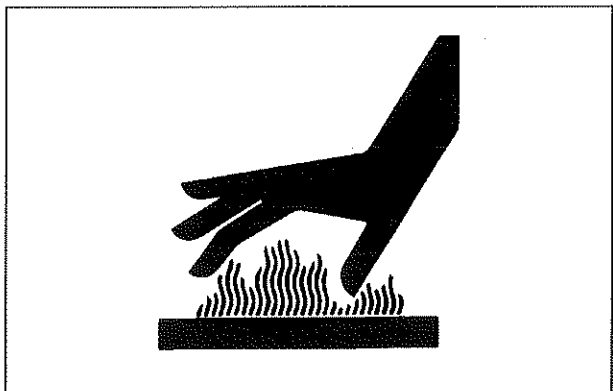
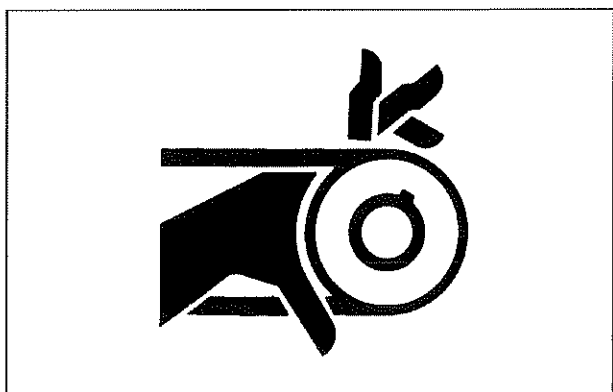
⚠ 安全に作業するために

12. ほ場での作業

- 苗や肥料を補給するときは、主変速レバーを [N] (中立) にし、駐車ブレーキを掛けてください。
- 肥料を補給するときは苗の補給と同じ要領で停止し、なるべく枕地で行ってください。



- 回転部分・作動部分・高温部に触れないように注意してください。

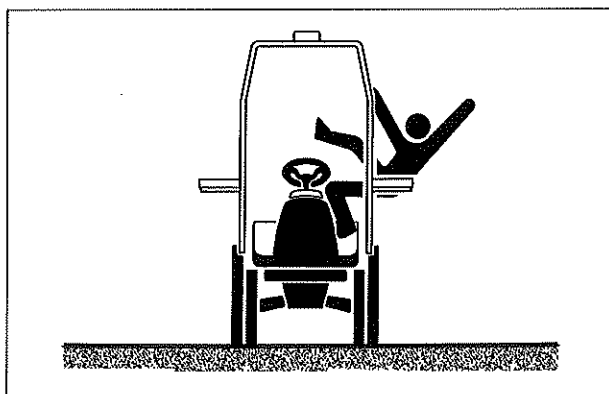


- あげぎわで旋回するときは、あげの周囲の人や物に充分注意を払ってください。
- 作業中は、ほ場に人を入れたり、機械に人を近づけたりしないでください。
- ウェイト代わりに、人や物を乗せないでください。
- 夜間作業は絶対にしないでください。

- 植付爪などに異物がかみこんだときは、エンジンを停止し、完全に止まったのを確認してから取除いてください。
- エンジンを掛けた状態で、わらや雑草の上に駐車しないでください。

13. 直進キープ機能

- 直進キープ機能は、運転者が責任を持って前方およびその周囲を監視しながら安全確認を行うことを前提に、ほ場内での直進植付作業時の操舵を支援する機能であり、運転者に代わって本製品が責任を持って安全な自動運転を行うものではありません。
- 作業中は必ず運転席に座り、前方に注意して植付作業を行ってください。直進キープ機能がはたらいしている状態で運転席から立ち上がると、転倒したり田植機から落下するおそれがあります。

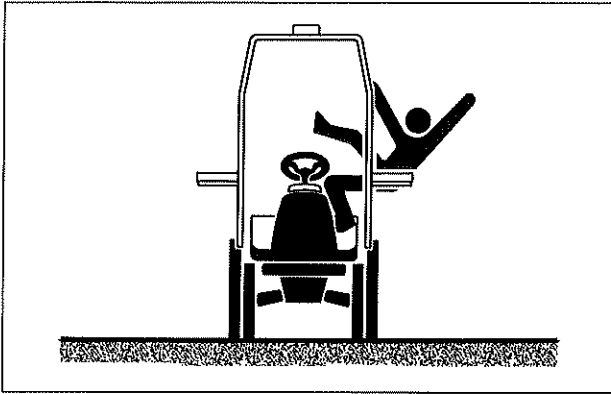


- 緊急時には、手でハンドルを操作して危険を回避してください。(直進キープ機能がはたらいしている状態でも手動でのハンドル操作が可能です)

14. 安心機能

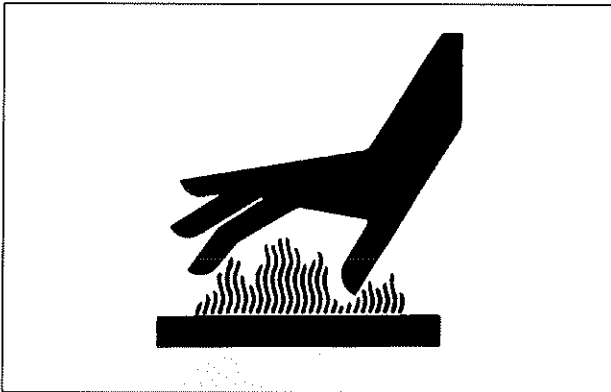
- 各種の安心機能(安心機能について(95ページ)の項参照)は、ほ場外で誤って直進キープを使用したり、あげに衝突または、乗り上げたりすることによる事故の発生を防止することを目的として設計していますが、あらゆる状況においてこれらの事故を回避することを保証するものではありません。田植作業時は、常にあげとの距離や周囲の状況に注意し、必要に応じてブレーキペダルを踏むなどして安全な作業に努めてください。
- 次の状況では、直進キープ機能を使用しないでください。あげへの衝突などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ほ場の形状が変形している場合(変形田)
 - ほ場のあげが不安定で崩れやすい場合
 - ほ場やあげに障害物がある場合
 - ほ場内に人がいる場合
 - 周り植え作業を行う場合

⚠ 安全に作業するために

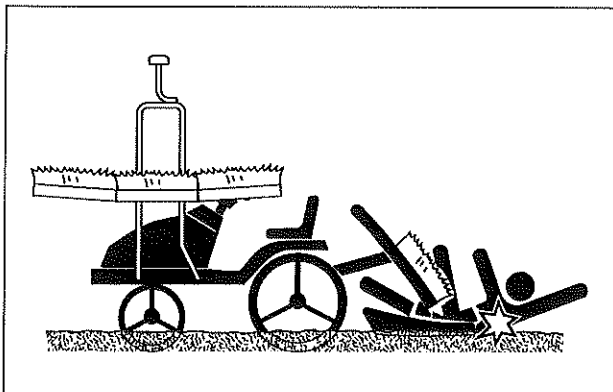


15. 機械から離れるときおよび走行、作業途中の駐車・点検

- 駐車および点検などで運転席を降りるときは、主変速レバーを[N]（中立）位置にしてエンジンを止め、駐車ブレーキを掛けてキーを抜いてください。
- わらや雑草の上に駐車しないでください。
- 高温部に触れないよう注意してください。



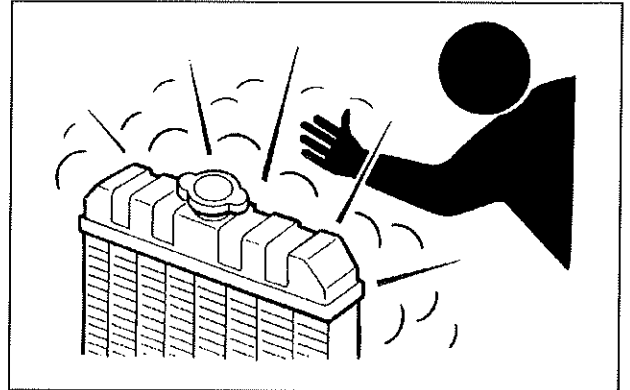
- 植付部を上昇させて点検するときは、油圧昇降口ツクをし、植付部の落下を防止してください。



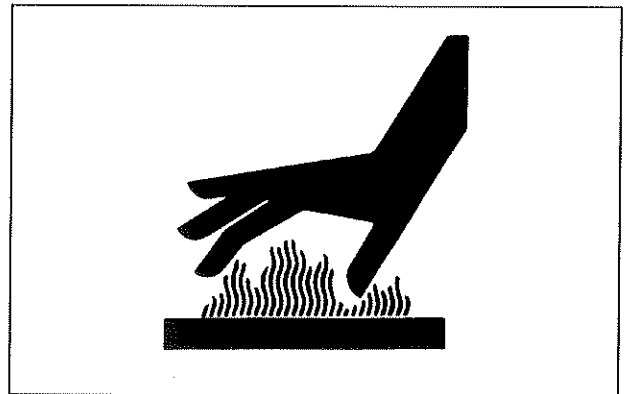
- 植付部を点検するときは、十字ポンパレバーで植付部を最上昇させ、植付部への動力伝達を切ってから行ってください。

16. ヤケド防止

- 過熱された冷却水あるいは蒸気が皮膚に触れるとヤケドします。
- 運転後のエンジン・ラジエータ・リザーブタンク中の冷却水は、過熱、加圧され高温あるいは蒸気になっています。エンジン停止後 30 分以上経過してからエンジンルームを開け、ラジエータキャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから作業してください。



- 高温の油が皮膚に触れるとヤケドをします。
- 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管およびその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガのおそれがあるため十分に温度が下がって、残圧がないことを確かめて整備してください。
- エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中および停止直後は触れないでください。

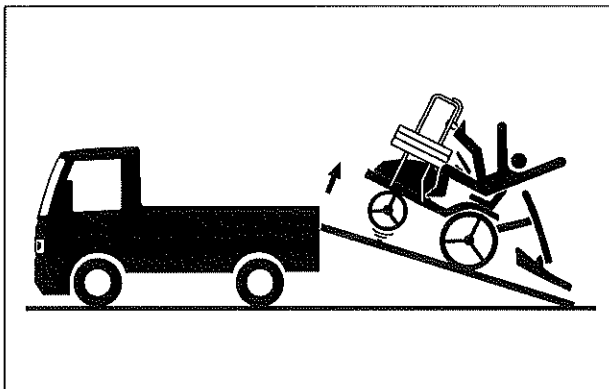


- ヘッドランプを点灯すると、ランプ表面も高温になります。運転中および停止直後は触れないでください。

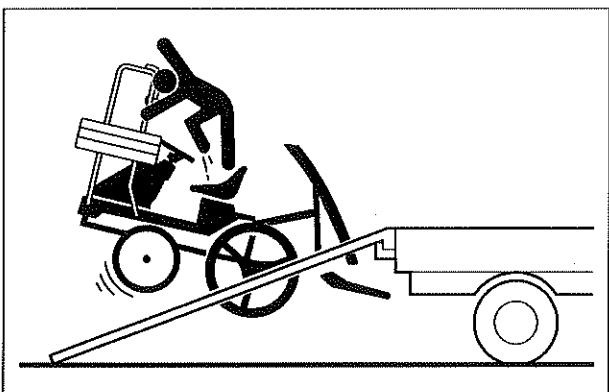
17. トラックなどへの積込み・積降し

- 前進であゆみ板を登ると大変危険です。必ず、後進で積込み、前進で積降してください。

⚠️ 安全に作業するために



- ・ 積み込み、積降しを開始する前に、トラックの駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
- ・ 脱輪に注意してください。



- ・ 前輪デフロックペダルを使用してください。
- ・ 副変速レバーを[圃場作業]にし、主変速レバーをゆっくり操作してください。
- ・ 途中で副変速レバーを[N] (中立) にしないでください。
- ・ あゆみ板は、段差の4倍以上の長さのものを使ってください。

あゆみ板の基準

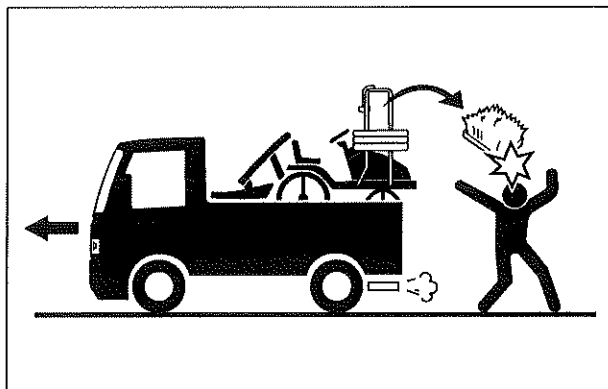
長さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅	30 cm 以上
数量	2枚
強度	1枚が1.0 t (1000 kg) 以上の重量に耐えうる

- ・ 誘導者を付け、周囲の安全を充分確認してください。また、機械の前には絶対に立たないでください。
- ・ 途中で危険回避などのために緊急に機械を停止させたいときは、ブレーキペダルを素早くいっぱい踏込んでください。
- ・ 転倒による重大事故のおそれがあるため、後部作業機（植付部など）を取り外して本機側単独で積み込み・積降し作業はしないでください。

18. トラックなどでの運搬

- ・ 駐車ブレーキを掛けてください。

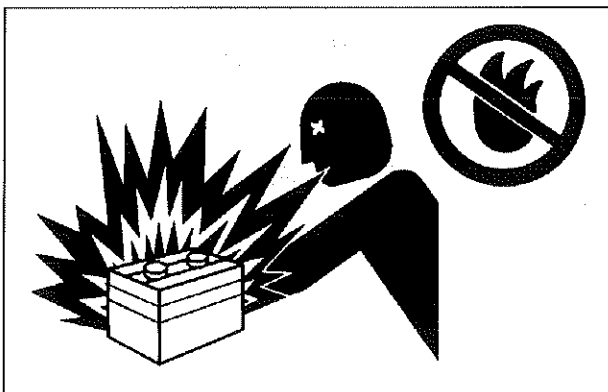
- ・ ロープは前輪と後輪に掛け、確実に固定してください。
- ・ 苗のせ台・予備苗のせ台などに乗せてある物は、必ず降ろしておいてください。



- ・ 転倒による重大事故のおそれがあるため、後部作業機（植付部など）を取り外して本機側単独で運搬はしないでください。

19. バッテリーの取扱い注意

- ・ バッテリーのガスは爆発のおそれがあります。
- ・ バッテリーの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、ケーブルのショートによるスパークをさせないでください。



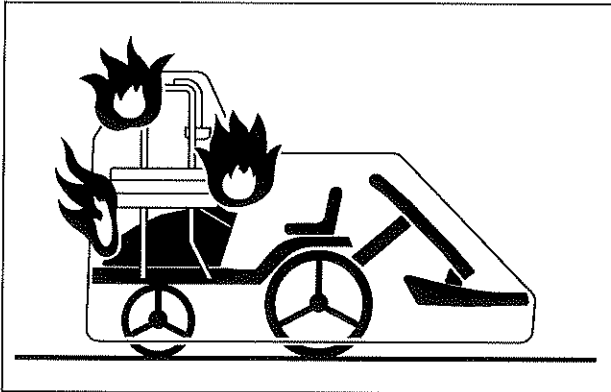
- ・ バッテリーはエンジン始動用ですから、他の用途には使わないでください。
- ・ バッテリーの充電時、交換時は、バッテリーの安全ラベルをよく読んでください。
- ・ バッテリーは液面が LOWER (最低液面線) 以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。すぐに UPPER LEVEL (上限) と LOWER LEVEL (下限) の間に補水してください。【補水タイプ】
- ・ 充電は、バッテリーを機械から取り外して行ってください。
- ・ 密閉状態で充電を行うとバッテリーが破裂するおそれがあり危険です。
- ・ バッテリー液（希硫酸）に触れると危険です。

⚠ 安全に作業するために

- バッテリー液（希硫酸）が目、皮膚、衣服についたときは、すぐに水でよく洗ってください。
- バッテリー液（希硫酸）が目に入ったときは、水でよく洗った後、医師に治療を受けてください。
- 指定外のバッテリーは使わないでください。

20. 使用後の手入れ

- 点検・手入れ・掃除・調整は、エンジンを止めて行ってください。
- 取り外したシートカバーなどは、必ず元のとおりに取り付けてください。回転部などがむき出しになり危険です。
- 格納するときは、平たんな場所に植付部を下げて置いてください。
- 駐車ブレーキを掛けておいてください。
- 本機カバーなどを掛ける場合は、エンジンなど加熱部分が充分冷えてからにしてください。火災の原因になります。



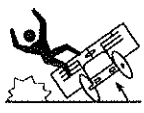
- 長期格納時には、燃料タンクおよび燃料ホースの燃料を抜取ってください。

⚠ 安全に作業するために

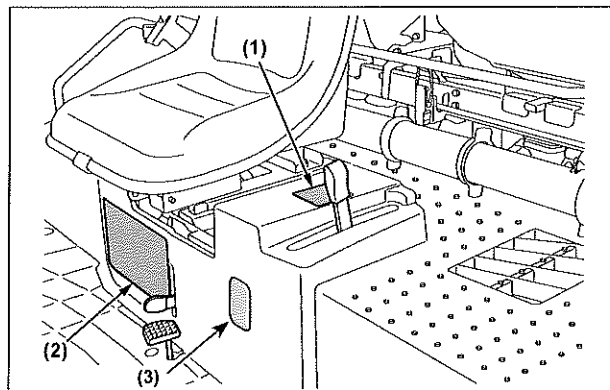
安全ラベルと貼付位置

(1) 品番 PW220-8916-2


⚠ 警告



1. 衝突のおそれがあるので、作業中は前方に注意すること。
2. 転倒のおそれがあるので、走行時は立ち上がって苗補給・肥料補給など運転操作以外はしないこと。




(2) 品番 PT501-8986-1

⚠ 警告	⚠ 警告
<p>転倒や暴走の危険があるため、下記事項を守ること。</p>  <p>エンジン始動時 座席に座り、ブレーキペダルを踏み、主変速レバーを「N (中立)」にしてからエンジンを始動すること。</p> <p>走行時 主変速レバーを「N (中立)」にしてから、ブレーキペダルを離すこと。 高速時に急ブレーキ、急ハンドル操作を行わないこと。</p> <p>作業時 苗補給時は、主変速レバーを「N (中立)」又は「STOP」にし、駐車ブレーキをかけること。 トラックなどへの積み降ろし、時越え、急な坂道での走行時</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 登るときはバックで登り、副変速レバーを「園場作業」にすること。 2. 段差の4倍以上の長さのあゆみを使用し、誘導者をつけること。 3. 斜面に対して直角に走行すること。 4. 坂道を下る時は急ブレーキをかけないこと。 <p>履帯から離れるとき</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、キーを抜くこと。 2. 坂道では車止めをすること。 	<p>【使用前】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。 2. 室内では排気ガスが溜まり易くガス中毒の危険があるため、換気を十分すること。 <p>【移動走行時】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. この機械は公道走行はできないため、トラックにのせて運搬のこと。 2. 転倒などの危険があるため、傾斜地・路肩の軟弱な路面・かけ降を走行しないこと。 3. 転落や破損の危険があるため、運転者以外の人や物を乗せないこと。 4. 格付部が不意に下降してはさまれる危険があるので、格付付け部を上げて移動するときは、油圧ロックレバーを必ず「閉」にすること。 <p>【作業時】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケガをするおそれがあるので、清掃・点検・整備・給油はエンジンを必ず止め、冷えてから行うこと。 また、油圧ロックレバーを必ず「閉」にすること。 2. ケガをする危険があるので、夜間作業は絶対にしないこと。 <p>【使用後】</p> <p>火災の危険があるので、シートカバーは機械が冷えてからかけること。</p>

(3) 品番 RXG80-41114

⚠ 注意

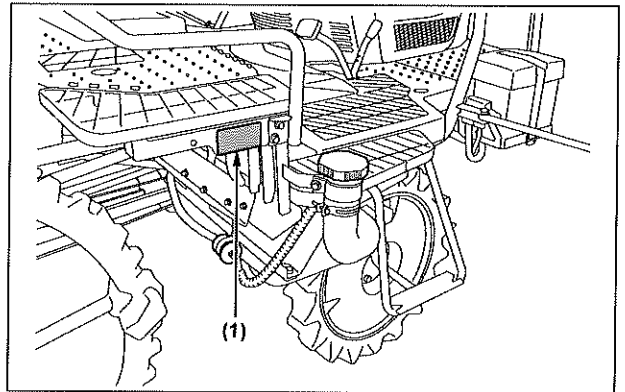
1. 人、物にぶつかる危険があるので走行、運搬時には予備苗台を収納状態にしてください。
2. 人、物にぶつかる危険があるので走行、運搬時にはマーカをロックし、先端部を外すこと。




⚠ 安全に作業するために

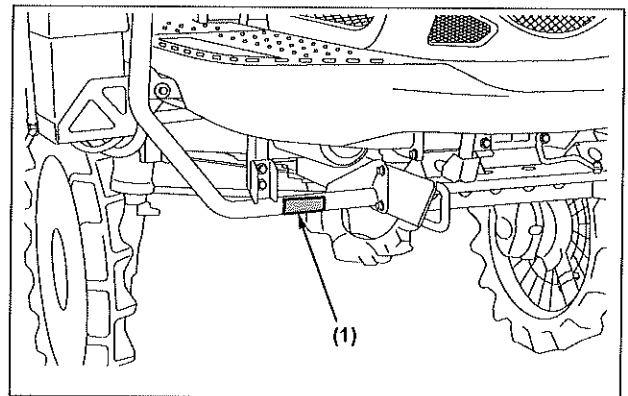
(1) 品番 PW200-9829-1

⚠ 警告		
給油するときは エンジンを 停止すること。	 火気厳禁	 ディーゼル軽油



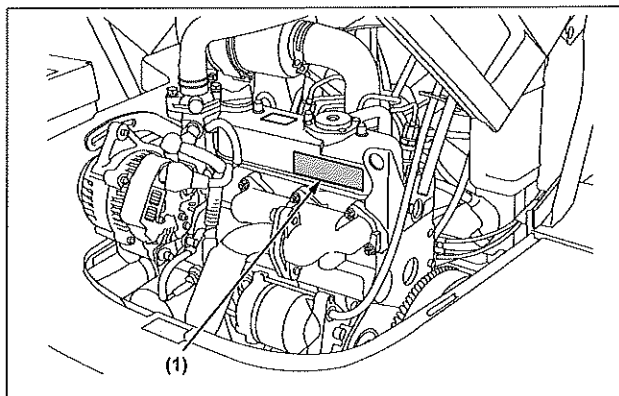
(1) 品番 PT501-8987-2

	⚠ 警告
ヤケドをするので、マフラ排気管付近の高温部（ステップ、フレーム等）に触れないこと。	

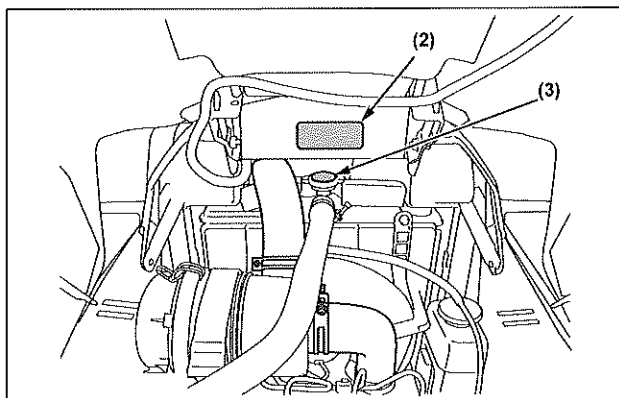
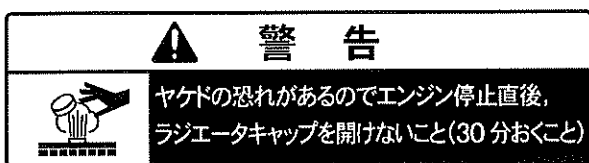


⚠ 安全に作業するために

(1) 品番 PW400-8957-1



(2) 品番 PR184-8994-2



(3) 品番 PM808-7209-1

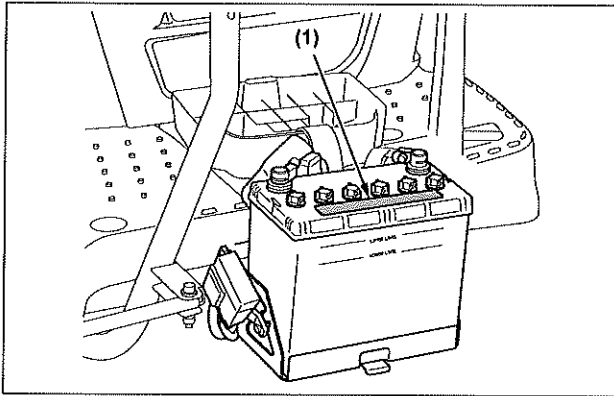


▲ 安全に作業するために

(1) 品番 6A320-5559-1



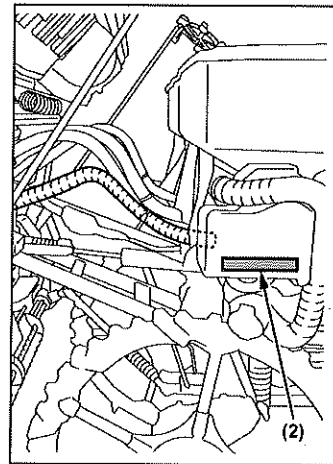
- 水蒸気発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり
- 工具等でショートやスパークをさせない・充電は真横しのよい所で行う
- ブースターケーブルの使用は取扱説明書に従う
- バッテリー液(硫酸)で失明ややけどの恐れあり
- 液がつかいたらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける
- 爆発の恐れあり、液面はLOWER以下で使用しない
- 液漏れの恐れあり、UPPER以上に補水しない



(2) 品番 PW200-9539-1

▲ 警告

微細な肥料粒・粉が飛び出る可能性があります。排出時に排風口を覗き込まないこと。また周囲に人がいないことを確認のこと。

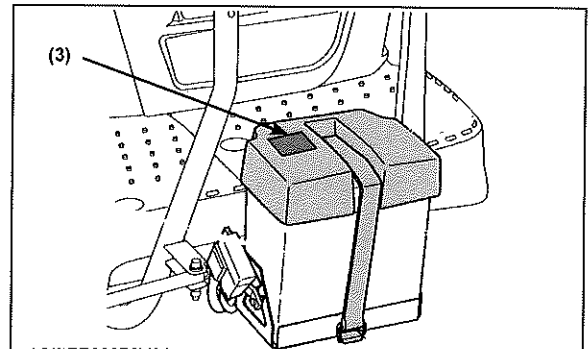


(3) 品番 RXG800-41131

▲ 注意

転落・転倒や部品破損する恐れがあるのでバッテリーを踏まないこと

RXG800-41131

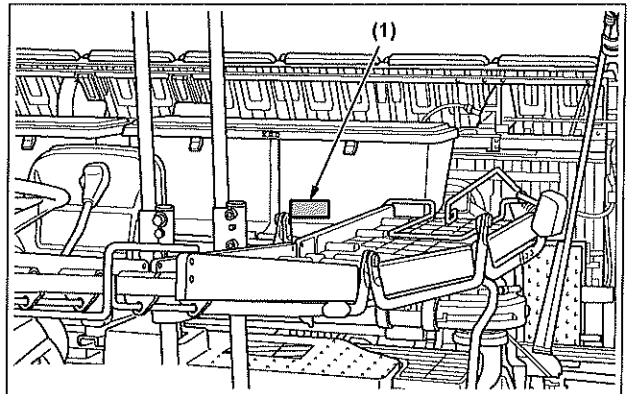


⚠ 安全に作業するために

(1) 品番 PT501-9542-1

⚠ 警告

作業中、回転駆動部（軸、ギヤ）
に手を入れないこと



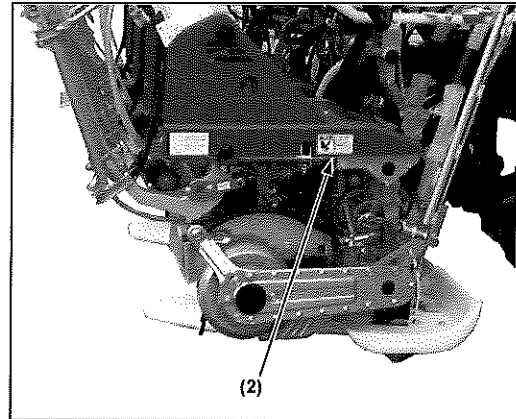
(2) 品番 X4-8124

⚠ 注意



ケガをするおそれがあります。
苗を取出す時や、
点検調整を行う時は、
エンジンを止めてください。

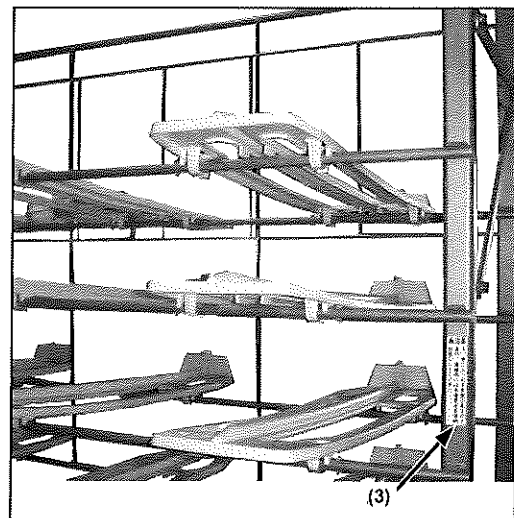
X4-B124



(3) 品番 RXG80-41115

⚠ 注意

人、物にぶつかる危険があるので
走行、運搬時には予備苗台を収納
状態にしてください。



▲ 安全に作業するために

安全ラベルの手入れ

安全ラベルをよく読み理解して、安全注意事項を守る。

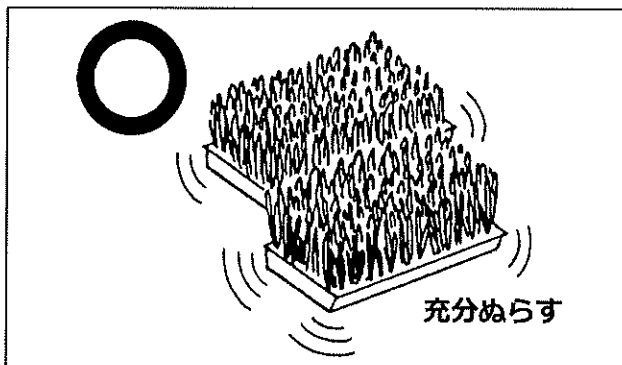
- 安全ラベルはいつもきれいにし、傷つけないようにしてください。
- 安全ラベルがよごれた場合は、石鹼水で洗い、やわらかい布でふいてください。
シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと、文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水により安全ラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接安全ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失した安全ラベルは、製品購入先に注文し、新しい安全ラベルに貼替えてください。
- 新しい安全ラベルを貼る場合は、貼付面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。
- 安全ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは、安全ラベルも同時に交換してください。

使用上のポイント

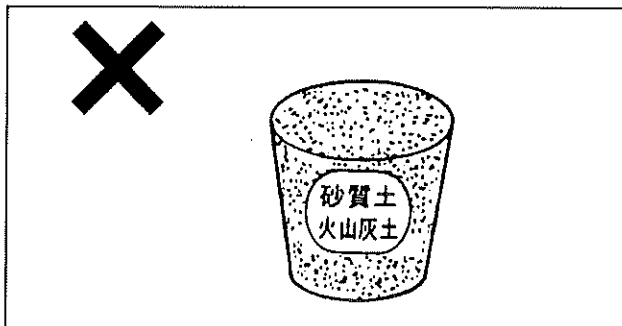
泥炭地、基盤整備田等で本機が沈むような耕盤の不安定な悪条件のほ場では、本機を使用できなかつたり、早期破損の原因となります。また、本機の特性をよく知って、それとできるだけ合わせた苗やほ場、機械の準備をしていただくことが大切です。

苗・苗箱について

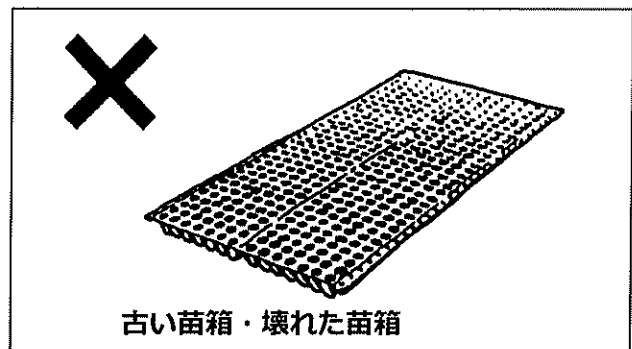
- 苗は使用する前にポットの中に水が充分浸透するまでぬらして植付けをします。特に根張りの良い苗は充分ぬらしておきます。ぬらしかたが不足すると、苗の押し出し不良・ロック板の作動不良・縦送り・横送り不良の原因となります。
- ぬらして使用することが絶対条件ですが、非常に根張りの悪い場合や、ポットがくずれ易い土を使用している場合は、ぬらしかたに注意してください。



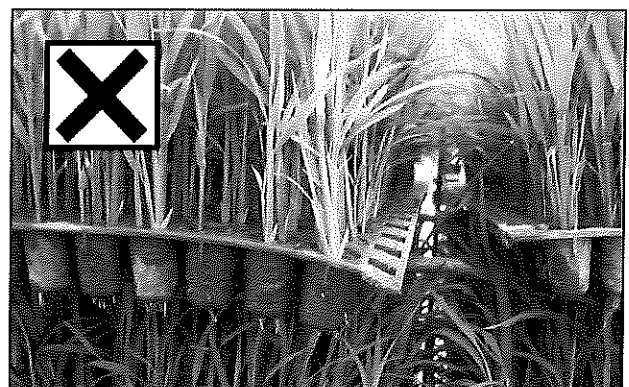
- 育苗に使用する培土は適度な弾力とねばりのある培土を使用してください。砂質土・火山灰土を使用するとポットがくずれやすく、植付不調となります。培土に関しては、販売店にご相談ください。



- 箱のふちや角穴が壊れている苗箱は使わないでください。また、苗箱の角穴が土や雑草でふさがっている場合は取り除いてください。守らないと自動供給装置が誤作動したり、苗が植付部へ送り込まれなかつたり、空箱ガイドで空箱がつまって苗箱が破損したり、連続欠株となる場合があります。
- 10年以上経過した古い苗箱や新しくても保管状態のよくない苗箱は材質がもろくなっています。苗供給時、苗箱送り時に破損して苗箱の送りができなくなり、連続欠株の原因となります。古い苗箱は計画的に新しい苗箱に更新するようにしてください。



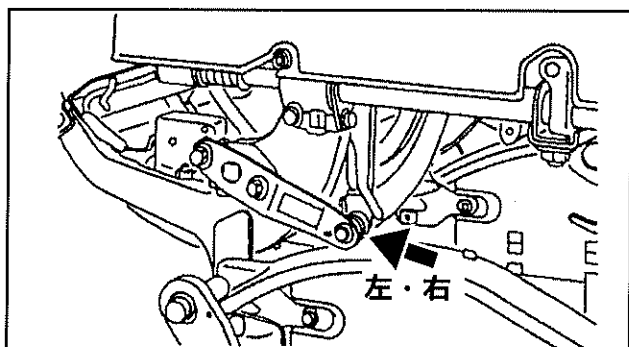
- 育苗のとき、苗箱のふちを変形させないよう注意してください。ふちが変形してしまった苗箱は破損していても、使わないでください。苗箱送りが確実に行なえず、連続欠株の原因になります。



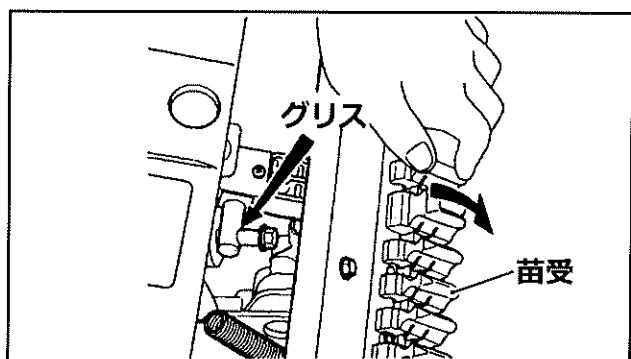
注油

作動不良・消耗を防ぐため毎日使用前に注油してください。

- 縦送り爪下 左・右

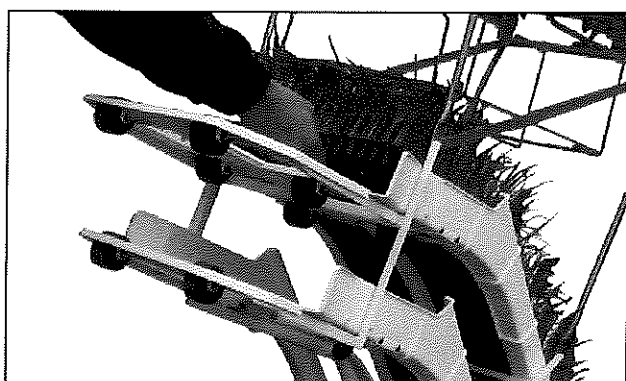


- 上下送りバネ軸
苗受を上げた状態にして、手で軽く苗受を下方方向に押さえてグリスを塗布してください。



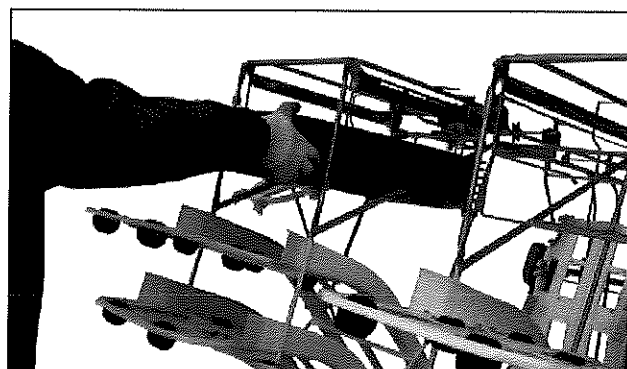
苗の補給

- 苗補給時はできるだけ奥まで手を伸ばしてやさしく補給し、衝撃のないようにしてください。特に古い苗箱は衝撃で破損しやすいので注意して補給してください。



空箱の取出し

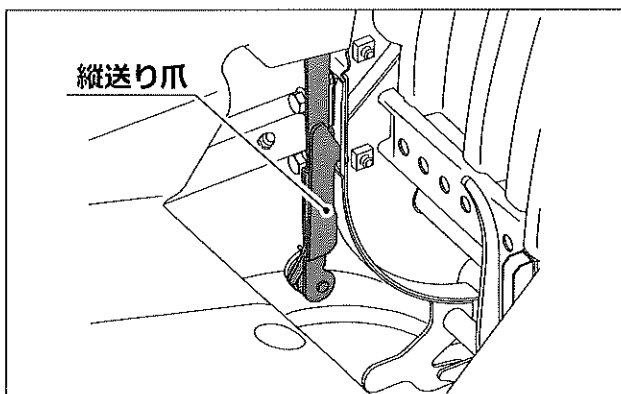
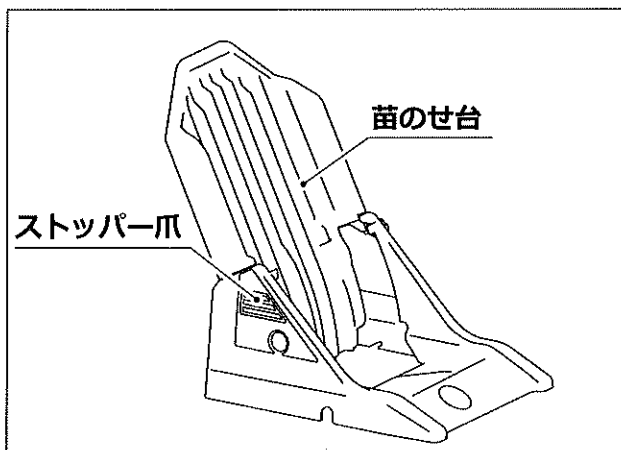
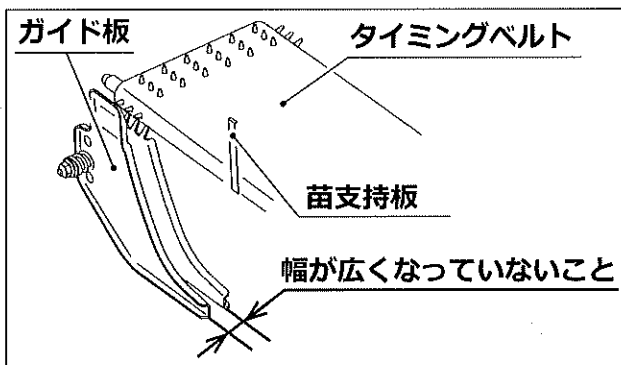
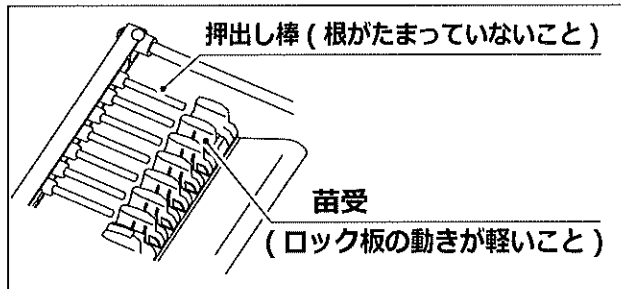
- 空箱受には6枚以上空箱をためないでください。箱がつまって植付不調・苗箱の破損の原因となります。苗の補給を行なったときは必ず空箱も取り出すようにしてください。



使用上のポイント

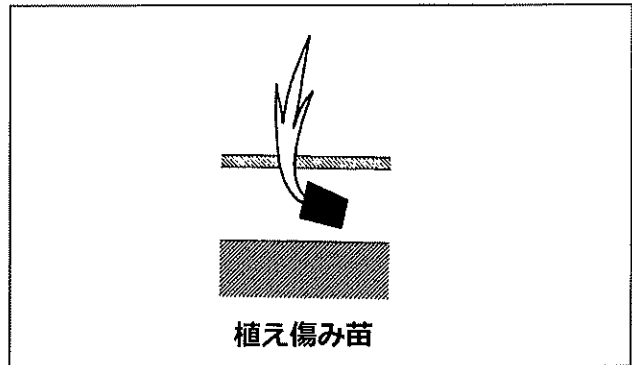
植付部の水洗い

- 苗受・押し棒・タイミングベルト・ガイド板・苗支持板・苗のせ台・縦送り爪・植付爪・ストッパー爪等をよく水洗いしてください。
- 休憩・食事のとき・ほ場を変えるときなどには必ず洗ってください。
- 苗支持板を变形させないように注意してください。植付不調になります。



植え傷みの注意

- 根張りが弱く貧弱な苗では植え傷み苗になることがあります。このときは植付速度を遅くしてください。
- ガイド板に泥・異物が詰まっていると植え傷みの原因となるので、きれいに洗ってください。(変形している場合は修正または交換してください。)



サービスと保証について

商品の保証

この商品には、保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

サービスネット

ご使用中の故障や不審な点およびサービスに関するご用命は、購入先にお気軽にご相談ください。

その際、(1) 型式名、区分および製造番号

(2) エンジン番号、型式名

をあわせてご連絡ください。

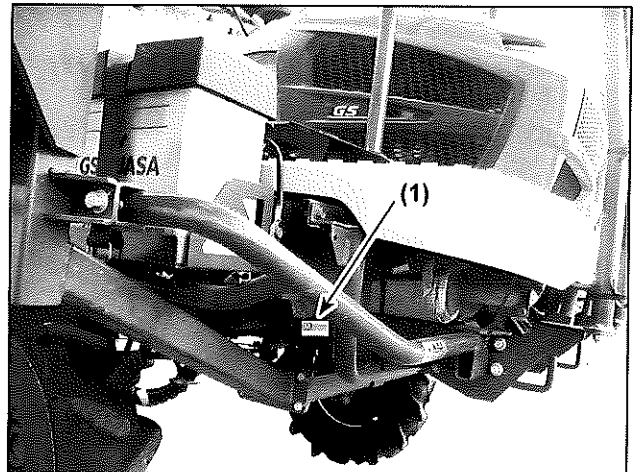
(型式マーク)

農機具の種類	
型式名	
区分	
製造番号	

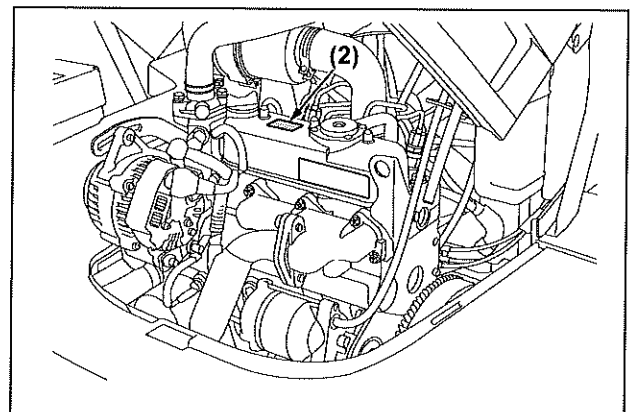
区分	装置内容	
	植付株間 (cm)	苗とう載数
RXG800	14、15、16、17、18、 20、22、24、26、30	60
RXGH800	14、15、16、17、18、 20、22、24、26、30	72

⚠ 警告

機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や本書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。



(1) 型式名、区分および製造番号



(2) エンジン番号、型式名

補修用部品の供給年限 (期限) について

この製品の補修用部品の供給年限 (期限) は製造打ち切り後9年といたします。

ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合があります。

補修用部品の供給は、原則的に上記の供給年限で終了致しますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

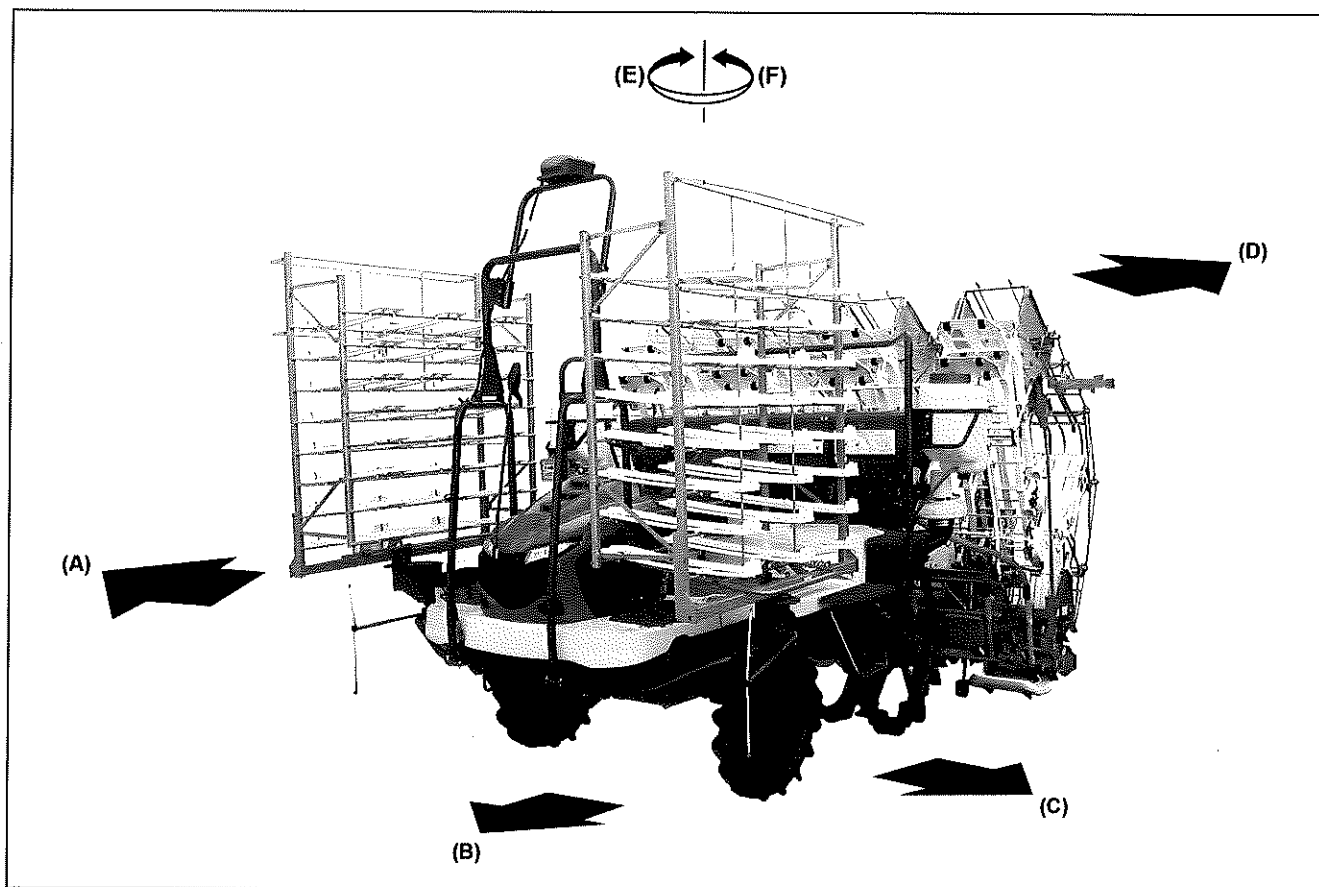
GPS 機能の利用について

- GPS は当社が提供するサービス以外には使用できません。
- 当社が提供するサービスにおいても、本製品の故障や誤動作、外部要因によって、サービスの完全性が欠落したために生じた損害など純粹経済損失については、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- GPS は米国国防総省により運営されているため、米国の都合により GPS の電波の状態がコントロールされることがあります。そのため、GPS 精度や機能に影響が出る場合があります。
- GPS は人工衛星からの電波を利用しているため、次の環境では電波を受信できない、または受信が途切れる、位置精度が悪くなる場合があります。
 - 建物の中や近傍
 - 密集した樹林の中や近傍
 - 大雨や雪など悪天候である場合
 - 周囲に人や物などの遮蔽物がある場合
 - 地下やトンネルの中、水中、地中
 - 高圧線の周囲

装置の名称と取扱い

機体方向説明

この取扱説明書で使用している前後・左右・左回り・右回りなどの方向は、図示の通りです。

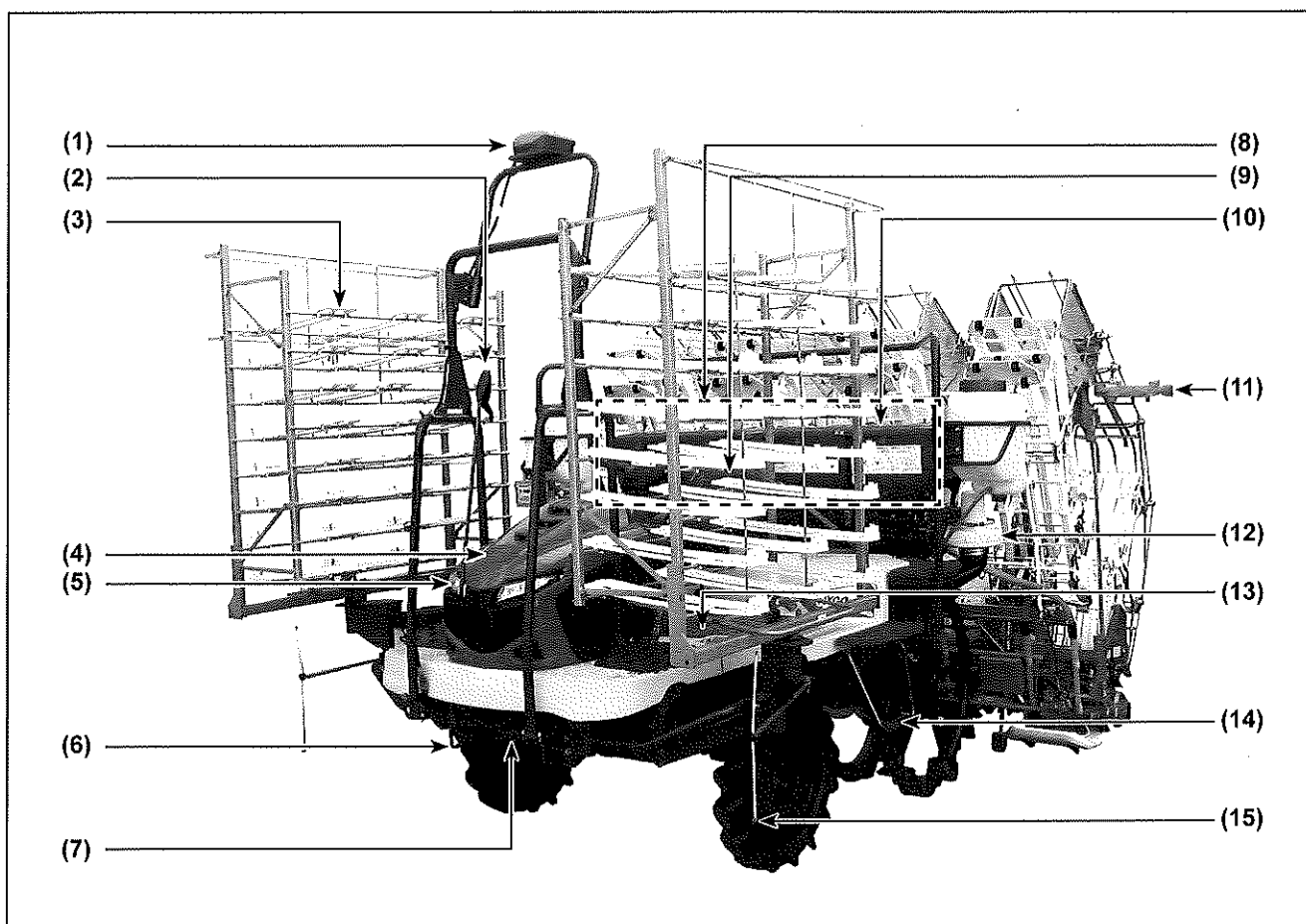


(A) 右側
(B) 前方

(C) 左側
(D) 後方

(E) 右回り (時計方向)
(F) 左回り (反時計方向)

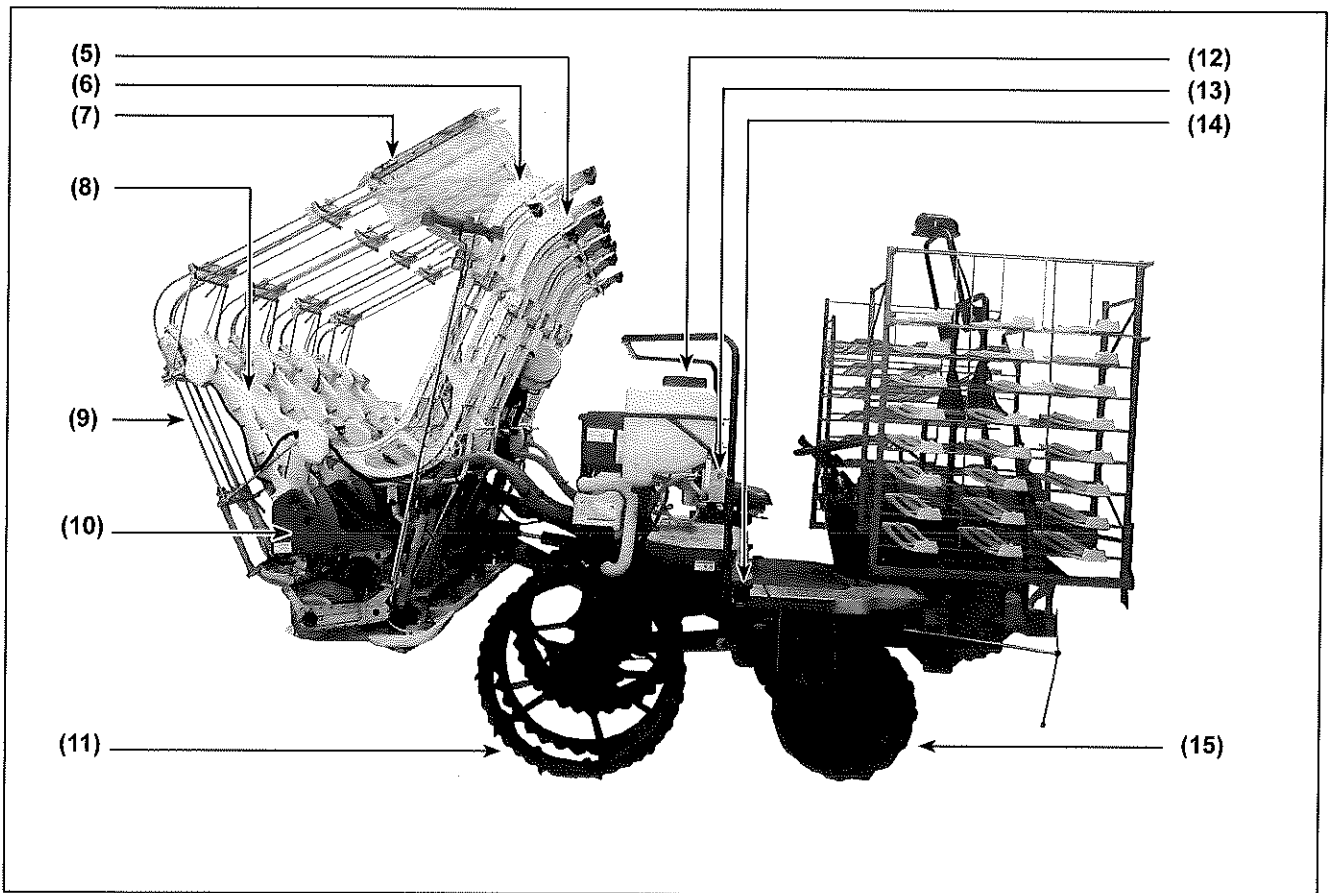
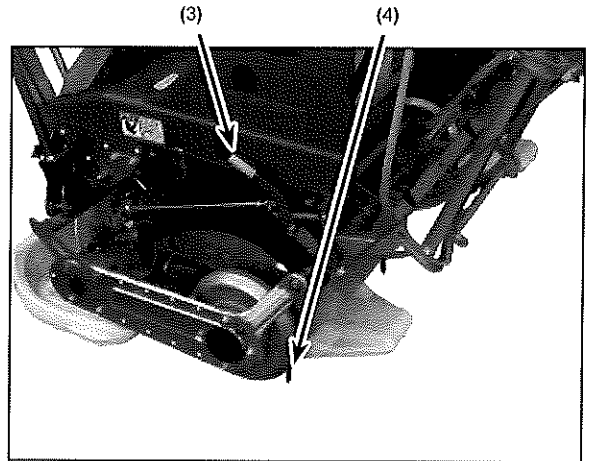
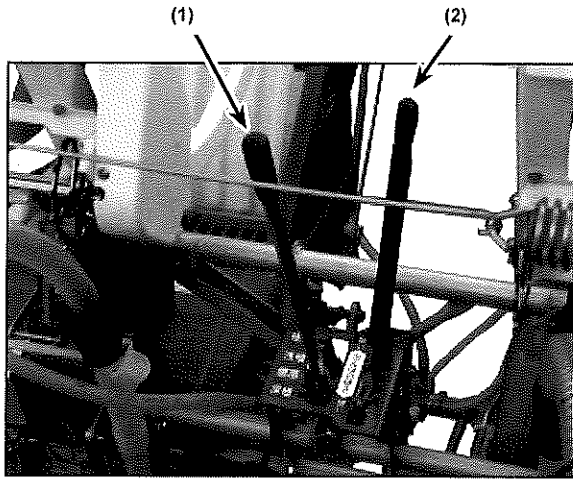
各装置の名称



- (1) GPS アンテナユニット
- (2) マスコット
- (3) 予備苗のせ台
- (4) ボンネット
- (5) ヘッドランプ

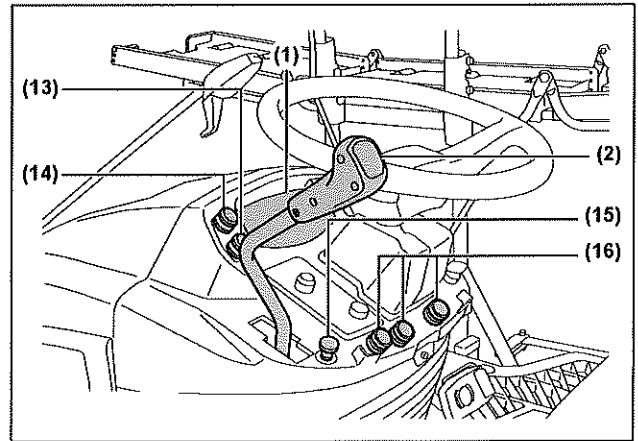
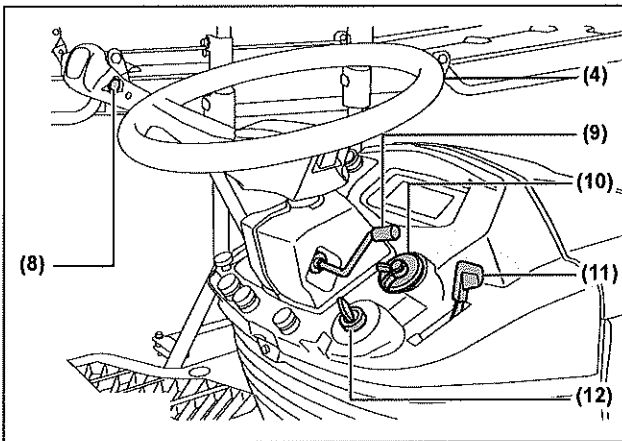
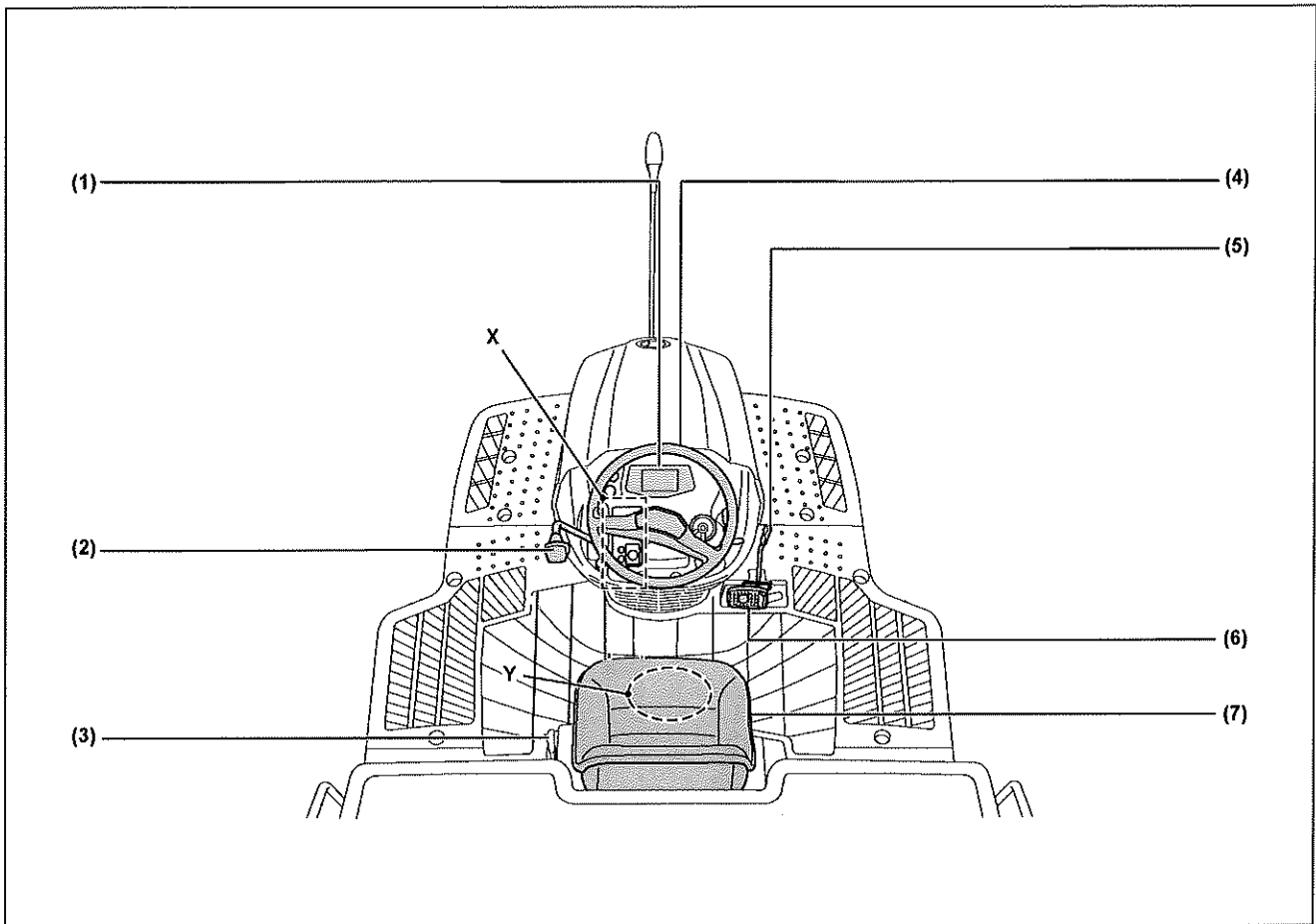
- (6) けん引フック
- (7) パンパ
- (8) 施肥装置
- (9) 運転席 (シート)
- (10) ホツバ

- (11) 筋付マーカ
- (12) プロフ
- (13) ステップ
- (14) 補助ステップ
- (15) 隣接マーカ



- (1) 植付深さ調節レバー
- (2) 油圧感度調節レバー
- (3) セットレバー
- (4) 植付爪
- (5) 自動供給装置（下段）
- (6) 自動供給装置（上段）
- (7) 空箱受
- (8) 苗のせ台

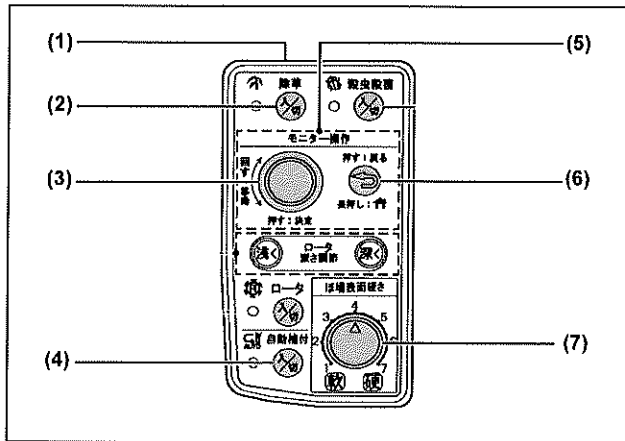
- (9) 空箱ガイド
- (10) 植付部
- (11) 後輪
- (12) 水洗装置タンク
- (13) 水洗装置ポンプケース
- (14) 燃料キャップ（給油口）
- (15) 前輪



- (1) メインパネル
- (2) 主変速レバー
- (3) 副変速レバー
- (4) パワーステアリング
ハンドル
- (5) 駐車ブレーキレバー
- (6) ブレーキペダル
- (7) 運転席 (シート)
- (8) GS スイッチ
- (9) 十字ポンパレバー
- (10) コンビネーションスイッチ
- (11) アクセルレバー
- (12) メインスイッチ

- (13) 基準登録スイッチ (始点 A)
- (14) 基準登録スイッチ (終点 B)
- (15) 非常エンジン停止ノブ
- (16) あげぎわスイッチ

X 部拡大図

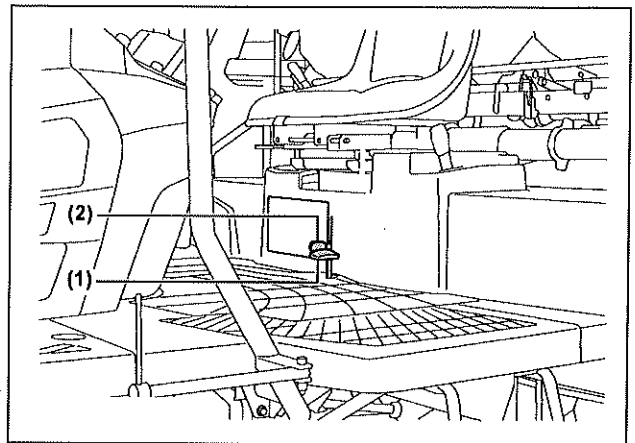


- (1) 操作パネル
- (2) 除草剤散布機【入】/【切】スイッチ
- (3) マルチスイッチ
- (4) 自動植付【入】/【切】スイッチ
- (5) モニタ操作パネル
- (6) 戻るスイッチ
- (7) フィットセンサダイヤル

補足：

- 除草剤散布機【入】/【切】スイッチは、オプション部品の除草剤散布機を装着した状態で操作してください。

Y 部拡大図



- (1) 前輪デフロックペダル
- (2) 油圧ロックレバー

走行装置の名称とはたらき

1. エンジン操作関係

1.1 メインスイッチ

田植機の電源の入・切、およびエンジンの始動・停止を行うスイッチです。

[停止]

メインスイッチのキーが抜差しできるエンジン停止中の位置

[運転]

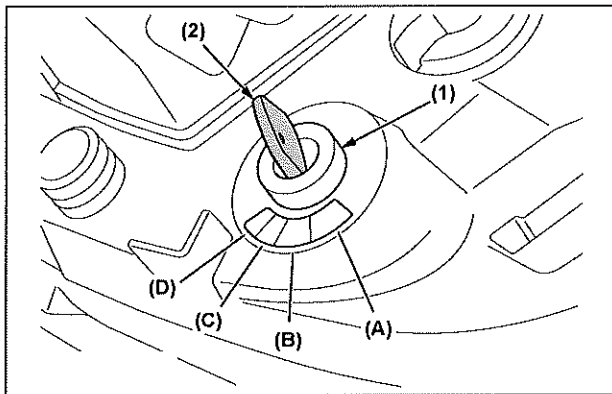
電気（電装）装置がはたらく位置

[予熱]

エンジンの燃焼室内が予熱される位置

[始動]

セルモータが回転し、エンジンが始動する位置



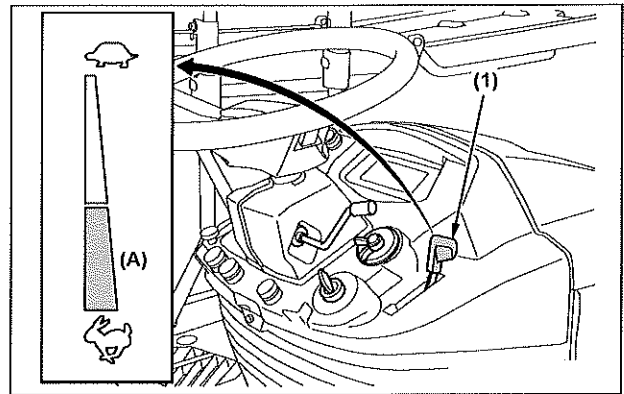
- | | |
|-------------|--------|
| (1) メインスイッチ | (A) 停止 |
| (2) キー | (B) 運転 |
| | (C) 予熱 |
| | (D) 始動 |

補足：

- [運転]位置と[始動]位置の間は[予熱]位置の範囲です。寒冷時にエンジンを始動するときを使用します。
- エンジン始動後、メインスイッチのキーから手を離すとメインスイッチのキーは、[運転]の位置に戻ります。

1.2 アクセルレバー

エンジンの回転数をコントロールするレバーです。レバーを後方に引く（←方向）と回転数が上がり、前方に押す（→方向）と回転数は下がります。



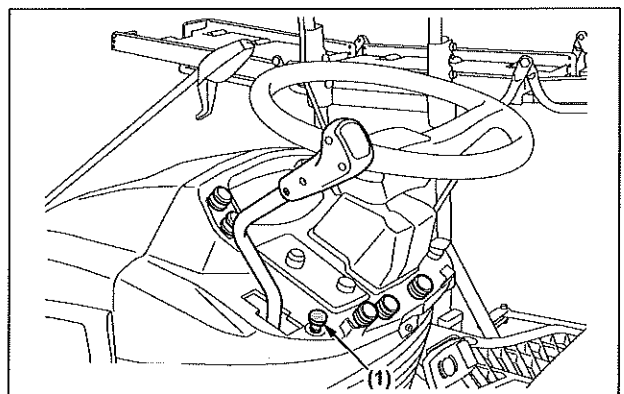
(1) アクセルレバー (A) 作業範囲

補足：

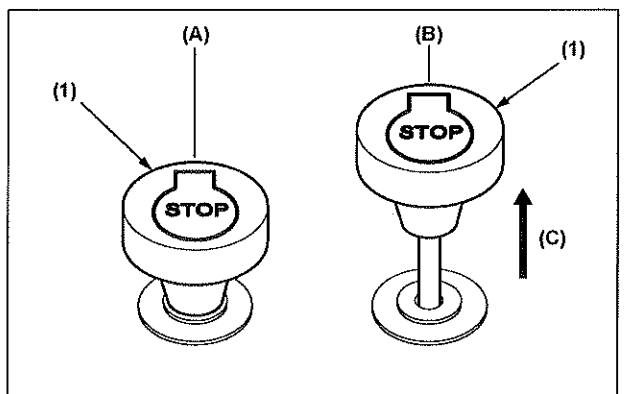
- 作業時はアクセルレバーを[作業範囲]内まで引いてください。
- 主変速レバーを操作するとエンジンの回転数が連動して増減します。

1.3 非常エンジン停止ノブ

メインスイッチのキーを[停止]位置にしてもエンジンが止まらないときなど非常時に、エンジンを停止させるノブです。



(1) 非常エンジン停止ノブ



(1) 非常エンジン停止ノブ (A) 始動位置 (B) 停止位置 (C) 引くと停止

補足：

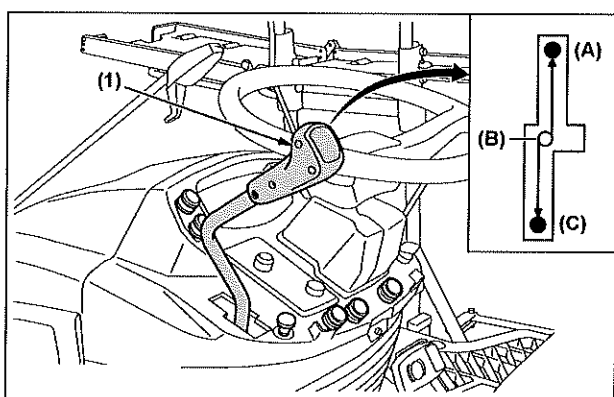
- 非常エンジン停止ノブが停止位置では、エンジンが始動しません。
- エンジンが停止する前に非常エンジン停止ノブを押すと、エンジンが再始動します。エンジンが完全に停止するまで、非常エンジン停止ノブを停止位置にしておいてください。

2. 走行操作関係

2.1 主変速レバー

前進・後進・停止（中立）の操作および走行速度の調整を行うレバーです。

また、主変速レバーを【前進】側または、【後進】側に操作したとき、動かす量に応じて、エンジンの回転数が運動して増減します。



(1) 主変速レバー

- (A) 【前進】
- (B) 【N】(中立)
- (C) 【後進】

補足：

- 主変速レバーを【N】(中立)位置より【後進】側に操作するとバックブザーが鳴ります。
- 通常の走行を停止するときは、主変速レバーを【N】(中立)位置に操作してください。
- エンジン回転数の調整を行うときは、主変速レバーを【N】(中立)位置にしたあと、アクセルレバーを操作してください。
- 植付部が接地しているとき、主変速レバーを【N】(中立)位置より【後進】側に操作すると、バックアップ機能がはたらいて植付部が上昇します。

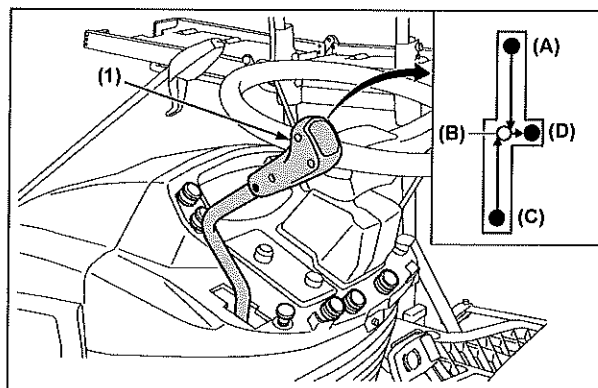
2.1.1 e-stop 機能について

警告

- 坂道では e-stop でエンジンを停止しないでください。エンジン停止中は機械の変速が中立状態となり、暴走するおそれがあります。
- 長時間機械から離れる際は、メインスイッチのキーを【停止】位置にしてエンジンを停止し、駐車ブレーキを掛け、メインスイッチのキーを抜いてください。

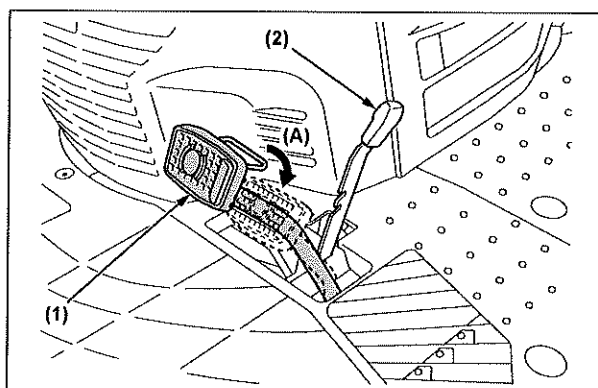
e-stop 機能は一時的にエンジンを停止する機能です。苗の補給作業などでエンジンを停止後、エンジンの再始動が容易に行えます。

エンジンが始動中に主変速レバーを【N】(中立)位置から【e-stop】側に操作すると、エンジンが停止します。そのあと、主変速レバーを【N】(中立)位置に戻したあと、ブレーキペダルを踏込むとエンジンが再始動します。また、ブレーキペダルを踏込んだ状態で主変速レバーを【e-stop】側から【N】(中立)位置に戻すと、エンジンは再始動します。



(1) 主変速レバー

- (A) 【前進】
- (B) 【N】(中立)
- (C) 【後進】
- (D) 【e-stop】



(1) ブレーキペダル

(A) 踏込む

(2) 駐車ブレーキレバー

重要：

- エンジンを再始動する場合は、主変速レバーが【N】(中立)位置にあることを確認してください。

補足：

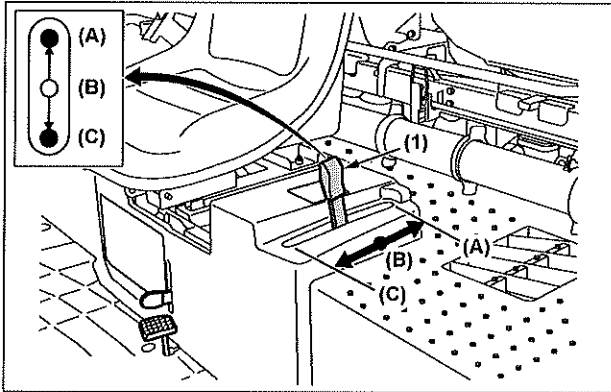
- e-stop 機能を使用してエンジンを停止後、再始動するまでにエンジンの温度が下がる（約 60 度以下になる）と、エンジンが正常に再始動しない場合があります。
- 植付作業中に e-stop 機能を使用してエンジンを停止しても、エンジンを再始動後は停止前の状態で植付作業を継続します。また、主変速レバーを【N】(中

立) 位置から、後進側に操作するとバックアップ機能が働き、植付クラッチが[切]の状態になります。

- e-stop 機能を使用してエンジンを停止すると、マスコットのLED ランプ 4 灯が全て点滅します。
- e-stop 機能を使用してエンジンを停止すると、ラジエータファンが約 10 秒後に停止します。

2.2 副変速レバー

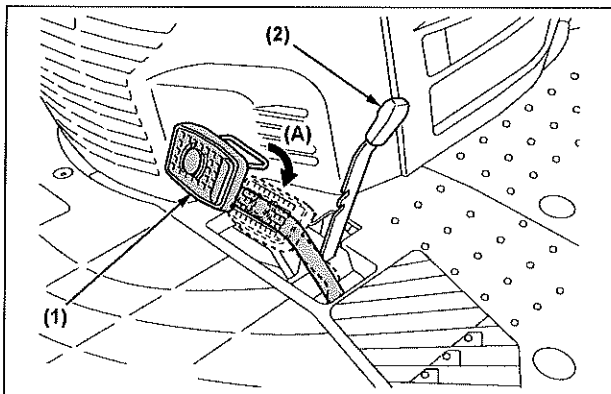
[移動]位置と[圃場作業]位置の切り替えを行うレバーです。



(1) 副変速レバー
(A) [移動]
(B) [N] (中立)
(C) [圃場作業]

2.3 ブレーキペダル

踏込むとブレーキが掛かります。エンジンの始動時や緊急停止時に使用します。



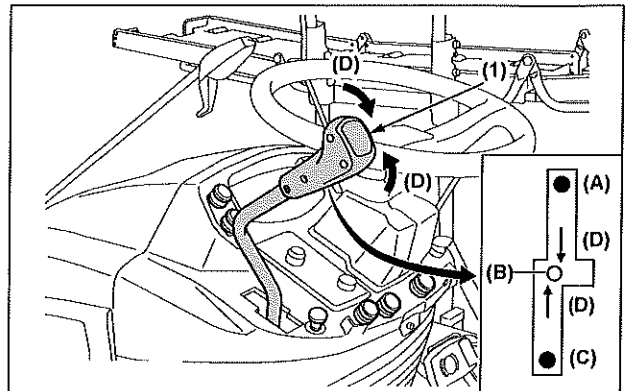
(1) ブレーキペダル (A) 踏込む
(2) 駐車ブレーキレバー

重要:

- 主変速レバーはブレーキペダルを踏込んだ状態や駐車ブレーキを掛けた状態で操作しないでください。無理に操作すると主変速レバーが変形または、破損するおそれがあります。

補足:

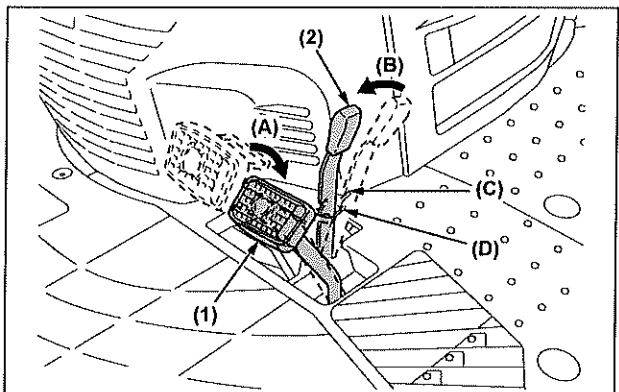
- 機体が走行中（前進または、後進中）にブレーキペダルを踏込むと、減速すると同時に主変速レバーが強制的に[N]（中立）へ戻ります。



(1) 主変速レバー
(A) 前進
(B) [N] (中立)
(C) 後進
(D) 戻る

2.4 駐車ブレーキレバー

1. ブレーキペダルを踏込み、駐車ブレーキレバーでペダルをロックすると、駐車ブレーキが掛かります。
2. ブレーキペダルを踏込み、駐車ブレーキレバーを外すと、駐車ブレーキが解除されます。



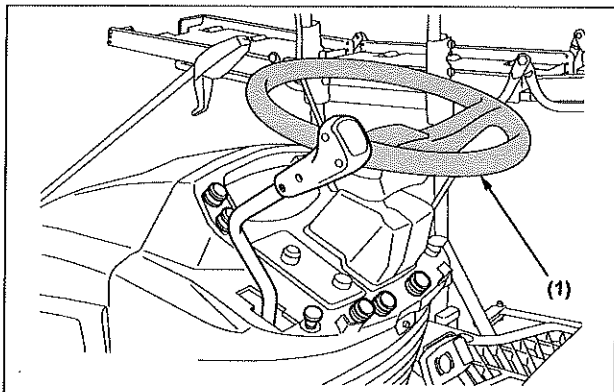
(1) ブレーキペダル (A) 踏込む
(2) 駐車ブレーキレバー (B) 掛ける
(C) 1 段目
(D) 2 段目

補足:

- 急な坂道など傾斜の大きいところで駐車するときは、2 段目の切欠位置に駐車ブレーキレバーを掛けてください。

2.5 パワーステアリングハンドル

操向操作（旋回や進路変更）を行う油圧式のハンドルです。



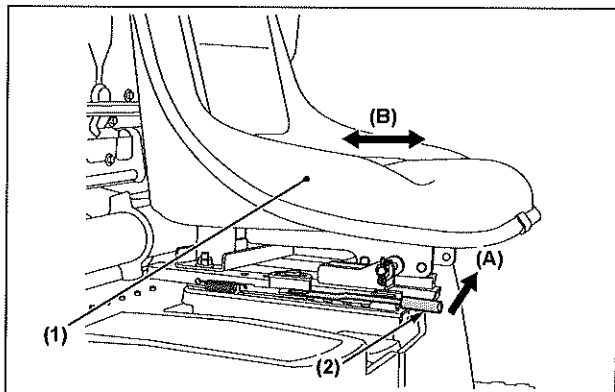
(1) パワーステアリングハンドル

重要：

- ハンドル操作は、エンジン作動中は軽くなりますが、エンジンが停止しているときは重くなりますので無理に操作しないでください。

2.6 運転席（シート）

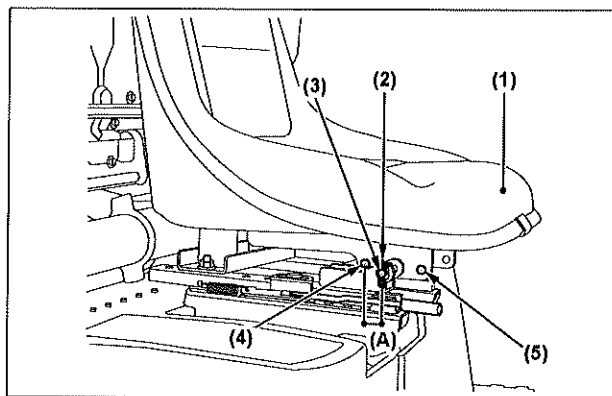
運転席は前後に調節することができます。運転席の右前方下にあるスライドレバーを左側に操作して、必要に応じて前後方向に調節してください。



(1) 運転席（シート） (A) 左側に操作（6段階調節）
(2) スライドレバー (B) 前後方向に動かす

補足：

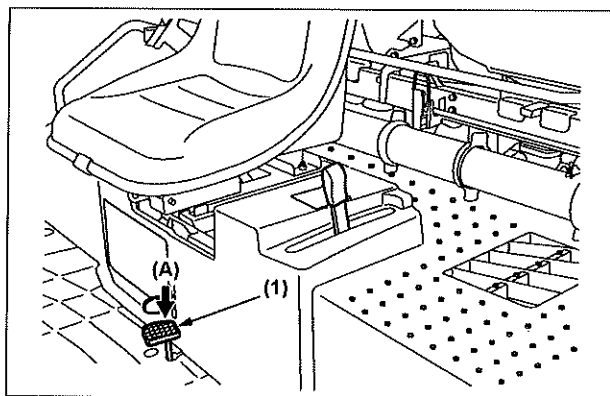
- 肥料の補給時は、運転席を前方にスライドしてください。ホッパへ肥料補給がしやすくなります。
- スライドレバーの操作で運転席の前後調整が難しい場合は、運転席の前下方にあるスナップピン、ロッドを外し、後方の穴に差換えてください。なお、前方の穴は使用できないため、注意してください。



(1) 運転席（シート） (A) 調節（2段階）
(2) スナップピン
(3) ロッド
(4) 後方の穴（調節用）
(5) 前方の穴（使用禁止）

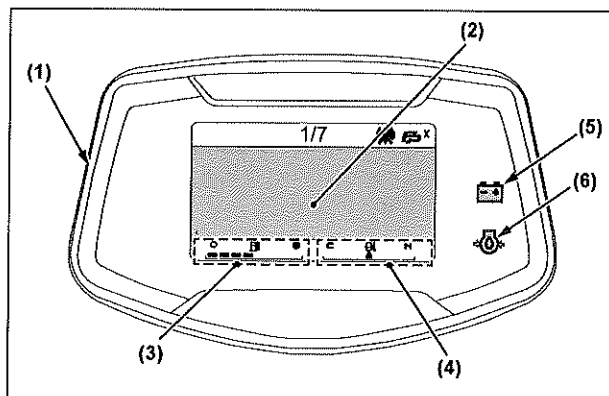
2.7 前輪デフロックペダル

踏込むと、左と右の前輪が一体となって駆動します。あぜ越え、傾斜地（あゆみ板や急な坂道）や前輪がスリップするときに使用します。



(1) 前輪デフロックペダル (A) 踏込む

2.8 メインパネル（走行操作関係）



(1) メインパネル (4) 水温計
(2) 液晶モニタ (5) 充電ランプ
(3) 燃料計 (6) オイルランプ

重要：

- パネル表面の透明なカバー（アクリル樹脂）は、アルコール類（メチル、エチルなど）およびカーションブ原液を使って掃除しないでください。カバー表面が白くにごって、見えにくくなります。

補足：

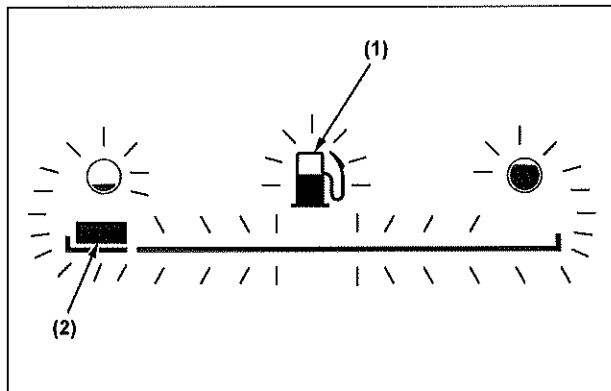
- メインスイッチのキーを[停止]位置から[運転]位置にすると、ランプチェックのため、オイルランプと充電ランプは点灯します。また、エンジン始動後にランプは消灯します。
- メインパネルは部品保護のため呼吸穴を設けていますが、湿度が高いときにパネル表面の透明なカバー（アクリル樹脂）は、周囲の湿度により表面が冷却されると結露が発生することがあります。これは異常ではありません。また、結露による機器内への影響もありません。

2.8.1 燃料計

燃料の残量を液晶の目盛り（8段階）で表示します。
([●] (満タン) ↔ [○] (空))

補足：

- 燃料残量の目盛りが最後の1目盛りになると、目盛りが白色から赤色に変わります。さらに燃料が減ると、燃料計が点滅します。
- 燃料計が点滅しても、警報ブザーが鳴らないため、燃料切れに注意してください。
- 燃料が満タンに近付くと、警報ブザーが鳴ります。ただし、e-stop でエンジン停止中のときは、警報ブザーは鳴りません。



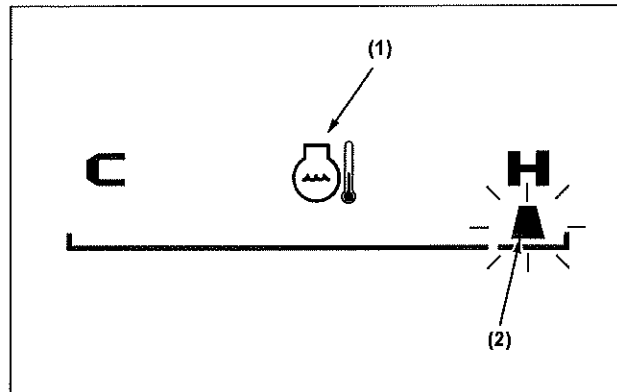
(1) 燃料計 (点滅)
(2) 目盛り

2.8.2 水温計

エンジン冷却水の温度をデジタル表示します。
([C] ↔ [H])

補足：

- 冷却水温の目盛りが [H] 位置になると、白色から赤色に変わると同時に点滅し、ブザーが連続して鳴ります。
- 冷却水温の目盛りが点滅すると、警報ブザーが鳴り、オーバーヒートの注意喚起を行います。



(1) 水温計
(2) 目盛り (点滅)

2.8.3 アワメータ

メインスイッチのキーを[停止]位置から[運転]位置にすると、液晶モニタに一定時間、現在までの積算使用時間を表示します。



補足：

- 積算使用時間の4ケタ目（右端）は、数字を6倍して [分] 単位の表示となります。

[例] 000.....12 時間 24 分
また、999.9 時間以上は [分] 単位の表示がなくなり、1000 時間から 9999 時間までの表示となります。

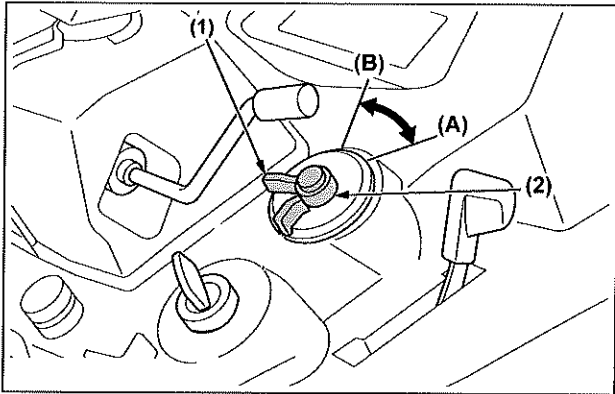
2.8.4 充電ランプ

充電システムに異常が発生すると点灯します。(充電警報)

2.8.5 オイルランプ

エンジンオイルの圧力が、異常に低下すると点灯します。(油圧警報)

2.9 コンビネーションスイッチ



(1) ランプスイッチ (A) [点灯]
 (2) ホーンスイッチ (B) [消灯]

・ランプスイッチ



ヘッドランプが消灯します。



ヘッドランプが点灯します。

・ホーンスイッチ

スイッチを押すと、ホーンが鳴ります。

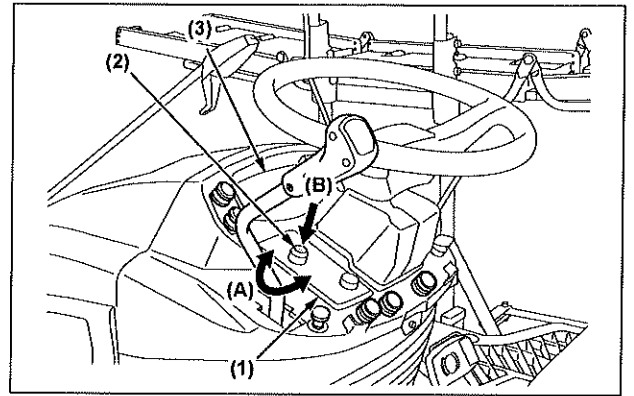
作業装置の名称とはたらき

1. 操作パネルとメインパネル

1.1 操作パネル

1.1.1 マルチスイッチ

モニタ操作パネル内にあるマルチスイッチは、各種画面の設定、選択および確定を行うスイッチです。マルチスイッチの操作を行うときは、メインパネルの液晶モニタに表示される内容を確認しながら行います。



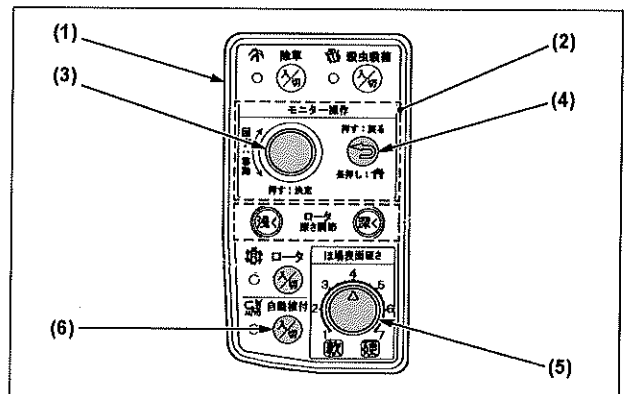
(1) 操作パネル (A) 回して選択
 (2) マルチスイッチ (B) 押して確定
 (3) 液晶モニタ

補足：

- マルチスイッチは、液晶モニタに表示される内容の選択と、選択後の確定を行うスイッチが複合された多機能スイッチです。
- 選択後にマルチスイッチを押すと、「ピッ」とお知らせの音が鳴ります。

1.1.2 戻るスイッチ

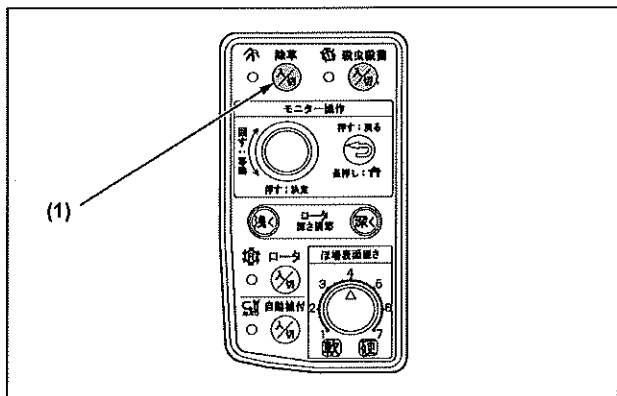
操作パネル内にある戻るスイッチは、マルチスイッチで液晶モニタの各種画面表示内容の操作中または、操作後に前画面または、メイン画面の4分割画面【作業条件】に戻すスイッチです。



(1) 操作パネル
 (2) モニタ操作パネル
 (3) マルチスイッチ
 (4) 戻るスイッチ
 (5) フィットセンサダイヤル 49
 (6) 自動植付【入】/【切】スイッチ 49

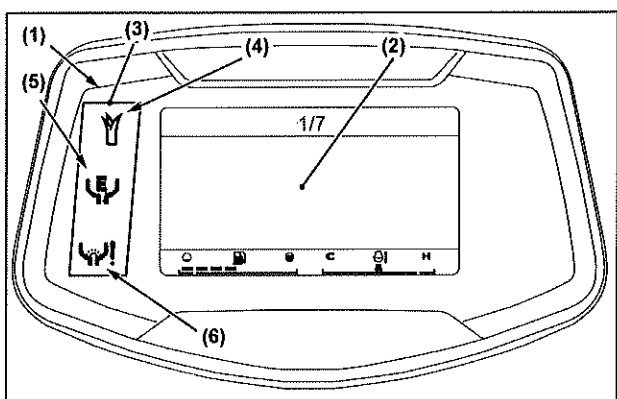
補足：

- 戻るスイッチを長押しすると、メイン画面の4分割画面【作業条件】に戻ります。(40 ページ参照)
- 除草剤散布機【入】/【切】スイッチはオプション部品装着時に使用します。



(1) 除草剤散布機 [入] / [切] スイッチ

1.2 メインパネル（作業関係）



(1) メインパネル (2) 液晶モニター
(3) モニタランプ (4) 苗切れランプ
(5) 肥料切れランプ (6) 肥料詰まりランプ

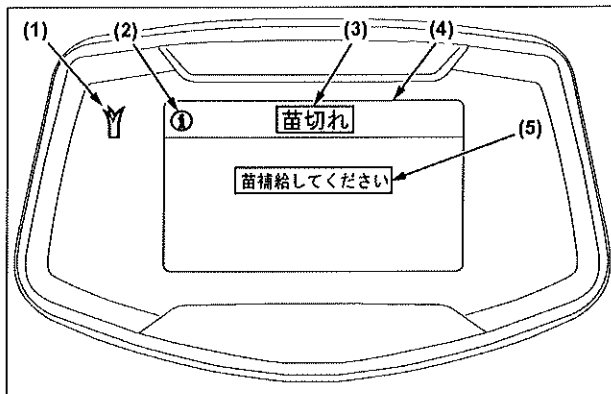
重要：

- パネル表面の透明なカバー（アクリル樹脂）は、アルコール類（メチル、エチルなど）およびカーション原液を使って掃除しないでください。カバー表面が白くにごって、見えにくくなります。

補足：

- メインスイッチのキーを [停止] 位置から [運転] 位置に回すとランプチェックのため、各モニタランプは一定時間点灯後、消灯します。
- 苗切れ、肥料切れ、肥料詰まりが発生すると、下記の内容でお知らせします。
 - 「ピーツ」とお知らせ音が8回鳴ります。
 - メインパネルの各モニタランプが点滅します。
 - 液晶モニターに、お知らせの告知内容と画面上部の青色帯の中央に表題、および左側にお知らせマーク [①] を表示します。

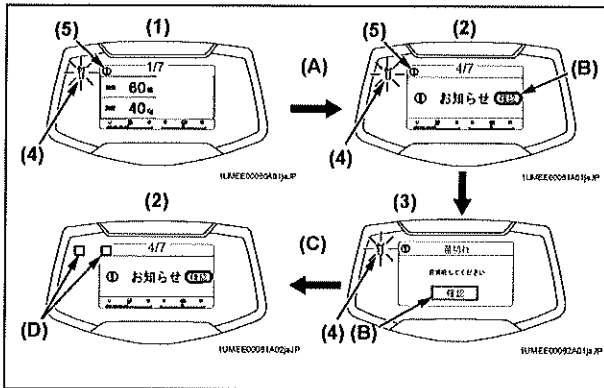
※イラストはお知らせ [苗切れ] の告知後の画面



(1) 苗切れランプ (点滅) (2) お知らせマーク
(3) 表題 (「苗切れ」) (4) 青色帯
(5) 告知内容

- 液晶モニターに表示されたお知らせの告知は、一定時間後に告知内容が消え、お知らせの告知内容が表示される前の画面を表示します。このとき、以下の状態となります。
 - 告知内容はメイン画面 [お知らせ] に格納されます。
 - 画面上部の青色帯の左側にお知らせマーク [①] が点滅します。
 - 格納された告知内容は、メイン画面 [お知らせ] で再表示すると確認ができます。このとき、表示画面に [確認] が表示されます。(41 ページ参照)
 - マルチスイッチで告知内容の [確認] を押すと告知内容は消え、メイン画面 [お知らせ] に格納されますが、処置が終わるまでモニタランプおよびお知らせマーク [①] の点滅は続きます。
 - 告知内容の処置を行うと、メイン画面 [お知らせ] に格納されている告知内容は消え、モニタランプおよびお知らせマーク [①] の点滅が消えます。

※イラストはお知らせ【苗切れ】の告知内容格納と処置の画面



- (1) メイン画面：【作業条件】
- (2) メイン画面：【お知らせ】
- (3) お知らせ画面：【苗切れ】
- (4) 苗切れランプ（点滅）
- (5) お知らせマーク（点滅）
- (A) マルチスイッチで選択および確定
- (B) マルチスイッチで【確認】を選択後、スイッチを押す
- (C) 苗を補給（処置を行う）
- (D) ランプ消灯（お知らせマーク消灯）

1.2.1 苗切れ警報

苗の残量が少なくなり、メインパネルの苗切れランプが点滅すると同時にお知らせ音が鳴り、液晶モニタに【苗補給してください】を告知します。

補足：

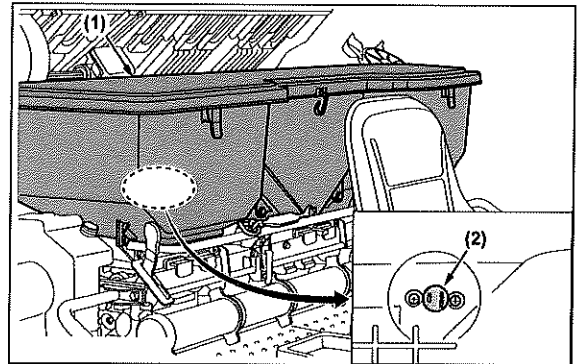
- 苗を補給すると、メイン画面【お知らせ】内に格納されている告知内容は消え、苗切れランプおよびお知らせマーク【**①**】が消灯します。
- 苗切れ警報は、苗のせ台にあるセンサが苗切れを検知すると発生します。

1.2.2 肥料切れ警報

肥料の残量が少なくなり、メインパネルの肥料切れモニタのランプが点滅すると同時にお知らせ音が鳴り、液晶モニタに【「肥料切れ」肥料を補給してください】を告知します。

補足：

- 肥料を補給すると、メイン画面【お知らせ】内に格納されている告知内容は消え、肥料切れランプおよびお知らせマーク【**①**】が消灯します。
- 施肥機停止中（施肥「OFF」状態）のときは作動しません。（106 ページ参照）
- 肥料切れ警報は、各施肥ホッパ内にあるセンサが肥料切れを検知すると発生します。



- (1) 施肥ホッパ
- (2) センサ（肥料切れの状態）

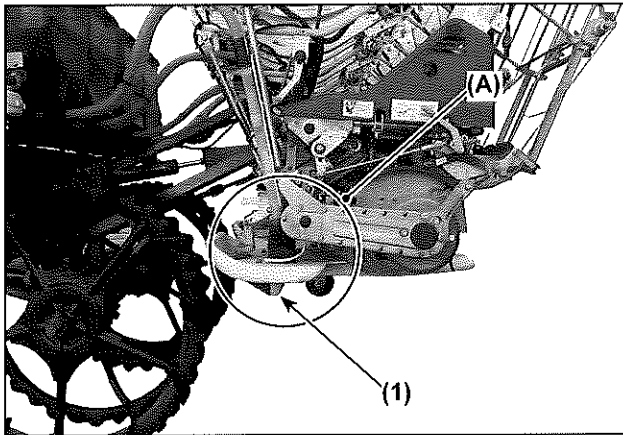
- 周囲が暗くなると残量センサの反応が鈍くなるため、センサ感度を敏感側に調整してください。（109～110 ページ参照）

1.2.3 肥料詰まり警報

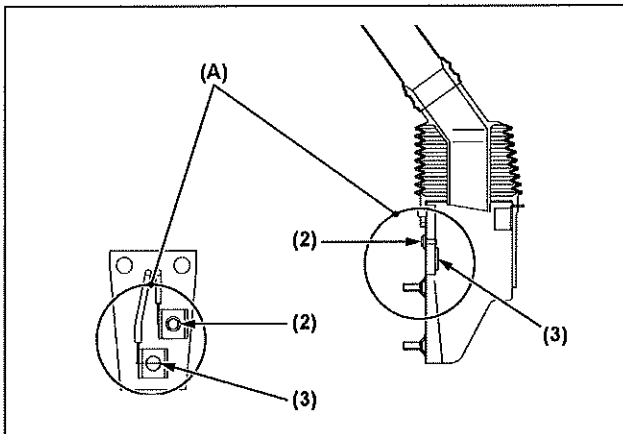
肥料詰まりが発生したとき、メインパネルの肥料詰まりランプが点滅すると同時にお知らせ音が鳴り、液晶モニタに【「詰まり」条ごとに確認してください】を告知します。

補足：

- 肥料の詰まりを取除くと、メイン画面【お知らせ】内に格納されている告知内容は消え、モニタランプおよびお知らせマーク【**①**】が消灯します。
- 施肥機停止中（施肥「OFF」状態）のときは作動しません。（106 ページ参照）
- 各作溝器内にある肥料詰まりを予知するセンサに小粒肥料や泥水などが付着したとき、（+）と（-）の電極が導通すると肥料詰まり警報が鳴ります。



A部拡大図

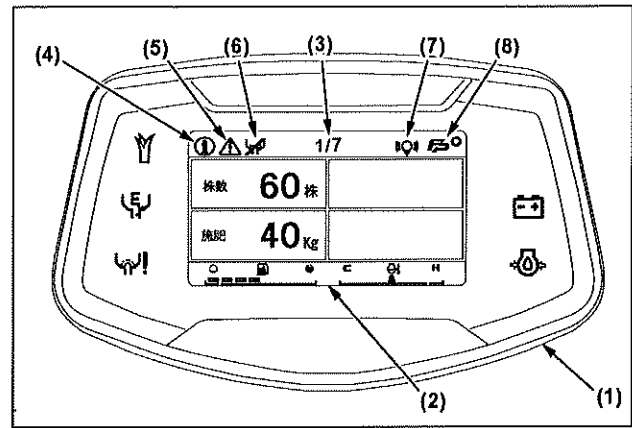


- (1) 作溝器
- (2) (-) 電極
- (3) (+) 電極
- (A) 肥料詰まり予知センサ

1.3 液晶モニタ

1.3.1 液晶モニタ

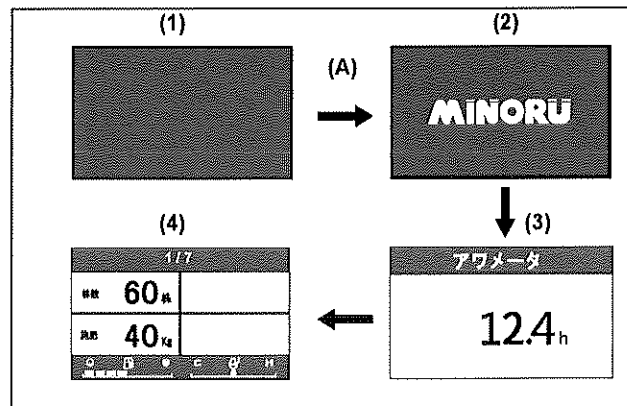
液晶モニタは、各ランプや各メータの表示、各種設定時の表示や機械の操作関係、異常発生時などに告知内容を表示します。液晶モニタに表示された内容を確認して対応してください



- (1) メインパネル
- (2) 液晶モニタ
- (3) 表示画面モニタ番号
- (4) お知らせ画面表示ランプ41
- (5) 警報画面表示ランプ 42
- (6) 施肥停止中お知らせランプ41
- (7) GPS 受信測位ランプ 57
- (8) 直進キープ可否ランプ 58

補足：

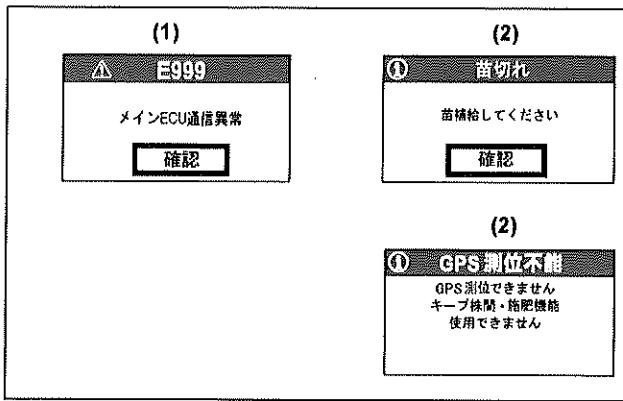
- メインスイッチのキーを [停止] 位置から [運転] 位置に戻すと、一定時間後に液晶モニタの画面が黒色画面→ [MINORU マーク] 画面→ [アワメータ] 画面 →メイン画面の [作業条件] 画面 (4 分割画面) に切り替わります。



- (1) 黒画面
- (2) [MINORU マーク] 画面
- (3) [アワメータ] 画面
- (4) [作業条件] 画面 (4 分割画面)
- (A) メインスイッチのキーを「停止」位置から「運転」位置に戻す

補足：

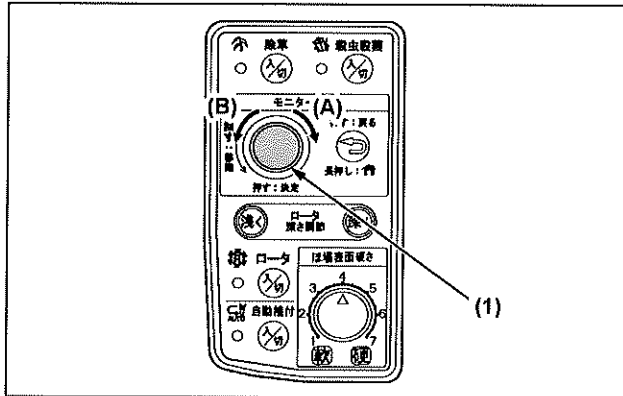
- アワメータ表示後、メイン画面の4分割画面 [作業条件] 画面が表示されずに告知内容が表示された場合は、告知内容に従って処置してください。処置を行うと告知内容は表示されません。告知内容は [警報] と [お知らせ] の2種類ありますが、複数の告知内容が表示される場合は [警報] の告知内容を優先して表示します。(41、42 ページ参照)



- (1) [警報] 表示
- (2) [お知らせ] 表示

1.3.2 液晶モニタの表示と設定について

1. メイン画面の [作業条件] 画面（4分割画面）の表示状態から、マルチスイッチを右側方向（時計方向）に回すと、[作業条件] 画面を含めて7種類のメイン画面を表示します。

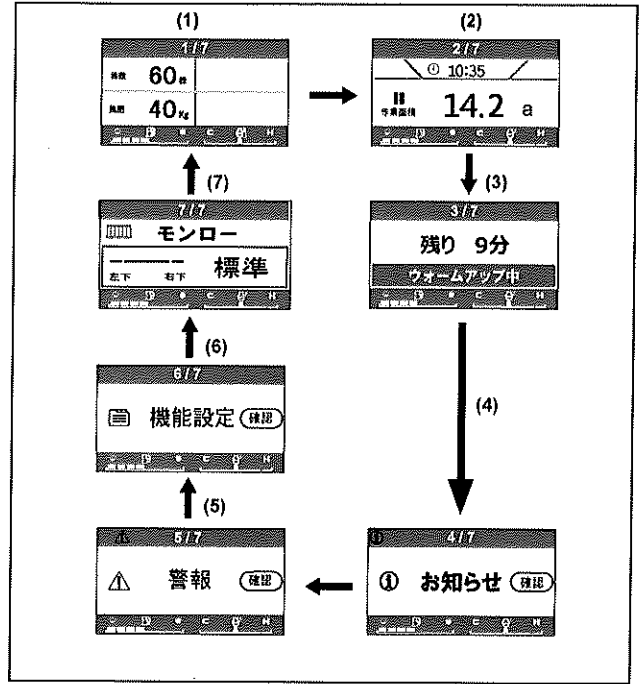


- (1) マルチスイッチ
- (A) 右側方向
(時計方向)
- (B) 左側方向
(反時計方向)

補足：

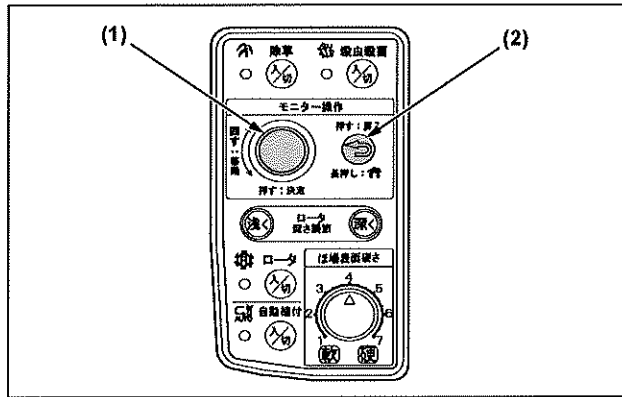
- マルチスイッチを回したとき、各表示画面（メイン画面含む）の上部中央にモニタ番号、1/7～7/7を表示します。
- マルチスイッチを左側（反時計方向）に回すと、各メイン画面は反対方向に推移します。

メイン画面：7画面の推移



- (1) [作業条件] 画面
(4分割画面)
- (2) [作業面積] 画面
- (3) [GS表示] 画面
- (4) [お知らせ] 画面
- (5) [警報] 画面
- (6) [機能設定] 画面
- (7) [モンロー] 画面

2. 各メイン画面を表示している状態でマルチスイッチを押すと、次の階層の内容を表示します。表示内容を確認後、マルチスイッチを回して選択または、スイッチを押してください。また、各メイン画面の各階層から前画面または、メイン画面に戻るときは戻るスイッチを押します。



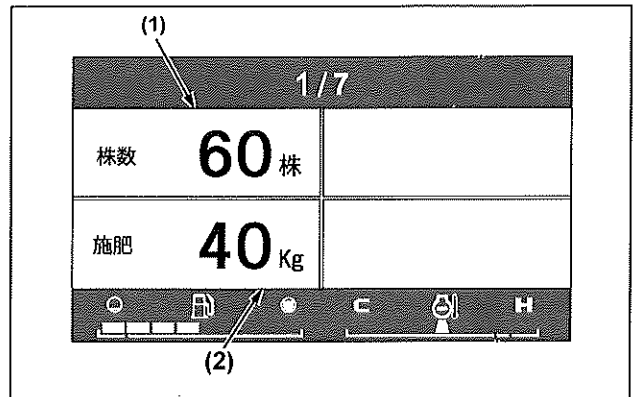
(1) マルチスイッチ
(2) 戻るスイッチ

補足：

- 戻るスイッチを長押しすると、メイン画面の4分割画面の【作業条件】(ホーム画面)に戻ります。

1.3.3 メイン画面：【作業条件】(4分割画面)

植付株数・施肥量の各調整を行うときに選択する4分割の表示画面です。

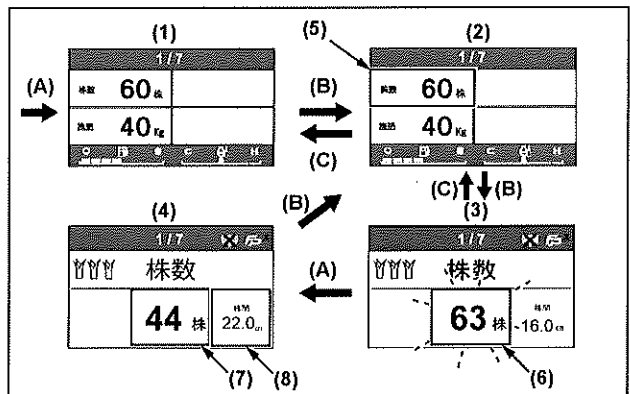


(1) [株数] 調整
(2) [施肥量] 調整

補足：

- 各調整については114～121ページを参照してください。また、マルチスイッチおよび戻りスイッチの操作については以下を参照してください。

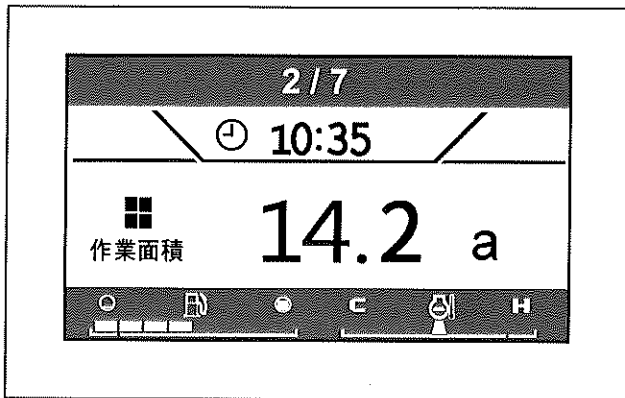
※操作の参考例：株数の変更



(1) メイン画面：【作業条件】画面 (4分割画面) (A) マルチスイッチを回して選択
(2) 株数選択 (B) マルチスイッチを押す
(3) 株数現状画面 (C) 戻るスイッチを押す
(4) 株数変更画面
(5) 水色の枠 (選択枠)
(6) 株数表示画面 / 水色の枠 (選択状態の点滅状態)
(7) 水色の枠 (確定の点灯状態)
(8) 株間表示

1.3.4 メイン画面：[作業面積]

植付作業を行った累積面積の表示や 10a 計測で 10a 植え終わると表示するメインの表示画面です。

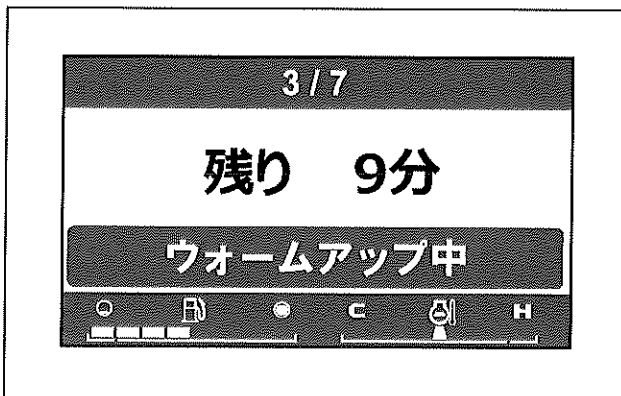


補足：

- 時刻は GPS 受信状態でずれが発生する場合があります。
- 作業面積については 101 ページを参照してください。

1.3.5 メイン画面：[GS表示]

直進キープ機能の操作や条間アシスト機能を使用するときに表示するメインの表示画面です。



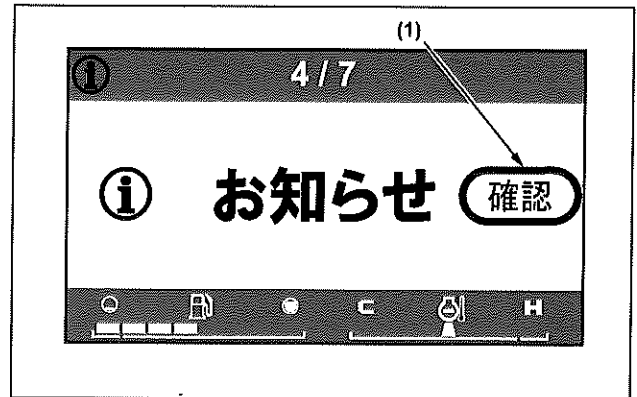
補足：

- 各設定後、画面に表示されている内容やメッセージに従って対応してください。
- 直進キープ機能については 90 ページを参照してください。
- 条間アシスト機能については 97 ページを参照してください。

1.3.6 メイン画面：[お知らせ]

各お知らせの告知画面を一時格納するメインの表示画面です。

マルチスイッチで画面に表示されている【確認】を押すと、格納された告知画面を表示します。また、格納された告知画面が複数ある場合は、マルチスイッチを回して確認してください。

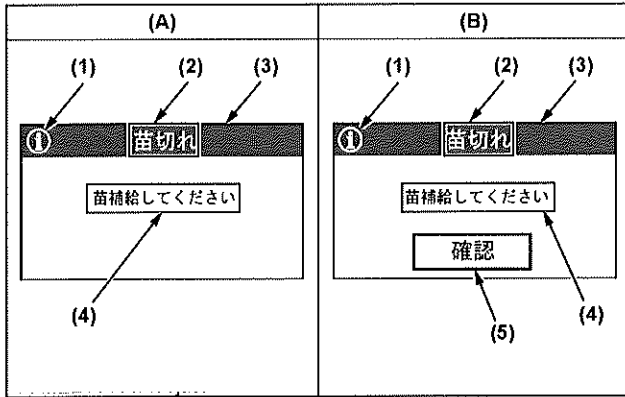


(1)【確認】

補足：

- お知らせがあると、液晶モニタに告知内容と上部の青色帯の中央に表題および、左側にお知らせマーク【i】を表示しますが、告知内容により一定時間後に消える告知画面と、消えたあと格納される告知画面があります。また、格納される告知画面は、マルチスイッチで、このメイン画面【お知らせ】の【確認】を押すと再表示します。このとき、再表示された告知画面には【確認】を表示します。

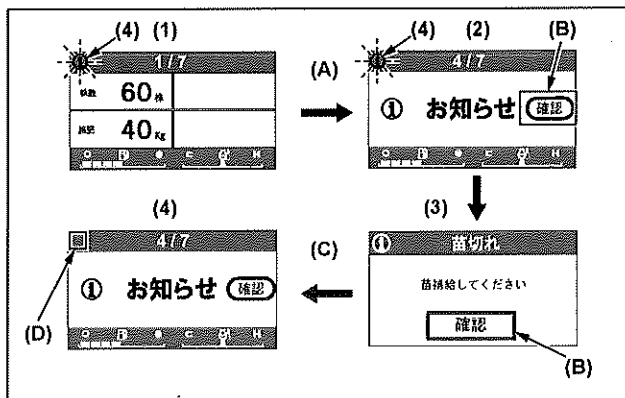
※イラストはお知らせの告知画面 [苗切れ]



- (1) お知らせマーク
- (2) 表題 (「苗切れ」)
- (3) 青色帯
- (4) 告知内容
- (5) 【確認】

- お知らせの告知画面が格納されているときは、画面上部の青色帯の左側にお知らせマーク【①】が点滅します。
- マルチスイッチで告知画面の【確認】を押すと告知画面は消えますが、処置が終わるまで告知画面は格納され、お知らせマーク【①】の点滅は続きます。
- 告知内容の処置を行うとメイン画面【お知らせ】に格納されている告知画面は消え、お知らせマーク【①】は消灯します。

※イラストはお知らせ「苗切れ」が告知されている場合

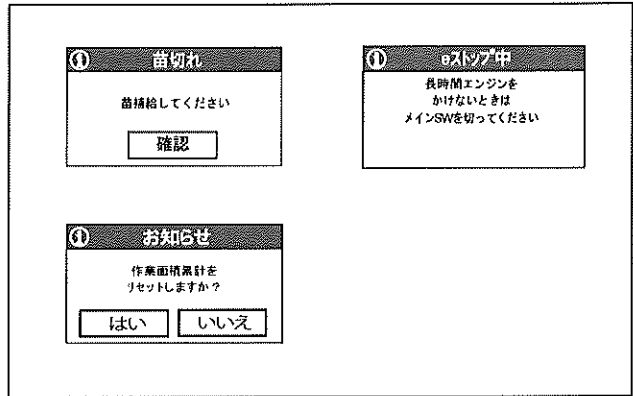


- (1) メイン画面：【作業条件】
- (2) メイン画面：【お知らせ】
- (3) お知らせ画面：【苗切れ】
- (4) お知らせマーク (点滅)
- (A) マルチスイッチで選択および確定
- (B) マルチスイッチで【確認】を選択後、スイッチを押す
- (C) 苗を補給 (処置を行う)
- (D) ランプ消灯 (お知らせマーク消灯)

- お知らせの告知画面が表示されたとき、告知内容により以下のように異なります。
 - お知らせ音が鳴る場合と鳴らない場合があります。(お知らせ音が鳴る場合は「ピーツ」と8回鳴ります。)

- 告知画面は、表示が継続する場合と一定時間後に消えて、お知らせの告知内容が表示される前の画面を表示する場合があります。
- 告知画面の表示が一定時間表示後に消えたあと、告知画面が格納される場合と格納されない場合があります。

※イラストはお知らせの告知画面表示例

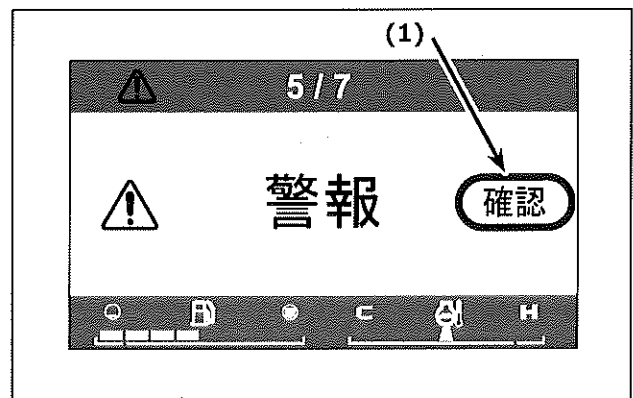


- ・自動供給つまり ……172 ページ
- ・連続欠株 ……166 ページ } 不調と処置

1.3.7 メイン画面：【警報】

異常が発生したときに表示された各警報の告知画面を一時格納するメインの表示画面です

マルチスイッチで画面に表示されている【確認】を押すと、格納された告知画面を表示します。また、格納された告知画面が複数ある場合は、マルチスイッチを回して確認してください。

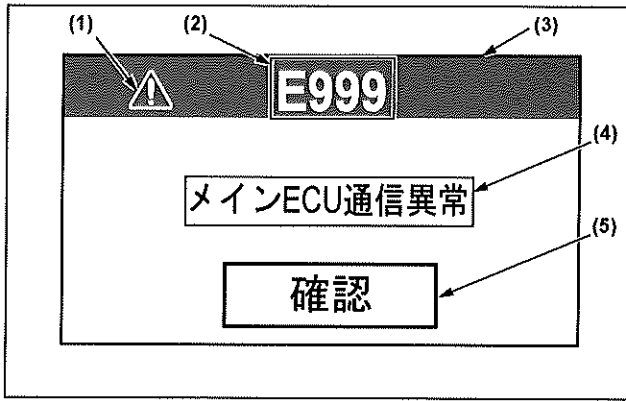


(1) 【確認】

補足：

- 警報が発生すると、液晶モニタに警報内容と上部の赤色帯の中央に表題および、左側に警報マーク【△】を表示すると同時に警報ブザーが鳴ります。また、マルチスイッチで告知画面に表示されている【確認】を押すと、告知画面が消え警報ブザーが停止して、告知画面が表示される前の画面を表示します。このとき、告知画面は格納されます。

※イラストはお知らせの告知画面表示例

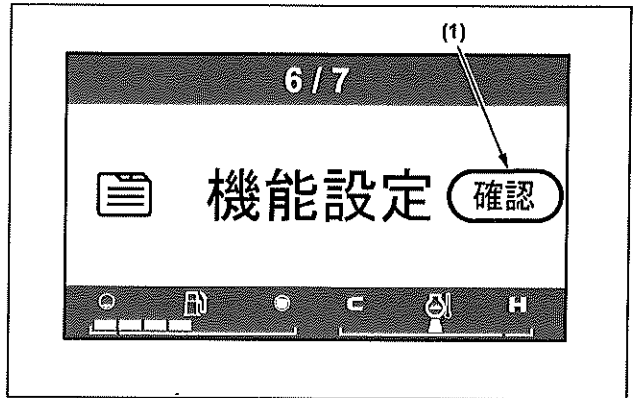


- (1) 警報マーク
- (2) 表題 (【E999】)
- (3) 赤色帯
- (4) 告知内容
- (5) 【確認】

- 警報の告知画面が格納されているときは、画面上部の赤色帯の左側に警報マーク【△】が点滅します。
- 警報の告知内容により、応急的に手動操作可能な場合がありますが、必ず購入先に連絡してください。(124 ページ参照)
- マルチスイッチで告知画面の【確認】を押すと告知画面は消えますが、処置が終わるまで告知画面は格納され、警報マーク【△】の点滅は続きます。
- 告知内容の処置を行うと、メイン画面【警報】に格納されている告知画面は消え、警報マーク【△】は消灯します。

1.3.8 メイン画面：【機能設定】

各センサの感度調整設定状態などを表示するメインの表示画面です。

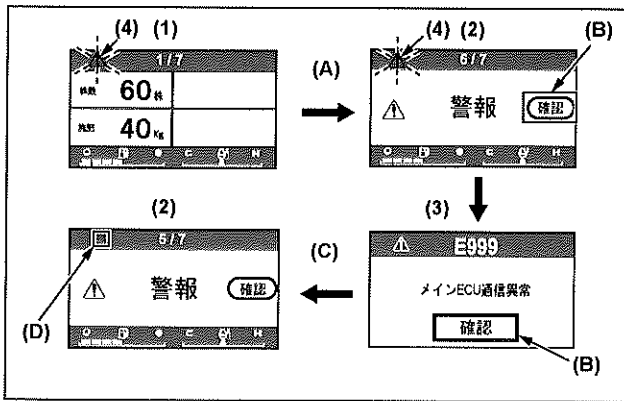


- (1) 【確認】

補足：

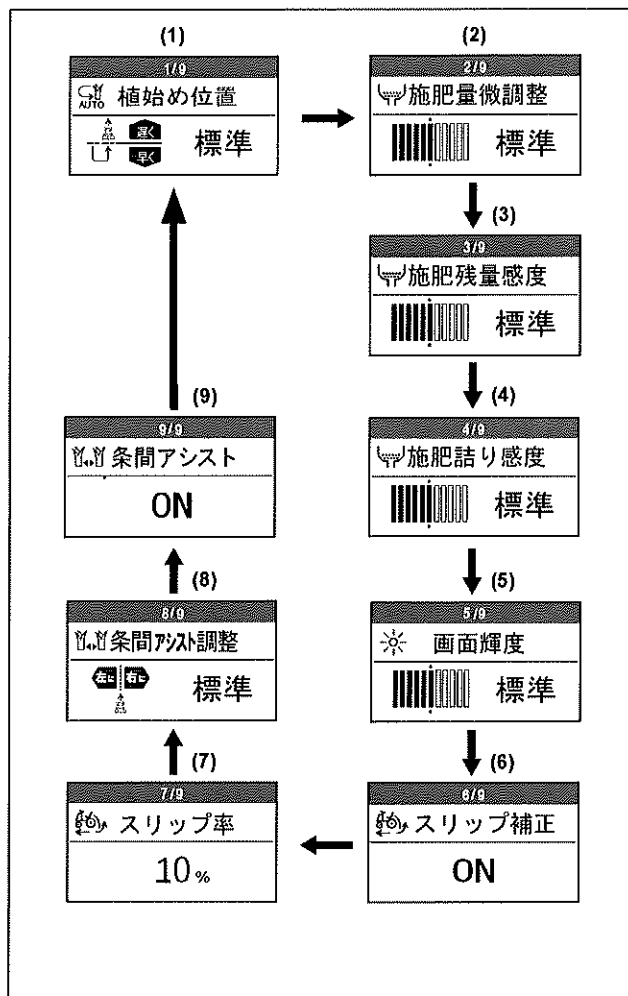
- マルチスイッチで画面に表示されている【確認】を押すと、各調整や各機能の「ON」(入)、「OFF」(切)の設定を行う画面が表示されます。
- マルチスイッチを回したとき、各表示画面(設定画面)の上部中央にモニタ番号「1/9」～「9/9」および「オプション設定」を表示します。
- マルチスイッチを左側(反時計方向)に回すと、各メイン画面は反対方向に推移します。

※イラストは警報【E999】が告知されている場合



- (1) メイン画面：【作業条件】
- (2) メイン画面：【警報】
- (3) 警報画面：【E999】
- (4) 警報マーク (点滅)
- (A) マルチスイッチで選択および確定
- (B) マルチスイッチで【確認】を選択後、スイッチを押す
- (C) 処置を行う
- (D) ランプ消灯 (警報マーク消灯)

設定画面：10 画面の推移

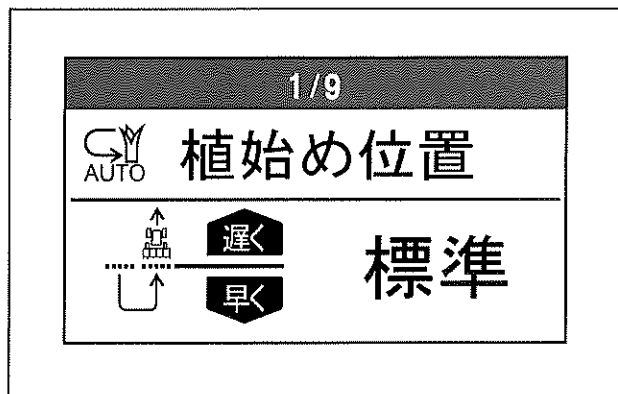


- (1) [植始め位置] 画面
- (2) [施肥量微調整] 画面
- (3) [施肥残量感度] 画面
- (4) [施肥詰り感度] 画面
- (5) [画面輝度] 画面
- (6) [スリップ補正] 画面
- (7) [スリップ率] 画面
- (8) [条間アシスト調整] 画面
- (9) [条間アシスト] 画面

1.3.8.1 画面：[植始め位置]

自動植付機能がはたらいしているとき、次行程の植始め位置の変更を行う場合の表示画面です。

※イラストは植始め位置：「標準」位置



補足：

- 植始め位置の変更については 84 ページを参照してください。

1.3.8.2 画面：[施肥量微調整]

肥料の繰出量の微調整を行うときの表示画面です。

※イラストは植始め位置：「標準」位置



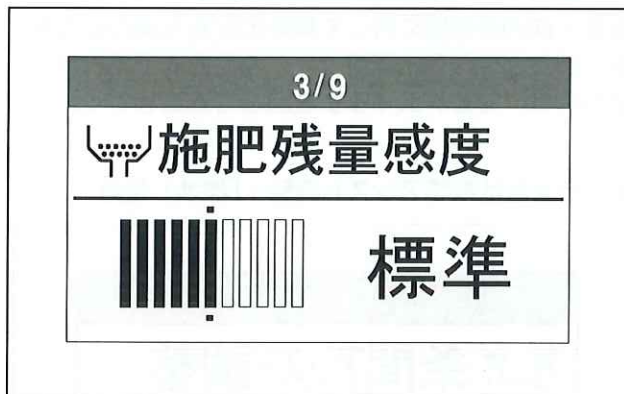
補足：

- 施肥量の微調整については 118 ページを参照してください。

1.3.8.3 画面：[施肥残量感度]

施肥用ホッパ内に残っている肥料の残量を検知するセンサ感度の調整を行うときの表示画面です。

※イラストは施肥残量感度：「標準」位置



補足：

- 施肥残量感度の変更については 109 ~ 110 ページを参照してください。

1.3.8.4 画面：[施肥詰り感度]

各作溝器の肥料詰りを検知するセンサ感度の調整を行うときの表示画面です。

※イラストは施肥詰り感度：「標準」位置



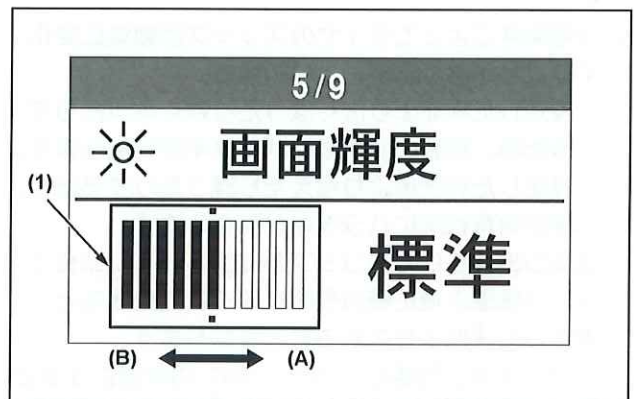
補足：

- 施肥詰り感度の変更については 109 ~ 110 ページを参照してください。

1.3.8.5 画面：[画面輝度]

液晶モニタ画面の明るさの変更を行うときの表示画面です。画面の明るさを変更を行うときは、マルチスイッチを回して変更してください。

※イラストは画面輝度：「標準」位置



(1) 目盛り

(A) 明るい

(B) 暗い

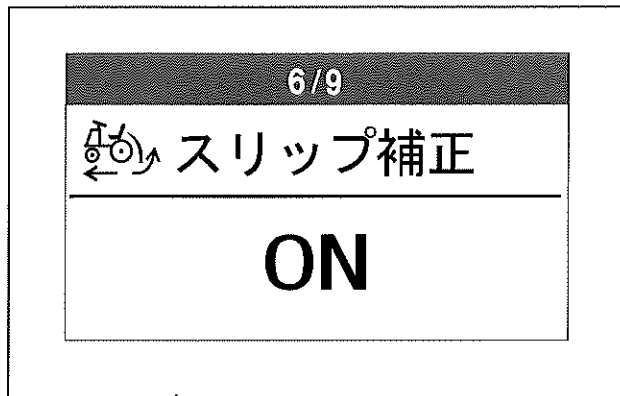
補足：

- マルチスイッチを回すと目盛りが増減します。また、画面はマルチスイッチを右側に回すと明るくなり、左側に回すと暗くなります。
- 出荷時は「標準」位置です。

1.3.8.6 画面：[スリップ補正]

スリップ補正機能使用の切り替えを行うときの表示画面です。スリップ補正機能使用の変更を行うときは、マルチスイッチを回して変更してください。

※イラストはスリップ補正：「ON」(入)位置



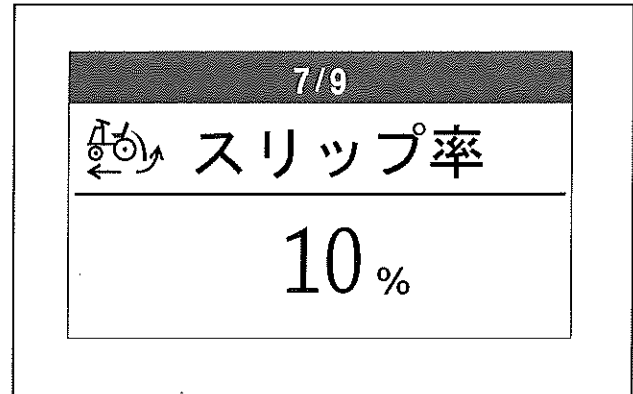
補足：

- 出荷時は「ON」(入)です。
- [スリップ補正]が「ON」(入)の状態からマルチスイッチを左側に回すと「OFF」(切)になり、「OFF」(切)の状態から右側に回すと「ON」(入)になります。
- スリップ補正機能は、タイヤのスリップ率を考慮して株数や施肥量のバラツキ量を軽減する機能です。
- ほ場条件によってタイヤのスリップが頻繁に変化することがあります。この影響で、
 - 設定した株間より広くなったり狭くなったりするため、苗箱の使用量にバラツキが発生します。
 - 設定した施肥量より増えたり減ったりするため、稲の発育状態にバラツキが発生します。
- ほ場の出入り口でスリップが発生しやすい条件では、ほ場進入後に植付作業をすぐに開始すると、設定した株間より広がる場合があります。
- スリップ補正機能を「OFF」(切)の状態にするとき、必要に応じてスリップ率の変更を行ってください。
- GPS 測位環境の悪化により、スリップ補正機能が正常にはたらかず設定した株間と大きく異なる場合があります。この場合は、スリップ補正機能を「OFF」(切)にしてください。その後、30分から1時間程度経過したあと、再度「ON」(入)にしてください。

1.3.8.7 画面：[スリップ率]

スリップ補正「ON」(入)時の初期スリップ率の値およびスリップ補正「OFF」(切)時のスリップ率変更を行うときの表示画面です。

※イラストはスリップ率：「10%」



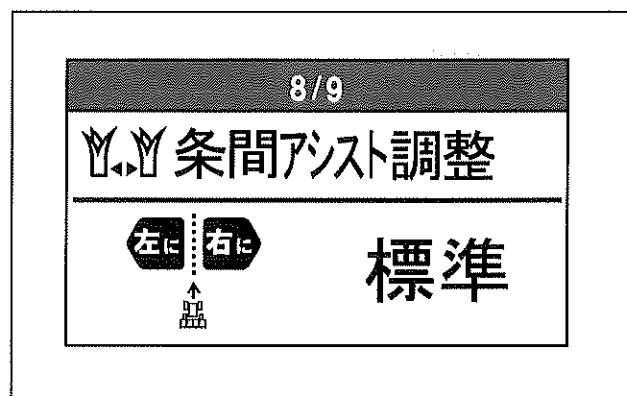
補足：

- マルチスイッチを回すと、スリップ率が1%単位で増減します。
- 出荷時のスリップ率は「10%」です。

1.3.8.8 画面：[条間アシスト調整]

GS 機能および自動植付機能がはたらいっているとき、直進方向の基準線に対して機体の左右方向の位置変更を行うときの表示画面です。左右方向にずれがある場合は、マルチスイッチを回して変更してください。

※イラストは条間アシスト調整：「標準」位置



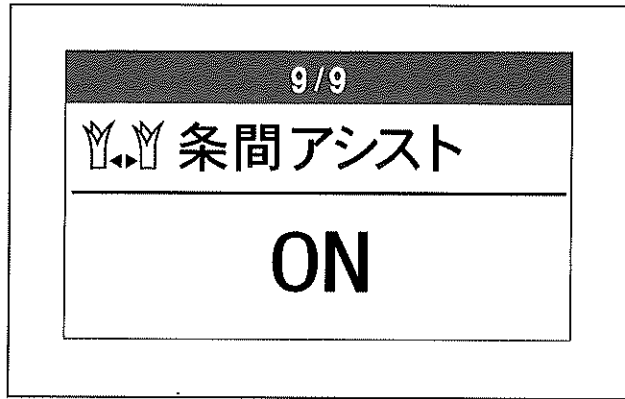
補足：

- 条間アシスト調整の変更については97ページを参照してください。

1.3.8.9 画面：[条間アシスト]

GS 機能および自動植付機能がはたらいっているとき、条間アシスト機能使用の切り替えを行うときの表示画面です。条間アシスト使用の変更を行うときは、マルチスイッチを回して変更してください。

※イラストは条間アシスト：「ON」(入)位置

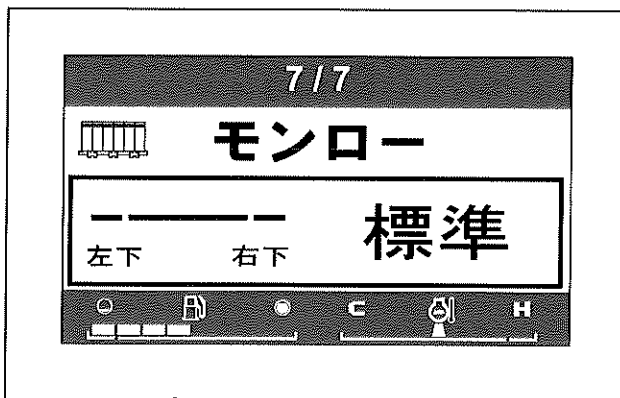


補足：

- 条間アシスト機能については 97 ページを参照してください。
- [条間アシスト] が「ON」(入)の状態からマルチスイッチを左側に回すと「OFF」(切)になり、「OFF」(切)の状態から右側に回すと「ON」(入)になります。
- 出荷時は「OFF」(切)です。

1.3.8.10 メイン画面：[モンロー]

モンロー（植付部自動水平制御装置）の角度調整を行うときの表示画面です。



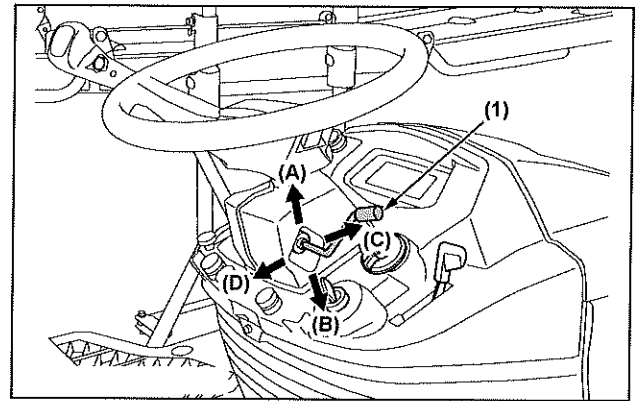
補足：

- モンローの角度調整については 116 ページを参照してください。

2. 植付操作関係

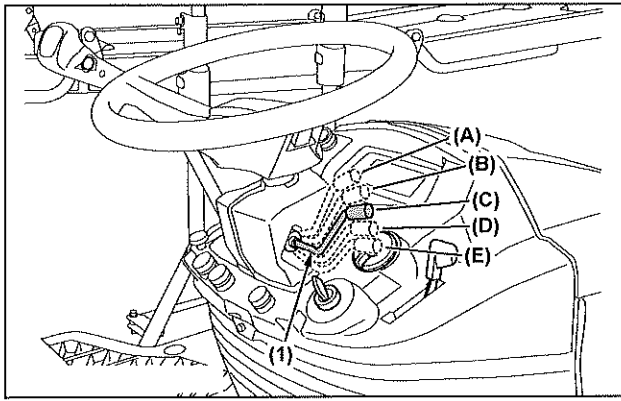
2.1 十字ポンパレバー

十字ポンパレバーは、エンジンが作動中に植付部（苗のせ台）の上昇・下降、植付クラッチの入・切、ラインマーカのセットを操作するレバーです。操作するときは、上・下・前・後各方向に軽く押したあと離してください。



(1) 十字ポンパレバー

- (A) [上昇]
- (B) [下降]・[植付]
- (C) [マーカ左]
- (D) [マーカ右]



(1) 十字ポンパレバー (A) 上 2 段目位置
(B) 上 1 段目位置
(C) 中立位置
(D) 下 1 段目位置
(E) 下 2 段目位置

【上昇】（上側操作）

植付部の駆動が停止し、植付部が上昇します。

補足：

- 十字ポンパレバーを上 1 段目位置に押し上げると、押し上げている間だけ植付部が上昇します。また、十字ポンパレバーから手を離すと、植付部の上昇が停止します。
- 十字ポンパレバーを上 2 段目位置まで押し上げると、[ピッ] と音が鳴ると同時に植付部が最上昇位置まで上昇します。このとき、植付クラッチが [切] の状態になります。

【下降】・【植付】（下側操作）

植付部が下降します。そのあと、再度操作すると植付クラッチが [入] になり、植付部が駆動します。

補足：

- 十字ポンパレバーを下 1 段目位置に押し下げると、押し下げている間だけ植付部が下降します。また、十字ポンパレバーから手を離すと、植付部の下降が停止します。
- 十字ポンパレバーを下 2 段目位置まで押し下げると、[ピッ] と音が鳴ると同時に植付部のフロートが地面に着くまで下降します。また、十字ポンパレバーを再度下 2 段目位置まで押し下げると、[ピッピッ] と音が鳴り、植付クラッチが [入] の状態になり植付部が駆動します

【マーカ左】（前側操作）・【マーカ右】（後側操作）

植付部が下降状態のとき、十字ポンパレバーを操作すると、筋付マーカが左側または、右側に倒れてセットされ、植付準備の状態になります。

重要

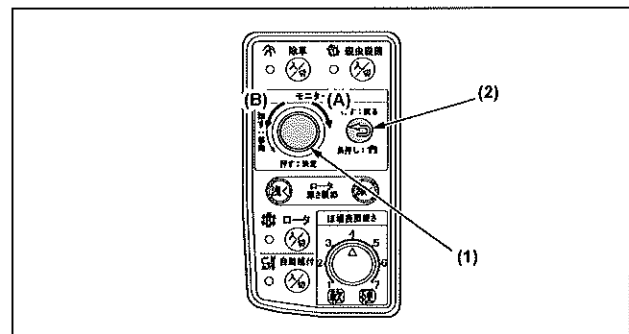
- 十字ポンパレバーは軽く操作してください。強く操作すると十字ポンパレバーの変形や破損、スイッチの故障によるトラブルの原因となります。

補足：

- 植付部が地面に接地している状態で、主変速レバーを [N]（中立）位置より後進側に操作すると、植付部の駆動が停止し、植付部が上昇します（バックアップ機能）。
- 植付部が上昇すると筋付マーカは自動的に収納されます。
- 植付作業時などで植付部が地面に接地している状態で植付部が上昇すると、筋付マーカは自動的に収納されます。
- 植付作業時などで植付部が地面に接地している状態で筋付マーカが左側または、右側にセットされているとき、十字ポンパレバーを前側または、後側に長押しすると、左側または右側の筋付マーカが収納されます。
- 操作パネルのスイッチボックスに異常が発生し、マルチスイッチおよび戻るスイッチで操作が行えない場合は、十字ポンパレバーで一時的に操作が行えますが、作業が終わったあとは購入先に必ず連絡してください。また、十字ポンパレバーで操作するときは、エンジンを停止したあと、メインスイッチを [運転] 位置にしてください。

マルチスイッチ、戻るスイッチと十字ポンパレバーの操作表

マルチスイッチ、戻るスイッチの操作	十字ポンパレバーの操作
マルチスイッチを右側方向へ操作 (選択画面移動操作)	前側に押す
マルチスイッチを左側方向へ操作 (選択画面移動操作)	後側に押す
マルチスイッチを押す操作 (選択確定操作)	下側に押す
戻るスイッチを押す操作 (画面移動操作)	上側に押す

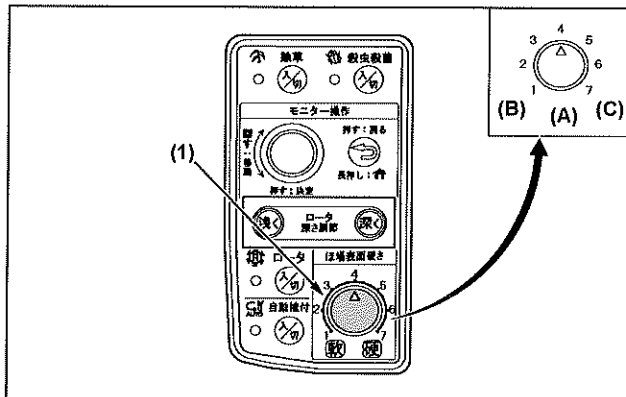


(1) マルチスイッチ (A) 右側方向
(2) 戻るスイッチ (B) 左側方向

- 十字ボンパレバーの操作を行うとき、10 秒以上長押しはしないでください。画面移動を早くしたい場合などで操作すると、誤って「ボンパ右スイッチ故障」などの警報が発生します。
- マルチスイッチおよび戻るスイッチの操作については、35 ページを参照してください。

2.2 フィットセンサダイヤル

フィットセンサダイヤルは、フィットセンサの感度を変更するダイヤルです。ほ場の状態に合わせて7段階（1～7）の調節が行えます。



(1) フィットセンサダイヤル (A) (A) ほ場表面硬さ
(B) 軟
(C) 硬

補足：

- 出荷時は、[4] の位置です。
- フィットセンサは、植付部の上下の動きに合わせてフロートが追従する感度を調節する装置です。ほ場の整地や泥押し状態を確認し、ほ場表面を最良の状態にするため、フィットセンサダイヤルで調節を行ってください。(114 ページ参照)

2.3 自動植付【入】 / 【切】 スイッチ

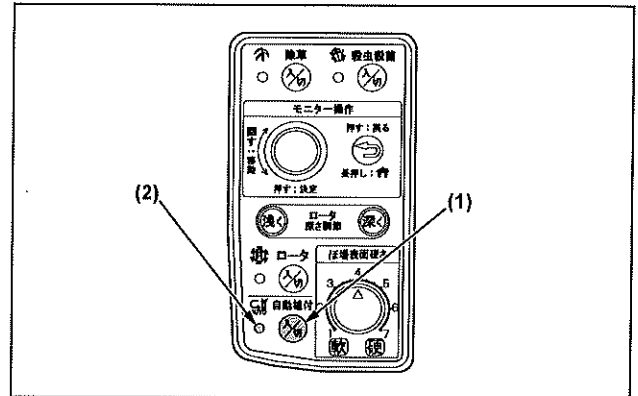
警告

機械の近くに人がいるときや運転者が運転席から離れるときは、自動植付機能を停止してください。

植付部が自動昇降すると植付部に接触しケガをするおそれがあります。

自動植付【入】 / 【切】 スイッチは、自動植付機能の入 / 切を行うスイッチです。自動植付【入】 / 【切】 スイッチを【入】にすると、自動植付機能がはたります。(83 ページ参照)

- 自動植付【入】 / 【切】 スイッチ【入】
自動植付スイッチ【入】を押すと、自動植付ランプが点灯し、自動植付機能がはたります。
- 自動植付【入】 / 【切】 スイッチ【切】
自動植付スイッチ【切】を押すと、自動植付ランプが消灯し、自動植付機能が停止します。



(1) 自動植付【入】 / 【切】 スイッチ
(2) 自動植付ランプ

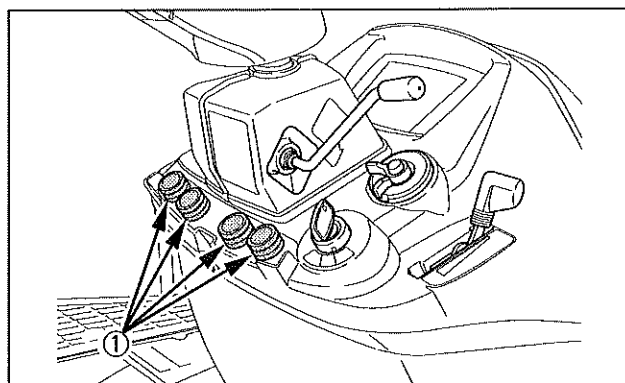
補足：

- 自動植付機能がはたっているとき、旋回後に植付部が自動的に下降したあと、次行程の植付開始位置の調整が行えます。調整はメイン画面の【機能設定】の画面【植始め位置】で行ってください。(84 ページ参照)
- 自動植付機能がはたっているときに施肥作業を行う場合は、植始めは低速で行ってください。高速で植え付けると、施肥開始の位置が遅れて施肥ムラの原因になります。

2.4 あげぎわスイッチ

あげぎわスイッチは、あげぎわクラッチの入 / 切を操作するスイッチです。あげぎわスイッチを操作すると、2 条ごとに植付部と肥料繰出しの駆動の【入】【切】が切り替わります。

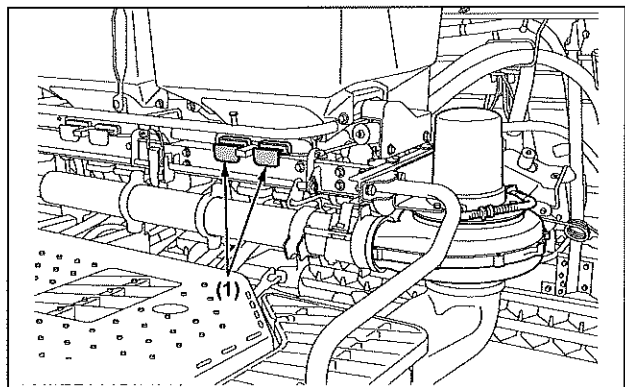
- あげぎわスイッチ【ON】
あげぎわクラッチが【入】のとき（あげぎわスイッチのランプ消灯状態）あげぎわスイッチを押すと、あげぎわクラッチが【切】になり、植付部の駆動が停止します。（あげぎわスイッチのランプは点灯します。）
- あげぎわスイッチ【OFF】
あげぎわクラッチが【切】のとき（あげぎわスイッチのランプ点灯状態）あげぎわスイッチを押すと、あげぎわクラッチが【入】になり、植付部が駆動します。（あげぎわスイッチのランプは消灯します。）



(1) あげぎわスイッチ

補足：

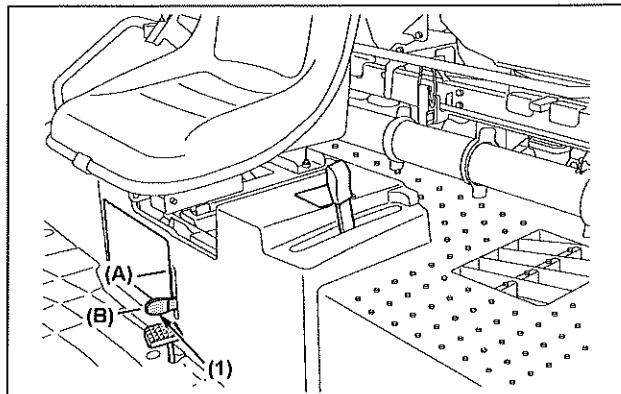
- あげぎわクラッチが【切】のとき、(あげぎわスイッチのランプ点灯状態) 植付部が上がると、自動的にあげぎわクラッチの【切】状態が解除され、【入】の状態 (あげぎわスイッチのランプ消灯状態) となり、お知らせ音が鳴ります。(あげぎわクラッチ自動復帰機能)
- あげぎわクラッチを切るときは、左端または、右端のあげぎわスイッチから順番に押してください。左端または、右端以外から押すと、あげぎわクラッチを切ることができません。
- あげぎわクラッチを入れるとき、点灯しているあげぎわスイッチ (あげぎわクラッチ切の状態) の左端または、右端を押すとあげぎわクラッチは全条入の状態になります。また、左端または、右端以外の場合、内側の条のあげぎわスイッチから順番に押すと、2条ずつあげぎわクラッチは入の状態になります。
- あげぎわスイッチを操作するときは、走行をいったん停止したあと、植付部が停止状態または、低速回転状態で行ってください。
- あげぎわスイッチが【OFF】の状態、肥料の繰出しを1条分だけ停止するときは、条止めシャッタを使用してください。(120ページ参照)
- あげぎわクラッチを切って植付けを停止した条を再度植え付けるとき、あげぎわクラッチを【入】にするタイミングにより、欠株になる場合があります。



(1) 条止めシャッタ

2.5 油圧ロックレバー

植付部の下降防止を行う油圧のロックレバーです。油圧ロックレバーを上げる (【閉】位置) と、エンジンが作動中に十字ポンパレバーを操作しても植付部は下降⇄上昇しません。解除するときは、油圧ロックレバーを下げて (【開】位置) ください。



(1) 油圧ロックレバー

(A) 【閉】

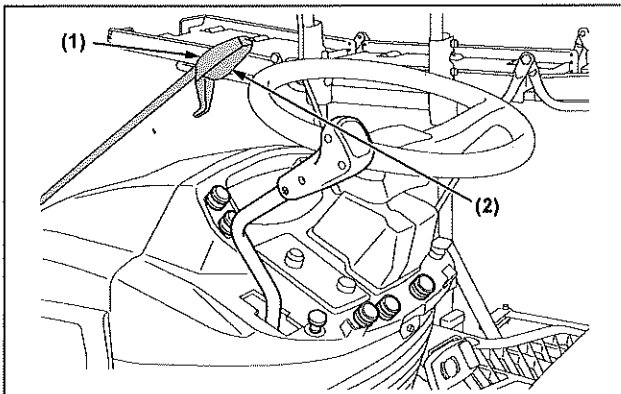
(B) 【開】

補足：

- 油圧ロックレバーを操作するときは、上または、下方向いっぱいまで操作してください。

2.6 マスコット・マスコットランプ

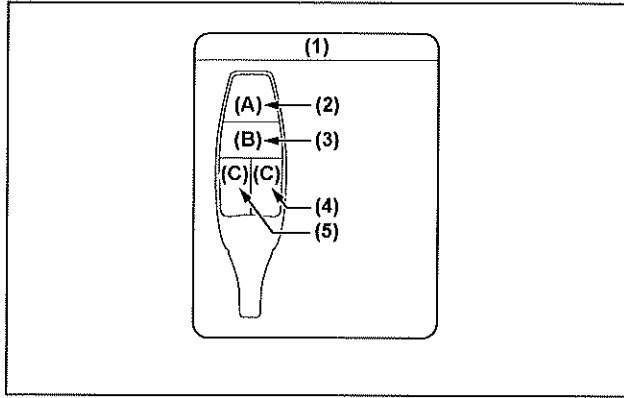
マスコットは、次行程の植付作業を行うときに機体を直進方向に操作するため、筋付マーカで引かれた線上に合わせる目印です。また、マスコットランプの表示は自動植付機能がはたらいているとき、植付状態 (植付クラッチ【入】/【切】)、筋付マーカの作動状態や警報発生時に点灯または、点滅します。



(1) マスコット

(2) マスコットランプ

マスコットランプ表示

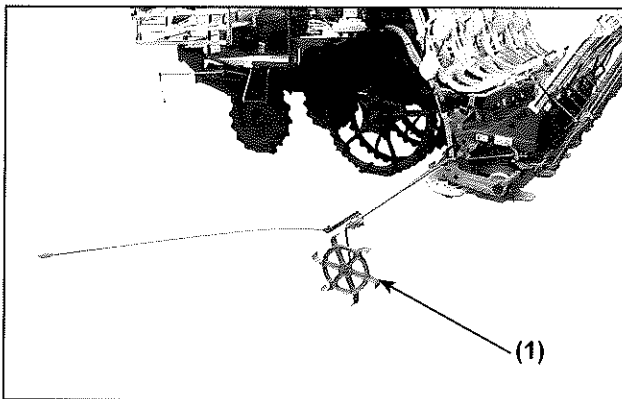


- (1) マスコットランプ
- (2) 警報ランプ
- (3) 植付クラッチ作動ランプ
(植付状態ランプ)
- (4) 右筋付マーカ作動ランプ
- (5) 左筋付マーカ作動ランプ

状態	マスコットランプ		
	状態	色	
警報発生時	点滅	赤	
自動植付【入】【/切】 スイッチ【入】時の 植付クラッチ (植付状態)	入 (作業中)	点灯	緑
	切 (作業停止)	点滅	
自動植付【入】【/切】 スイッチ【切】時	-	消灯	-
筋付マーカ (作動状態)	右側	点灯	橙
	左側		
	収納	消灯	-

2.7 筋付マーカ

筋付マーカは、次行程の植付作業を行うときに機体を直進方向に操作するため、ほ場面に目標となる目印の線を引きます。



(1) 筋付マーカ

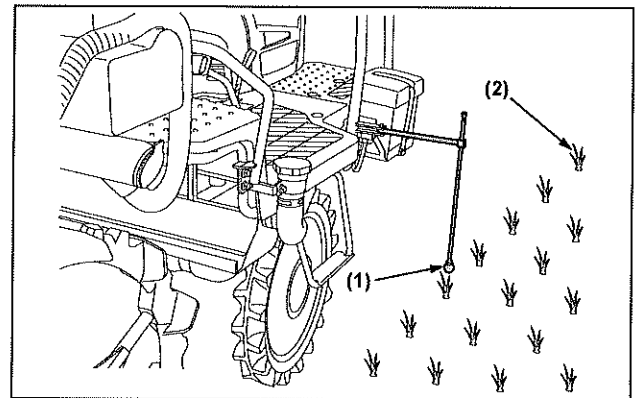
補足：

- 筋付マーカで線を引くと、適正な隣接条間が保てます。
- 植付部を上昇させると筋付マーカは自動的に収納されます。
- 十字ボンパレバーを【前】(マーカ左) および【後】(マーカ右) 方向に長押しすると、マーカが収納されます。
(このとき植付クラッチは切れません。また、植付部は昇降しません。)
- あげに一時的な障害物があるときなどに、この操作をすると便利です。
- 筋付マーカが倒れているとき、倒れている方向のマスコットランプが点灯します。

2.8 隣接マーカ

隣接マーカは、あぜぎわの植付作業を行うときや筋付マーカで引かれた線が良く見えないとき、適正な隣接条間を保つため目印となります。

次行程の植始めに隣接する苗の真上に隣接マーカを合わせて、植付作業を行ってください。

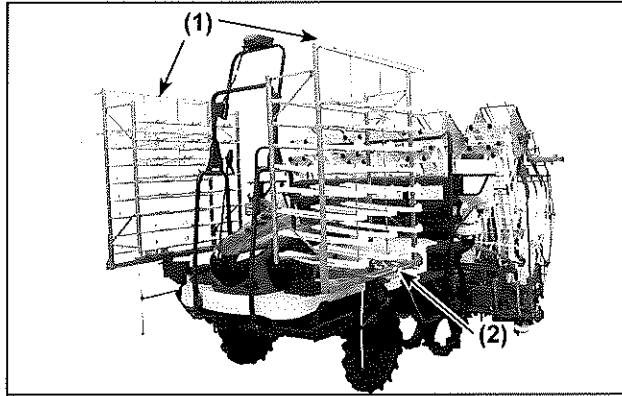


(1) 隣接マーカ

(2) 隣接苗

2.9 予備苗のせ台

- ・ 予備苗を RXG800 型は 36 枚、RXGH800 型は 48 枚のせることができます。
- ・ ロックレバーを操作して、ピンをロック板の穴から外すことにより、360 度回転させることができます。
- ・ 一番上の棚に、植付け後の空箱を 12 枚ずつ重ねて収納することができます。



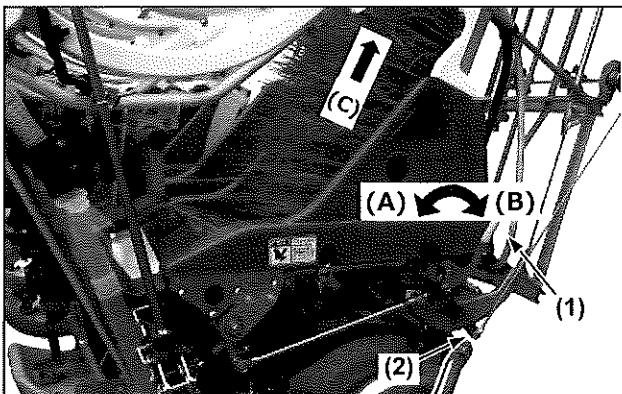
(1) 予備苗のせ台
(2) ロックレバー

2.10 セットレバー

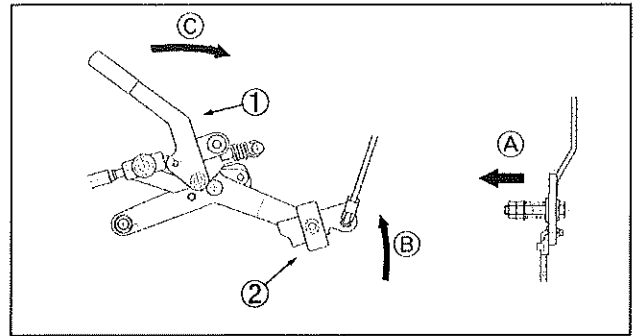
- ・ 補助レバーをずらして上に上げ、セットレバーを後方いっぱいにおすと、植付中の苗箱を上方向に取り出せます。
- また、1 回だけ前後に動かすと、苗箱を 1 列ずつ送ることができます。

⚠ 注意

機械の近くに人がいるときや運転者が運転席から離れるときは、自動植付機能を停止してください。
植付部が自動昇降すると植付部に接触しケガをするおそれがあります。



(1) セットレバー
(2) 補助レバー
(A) 植付時
(B) 苗箱取り出し時
(C) 取り出す



(1) セットレバー
(2) 補助レバー
(A) 外へずらす
(B) 上に上げる
(C) 後ろへたおす

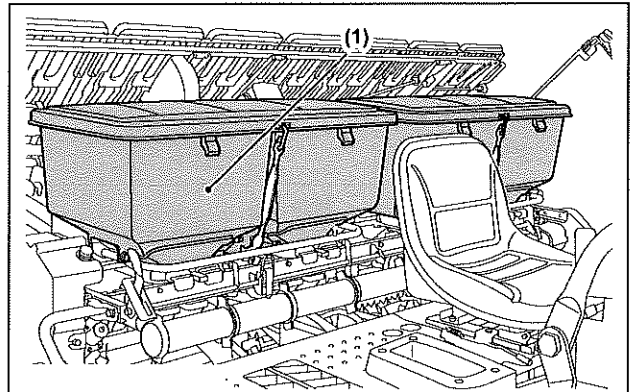
重要

- ・ 作業後は各レバーを必ずもとの位置に戻してください。
- ・ セットレバーの操作は押し出し棒が苗箱から抜けた状態で行なってください。

3. 施肥装置操作関係

3.1 ホツパ

ホツパは、粒状の肥料を入れるところです。



(1) ホツパ

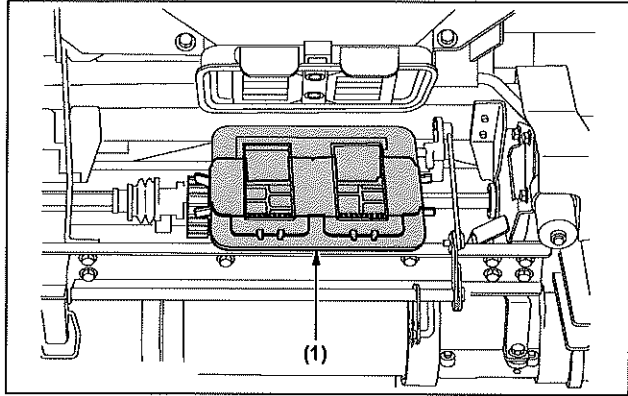
補足：

- ・ 1 条当りのホツパ容量は約 15 L (約 13.6 kg) です。

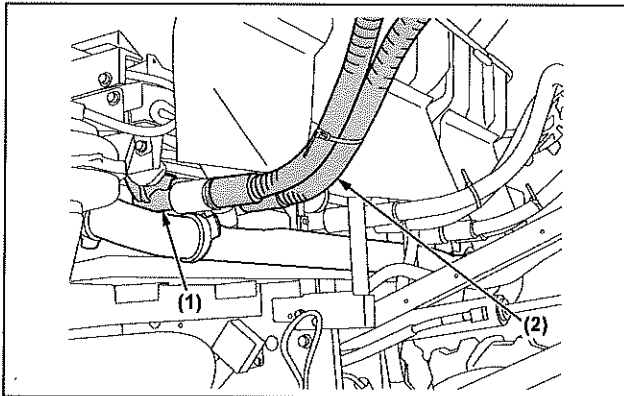
3.2 ロールケース (繰出部)

ロールケースは、ホツパ内の肥料の繰出量を調節し、設定された量の肥料を一定にして繰り出すところです。

※イラストはホツパ部を上げた状態



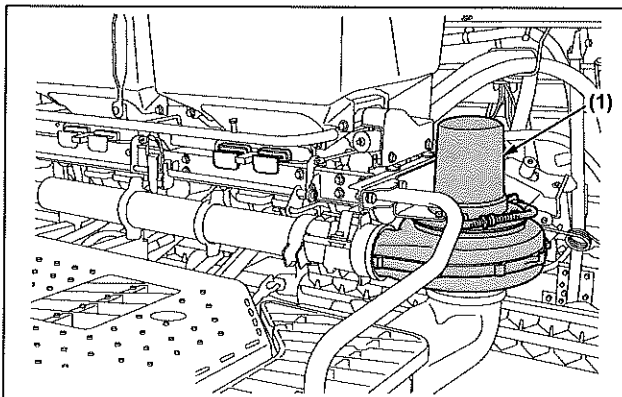
(1) ロールケース



(1) ロート
(2) 施肥ホース

3.3 ブロワ

ブロワは、ロールケースから繰り出された肥料を作溝器へ強制的に搬送する送風機です。



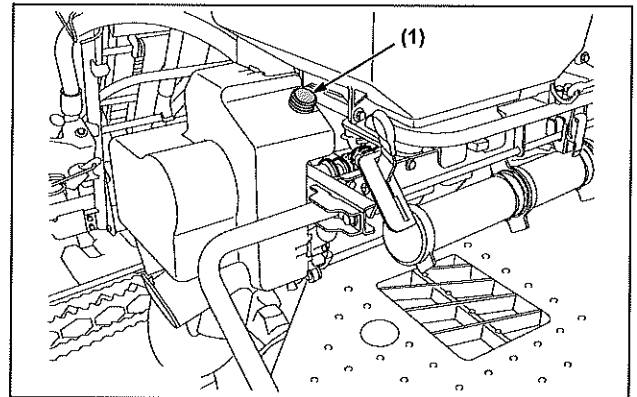
(1) ブロワ

補足：

- ブロワは、エンジンを始動するとほぼ同時に回転し、エンジン回転中は常時回転します。ただし、植付部が最上昇位置および施肥選択画面「OFF」のときは、ブロワは回転しません。

3.4 計量ボタン

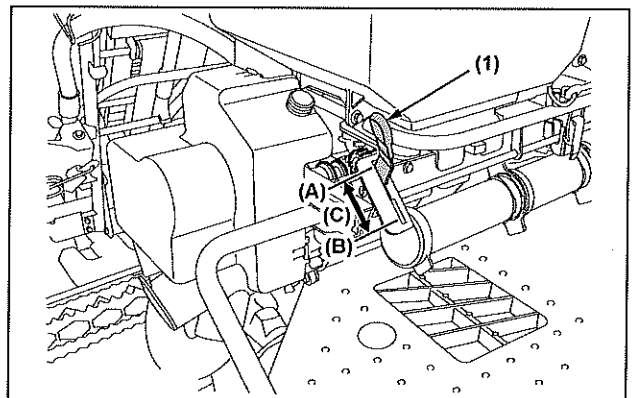
計量ボタンは施肥を精度良く行うため、単位回転あたりの繰出量（計量値）を測定するとき使用するボタンです。（118 ページ参照）



(1) 計量ボタン

3.5 残肥排出レバー

残肥排出レバーは、施肥機の施肥作業と残肥排出作業を切替えるレバーです。

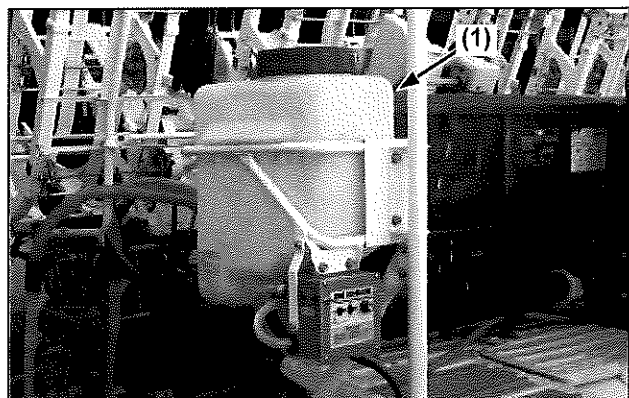


(1) 残肥排出レバー
(A) 施肥
(B) 排出
(C) 切り替える

4. 水洗装置関係

4.1 タンク（水洗装置）

植付部に水分を補給するための水を入れるタンクです。左右のタンクはホースで連結されています。



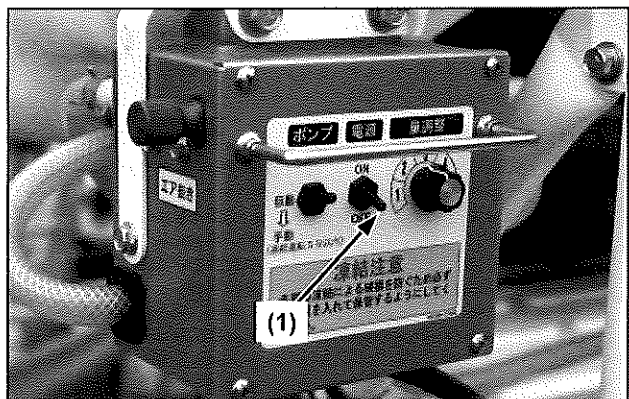
(1) タンク

補足：

- タンク容量は左右合計で約 48 L です。

4.2 電源スイッチ（水洗装置）

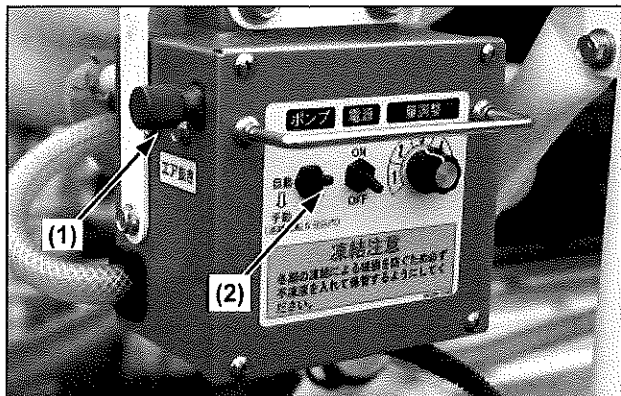
- ・ 水洗装置の電源を入 / 切るスイッチです。タンクに水のない状態では [ON] にしないでください。水のない状態で長時間作動させると、ポンプが破損するおそれがあります。
- ・ 本機のメインスイッチが [運転] 位置で、植付クラッチが [入] のときにはたらきます。



(1) 電源スイッチ

4.3 エア抜きキャップ・ポンプスイッチ

使用前にポンプのエア抜きを行なうためのスイッチとキャップです。

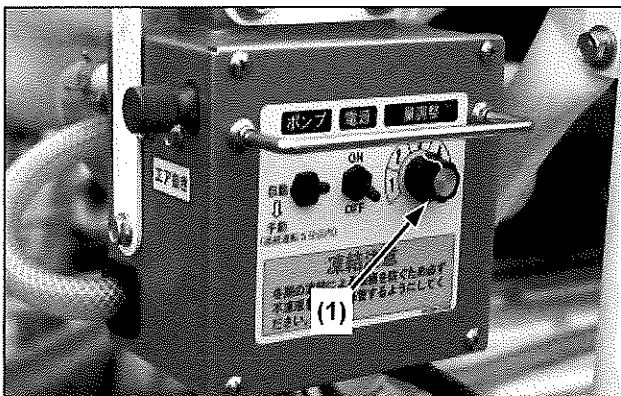


(1) エア抜きキャップ

(2) ポンプスイッチ

4.4 調量ダイヤル（水洗装置）

水洗装置の送水量を調節するダイヤルです。



(1) 調量ダイヤル

補足：

- 使用状態によって異なりますが、ダイヤルの目盛り 1 ~ 5 の範囲でタンク容量 48 L の水が約 50a ~ 2ha 程度使用できます。
- 水洗装置は植付クラッチ [切] のときは作動しません。

5. 直進キープ装置の名称とはたらき

直進キープ装置は、植付作業中にハンドルを自動的に操作し、植付けを基準線と平行にする直進キープ機能を実現する装置です。

補足：

- 基準線は植付作業前に登録します。また、直進キープ装置を構成している部品は下記の通りです。

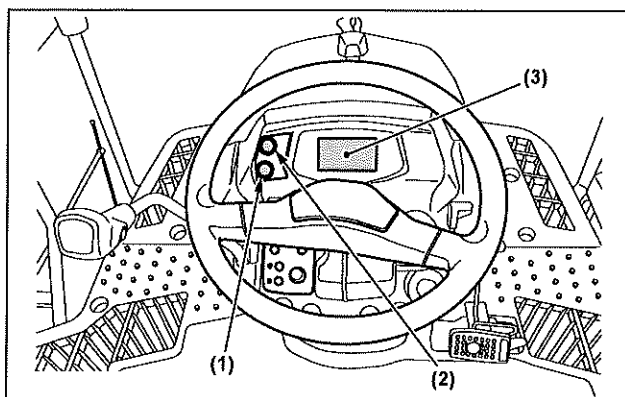
5.1 基準登録スイッチ

5.2 GS スイッチ

5.3 GPS アンテナユニット

5.1 基準登録スイッチ

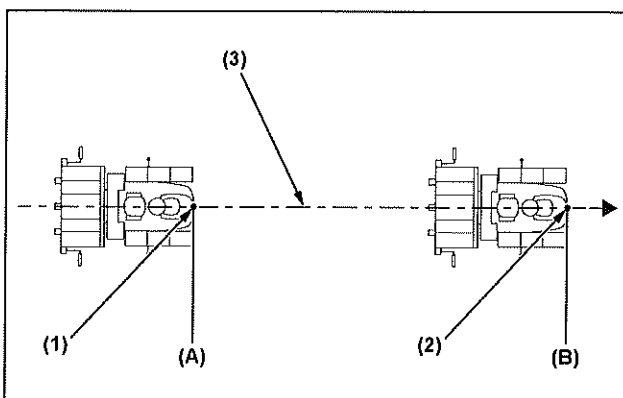
基準登録スイッチ（始点 A）、（終点 B）は直進キープ機能をはたらかせるための基準線を登録するスイッチです。



- (1) 基準登録スイッチ（始点 A）
- (2) 基準登録スイッチ（終点 B）
- (3) 液晶モニタ

補足：

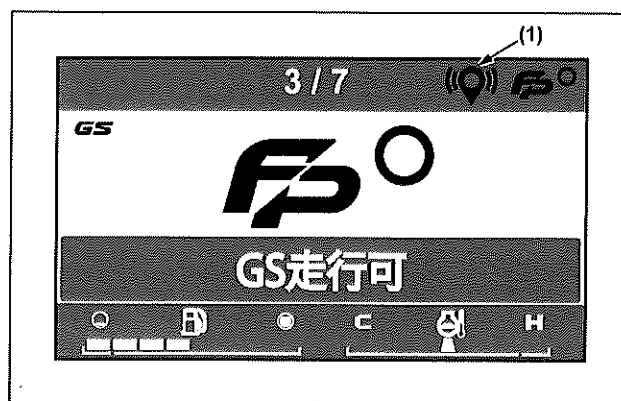
- 基準線とは、A 地点（始点）と B 地点（終点）を結んだ直線です。これは、直進キープ機能を使用するための基準となる線です。



- (1) A 地点（始点）
- (2) B 地点（終点）
- (3) 基準線
- (A) 基準登録スイッチ（始点 A）を押す
- (B) 基準登録スイッチ（終点 B）を押す

- 基準線の登録は、基準登録スイッチ（始点 A）と基準登録スイッチ（終点 B）を操作して行います。
- 基準登録スイッチ（始点 A）を押すと、「ピー」と音が鳴り、A 地点（始点）が登録されます。また、このとき基準登録スイッチ（始点 A）のランプが点灯します。
- A 地点（始点）から B 地点（終点）までは、通常のハンドル操作で走行してください。
- A 地点（始点）が登録された状態で基準登録スイッチ（終点 B）を押すと、「ピー」と音が鳴り、B 地点（終点）および基準線が登録されます。このとき、基準登録スイッチ（終点 B）のランプが点灯します。

- GPS 測位レベルは測位レベルマークの緑色が最も安定した状態で、測位レベルマークの灰色が最も不安定な状態です。（57 ページ参照）



(1) GPS 測位レベルマーク

- 基準登録スイッチ（始点 A）を押しても登録されないときは、
 - ウォームアップが完了していること
 - システムの初期化が完了していること
 - GPS 測位レベルマークが灰色以下になっていないこと
 を確認し、再度基準登録スイッチ（始点 A）を押してください。また、基準登録スイッチ（終点 B）を押しても登録されないときは、
 - A 地点（始点）が登録されていること
 - A 地点（始点）登録後 5 m 以上走行していることを確認し、再度基準登録スイッチ（終点 B）を押してください。
- 基準登録スイッチ（始点 A）を長押し（2～3 秒程度）すると、A 地点（始点）、B 地点（終点）の登録がそれぞれ解除されます。
- 直進キープ機能がはたらいっている状態で機械の進行方向にずれが発生した場合は、A 地点・B 地点の登録を解除したあと、再登録を行ってください。
- 始点 A の登録後、終点 B の登録が終わるまでの時間が長過ぎると、基準線を認識する精度が低下します。ほ場の長さに関わらず、走行する距離が 100 m に到達するまでに登録作業を行うと、直進精度が安定します。

5.2 GS スイッチ

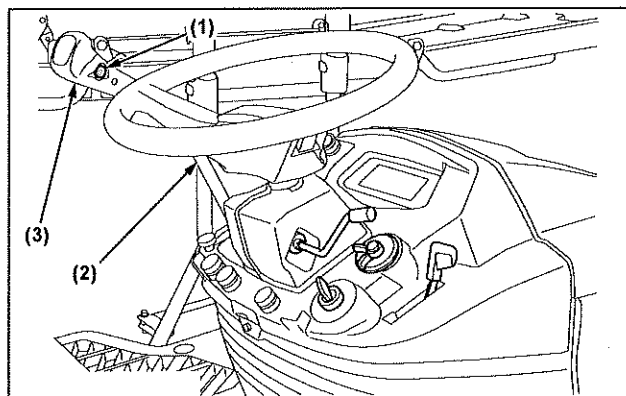
GS スイッチは、主変速レバーのグリップ内側にある直進キープ機能の入 / 切の切り替えを行うスイッチです。GS スイッチは基準線が登録された状態で使用します。

GS スイッチ【入】

直進キープ機能がはたらくと同時に「ピー・ピピッ」と音が鳴り、基準登録スイッチ（始点 A）と基準登録スイッチ（終点 B）が点滅します。

GS スイッチ [切]

直進キープ機能が停止すると同時に「ピー・ピピッ」とブザーが鳴り、基準登録スイッチ（始点 A）と基準登録スイッチ（終点 B）が点灯します。



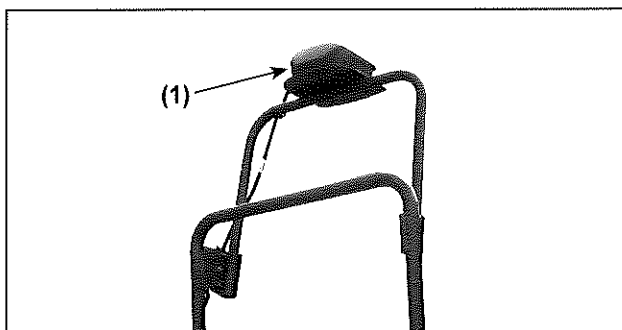
(1) GS スイッチ (2) 主変速レバー (3) グリップ

補足：

- 基準線が登録された状態で GS スイッチを押しても直進キープ機能がはたらかないときは、「ピピピッ」と警報ブザーが鳴ると同時に、液晶モニタにお知らせが表示されます。(91 ページ参照)
- GS スイッチを押すときは、田植機の進行方向を基準線と平行にしてください。基準線と田植機の進行方向にずれがある場合、GS スイッチを押しても直進キープ機能がはたらかない場合があります。
- 周り植え作業時は、直進キープ機能は使用しない (GS スイッチを操作しない) で、通常のハンドル操作で植付作業を行ってください。

5.3 GPS アンテナユニット

GPS アンテナユニットは、GPS 衛星（全地球測位システム）から発信される電波を受信するユニットです。田植機の位置情報の取得を行います。



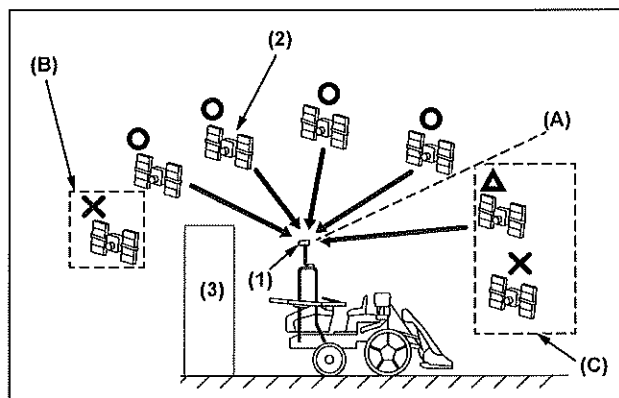
(1) アンテナユニット

補足：

- GPS の電波が発信されている GPS 衛星は、アメリカ合衆国により管理されています。また、地球上空にある GPS 衛星は約 12 時間で地球を周回する衛星で、常に電波を発信しています。

また、4 基以上の GPS 衛星からの民生用電波を GPS アンテナが受信すると、各 GPS 衛星から GPS アンテナまでの距離を計算して、田植機の現在地が測定されます。

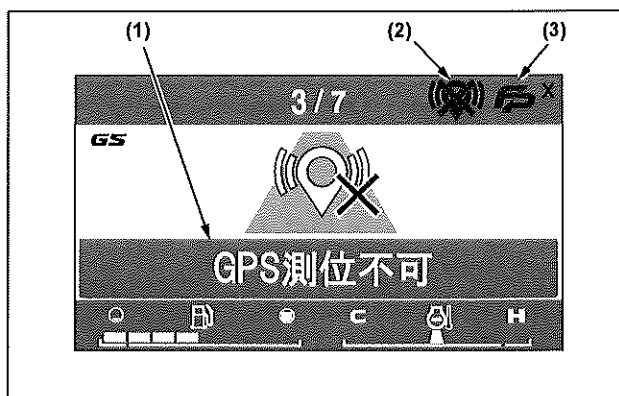
- GPS 衛星から発信される電波は直進性が強く、ほ場の環境や GPS 衛星の状態により、GPS 測位精度が悪化することがあります。そのため、下記のような条件の場合は、直進キープ機能が正常に機能しない場合があります。
 - GPS アンテナが電波を受信している GPS 衛星が、別の GPS 衛星に切り替わる場合
 - ほ場の周りに電波障害を起こすような建物や樹木などの障害物がある場合



(1) GPS アンテナ (2) GPS 衛星 (3) 障害物 (A) 別の GPS 衛星に切り替わる (B) 障害物で電波障害 (C) 地平線から低い角度にある衛星は GPS 測位レベルが悪い

- GPS 測位レベルが低下し、位置情報が利用できなくなると、液晶モニタ [GS 画面] では以下の内容が表示されます。また、GPS 測位レベルが灰色に×マークを表示すると、お知らせとして「GPS 測位できません キープ株間・施肥機能使用できません」が表示されます。

- [GPS 測位不可] を表示
- GPS 測位レベルのマーク [📶] が (灰色) または、[📶] (灰色に×印) を表示

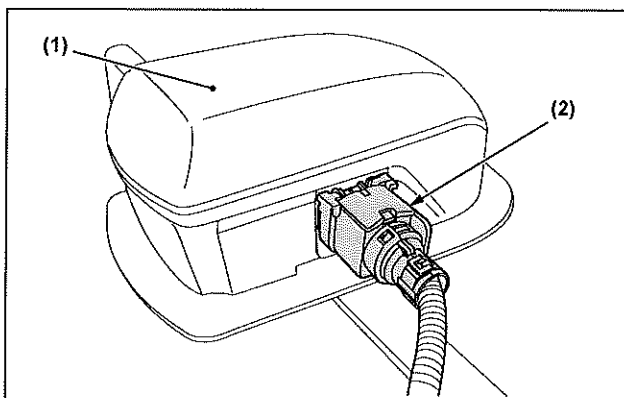


(1) 画面表示 [GPS 測位不可] (2) GPS 測位レベルマーク (3) 直進キープ機能可否判定マーク

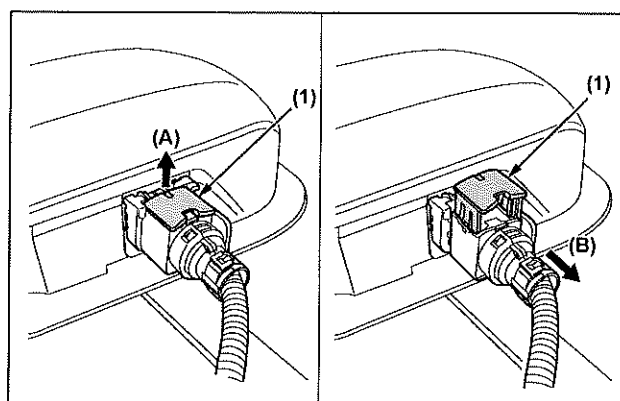
- 以下の場合は一時的に GPS 測位レベルが低下し、直進精度が悪化することがあります。
 - GPS アンテナが電波を受信している GPS 衛星が、別の GPS 衛星に切り替わる場合
 - ほ場の周りに電波障害を起こすような建物や樹木などの障害物がある場合
- GPS 電波の受信状態が大幅に悪化すると、測位状態が安定するまで数分程度かかることがあります。
- 直進キープ機能を使用中、GPS 測位レベルが低下すると植付方向に対してずれが発生したり、マーカ跡などの目印と隣接条の間隔にずれが発生することがあります。このようなときは、一時的に直進キープ機能を停止し、手動で植付作業を行ってください。また、30 分から 1 時間経過したあと、再度 GS スイッチを押して、直進キープ機能を入にしてください。
- 長期間に渡り機械を使用しなかった場合、現在地を測位するまでに 30 分程度かかることがあります。このとき、液晶モニタに [GPS 測位不可] が表示されます。また、このあと 30 分以上経過しても [GPS 測位不可] の表示が消えない場合は、GPS アンテナユニット側のコネクタを抜いたあと、3 秒以上待ってからコネクタを差込んで取り付けてください。

※コネクタの脱着

1. コネクタのロック解除レバーを上側いっぱいまで上げます。
2. コネクタを引いて外します。
3. コネクタを取り付けるときは、逆の手順で取り付けます。このとき、コネクタが外れないようにロック解除レバーを確実に押し込みます。



(1) GPS アンテナユニット
(2) コネクタ



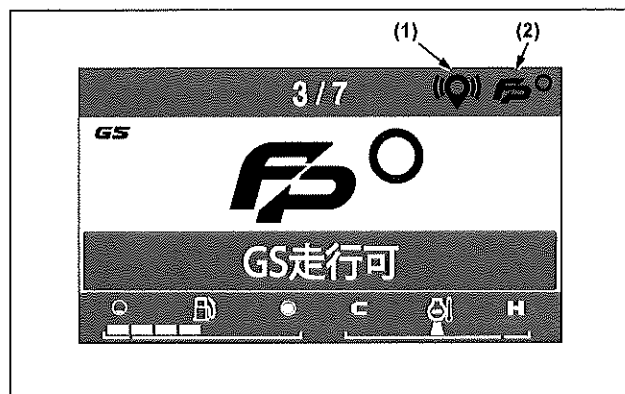
(1) ロック解除レバー (A) 上げる (B) 外す

5.4 GPS 測位精度について

GPS 測位の精度を、目安として色分けして表示します。色分けは、液晶モニタ右上の測位レベルマークで表示しますので、詳細については以下の表を参照してください。

GPS 測位レベル			機能の性能の目安
状態	マーク	色	
高い ↑		緑	GPS 測位レベルが安定しています。
		黄	GPS 測位レベルは安定していますが、直進精度が悪化する可能性があります。
		赤	GPS 測位レベルが著しく不安定です。直進精度の悪化が発生しやすいため、直進キープ機能の使用を控えてください。
低い ↓		灰	GPS 測位が悪化しています。(直進キープ機能は使用できません。スリップ補正機能ははたらきません。)
		灰	GPS 測位が行えません。(直進キープ機能・スリップ補正機能・10a お知らせ機能の各機能がはたらきません。)

※イラストは「GS 走行可」画面

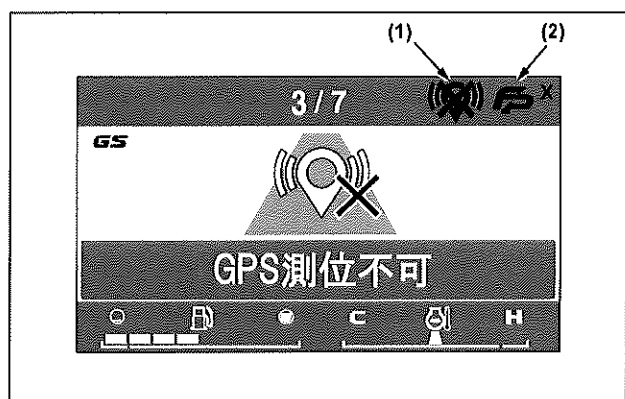


- (1) GPS 測位レベルマーク
- (2) 直進キープ機能可否判定マーク

補足：

- GPS 測位レベルは、GPS 衛星の配置状態によって決まる測位精度の低下度合を表しています。
- GPS 測位レベルが安定している状態 ([📍]) (緑色) でも、電離層遅延やほ場条件などの衛星配置と相関のないさまざまな要因によって、直進キープ機能の直進精度が悪化する場合があります。直進作業中は常に周囲の状況に注意し、必要に応じて手動で植付作業を行ってください。

※イラストは「GPS 測位不可」画面



- (1) GPS 測位レベルマーク
- (2) 直進キープ機能可否判定マーク

- GPS 測位は直進キープ機能の他にスリップ補正機能（100 ページ参照）でも使用します。また、GPS 測位レベルにより、各機能の使用可または、使用不可の状態が異なりますので以下の表を参照してください。

機能	GPS 測位レベル マークの色	機能の使用状態
直進キープ機能	灰色	使用不可
	灰色に×印	使用不可
スリップ機能	灰色	使用可
	灰色に×印	使用不可

運転のしかた

運転前の点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回、運転前に欠かさず行ってください。

(点検・調整方法の詳細は、129～165 ページを参照。)

警告

- 平たんな場所で駐車ブレーキを掛け、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- バッテリーの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
- 取り外した回転部のカバー類は、衣服などが巻込まれるおそれがあるので、点検後は必ず取り付けてから作業をしてください。
- 運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行い、摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
- 使用前にはオイル、燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
- 燃料、オイルを補給したときは、キャップや給油栓、オイルゲージを確実に締め、こぼれた燃料やオイルは、きれいにふき取ってください。
- バッテリー、マフラーやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。

注意

- 燃料、オイルの補給中は火気厳禁です。

重要

各部への給油と交換

- 点検するときは機体を水平な場所において行ってください。傾いていると正確な量を示しません。
- 使用するエンジンオイル、ミッションオイル、グリースは、指定のオイル・グリースを必ず使用してください。
- 燃料補給の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。

前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、使用前に支障がないか点検してください。

田植機の周りを歩いて

- ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
- 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
- 油もれや水もれなどないか点検します。
- 機体各部にごみや泥がたまっていないか点検します。

1. 日常点検項目

機体の周りを歩いて

＜ここを＞⇒	＜点検し異常があれば＞⇒	＜こうする（処置）＞	参照ページ
機体各部	• 損傷や変形はないか。	• 修理または、交換する。	—
	• ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。	• 補充や増締めをする。	—
	• 油もれや水もれはないか。	• 修理または、交換する。 • ホースやパイプの取付部の締付けまたは、部品交換する。	—
	• ごみや泥などがたまっていないか。	• 掃除する。	132、163
	• 安全ラベル（▲ マークのあるラベル）の損傷やはがれはないか。	• 新しいラベルに貼替える	19
バッテリー	• バッテリー液は規定量（UPPER LEVEL（上限）とLOWER LEVEL（下限）の間）にあるか。	• 精製水を補水する。	156
タイヤ	• 摩耗や損傷はないか。	• 交換する。	154、155
	• 空気圧の過不足はないか。【前輪】	• 調整する。	
各ワイヤ、レバー支点部、しゅう動部	• たるみや損傷はないか。	• 交換する。	—
	• たるみや損傷はないか。	• 注油する。	
施肥ホース	• 破損や外れはないか。	• 交換または、取り付けをする。	133
作溝器	• 肥料や泥が付着していないか。	• 掃除する。	—
ロールケース、ロート、ロール、ホッパ	• 肥料が付着していないか。	• 掃除する。	132
植付爪、ガイド板、苗支持板、苗受、タイミングベルト	• 摩耗や破損はないか。	• 交換する。	135
ブラシ	• 摩耗していないか。	• 交換する。	155

ボンネットを開けて

＜ここを＞⇒	＜点検し異常があれば＞⇒	＜こうする（処置）＞	参照ページ	
エアクリーナ	• エレメントが汚れたり、ほこりが詰まっていないか。	• 掃除する。	151	
エンジンオイル	• 油量は規定量（オイルゲージの上限線と下限線の間）あるか。	• 規定量まで補給する。（10W-30）	146	
ラジエータ	冷却水	• リザーブタンクの水量は規定量（タンクのFULL線とLOW線の間）あるか。	• 清水を規定量まで補給する。	148
	フィン、ネット	• 詰まりはないか。	• 掃除する。	150
ホース、パイプ	• 油もれや水もれはないか	• 取付部の締付けまたは、交換する。	—	
配線コード	• コネクタの外れはないか。	• 接続をする。	159	
	• 被覆の損傷はないか。	• 交換する。		

運転席に座って・メインスイッチを入れて

<ここを>⇒		<点検し異常があれば>⇒	<こうする(処置)>	参照ページ
メインパネル	充電ランプ	<ul style="list-style-type: none"> メインスイッチのキーを【運転】位置にしたとき、ランプは点灯するか。 エンジン始動後、消灯するか。 	<ul style="list-style-type: none"> オルタネーター駆動ベルトが張られているか点検する。 オルタネーターのコネクタが外れていないか点検する。 購入先に連絡してください。 	-
	燃料計	<ul style="list-style-type: none"> 作業に必要な燃料はあるか。 デジタルメータは動くか。 	<ul style="list-style-type: none"> ディーゼル軽油を補給する。 	145
	水温計	<ul style="list-style-type: none"> デジタルメータは動くか。 	<ul style="list-style-type: none"> リザーブタンクの水量は規定量(タンクのFULL線とLOW線の間)まで補給する。 購入先に連絡してください 	148
	各モニタランプ	<ul style="list-style-type: none"> メインスイッチのキーを【運転】位置にしたとき、約2秒間ランプは点灯するか。 	<ul style="list-style-type: none"> バッテリーの充電または、交換する。 	156
			<ul style="list-style-type: none"> ヒューズ切れを点検して交換する。 	160
			<ul style="list-style-type: none"> 配線コードの外れを点検して接続をする。 	159
	ブザー	<ul style="list-style-type: none"> ブザーは鳴るか。 	<ul style="list-style-type: none"> バッテリーの充電または、交換する。 	156
			<ul style="list-style-type: none"> ヒューズ切れを点検して交換をする。 	160
			<ul style="list-style-type: none"> 配線コードの外れを点検して接続をする。 	159
	オイルランプ	<ul style="list-style-type: none"> メインスイッチのキーを【運転】位置にしたとき、ランプは点灯するか。 エンジン始動後、消灯するか。 	<ul style="list-style-type: none"> 購入先に連絡してください。 	146
<ul style="list-style-type: none"> エンジンオイルを規定量まで補給する。 			147 148	
ヘッドランプ	<ul style="list-style-type: none"> ランプは点灯するか。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒューズ切れ、配線コードの外れを点検して交換または、接続する。 	163	
バッテリー	<ul style="list-style-type: none"> エンジン始動するか。 	<ul style="list-style-type: none"> 充電または、交換する。 	156	

エンジンを始動して・機体を動かしてみ

<ここを>⇒	<点検し異常があれば>⇒	<こうする(処置)>	参照ページ
エンジン、マフラ	<ul style="list-style-type: none"> 始動するか。 異音はしないか。 排気ガスの色に異常はないか。 メインスイッチのキーを【停止】位置にしたとき、エンジンは停止するか。 	<ul style="list-style-type: none"> バッテリーの充電または、交換する。 	156
		<ul style="list-style-type: none"> ヒューズ切れがないか点検して交換する。 	160
		<ul style="list-style-type: none"> 購入先に連絡してください。 	-
プロフ	<ul style="list-style-type: none"> 回転しているか。 異音はしないか。 	<ul style="list-style-type: none"> スローブローヒューズ切れがないか点検して交換をする。 	162
		<ul style="list-style-type: none"> 配線コードの外れがないか点検して接続をする。 	159
		<ul style="list-style-type: none"> 購入先に連絡してください。 	-
各操作レバー、各操作スイッチ	<ul style="list-style-type: none"> 各操作レバー、各操作スイッチの作動と各作動部に異常はないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒューズ切れがないか点検して交換または、購入先に連絡してください 	160

(次へ続く)

<ここを> ➡	<点検し異常があれば> ➡	<こうする (処置) >	参照ページ
主変速レバー	<ul style="list-style-type: none"> • [後進] 側に操作するとブザーは鳴るか。 	<ul style="list-style-type: none"> • ヒューズ切れ、配線コードの外れを点検して交換または、接続をする。 • 購入先に連絡してください。 	<p style="text-align: center;">160</p> <hr/> <p style="text-align: center;">-</p>
ブレーキペダル	<ul style="list-style-type: none"> • 踏込むと停止するか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 購入先に連絡してください。 	<p style="text-align: center;">32</p>

重要

処置したあとに異常が直らないときは、購入先に連絡してください。

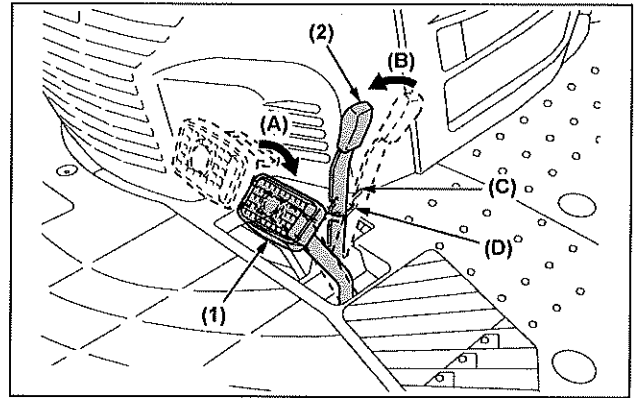
新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスが田植機の寿命に影響を及ぼします。新車の田植機は厳重な検査のもとに出荷されていますが田植機の各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中は田植機各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で、過負荷となる田植作業は避けてください。田植機の性能を最大に発揮させたり、良好に維持するためには、適正なならし運転が重要です。新車時の取扱いは次項を遵守してください。

1. ならし運転について

- 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
- 寒い日や冬期は、エンジンは充分暖機運転をしてください。
- エンジンは規定田植作業回転数以上に回さないでください。
- 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが、新車時は特に注意してください。



- (1) ブレーキペダル (A) 踏込む
 (2) 駐車ブレーキレバー (B) ロック
 (C) 切欠き部の1段目
 (D) 切欠き部の2段目

補足：

- 駐車ブレーキを掛けていないときは、ブレーキペダルをいっぱい踏込まないとエンジンが始動しません。また、ブレーキペダルを駐車ブレーキレバー切欠き部の2段目の位置でロックしないとエンジンは始動しません。

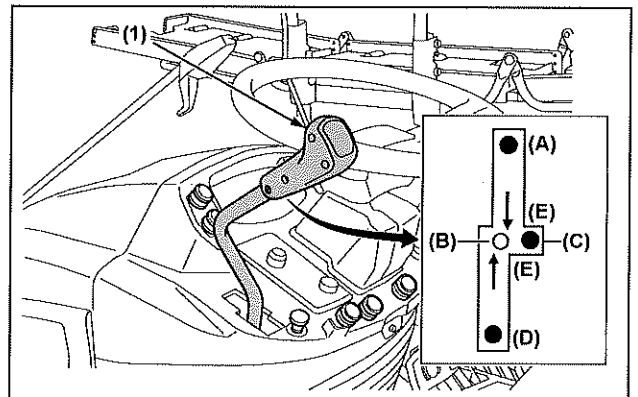
2. 主変速レバー位置の確認をします。

主変速レバーを【N】（中立）位置にします。

エンジンの始動と停止のしかた

▲ 警告

- エンジン排気ガスによる、排気ガス中毒をさけるため、換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
- 本書前編の【安全に作業をするために】の内容を必ずお読みいただいて安全作業を心掛けてください。
- 田植機に貼ってある安全ラベルの内容を必ずお読みください。
- 周囲の人に始動の合図をして、始動操作は運転座席に必ず座ってから行ってください。
- 運転席への乗り降りするときは、必ず両側のステップより行ってください。転倒してケガをするおそれがあります。



- (1) 主変速レバー (A) 【前進】
 (B) 【N】（中立）
 (C) 【e-stop】
 (D) 【後進】
 (E) 戻る

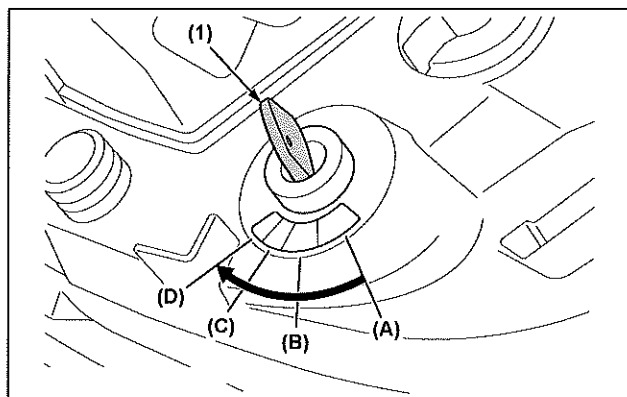
1. 始動のしかた

1. 駐車ブレーキを掛けます。

ブレーキペダルを踏込み、駐車ブレーキレバー切欠き部の2段目の位置でブレーキペダルをロックします。

3. エンジンを始動します。

- a. メインスイッチのキーを差込み [運転] 位置まで回します。
- b. 周囲の人に始動の合図を送り [始動] 位置まで回します。



- (1) キースイッチ
- (A) [停止]
 (B) [運転]
 (C) [予熱]
 (D) [始動]

重要

- メインスイッチのキーを [始動] 位置に回して 10 秒たっても始動しないときは、いったんメインスイッチのキーを [停止] 位置にして、メインスイッチのキーを [予熱] 位置にして約 4 秒待ってから、エンジンを再始動してください。10 秒以上の使用は故障の原因になります。
- エンジン回転中に、メインスイッチのキーを [始動] 位置に戻すと故障の原因になります。
- エンジン始動後、オイルランプ、充電ランプが消灯しないときは、購入先へ連絡してください。

2. 暖機運転について

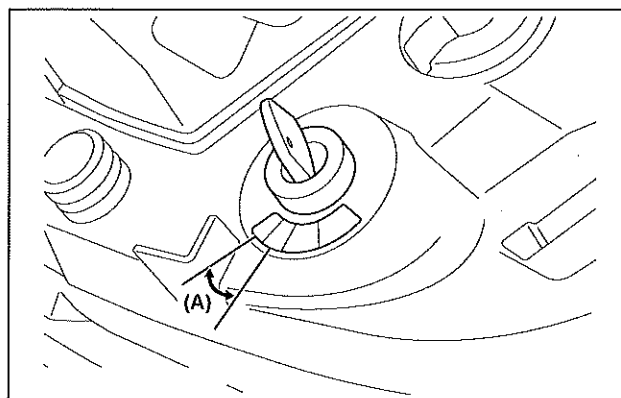
エンジン始動後、エンジン回転数をアイドリング状態で約 5 分間は負荷をかけずに暖機運転を行ってください。

重要

- オイルを各部に充分ゆきわたらせるため、始動してからすぐ負荷をかけると、エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。

3. 寒冷時の始動のしかた

寒冷時にエンジンを始動するときは、始動する前にメインスイッチのキーを [予熱] 位置で 10 秒間予熱したあと [始動] 位置に回してください。



(A) 予熱 : 約 10 秒間

重要

- 寒冷時は暖機運転を怠るとパワーステアリングハンドルの操作ができなくなったり、油圧系統の故障につながりますので、下記の表を目安に暖機運転を行ってください。

気温	暖機運転時間
0 °C ~ - 10 °C	約 10 分
- 10 °C ~ - 15 °C	10 ~ 15 分
- 15 °C ~ - 20 °C	15 ~ 20 分
- 20 °C 以下	20 分以上

4. 燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は、以下の手順で再始動してください。

1. メインスイッチのキーを [停止] 位置にします。
2. 燃料タンクに燃料を補給します。
3. 始動のしかたの 1 ~ 2 を確認後、エンジンを始動します。(63 ページ参照)

補足 :

- メインスイッチのキーを [運転] 位置にすると約 5 ~ 10 秒で自動的にエア抜きされます。

5. バッテリーが上がったときの始動のしかた

危険

- バッテリーの近くに裸火 (マッチ、ライター、タバコの火など) を近づけないでください。充電する場合は (+) 端子と (-) 端子を正しく接続してください。端子やブースターケーブルが金属部と接触するとスパークが発生し、バッテリーのガスに引火し爆発するおそれがあります。

重要

- 接続するバッテリーは、必ず 12 V のものを利用して下さい。故障の原因となります。
- 充電異常による場合（充電ランプ点灯）は購入先に連絡して下さい。

補足：

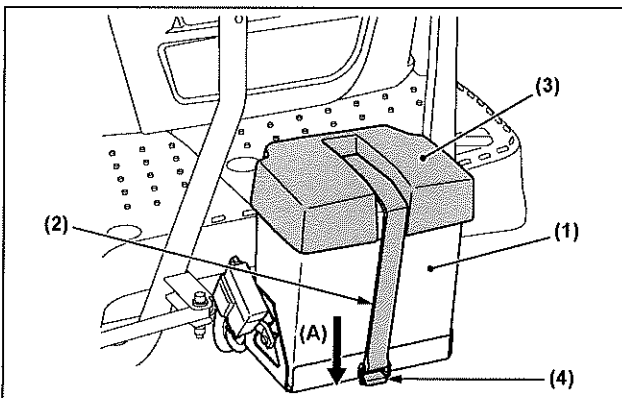
- ブースタケーブルの取扱いは、ブースタケーブルの取扱説明書に従って下さい。

1. バッテリー上りによりエンジンが始動できなくなったときは、バッテリーの補充電または交換を行います。

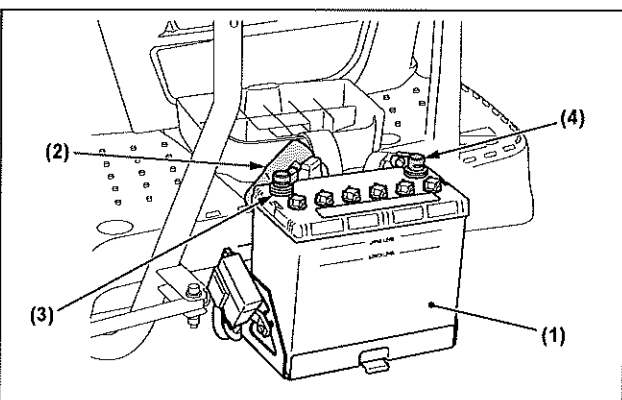
補充電または交換がすぐに行えないとき

補充電または交換がすぐに行えないときは、救援車のバッテリーにブースタケーブルを接続して、田植機を始動します。

1. バッテリーを固定しているゴムバンドをフックから外して、バッテリーの上部カバーをステップ側に置きます。そのあと、(+) 側のゴムキャップを外します。



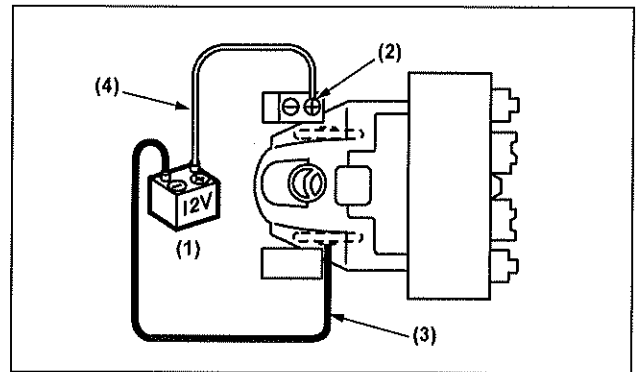
(1) バッテリー
(2) ゴムバンド
(3) バッテリー上部カバー
(4) フック部
(A) 外す



(1) バッテリー
(2) ゴムキャップ
(3) (+) 端子
(4) (-) 端子

2. ブースタケーブル（赤）を田植機側と救援車側のバッテリーの (+) 端子にそれぞれ接続したあと、ブースタケーブル（黒）を救援車側のバッテリーの

(-) 端子に接続し、田植機側は金属部で塗装がされていないところ（前・後輪の取付ボルトなど）に接続します。



(1) バッテリー
(2) (+) 端子
(3) ブースタケーブル（黒）
(4) ブースタケーブル（赤）

3. 利用するバッテリーが車などの場合は、エンジン回転を上げます。
4. 田植機のエンジンを始動します。
5. ブースタケーブルを取付けの逆の手順で取り外します。

6. 停止のしかた

1. 主変速レバーを [N]（中立）位置にします。
2. メインスイッチのキーを [停止] 位置にしてエンジンを停止します。

重要

- エンジン停止中でメインスイッチのキーが [運転] 位置の状態のまま長時間放置するとバッテリー上りの原因となります。
- メインスイッチのキーを [停止] 位置にしてもエンジンが停止しないときは、非常エンジン停止ノブを引いてください。そのあと、購入先へ連絡して下さい。

移動走行について

この田植機は、道路運送車両法の保安基準に適合していませんので、法令により公道は走行できません。従って、公道を移動するときはトラックなどで輸送して下さい。

警告

- 転倒による重大事故のおそれがあるため、後部作業機（植付部など）を取り外して本機側単独で移動走行は行わないでください。
- 安全のためヘルメットを着用して下さい。
- 周りが暗いときは、ヘッドランプを点灯して下さい。

警告

- 10 cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではアユミ板を使ってください。
- 機械には運転者以外は乗らないでください。また、苗のせ台および予備苗のせ台の苗やホッパ内の肥料は取り出し、ステップなどには障害物となるような物は置かないでください。
- 植付部は最上昇位置で油圧をロックし下降防止を行ってください。また、筋付マーカや収納式苗のせ台は収納状態にしてください。
- 暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので、あぜ越えや傾斜地（あゆみ板や坂道など）を走行するときは、次の事項に注意し、予備苗台は収納状態に戻してください。
 - 走行速度を落とす。（ゆっくりと走行する。）
 - 主変速レバーで走行と停止を行う。（急な操作やブレーキペダルは操作しない。）
 - あぜや斜面の勾配方向と機体の進行方向を合わせる。
 - あぜや斜面に対して上り方向は後進、下り方向は前進で走行し、前輪デフロックペダルを踏込む。
 - あぜや斜面の走行途中に急なハンドル操作や副変速レバーの操作およびブレーキペダルを急に踏込まない。
 - あぜや斜面では e-stop でエンジンを停止しない。
- 下記のようなところを走行するときは、暴走や転倒、衝突をしてケガをするおそれがあるので注意してください。
 - 両側が傾斜していたり、溝のある道路の路肩
 - 道幅に余裕がなく高いところにある道路（土手）
 - 路肩の弱い道路
 - 路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ
 - 左または、右に 15 度以上傾斜しているところ
 - 見通しの悪いところ

重要

- 植付部を下降した状態で走行すると、フロントや作溝器が破損することがあります。

1. 移動走行前の準備

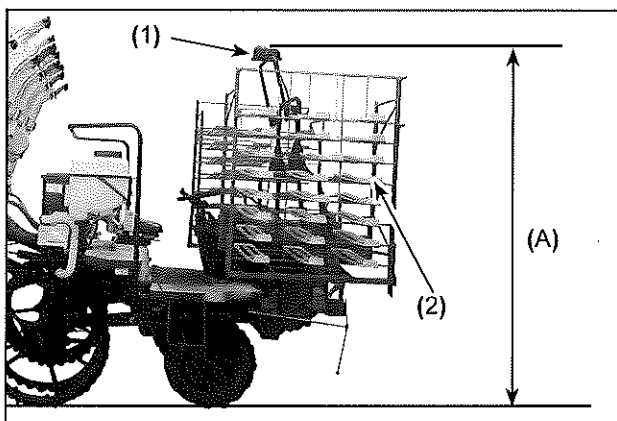
警告

- 苗のせ台および予備苗のせ台にある苗は、すべて降ろしてください。
- ホッパ内の肥料はすべて排出して空の状態にしてください。
- ステップの周りに物は置かないでください。
- 水平で平坦な場所で行ってください。
- 水洗装置タンク内の水はすべて排出して空の状態にしてください。

重要

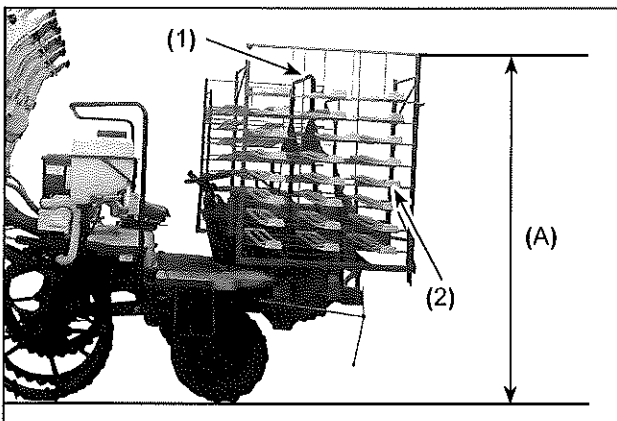
- 移動走行やトラック輸送を行うときに、高さ制限のある場所や上部に障害物があるところを走行する場合は、注意してください。また GPS アンテナユニットや予備苗のせ台を収納状態にしてください。障害物に接触して、破損するおそれがあります。

(収納前) 作業状態



(1) GPS アンテナユニット (A) 高さ：2.63 m
(2) 予備苗のせ台

収納状態

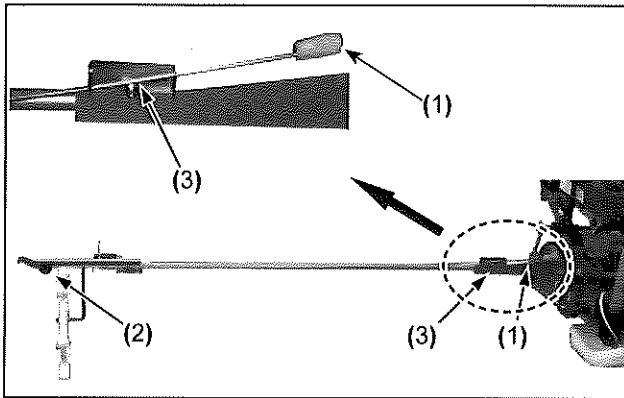


(1) GPS アンテナユニット (A) 高さ：2.30 m
(2) 予備苗のせ台

補足：

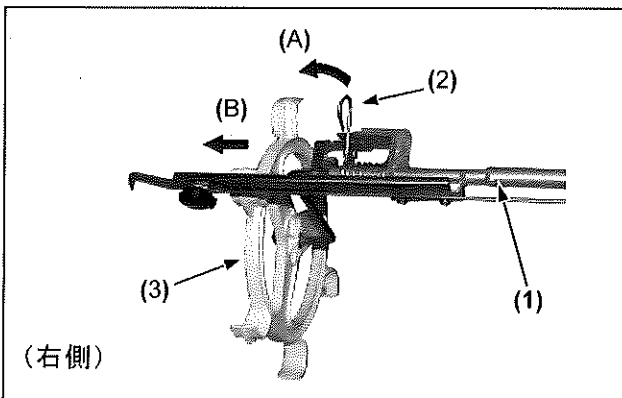
- 植付部が油圧ロック状態で移動走行中、機体の振動により植付部が上下すると、作動音（油圧音）が発生することがありますが、異常ではありません。また、長距離の移動中に連続して作動音（油圧音）が発生するときは、機体をいったん停止したあと、油圧ロックを解除して植付部を最上昇位置にしてから再度油圧ロックを行ってください。

1. 平坦な場所に機体を止め、エンジンを停止します。
2. 左・右のあぜざわマーカのノブボルトをゆるめ、内側にまわし固定金具で固定します。



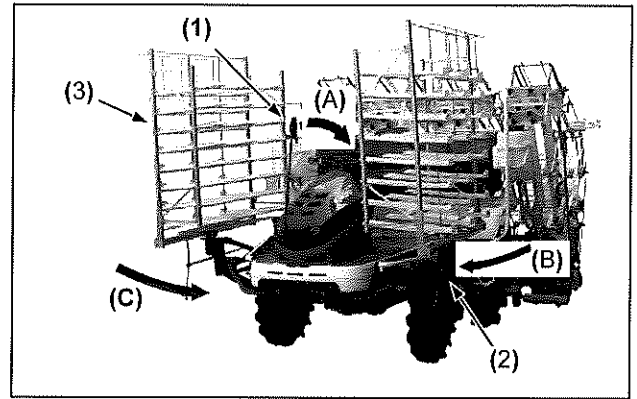
- (1) あぜざわマーカ
- (2) ノブボルト
- (3) 固定金具

3. 左・右の筋付マーカを収納し、マーカーフックに固定します。
4. スプリングフックを引き、マーカ先端部をパイプロッドから抜き取ります。



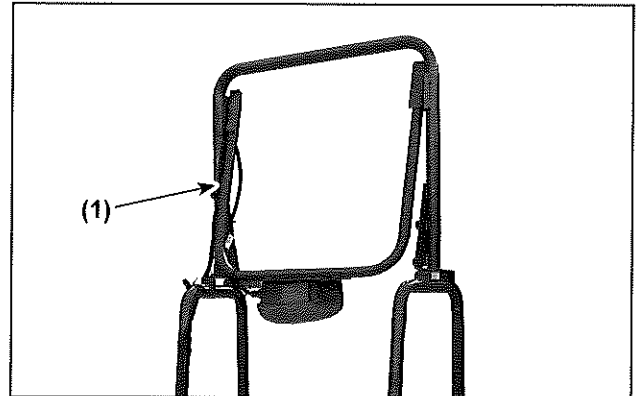
- (1) パイプロッド
- (2) スプリングフック
- (3) 筋付マーカ
- (A) 引く
- (B) 抜き取る

5. 左・右の隣接マーカを前方に収納します。
6. マスコットをボンネット側に倒します。
7. 左・右の予備苗のせ台を収納状態にします。



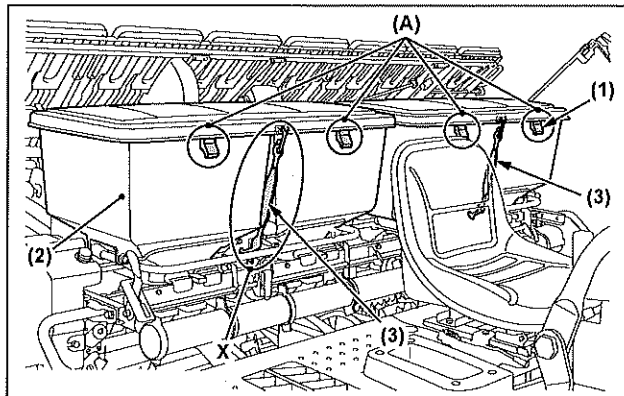
- (1) マスコット
- (2) 隣接マーカ
- (3) 予備苗のせ台
- (A) 倒す
- (B) 収納
- (C) 収納

8. アンテナユニット取付フレームが作業状態の場合は、収納状態にします。



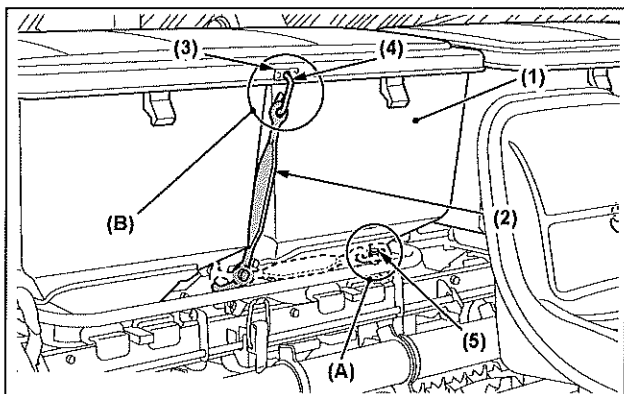
- (1) アンテナユニット取付フレーム収納状態

9. ホッパのふたをフックでロックしたあと、ゴムバンドの金具をホッパのフック部に掛けて固定します。
- ふたを閉じたあと、カバーのフックを掛けてロックします。
 - ゴムバンドの金具をピンから外します。
 - 金具をフック部に引っ掛けて固定します。



(1) フック (A) ホッパのふたをロック
(2) ホッパ (3) ゴムバンド

X 部拡大図



(1) ホッパ (A) 金具をピンから外す
(2) ゴムバンド (B) 金具をフック部に掛ける
(3) フック部 (4) 金具
(5) ピン

重要

移動走行時や運搬時および強風発生時に風や振動などによりホッパのふたが開くと、ふたが破損するおそれがあるため、ゴムバンドが外れないようにしっかりと金具をフック部に引っ掛けてください。また、ゴムバンドが破損したときは、購入先に連絡して新しいゴムバンドに交換してください。

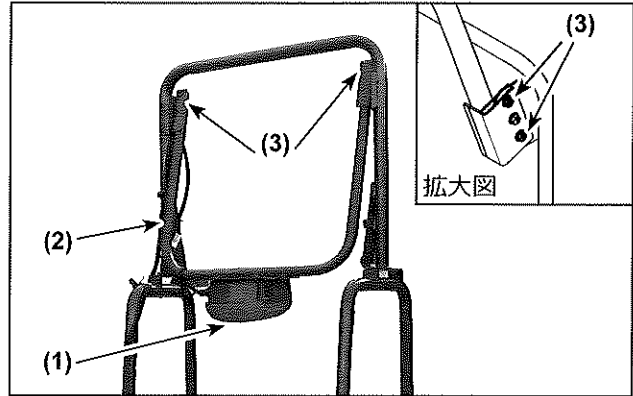
10. エンジン始動後、十字ポンパレバーを操作して植付部を最上昇位置にしたあと、油圧ロックレバーを【閉】位置にして下降防止をします。

1.1 アンテナフレームの収納のしかた

重要

移動走行やトラック輸送を行なうときに、高さ制限のある場所や上部に障害物があるところを走行する場合は、注意してください。

収納状態



(1) GPS アンテナユニット (3) M8 ボルト (4本)
(2) アンテナフレーム

2. 田植作業前の準備

2.1 アンテナフレームのセット

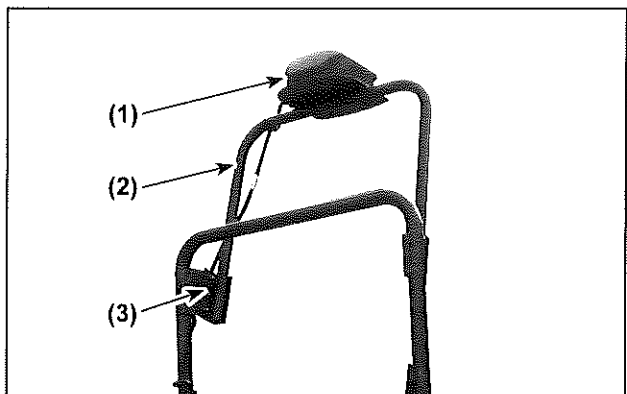
警告

- 平たんな場所に置き、エンジンは必ず止めてください。
- 取り外したカバー類は必ず取り付けてください。

ほ場内へ機体を入れる前に、アンテナフレームを作業中の状態にします。

1. アンテナフレームを固定しているM8ボルト(4本)を取り外し、アンテナフレームを作業中の状態にセットします。
2. 取り外したM8ボルト(4本)を締め付けて、確実に固定します。

作業中の状態



(1) GPS アンテナユニット (3) M8 ボルト (4本)
(2) アンテナフレーム

補足：

- 植付部が油圧ロック状態で移動走行中、機体の振動により植付部が上下すると、異音（リリース音）が発生することがありますが、異常ではありません。
- 長距離の移動中に連続して異音（リリース音）が発生するときは、機体をいったん停止したあと、油圧ロックを解除して植付部を再上昇位置にしてから再度油圧ロックを行なってください。

3. 発進のしかた

警告

- 始動操作は、運転席で必ず行ってください。
- 周囲の人に合図をしてから始動してください。
- 急発進は危険ですので、ゆっくりと発進してください。

1. 運転席の調整をします。

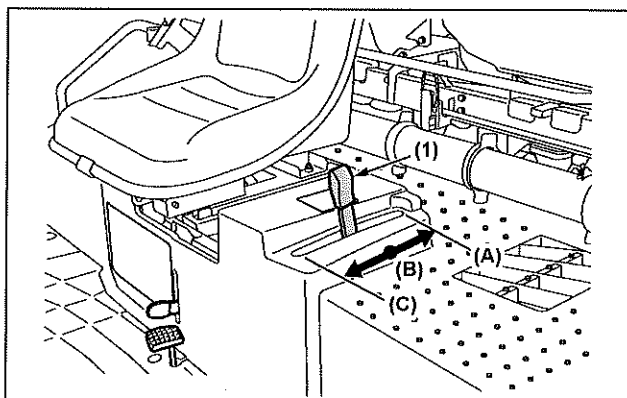
運転席の右前方下にあるスライドレバーを左側に操作して、前後方向に調節します。また必要に応じて運転席下のスナップピンとロッドを抜いて調整してください。（33 ページ参照）

2. エンジンを始動します。

（63 ページ参照）

3. 走行速度を選んで発進します。

- a. 副変速レバーで速度を選びます。

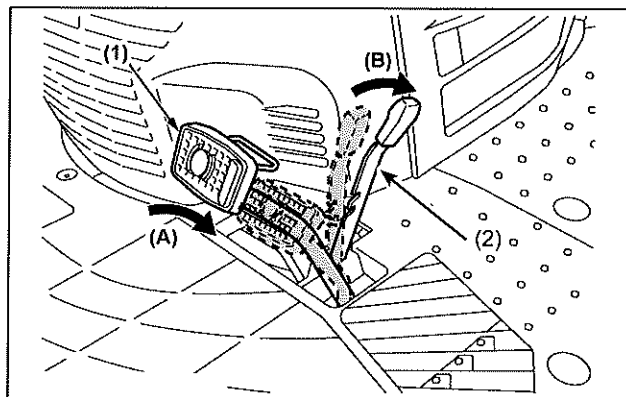


(1) 副変速レバー (A) [移動] (B) [N] (中立) (C) [圃場作業]

重要

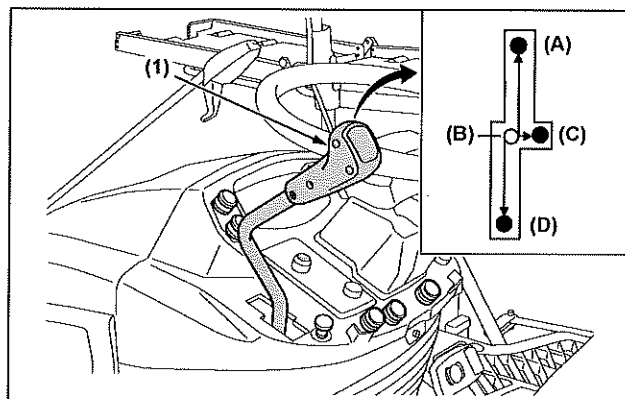
副変速レバーの切り替えは平たんな場所で主変速レバーを [N] (中立) 位置にし、走行をいったん止めてから行ってください。故障の原因となります。

- b. ブレーキペダルを離します。駐車ブレーキが掛かっているときは、ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキを解除します。



(1) ブレーキペダル (A) 踏込む (解除)
(2) 駐車ブレーキレバー (B) 解除

- c. 主変速レバーを操作して発進します。主変速レバーを [N] (中立) 位置より前に押しと前進し、後に引くと後進します。



(1) 主変速レバー (A) [前進] (B) [N] (中立) (C) [e-stop] (D) [後進]

補足：

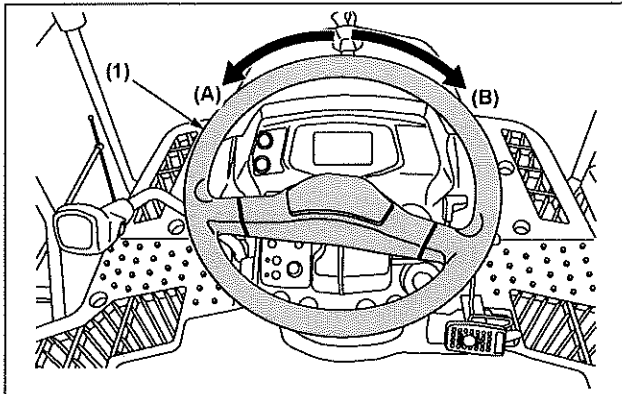
- 前、後進中にブレーキペダルを踏込むと、減速すると同時に主変速レバーが強制的に [N] (中立) 位置に戻ります。また、ブレーキペダルを踏込んだ状態では主変速レバーの操作はできません。

4. 旋回のしかた

警告

- 高速走行時、ハンドルを急に操作すると急旋回して危険ですので、旋回前に必ず減速してください。

1. 旋回する方向にハンドルを回します。回す角度に応じて旋回力が変わり、回す角度が大きいほど旋回半径が小さくなります。



(1) ハンドル

(A) 左旋回
(B) 右旋回

重要

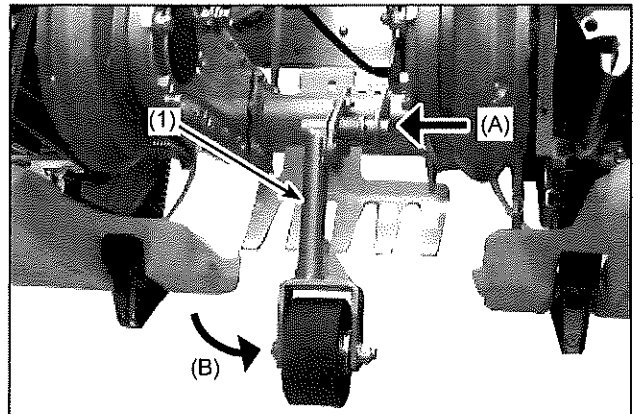
- 走行停止時にハンドルを操作すると、タイヤの早期摩耗やリムの破損の原因になります。
- 砂利道での急旋回は、タイヤが早く摩耗しますので避けてください。

5. 停車・駐車のしかた

警告

- 田植機から離れるときは、平たんで安全な場所に置き、植付部を降ろして駐車ブレーキを掛け、エンジンを止めてください。
- 走行を停止するときは、ブレーキペダルを踏込まず主変速レバーを操作して停止してください。
- 坂道やあぜ越えなどの斜面で走行を停止するときは、主変速レバーを [N] (中立) 位置に操作して停止したあと、ブレーキペダルを素早くいっぱいまで踏込んでください。
- 坂道で駐車するときは、ブレーキペダルを踏み、2 段目の切欠位置に駐車ブレーキレバーを掛け、木片などで車止めをし、暴走を防いでください。

1. 停車するときは主変速レバーを [N] (中立) 位置にし停止します。
2. 駐車するときはブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキを掛けます。
3. 植付部スタンドを下側に下げ、セットします。



(1) 植付部スタンド

(A) 押す
(B) 下へ下げる

4. 十字ポンパレバーと油圧ロックレバーを操作して植付部をゆっくりと降ろします。
5. エンジンを停止してキースイッチを抜きます。

輸送について

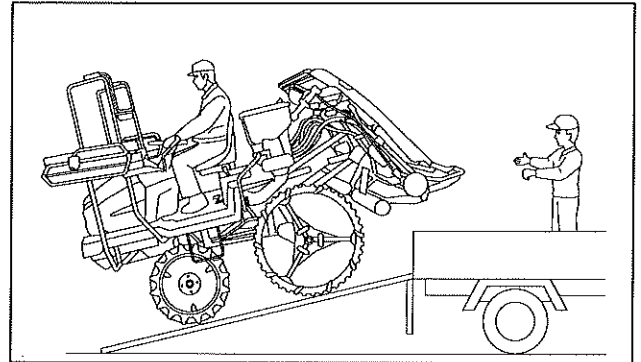
1. トラックとあゆみ板の準備

⚠ 警告

- 積み込み・積降ろしは平坦地を選び、トラックの駐車ブレーキをしっかりと掛けてください。
- あゆみ板はフックが付いているもので、十分な強度、幅（30 cm 以上）、長さ（高さの4倍以上）のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し、田植機の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
- あゆみ板を荷台に掛けるときは、段差がなく平行で、左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

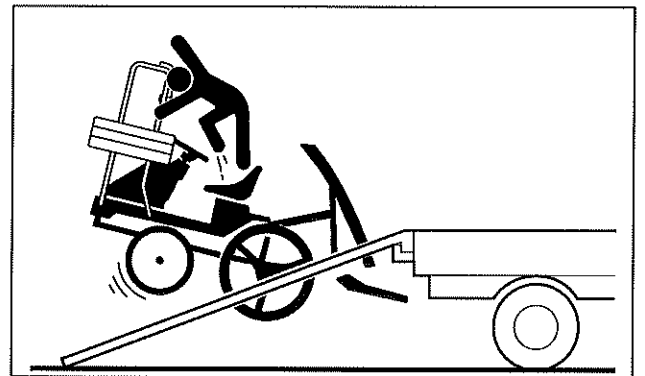
<アユミ板の基準>

- 長さ : トラックの荷台の高さの4倍以上
- 幅 : 30 cm以上
- 数量 : 2枚
- 強度 : 1枚が1000 kg以上の重量に耐えうる
- すべり止めのあるもの



⚠ 警告

- あゆみ板の途中で急なハンドルの操作や副変速レバーの操作およびブレーキペダルを急に踏込むと、機械が急降下したりあゆみ板から脱輪して落下する危険がありますので、操作しないでください。方向を変えるときは、いったん地上または荷台に戻って方向を修正し、再度上り下りし直してください。



2. トラックへの積み込み時の本機の準備

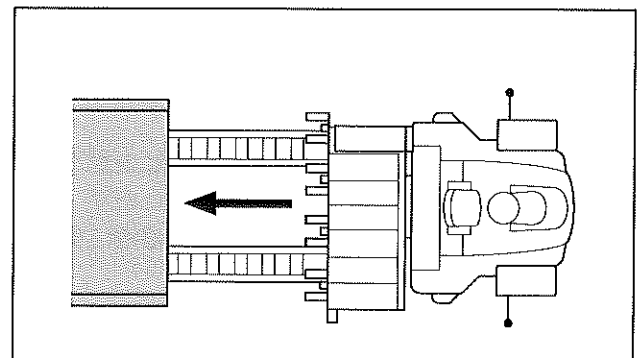
1. 苗のせ台および予備苗のせ台の苗や空箱はすべて降ろします。
2. ホッパ内の肥料をすべて排出します。
3. 水洗装置の水をすべて排出します。
4. 筋付マーカ・隣接マーカ・マスコット・予備苗のせ台を収納します。
5. 植付部を上げて最上昇位置にし、油圧ロックして下降防止を行いません。

3. トラックへの積み込み・積降ろしのしかた

⚠ 警告

- 転倒による重大事故のおそれがあるため、後部作業機（植付部など）を取り外して本機側単独で移動走行やトラックの積降ろし、運搬作業は行わないでください。
- 積み込みは後進、積降ろしは前進で、低速で走行してください。
- 共同作業者は、あゆみ板を走行中の田植機からは離れてください。
- 平坦地を選び、できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行ってください。また、田植機の周辺に人を近づけないでください。

1. 副変速レバーを【圃場作業】位置にし、主変速レバーをゆっくり操作して、低速で走行します。
2. アユミ板の前でいったん停止し、アユミ板の中央に左、右の前輪と後輪の中心を合わせ、機体があゆみ板と平行になっているか確認してから前輪デフロックペダルを踏込み、斜面の勾配方向と機体の進行方向を合わせて積み込み・積降ろしをしてください。



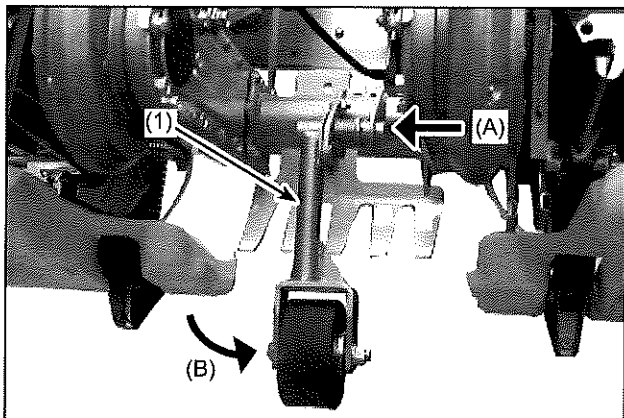
3. 荷台に乗り終わると駐車ブレーキを掛けて、エンジンを停止します。

4. トラック上での処置

警告

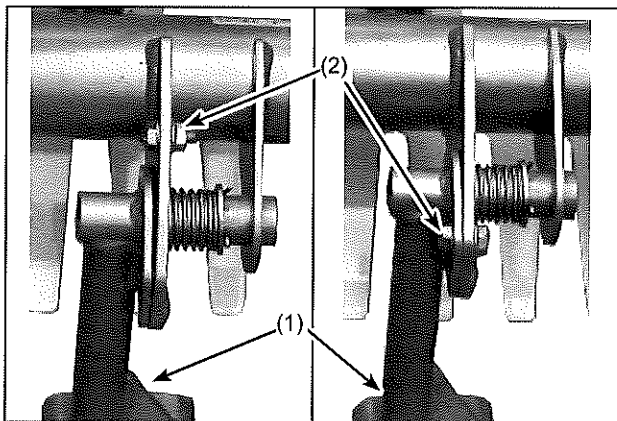
- 田植機の駐車ブレーキを掛け、車止めをし、植付部スタンドをセットして植付部を降ろしてください。
- ロープでしっかりトラックに固定してください。

1. 植付部スタンドを下側にセットします。



- (1) 植付部スタンド
(A) 押す
(B) 下へ下げる

2. 支柱上部のボルト・ナットを外し、植付部スタンドと座を前記ボルトでしっかりと固定します。

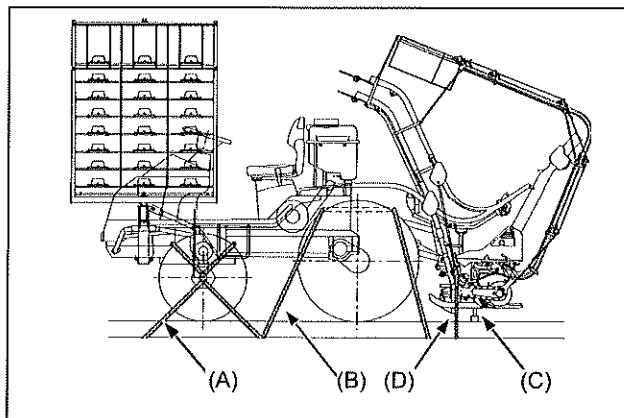


- (1) 植付部スタンド
(2) ボルト・ナット

補足：

- 輸送中に植付部が左右にずれ、ロックピンが穴から外れて植付部が破損することを防止します。輸送が終わったら、固定ボルトは元の位置に戻しておきます。

3. 十字ポンパレバーと油圧ロックレバーを操作して植付部をゆっくりと降ろします。
4. エンジンを停止します。
5. 副変速レバーを [圃場作業] 位置にします。
6. 車輪にしっかりとロープを掛けて固定します。
7. 植付部がバウンドしないように、筋付マーカの取付部を軽くロープ掛けします。



- (A) 前輪をしっかり固定する
(B) 後輪をしっかり固定する
(C) 植付部スタンドをセットする
(D) 軽くロープ掛けする

重要

- 本機の植付部は苗がなくても、マット田植機と比べて大幅に重いため、絶対に上昇位置のまま輸送しないでください。機械が破損するおそれがあります。
- 機体前部にロープを掛けるときは、けん引フックに必ず掛けてください。
- 施肥部、自動供給部、空箱レール部にはロープを掛けしないでください。破損の原因となります。

田植作業のしかた

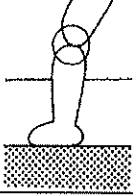
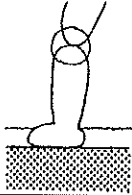

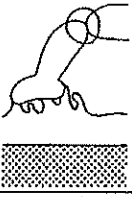
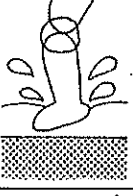
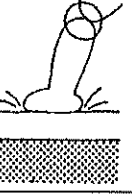
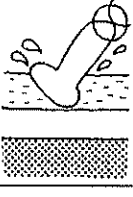
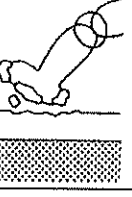
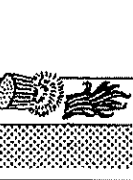
ほ場と苗の準備

ほ場の条件、苗の条件が良くなければ植付作業が行なえないことがあります。
次のような条件が予想される場合は事前に購入先にご相談ください。

※特に高速植付け時は、ほ場・苗の条件がそろっていないと植付不調になりやすいので、丁寧に準備をしてください。条件がそろいにくい場合は、植付速度を適度に遅くしてください。

1. ほ場の準備

ほ場づくりは、植付時期・土地条件（気候や風土）などの条件によって異なりますので、最寄りの指導機関（JA〔農協〕や普及センターなど）や経験者に相談して、適したほ場づくりをおこなってください。

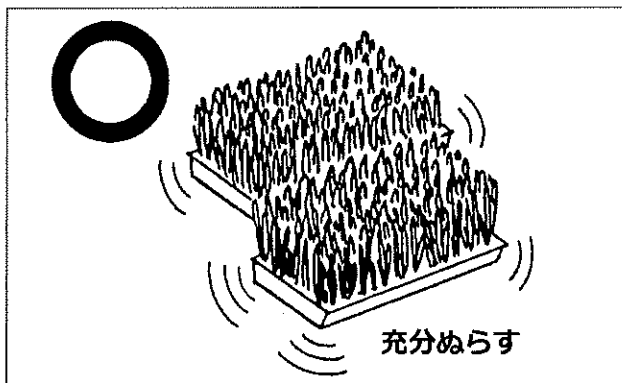
項目	条件（うまく使えないこともある状況）			
深さ		①耕盤までの深さが 30 cm 以上ある深いほ場		②耕盤までの深さが 10 cm 以下の浅いほ場
土質		①砂質の多いほ場（手植えでも植えにくいほど硬いほ場）		②強粘土質のほ場（歩くのが困難な粘いほ場）
硬さ		①代かき直後のほ場、または代かき後いく日たっても固まらないトロトロの軟らかいほ場（歩いても足跡がすぐ埋まるようなほ場）		②代かき後、日数がたって硬くなったほ場、又は代かき後すぐに固まるほ場（手植えするにも指が痛くなるような硬いほ場）
水深		①水深の平均が 3 cm を超える水の多いほ場。		②水気がなく、車輪に泥がまとわりつくようなほ場
夾雑物		①裏作後などで、刈り株・排わら又は雑草が充分腐らず、代かき後も表面に多量に露出しているほ場		

2. 苗の準備

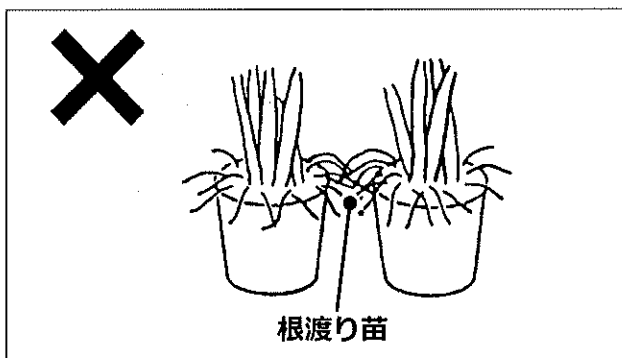
苗づくりは、作物の種類、植付時期・土地条件（気候や風土）などの条件によって異なりますので、最寄りの指導機関（JA〔農協〕や普及センターなど）の指導を仰いだり、経験者に相談して、良い苗（健苗）づくりを行なうようにしてください。

重要

- 苗は使用する前に必ず、ポットの中に水が充分浸透するまで濡らして植付けをします。特に根張りのよい苗は、充分つけておきます。濡らしかたが不足すると、苗の押し出し不良・ロック板の作動不良・縦送り・横送り不良となります。
- ぬらして使用する場合は絶対条件ですが、非常に根張りの悪い場合や、ポットがくずれやすい土を使用している場合は、ぬらしかたに注意してください。

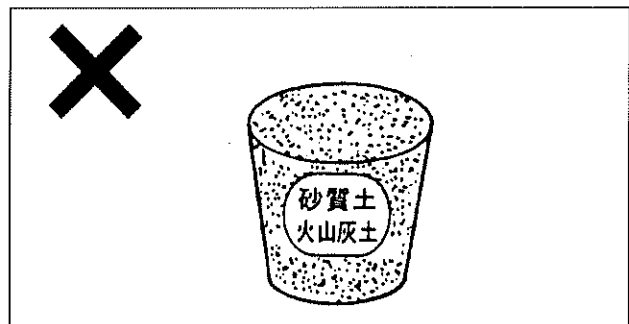


- 根渡り苗は植付できないこともあります。



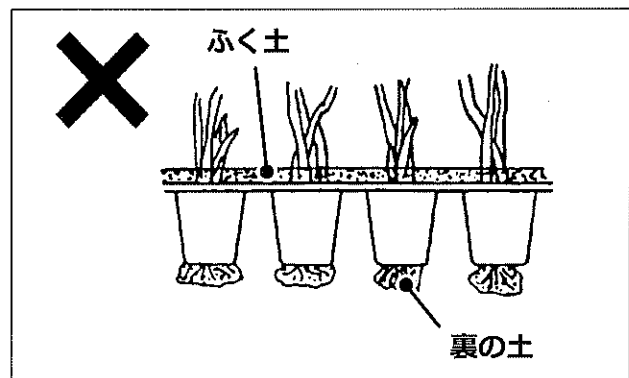
重要

- 育苗に使用する培土は適度な弾力とねばりのある培土を使用して下さい。砂質土・火山灰土を使用しますとポットがくずれやすく、植付不調となります。培土に関しては、購入先にご相談ください。



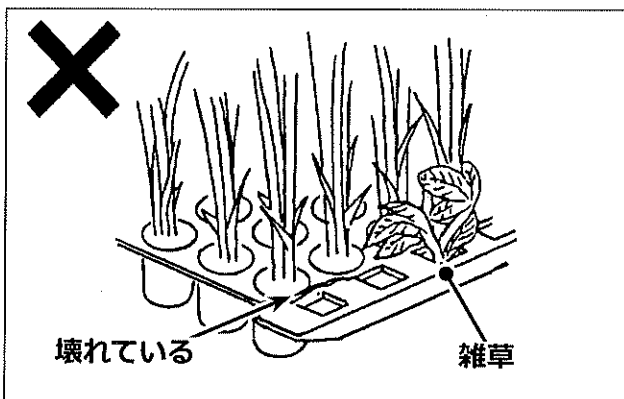
重要

- 苗箱の上面に余分なふく土をかけないようにまた、必ず根切りネットを使用して育苗してください。余分なふく土や裏の土は洗い流してから使用してください。守らないと苗が植付部へ送り込まれなかったり、空箱ガイドで空箱が詰まって、苗箱が破損したり、連続欠株となる場合があります。



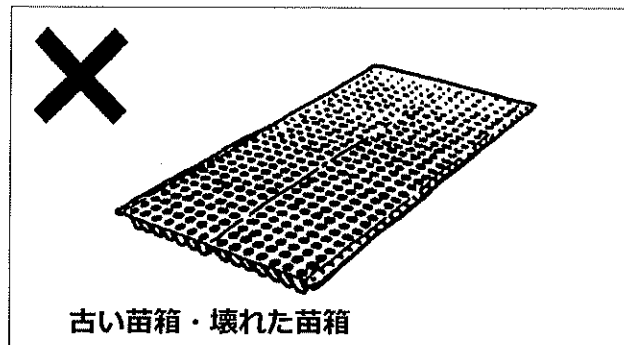
重要

- 箱のふちや角穴が壊れている苗箱は使わないでください。また、苗箱の角穴が土や雑草でふさがっている場合は取り除いてください。これらを怠ると苗が植付部へ送り込まれなかったり、空箱ガイドで空箱がつまって、苗箱が破損したり、連続欠株となる場合があります。



重要

- 10年以上経過した古い苗箱や、新しくても保管状態の良くない苗箱は材質がもろくなっています。苗供給時・苗箱送り時に破損して苗箱の送りができなくなり連続欠株の原因となります。古い苗箱は、計画的に新しい苗箱に更新するようにしてください。



重要

- 苗取り・運搬・苗の補給時などには特に苗箱の角や耳部を破損させないように、取り扱いには充分注意して行なってください。
- 育苗のとき、苗箱のふちを変形させないように注意してください。ふちが変形してしまった苗箱は破損していなくても、使わないでください。苗箱送りが確実に行なえず、連続欠株の原因となります。



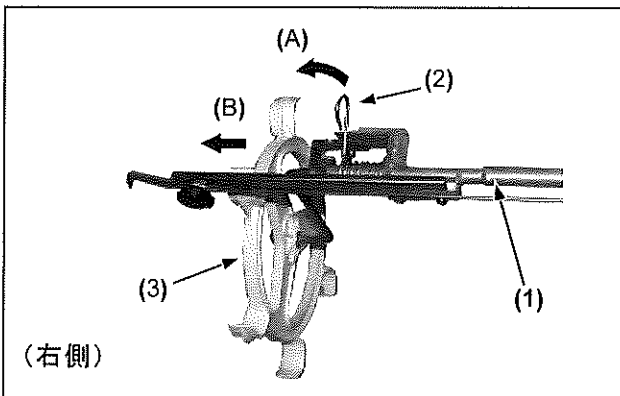
田植作業前の準備

警告

- 平坦な場所に置き、エンジンは必ず止めてください。
- 取り外したカバー類は必ず取り付けてください。

1. 筋付マーカのセット

スプリングフックを引きながらパイプロッドに差し込みます。マーカには回転方向が刻印してありますので、左右を間違えないように取り付けてください。



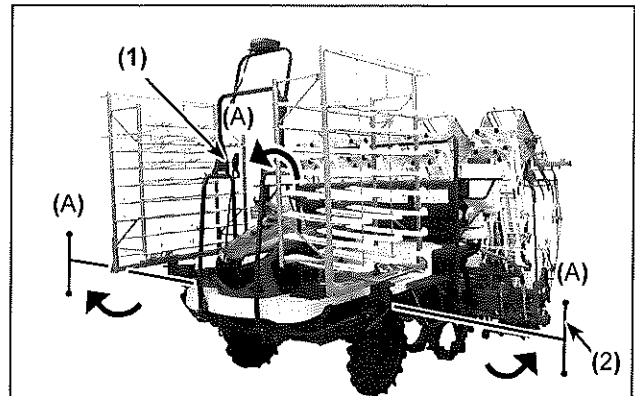
- (1) パイプロッド (A) 引く
 (2) スプリングフック (B) 差込む
 (3) 筋付マーカ

補足：

- マーカをパイプロッドに差し込んだ後、スプリングフックを切欠溝（標準位置 - 中央の溝）に左、右共ロックしてください。

2. 隣接マーカとマスコットのセット

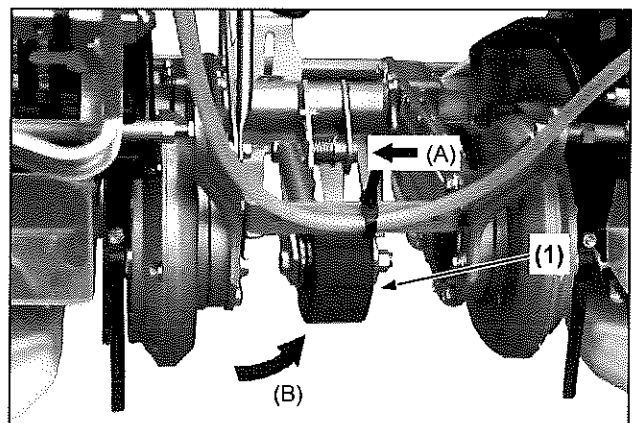
隣接マーカとマスコットを作業状態にセットします。



- (1) マスコット (A) セット
 (2) 隣接マーカ

3. 植付部スタンドの収納

植付部スタンドを横にずらして後方に倒し、収納します。



- (1) 植付部スタンド (A) 押す
 (B) 収納する

重要

- ほ場では収納を忘れないでください。ゴミが引っ掛かり、植付不良となります。また、植付部が破損するおそれがあります。

4. 各レバー・ダイヤルのセット

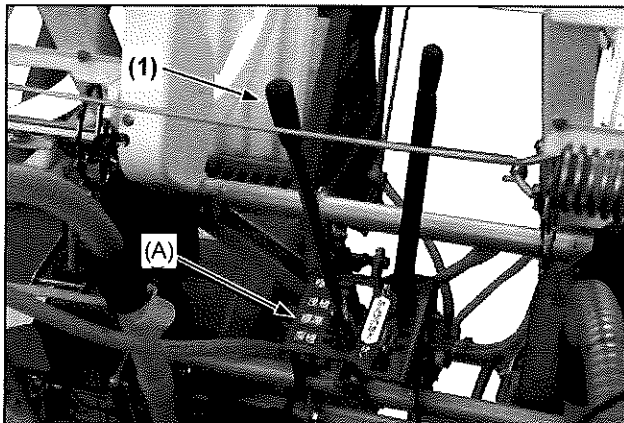
各レバー・ダイヤルを標準位置にセットします。

補足：

- 下記各レバー・ダイヤルの設定位置は目安です。
(作業に合わせた再調節方法は 114 ページ参照)

深さ調節レバー

植付深さ調節レバーを [標準] 位置にします。



(1) 植付深さ調節レバー (A) [標準] 位置

補足：

- レバーの位置を切り替えるときは、副変速レバーを [N] (中立) 位置にしてください。

油圧感度調節レバー

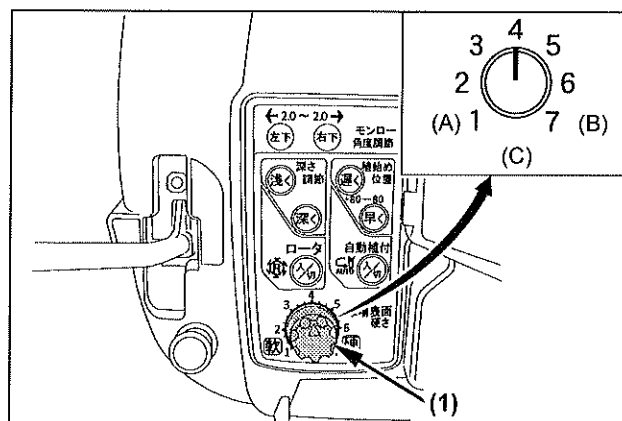
油圧感度調節レバーを [軟い] から 4 段目の位置にします。



(1) 油圧感度調節レバー

フィットセンサダイヤル

フィットセンサダイヤルを [4] の位置にします。



(1) フィットセンサダイヤル (A) 軟 (B) 硬 (C) ほ場表面硬さ

補足：

- フィットセンサダイヤルは油圧制御の基準をフロートの迎え角で制御しています。一方、油圧感度調節レバーは、フロートの前部で、ほ場面を押える荷重を調節します。(側条施肥機の作溝器を土中へ押し込む) ほ場の状態にあわせ、組み合わせて調節して下さい。

5. 各レバー・ダイヤルの設定

ほ場の状態や苗の状態に合わせて以下の設定項目を確認し、各レバー、スイッチの設定を行ってください。

● 植付株数の設定

植付株数の設定は、マルチスイッチを操作して、メイン画面：[作業条件] の [株数] 画面から変更および、株数副変速レバーを切り替えて行います。(114 ページ参照)

補足：

- 各設定条件が分からないときは、各設定条件を [標準] 位置または、出荷時の位置にして一定の植付作業後に確認したあと、必要に応じて再設定してください。

植付作業のしかた

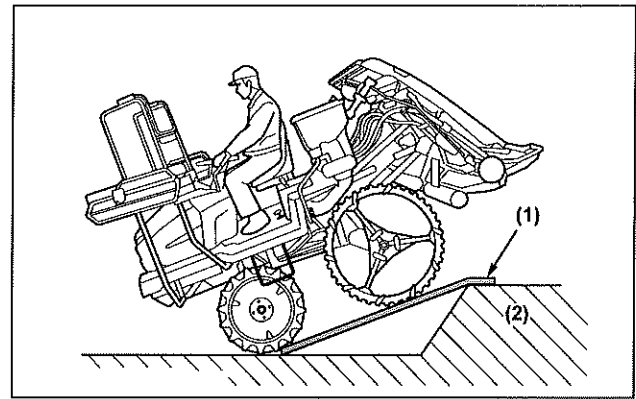
警告

- 夜間作業は行わないでください。思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- 後進する場合、後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないように充分注意してください。
- 機体への乗り降りや機体の上で作業を行うとき（苗や肥料の補給時など）、主変速レバーに体の一部が接触すると、機体が発進するおそれがありますので、必ず駐車ブレーキを掛けてください。

1. ほ場の出入りのしかた

警告

- 10 cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。
- 暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので、あぜ越えや傾斜地（あゆみ板や坂道など）を走行するときは、下記事項に注意してください。
 - 副変速レバーが [圃場作業] 位置になっていることを確認する。
 - 走行速度を落とす。（ゆっくりと走行する）
 - 主変速レバーで走行と停止を行う。
 - あぜや斜面の勾配方向と機体の進行方向を合わせる。
 - あぜや斜面に対して上り方向は後進、下り方向は前進で走行し、前輪デフロックペダルを踏込む。
 - あぜや斜面の走行途中に急なハンドル操作や副変速レバーの操作およびブレーキペダルを急に踏込まない。
 - あぜや斜面では e-stop でエンジンを停止しない。



(1) アユミ板

(2) 農道、あぜなど

2. 植付作業の手順

警告

- 異常が発生したときは、エンジンを必ず止めてください。
- 小さなほ場やほ場のすみでは作業がしにくいので、安全のため低速で注意しながら作業を行ってください。
- エンジンを掛けた状態で、わらや雑草の上に駐車しないでください。

重要

副変速レバーを [移動] 位置にして植付作業はしないでください。トラブルの原因となります。

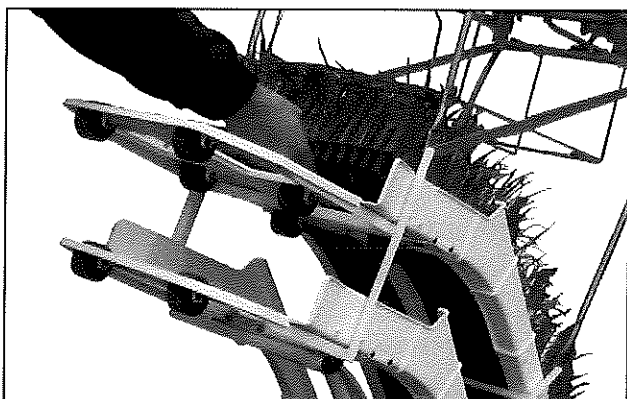
補足：

- 植付作業を行うとき、必要に応じて以下のスイッチを入れるまたは、機能をはたらかせてください。
 - 条間アシスト機能（46 ページ参照）
 - スリップ補正機能 [株間キープ機能、施肥量キープ機能]（46 ページ参照）
 - 自動植付機能（49 ページ参照）
 - 直進キープ機能（90 ページ参照）
 - 10a お知らせ機能（101 ページ参照）
- 本製品は高精度な植付けを可能にするため、植付駆動には油圧装置の油圧無段変速機（HST）を採用しています。そのため、植付作業時に以下の条件のとき、油圧の変動により機械から作動音（油圧音）が発生する場合がありますが異常ではありません。

補足：

- 植付クラッチが入ったとき
(植付部油圧回路内の油圧が大きく変動するため作動音が発生します。車速が早くなると作動音が大きくなります。)
- 根張りの強い苗を植え付けるとき
(植付速度が中低速のとき、苗の押し出し時に植付部油圧回路内の油圧が大きく変動するため作動音(油圧音)が発生します。)

1. エンジンを始動し、ほ場に入り平坦な場所で走行を停止します。
2. 十字ポンパレバーを【下】(下降)側に操作して植付部をほ場表面まで降ろします。
3. 駐車ブレーキを掛けている時は解除して、副変速レバーを【N】(中立)位置にします。
4. 十字ポンパレバーを【下】(下降)側にピッと音が鳴るまで操作したあと、もう1度レバーを【下】(下降)側にピッピッと連続音が鳴るまで操作して、植付部の駆動の準備をします。
5. 自動供給装置に上の段から各6枚の苗を補給します。



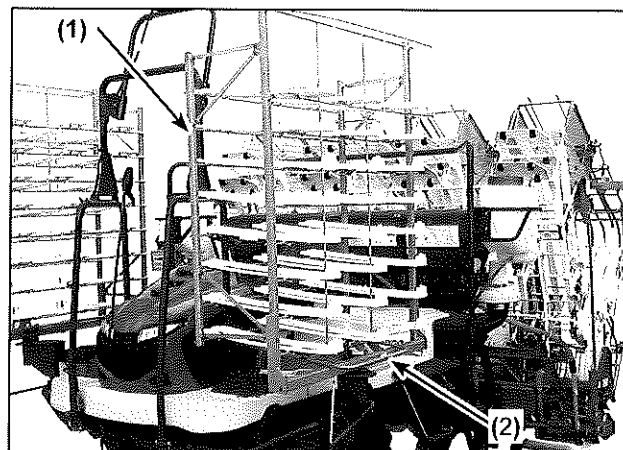
重要

- 苗の葉先を傷めないため、上の段から先に補給してください。
- 各自動供給装置に最初に入れる苗は、植付部に供給される時の衝撃が特に大きくなります。できるだけ新しい苗箱で育苗された苗を使用してください。
- 苗補給時はできるだけ奥まで手を伸ばしてやさしく補給し、衝撃が少なくなるようにしてください。

重要

- 特に古い苗箱はもろくなっており、衝撃で破損しやすいので、注意して補給してください。
- 一部でも破損した苗箱は使用しないでください。トラブルの原因になります。

6. 予備苗のせ台はロックレバーを操作して、作業しやすい向きにして必要枚数だけ苗をのせます。



(1) 予備苗のせ台
(2) ロックレバー

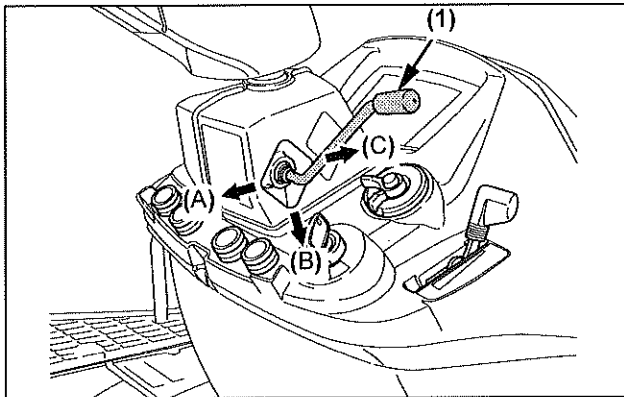
重要

- 必要以上に長時間、予備苗のせ台に苗をのせていると、苗・培土が乾き、植付不調の原因となることがあります。
- 苗の葉先を傷めないため、上の段から順に補給してください。

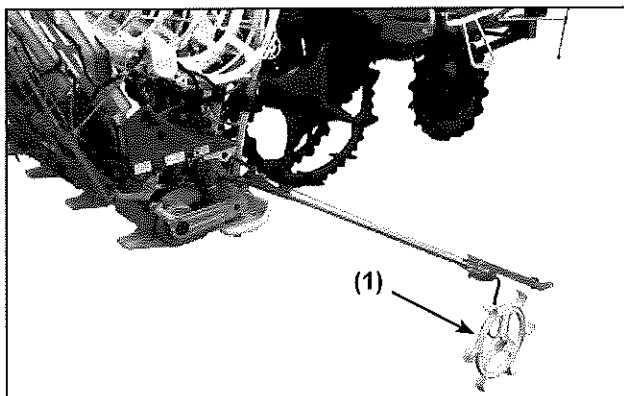
7. 十字ポンパレバーを上側に1回押して植付部を上昇させます。
8. ホッパに肥料を入れます。(103 ページ)
9. 水洗装置のタンクに清水を入れます。(112 ページ)

10. 十字ポンパレバーを操作して、植付部の駆動準備と筋付マーカのセットを行ないます。

- (1) 十字ポンパレバーを上側に1回押すと植付部が上昇します。
- (2) 十字ポンパレバーを下側に「ピッ」と音が鳴るまで1回押すと植付部が下降し、レバーを前方【マーカ左】または、後方【マーカ右】に押すと筋付マーカが倒れます。さらに下側に「ピッピッ」と音が鳴るまで押すと、植付部が駆動します。



(1) 十字ポンパレバー
 (A) 【後】 (マーカ右)
 (B) 【下】 (下降・植付)
 (C) 【前】 (マーカ左)



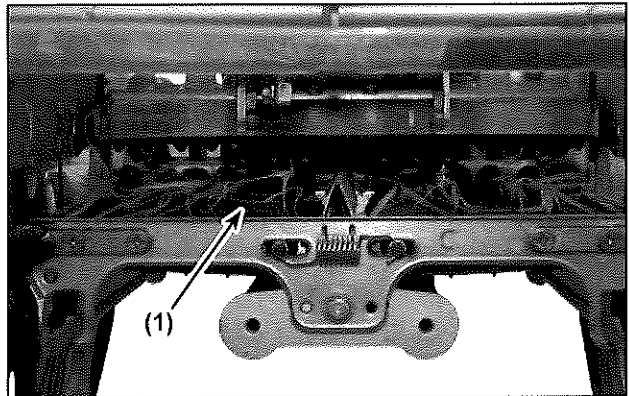
(1) 筋付マーカ

重要
 十字ポンパレバーを押したあとはすぐに離してください。また、強く押さないでください。故障の原因となります。

補足：

- 筋付マーカを出さない時（あぜぎわの植付けなど）は、十字ポンパレバーを前後せずに2度目の下降操作をしてください。植付部が駆動します。

11. 副変速レバーを【N】位置にして、主変速レバーを【前進】側へ操作すると植付部が駆動し、苗箱が自動的に送り込まれます。各植付部のコンベアベルトに苗がのった時に、主変速レバーを【N】(中立)に戻します。



(1) コンベアベルト

重要

- 植付部4ユニットのうち、中央のユニットと外側のユニットとは植付部のタイミングが違ってきます。すべてのユニットのコンベアベルトに苗がのったことを確認してください。

12. 副変速レバーを【圃場作業】位置にし、主変速レバーを【前進】側へ操作して試し植えを行ないます。
13. 5m 前後植え付けた後、主変速レバーを【N】(中立)にして走行を停止し、植付後の確認をします。異常がなければ植付作業を行ないます。

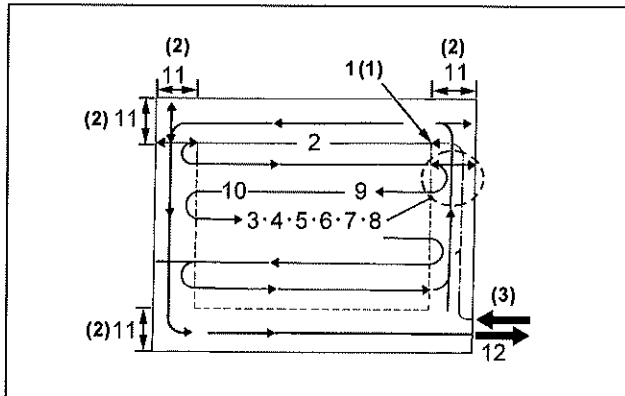
[確認項目と再調節箇所]

- 植付深さ・・・ 植付深さ調節レバー
 フィットセンサダイヤル
 油圧感度調節レバー
 モンロー調節
- 植付株間・・・ 株数調節
- 植付姿勢・・・ フィットセンサダイヤル
 油圧感度調節レバー
 苗支持板

14. 作業終了後に、機械に異常が発生している場合がありますので、メインパネルに表示されるデジタル表示部を確認してください。
 (122 ページ参照)

3. 植付けかたと旋回のしかた

ほ場の大きさや形状、出入り口の位置などによって植付方法は異なりますので、作業を始める前に植付手順を決めてから植付作業を行ってください。



(1) 植始め位置 (2) 枕地 (3) 出入口

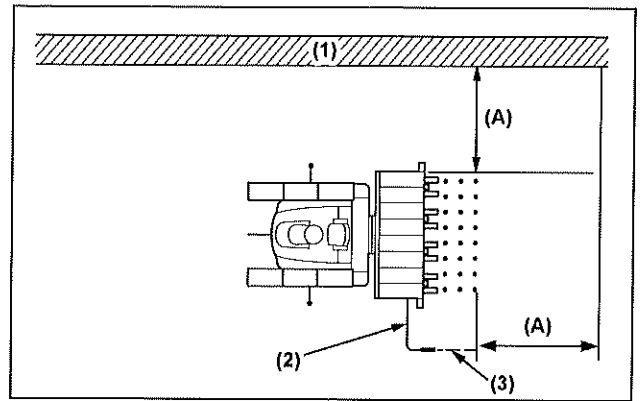
補足：

● 上図は、植付手段の一例です。また上図内と下記手段の番号 1～12 を合わせて説明しています。

1. 植始めの位置まで植付を行わずに走行します。
2. 十字ポンパレバーを下側に「ピッ」と音が鳴るまで 1 回押しして植付部を下降させ、十字ポンパレバーを前方と後方に操作して、筋付マーカを両側セットします。右または左側のあぜぎわマーカを外側にセットし、枕地の目安とします。さらに、下側に「ピッピッ」と音が鳴るまでレバーを押し、後方と右側を各 1 工程分（約 2.5 m）残すように植付けます。

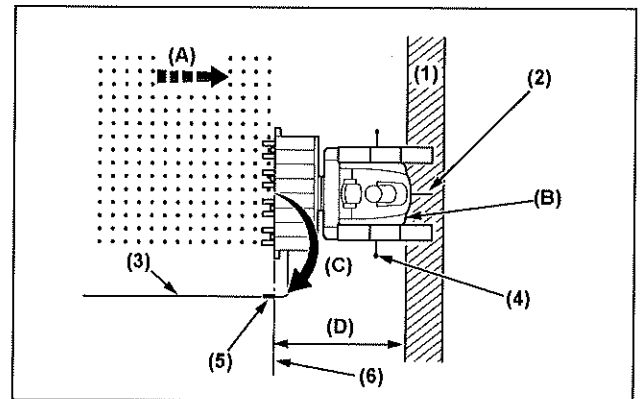
補足：

- あぜぎわマーカの先端位置が最終工程で通るときの外端を示しています。あぜに接触しない適當寸法を開けるようにして、第 1 工程を植付けます。
- 最初の 1 工程が終わったら、あぜぎわマーカは元の位置に戻しておきます。伸ばしたままにすると、不用意に障害物と干渉し、故障の原因となります。



(1) あぜ (2) 筋付マーカ (3) マーカ跡 (A) 1 行程分

3. あぜが前輪に当たる少し手前で減速し、主変速レバーを操作して停止します。そのあと、十字ポンパレバーを操作して、植付部を上昇させます。



(1) あぜ (2) マスコット (3) マーカ跡 (4) 隣接マーカ (5) 筋付マーカ (6) 次行程植付部下降、次工程植始め位置 (A) 減速 (B) あぜに前輪が当たる前まで前進し、植付部上昇 (C) 旋回 (D) 1 行程分

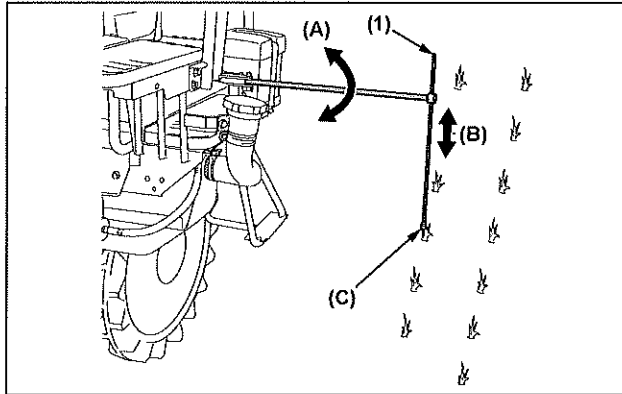
4. 旋回しやすい位置まで後退します。
5. 次に植える条側にハンドルを回して旋回します。

補足：

- あぜにボンネットが当たる場合は、あぜぎわ植えを行なってください。（87 ページ参照）
 - 植付クラッチを切って前後進したとき、植付部が正転方向または、逆転方向に最大半回転程度回転する場合があります。
6. 旋回するときにマスコットを目印にして、マーカ跡の線とマスコットの位置を合わせながら機体をまっすぐにします。

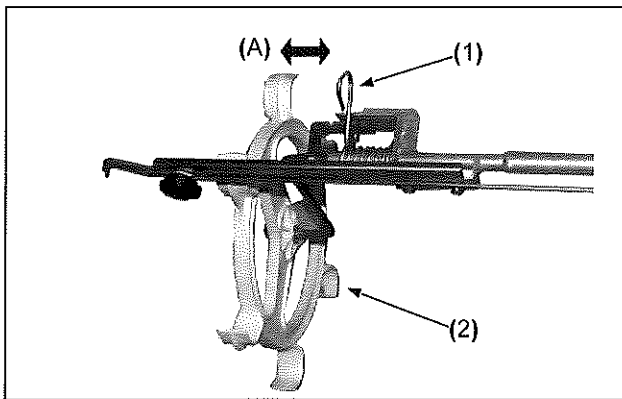
補足：

- マーカ跡の線が見えにくいときは、隣接マーカが植え終わった隣の苗（隣接苗）の上になる位置に合わせてください。
- 隣接マーカは必要に応じて前後方向の角度及び上下方向の高さを調節してください。



(1) 隣接マーカ
 (A) [前後調整]
 (B) [高さ調整]
 (C) 隣接苗の上に合わす

- フロートの泥で苗が倒れているときや補助車輪を取り付けているときは、筋付マーカの長さを調節してください。
 (標準位置は中央の位置です。)



(1) マーカーフック
 (2) 筋付マーカ
 (A) 調節

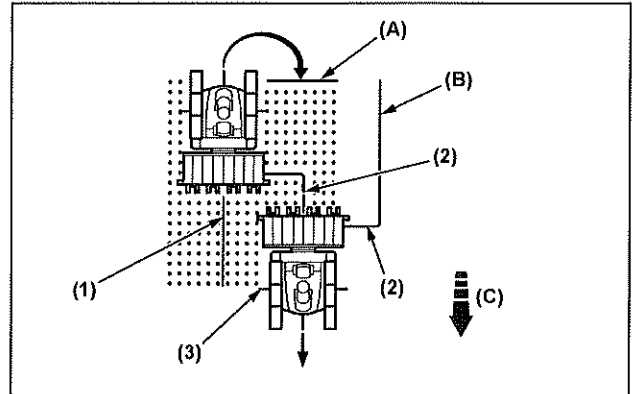
7. 十字ポンパレバーを下側にピッと音が鳴るまで1回押して植付部を下降させます。

8. 植付部が接地したことを確認したあと、筋付マーカを次工程植付側にセットします。
 さらに、下側にピッピッと音が鳴るまで十字ポンパレバーを押して植付クラッチ入の状態にします。

補足：

- 植付部が接地していないときに、植付部が駆動すると植付爪から苗が落下します。

9. 主変速レバーを操作して適当な速度まで上げます。



(1) マーカー跡
 (2) 筋付マーカ
 (3) 隣接マーカ
 (A) 条合わせ・植付け
 (B) マーカをセット
 (C) 増速

10. 次工程から同じ作業を繰り返します。
 11. 長辺方向の最終工程の前に条合わせが必要なときは、あぜぎわ植えを行ないます。

補足：

- 87 ページ参照

12. 枕地を1周植え付けて出入口から出ます。

補足：

- 極端にほ場が凸凹だったり夾雑物が多過ぎると、きれいに整地できない場合がありますので、適正な代かきを行ってください。

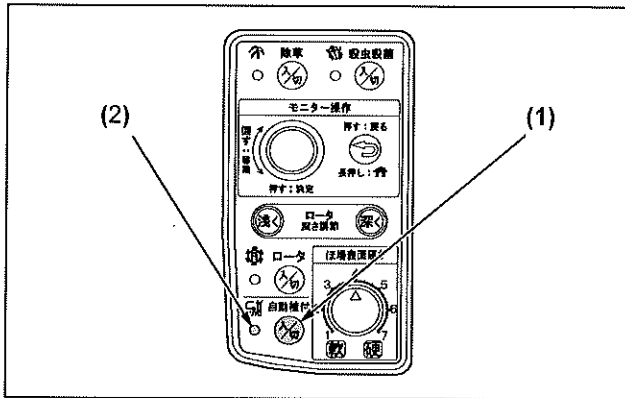
4. 自動植付作業のしかた

⚠ 警告

- 機械の近くに人がいるときや運転者が運転席から離れるときは、自動植付機能を停止してください。植付部が自動昇降すると植付部に接触しケガをするおそれがあります。

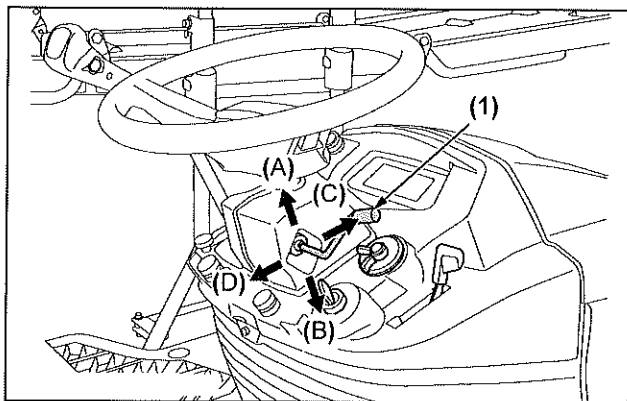
自動植付機能は植付作業中に機体を旋回するとき、ハンドルを回して旋回方向に操作すると、植付部が自動的に上昇して植付クラッチが切れます。また、旋回が終わりハンドルを戻すと、植付部が自動的に下降してクラッチが入り、次行程の植付作業を開始する機能です。

1. 操作パネルの自動植付入/切スイッチを【入】にします。このとき、自動植付ランプが点灯します。



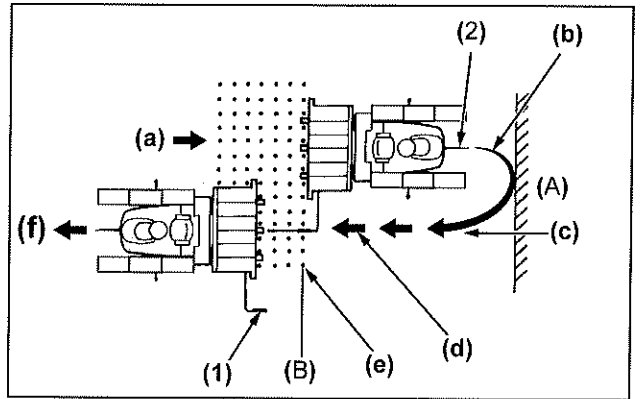
(1) 自動植付スイッチ (2) 自動植付ランプ

2. 十字ポンパレバーを操作して自動植付機能をはたらかせる準備をします。
 - a. 十字ポンパレバーを下側に操作し、植付部を下降します。
 - b. 十字ポンパレバーを再度下側に操作して、植付クラッチを入れます。
 - c. 十字ポンパレバーを前側または、後側に操作して、筋付マーカを倒します。



(1) 十字ポンパレバー (A) 上 (B) 下 (C) 前 (D) 後

3. 自動植付機能がはたらいっている状態で植付作業を行ないます。



(1) 筋付マーカ (A) 旋回 (2) マスコット (B) 次工程植始め位置

補足：

- 上図内の (a) ~ (f) を以下の手順で説明しています。

- a. 植え終わりの位置が近付くと、主変速レバーを操作して減速します。

補足：

- 植付作業を始めると、マスコットランプの緑色の植付クラッチ作動ランプが点灯し、筋付マーカが倒れて作業状態のときは、橙色の筋付マーカ作動ランプ（左または、右）が点灯します。

- b. ハンドルを旋回方向に回すと自動的に植付部が上昇します。このとき、「ピッ」と音が鳴り、マーカは収納状態になり、植付クラッチが切れます。

補足：

- 直進状態からハンドルを 4 分の 3 回転以上操作すると、植付部が自動的に上昇します。

- 植付部が上昇したとき、マスコットランプの植付クラッチ作動ランプおよび、左の筋付マーカ作動ランプが消灯します。

- c. 旋回が終わり、ハンドルを直進方向に戻すと植付部が自動的に下降します。このとき、「ピッピッピッピッ」と音が鳴り、筋付マーカが倒れて作業状態になり、植付クラッチが入ります。

補足：

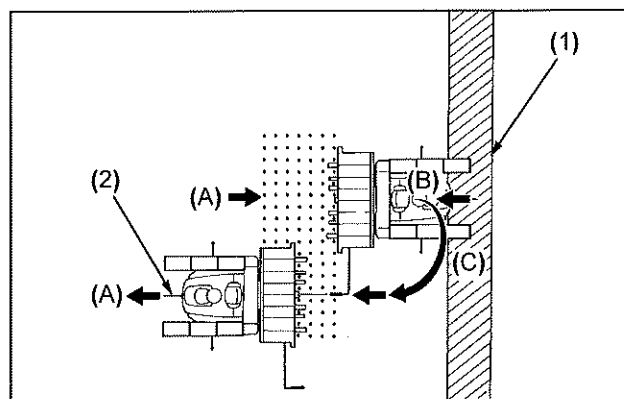
- 旋回後、ハンドルを 4 分の 3 回転以下に戻すと植付部が自動的に下降します。

- 植付部が下降したとき、マスコットランプの緑色の植付クラッチ作動ランプが点灯し、橙色の筋付マーカ作動ランプ（左または、右）が点灯します。

- d. 次行程の植始め位置へ低速で前進します。
- e. 設定された植始め位置から植付作業を始めます。
- f. 主変速レバーを操作して、植付速度を上げます。

補足：

- 植始めは必ず低速で走行してください。
- 植始め位置は前後に調節が行えます。ほ場条件（スリップ状態など）運転操作方法に応じて調節してください。（84 ページ参照）
- 移動走行時には自動植付機能がはたらきません。
- 筋付マーカ収納状態で植付作業を行ったときは、自動植付機能がはたらきません。
- 自動植付機能がはたらいているとき、植付クラッチが [切] の状態で以下の作業を行った場合は、自動植付機能が解除されます。
 - 10 m 以上前後進を行ったとき
 - 十字ポンパレバーを上側または、下側に操作したとき
- なお、上記の自動植付機能が解除された状態で、十字ポンパレバーを操作して植付部を下降、筋付マーカを倒し、植付クラッチを入の状態にすると、再度自動植付機能がはたらきます。
- 複雑なハンドル操作や農道での旋回など特殊な旋回をするときは、自動植付入／切スイッチを [切]（自動植付機能解除）にして、十字ポンパレバー操作で植付作業を行ってください。
- 自動植付作業中に、苗補給などで主変速レバーを [e-stop] 位置にするまたは、メインスイッチのキーを [切] 位置にしてエンジンを停止したあと、エンジンを再始動すると自動植付機能は継続します。
- 苗が少なくなり、苗補給前などで植終わり位置で主変速レバーを [e-stop] 位置にするまたは、メインスイッチのキーを [切] 位置にしてエンジンを停止したあと、エンジンを再始動し、機体を後進して植付部を上げて旋回後、植始め位置まで前進すると自動植付機能がはたらきます。
- あぜぎわまで植付けたあと、後進すると植付部自動上昇機能（バックアップ機能）がはたらいて植付部が自動的に上昇します。そのあとは、自動植付機能を継続しますので植付作業を行ってください。
- あぜぎわまで植付けたあと多めに後進して旋回すると、植始め位置までに植付部の下降が間に合わず、下降中に植付爪が動き出して適切な植付けができない場合があります。後進をしすぎないように注意してください。（適切な後進距離：50 cm 程度）



(1) あぜ (A) 前進
 (2) マスコット (B) 後進
 (C) 旋回

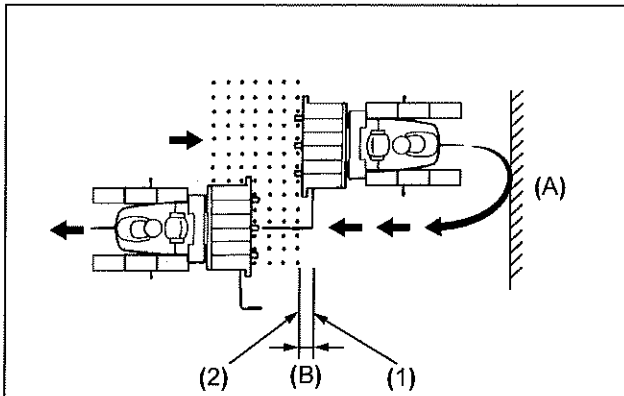
4.1 植始め位置の調節

自動植付機能がはたらいているとき、ほ場条件（スリップ状態など）や運転操作方法に応じて、旋回後に植始める位置を前側または、後側に調節してください。調節を行うときは、液晶モニタのメイン画面：[機能設定] から行ってください。

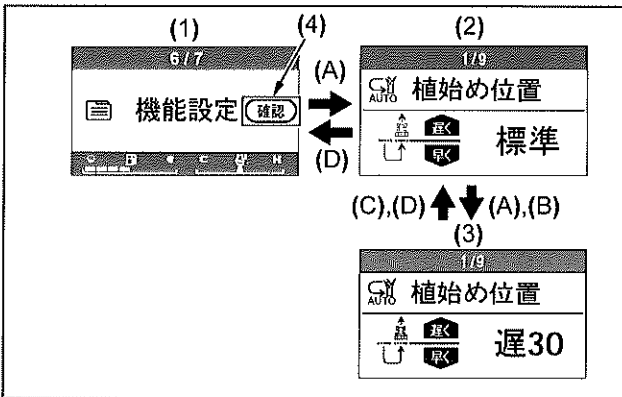
1. マルチスイッチのダイヤルを操作して、メイン画面：[機能設定] を選択したあと、マルチスイッチで選択画面の【確認】を押します。
2. マルチスイッチのダイヤルを操作して、選択画面【植始め位置】を選択します。
3. 植始め位置【標準】の状態から、マルチスイッチのダイヤルを左方向に回して【遅 30】を選択したあと、マルチスイッチを押して確定します。

4. 戻るスイッチを押すと、メイン画面：[機能設定] を表示します。

※調節例：植始め位置 [標準] を [遅 30] に調節する場合（植始め位置を標準位置から 30cm 遅らせる場合）



(1) 調節前の植始め位置 (A) 旋回
(2) 調節後の植始め位置 (B) 30 cm



(1) メイン画面：[機能設定] 画面 (A) 画面移動
(2) 植始め位置：[標準] 画面 (B) 選択
(3) 植始め位置：[遅 30] 画面 (C) 確定
(4) 選択画面 [確認] (D) 戻る

補足：

- 出荷時の植始め位置は、[標準] です。
- 植始め位置の調節は、[遅 80] ~ [早 80] まで 17 段階あります。
- 植始め位置は、マルチスイッチのダイヤルで 1 段階調節すると、約 10 cm 程度前後します。
- マルチスイッチのダイヤルで調節するとき、植始め位置が右に回すと遅くなり、左に回すと早くなります。
- 植始め位置が揃わない条件のほ場（変形田や深田、粘土質のほ場など）では、十字ポンパレバーで植付操作、筋付マーカの操作をしてください。
- 施肥作業を同時に行うときは、植始め位置を少し早目に設定してください。

5. 変形田の植付け

変形田ではほ場の出入口、苗・肥料など補給のしやすいあぜの位置、などを充分確認し、植付手順を決めてから作業を始めてください。

変形田での植付作業

進行方向に対してあぜが垂直になっていない場合は、十字ポンパレバーでの植付作業を行なってください。

枕地での植付作業

十字ポンパレバーでの植付作業を行なってください。

6. 安全クラッチについて

▲ 注意

安全クラッチがはたらいたときは、植付作業を中止してエンジンを停止してください。

6.1 植付爪の安全クラッチについて

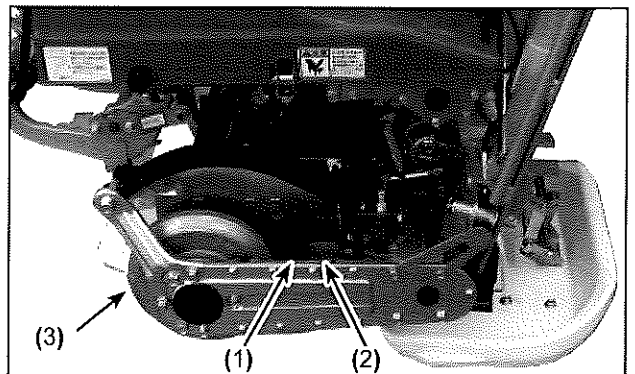
安全クラッチは、植付作業中の植付爪に石など硬い異物がはさまったときに、破損防止のためにはたらく機能です。植付部からガッガッと高い音がしたときは、作業をすみやかに中止し、エンジンを停止してから異物を取除いてください。

重要

安全クラッチがはたらいている状態を続けると、植付爪や押し出し金具が破損したり、安全クラッチの摩耗により安全クラッチがはたらきやすくなり、植付不良が起こりやすくなります。

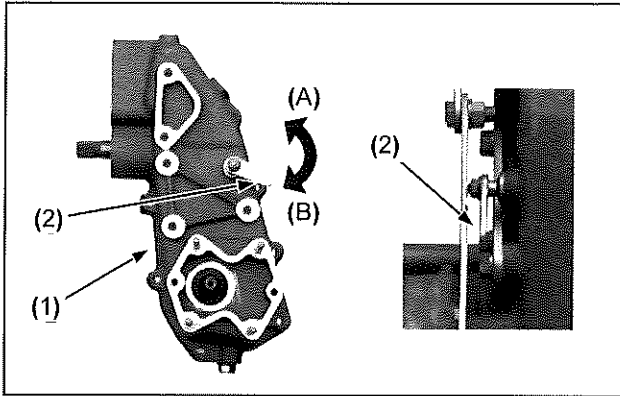
異物の取除きかた

1. ただちに主変速レバーを [N] (中立) にして機械を停止します。
2. 副変速レバーを [N] (中立)、メインスイッチを [切] にしてエンジンを停止します。
3. 植付ロータリをさわって異物のある場所を確認します。



(1) 植付爪 (3) 植付ロータリ
(2) ガイド板

4. 植付中間ケース左側のレバーを上げ、植付ロータリを逆方向へ回して異物を取り除いてください。



(1) 植付中間ケース (A) 逆転できる
(2) レバー (B) 逆転できない

5. 異物を取り除いたら植付中間ケース左側のレバーを戻しておいてください。戻さないままだと植付部が逆転し、縦送り不調となることがあります。

重要

- 異物を取り除いた後の処理
異物を取り除いた後、植付爪・ガイド板・植付ロータリなどに変形・破損がないか確認し、異常があれば購入先に連絡し、交換や修理を行なってください。

補足：

- 苗の補給は植付 [入] の状態で行なってください。植付 [切] の状態では自動供給装置が働かず、植付部まで供給されません。

重要

- マフラで苗をこがす場合がありますので、あぜぎわで苗のない場所に停止してください。
- 自動供給装置の苗は植付部に下の段から優先して供給されます。上段の苗が乾きすぎることのないよう、上・下段に計画的に補給してください。
- 苗の葉先を傷めないよう、自動供給の上の段から先に行なってください。
- 苗の補給時はできるだけ奥まで手を伸ばしてやさしく補給し衝撃のないようにしてください。特に古い苗箱は破損しやすいので注意してください。
- 破損した苗箱は使用しないでください。

7. 苗の補給のしかた

苗が残り少なくなると苗のせ台のセンサがはたらいて、苗モニタのランプが点滅すると同時に警告ブザーがなります。

補足：

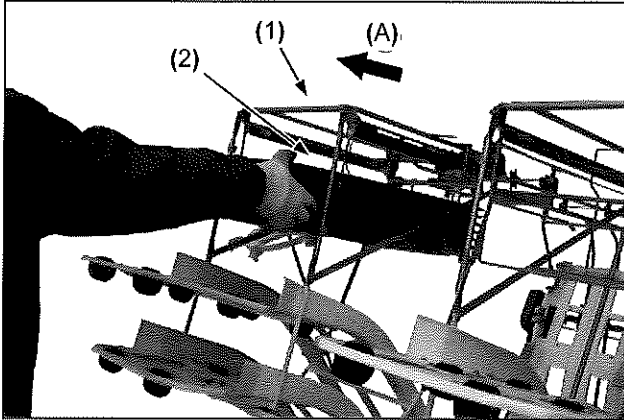
- 警告ブザーは苗を供給しないと8回鳴った後停止します。また、苗を補給するとランプは消灯し、ブザーは停止します。
- 警告ブザーは破損苗箱などの影響で、自動供給装置の途中で箱が詰まり、確実に働かなかった時、また、植付部で空箱が詰まって、確実に縦送りできなくなったとき（連続欠株センサーがはたらいたとき）にも作動します。

1. 主変速レバーを操作して機械を停止します。
2. 駐車ブレーキを掛けます。
3. 予備苗のせ台の苗を補給します。2条当たり6枚の苗を同時に補給することができます。

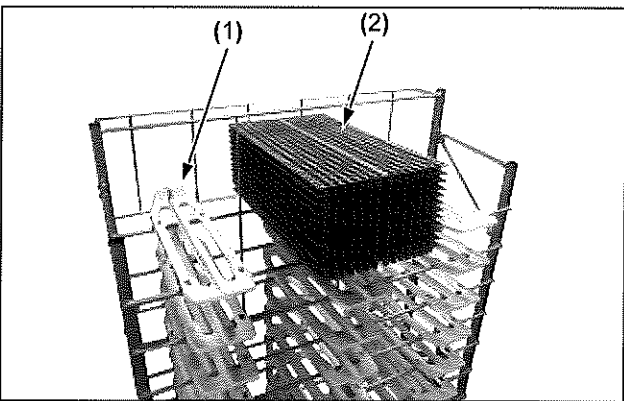
7.1. 空箱の取り出ししかた

空箱は自動的に空箱受に収納されます。1ユニットあたり6枚以内で取り出すようにしてください。箱が詰まって植付不調・苗箱破損の原因となります。

空箱受の空箱は予備苗のせ台の1番上の棚に入れてください。1番上の棚（6箇所）には空箱を各12枚重ねて収納できます。



(1) 空箱受 (A)6枚以内で取り出す
(2) 空箱



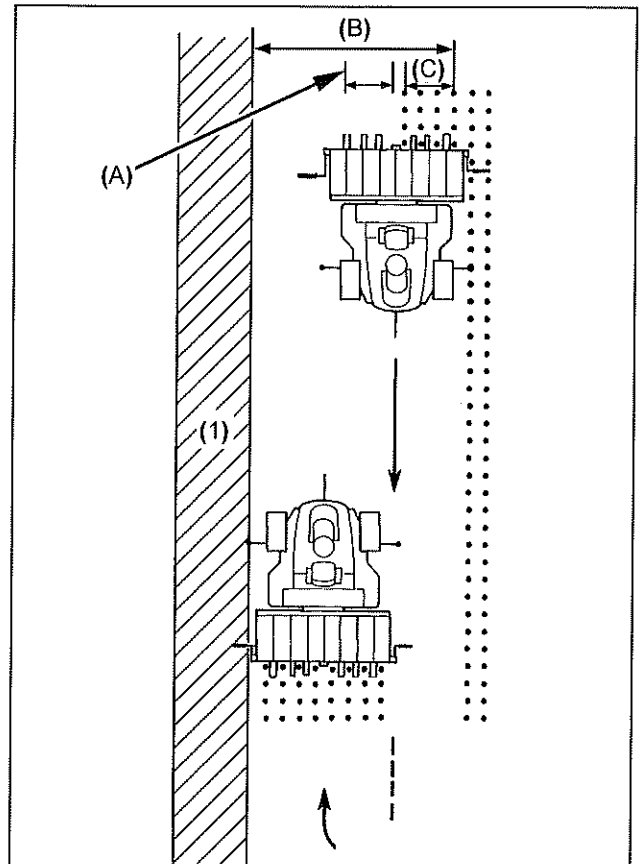
(1) 予備苗のせ台
(2) 空箱

重要

- 苗の補給のため停止したときは、空箱受に空箱が1～2枚しかたまっていなくても必ず取り出してください。次にブザーが鳴って停止した時は6枚増えています。

8. あげぎわの植付けしかた

植付作業の最終段階で、最後の植付けを全条植えて終わらせるため、あげぎわの調整の植付けを行なってください。



(1) あげ (A) あげぎわスイッチ [切]
(B) 12条分残り
(C) 4条

1. あげぎわから12条分残ったとき、あげぎわスイッチで右側4条分の植付けを停止し、4条分植付けをします。

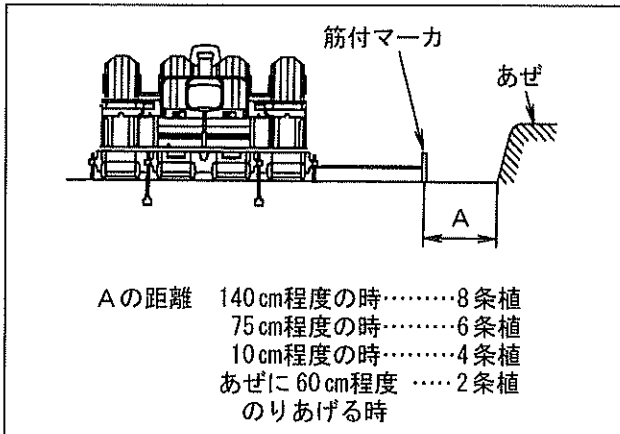
補足：

- クラッチは右端、または左端のいずれかからの順番でしか切ることができません。
- 入れるときは最右か最左を押すと全条 [入] に戻ります。内側の条のスイッチから順に押し、2条ずつ [入] に戻すこともできます。
- あげぎわスイッチを使用するときは、植付部が [停止] または [低速回転時] に行なってください。
- あげぎわスイッチで植付部の駆動と、側条施肥機の肥料繰出しが同時に停止します。

2. 最終の植付けでは、筋付マーカを出さずに（収納状態）8条で植え付けます。
3. 調整の植付けが終わるとあぜぎわスイッチを [入] 位置にします。

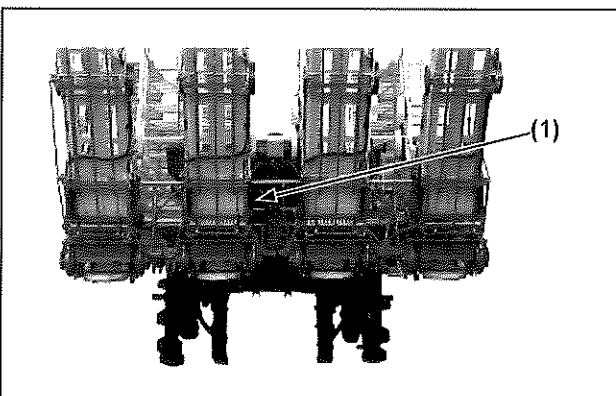
最終工程前での植付条数のきめかた

マスコットと隣接マーカで条合わせを行なったあと、筋付マーカを出して植付条数を決めてください。



重要

- あぜぎわスイッチを [切] の操作後、送り途中の苗を 14 株程度植付ける場合があります。また [入] の操作後、植付爪まで苗が出てくるまで待ってから、植付けを行なってください。
- あぜぎわでの植付け、枕地植付けの時、バックであぜぎわいっぱいまで植付部をよせるときは、植付部をあぜにぶつけないよう特に注意して慎重に行なってください。このとき、植付部の中央のすきまから赤色の苗受カバーを目安にするとわかりやすいです。



(1) 苗受カバー

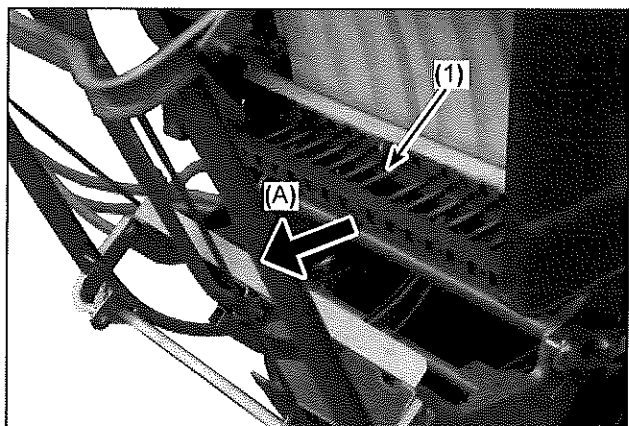
9. 残り苗の取り出しかた

1. 植付作業が終わり、苗のせ台に残った苗を取り出す場合は、植付部 4 ユニットのうち 2 つのユニットの押し棒が苗箱から抜けた状態にして、必ずエンジンを停止し、キースイッチを [切] にしてください。

注意

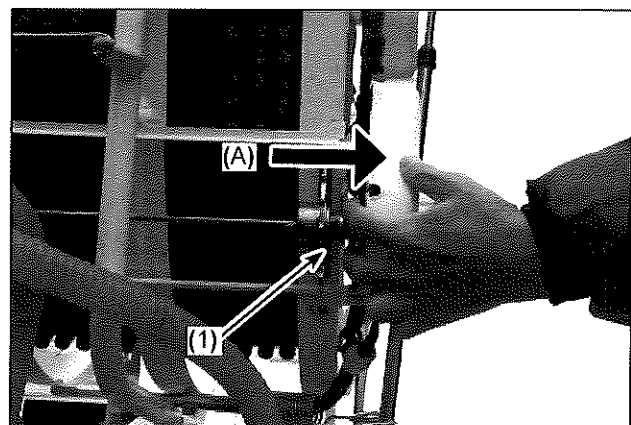
苗箱を取り出すときは、必ずキースイッチを [切] にして行なってください。これを怠ると自動供給のモーターが作動して大変危険です。

2. 残り苗の取り出しは、押し棒が苗箱から抜けたユニットから行なってください。



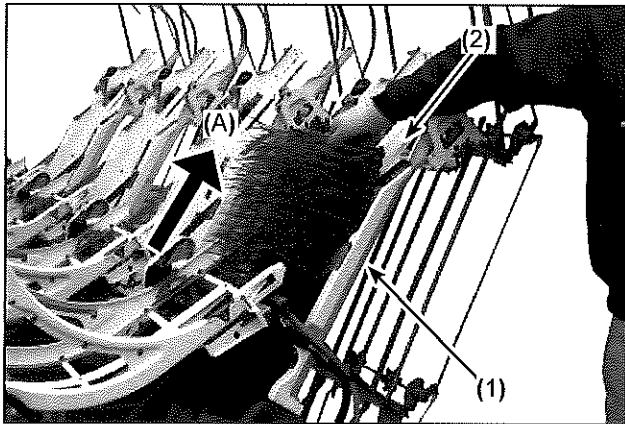
(1) 押し棒 (A) 苗箱から抜けた状態

3. 自動供給装置の苗はそのままで取り出します。スプロケットに噛み込んでいる苗はスプロケット横のクラッチを操作して取り出します。



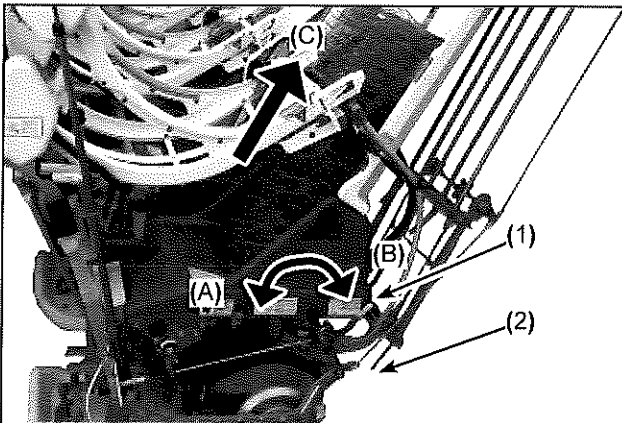
(1) クラッチ (A) 外へ引き外す

4. 植付部の苗のせ台で、縦送り爪まで送られていない苗箱は、苗のせ台にそわせて引き上げ、上部取り出し口から引き抜きます。

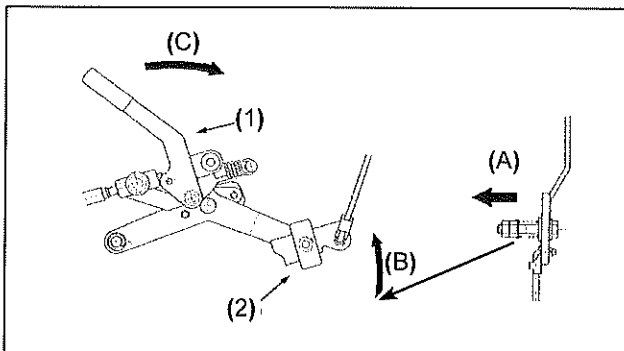


(1) 苗のせ台 (A) 上に引き抜く
(2) 上部取り出し口

5. 縦送り爪で固定され植付中の苗箱は補助レバーをずらし、セットレバーを後方いっぱい倒し、苗箱を苗のせ台にそわせて引き上げ、上部取り出し口から引き抜きます。

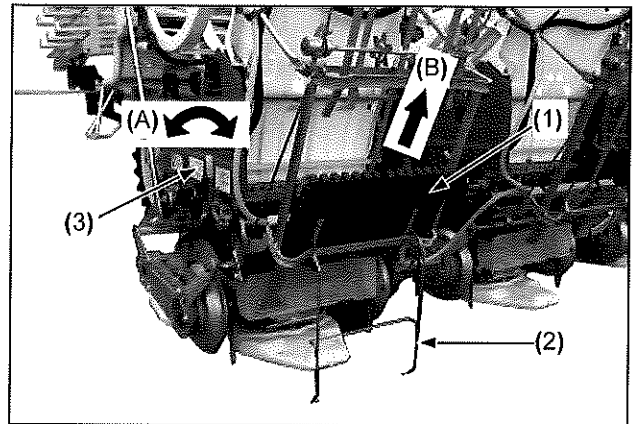


(1) セットレバー (A) 植付け時
(2) 補助レバー (B) 苗箱取出し時
(C) 上に引き抜く



(1) セットレバー (A) 外へずらす
(2) 補助レバー (B) 上に上げる
(C) 後ろへたおす

6. 苗が残り少なく、上に引っ張れない場合は、空箱レール補助の上側を片方ずつ外してから、セットレバーを前後に動かして苗箱を送り、空箱ガイドから引き抜きます。



(1) 植付途中の苗箱 (A) 前後に動かす
(2) 空箱レール補助 (B) 引き抜く
(3) セットレバー

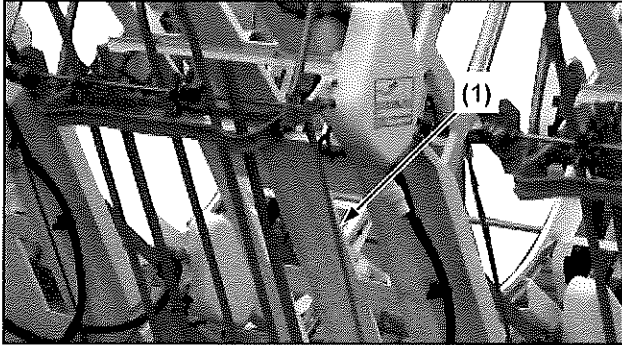
7. 2つのユニットの苗の取り出しが終わったらエンジンを再始動し、植付部を回し、残り2つのユニットの押し棒が苗箱から抜けた状態にして、メインスイッチ【切】にしてから、同じ要領で残り苗を取り出します。

重要

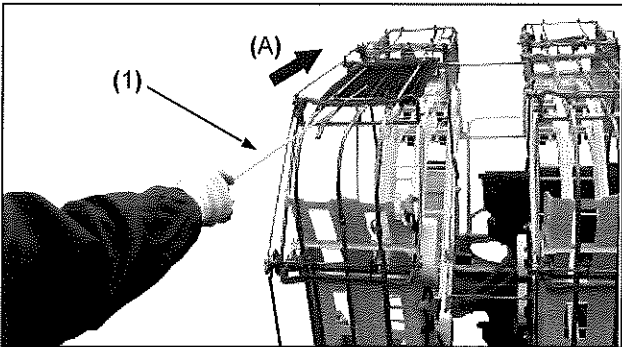
- 植付部 4 ユニットのうち中央の 2 ユニットと両外の 2 ユニットでは植付部のタイミングが違っていますが異常ではありません。押し棒が抜けているユニットから苗を取り出してください。
- セットレバーの操作は、押し棒が苗箱から抜けた状態で行なってください。守らないと、苗箱が破損するおそれがあります。
- 残り苗の取り出しが終わったら、セットレバーは必ず植付け時の位置に戻してください。

9.1. ガイドに残った空箱の取り出ししかた

1. 植付作業が終わり、空箱ガイド内に残った空箱は、1枚ずつ空箱受に落ちるまで押し出してください。
2. 空箱が高い位置で手が届かないときは、空箱取り出し棒を使用してください。



(1) 空箱取り出し棒



(1) 空箱取り出し棒

(A) 押し出す

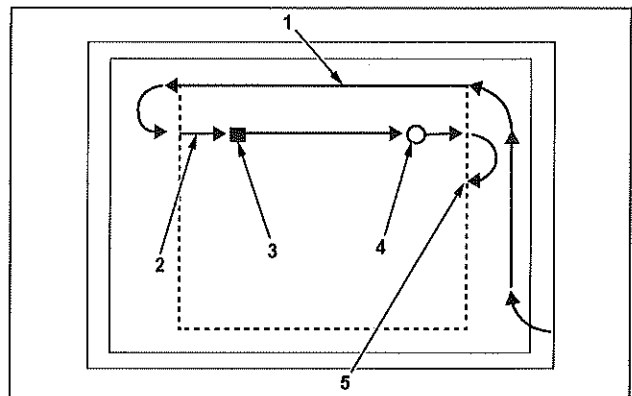
10. 直進キープ機能について

⚠ 警告

- 作業中は必ず運転席に座り、前方に注意して植付作業を行ってください。直進キープ機能がはたらいっている状態で運転席から立上ると、転倒したり田植機から落下するおそれがあります。
- 緊急時には、手動でハンドルを操作して危険を回避してください。(直進キープ機能がはたらいっている状態でも手動でのハンドル操作が可能です。)
- 下記のような条件では直進キープ機能を使用せず、通常通り手動でハンドルを操作して作業を行ってください。直進キープ機能と安心機能が本来の性能を発揮できない場合があります。
 - ほ場の形状が変形している場合 (変形田)
 - ほ場のあぜが不安定で崩れやすいほ場の場合
 - ほ場やあぜに障害物がある場合
 - ほ場内に人がいる場合
 - 周り植え作業を行う場合

直進キープ機能を使用した植付作業の手順は、下記の通りです。

1. 直進キープを行う基準線を登録する。
2. 基準線に平行に植付作業を開始する。
3. 手動走行中にGSスイッチを押して、直進キープ機能を「入」にする。
4. あぜが近付いてくるとGSスイッチを押して、直進キープ機能を「切」にする。
5. 次行程以降は手順2.～4.を繰り返して行う。

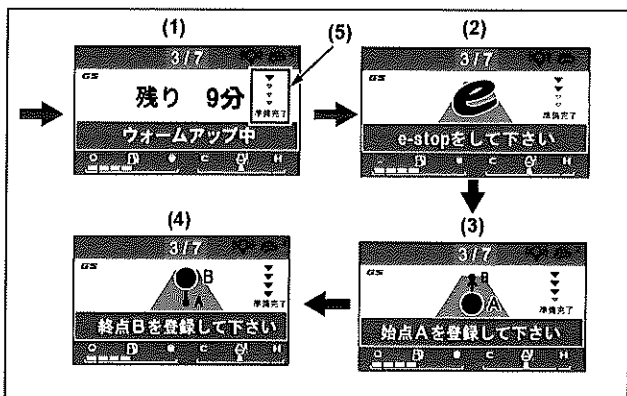


補足：

- 以下の場合は一時的に GPS 測位レベルが低下し、直進精度が悪化することがあります。一時的でも GPS 測位レベルが低下した場合、機械がすぐに GPS 測位が良好な環境へ移動しても、測位状態が安定するまで数分程度かかります。
 - GPS アンテナが電波を受信している GPS 衛星が、別の GPS 衛星に切り替わる場合
 - ほ場の周りに電波障害を起こすような建物や樹木などの障害物がある場合
- GPS 電波の受信状態が大幅に悪化すると、測位状態が安定するまで数分程度かかることがあります。
- 直進キープ機能を使用中、GPS 測位レベルが低下すると植付方向に対してずれが発生したり、マーカ跡などの目印と隣接条の間隔にずれが発生することがあります。このようなときは、一時的に直進キープ機能を停止し、手動で植付作業を行ってください。また、30 分から 1 時間経過したあと、再度 GS スイッチを押して、直進キープ機能を「入」にしてください。
- 直進キープ機能を使用するときは、植付速度を一定にし、中速（3～4 速）で作業を行うと直進精度が安定しやすくなります。また、直進精度が悪化（直進方向にずれが発生するなど）する原因となるため、急な増速および減速は行わないでください。
- ほ場内に凸凹が多い場合やスリップをしやすいほ場の場合は、直進キープ機能の直進精度が低下することがあります。

〔直進キープ機能の使いかた〕

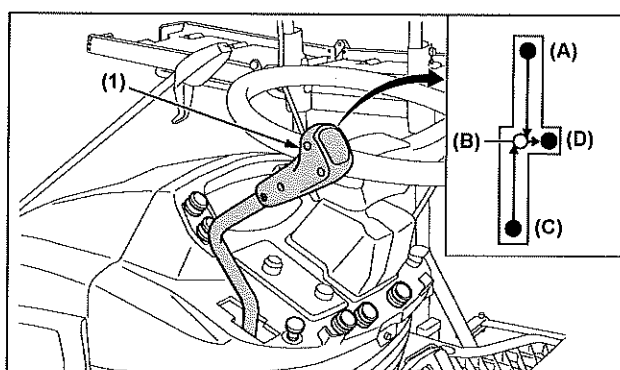
1. エンジンを始動し、直進キープ機能を上げる操作を行います。液晶モニタのメイン画面：〔GS 表示〕を選択し、表示される画面の指示に従って行います。



- (1) 表示画面〔ウォームアップ中〕（目安時間を表示）
- (2) 表示画面〔e-stop をして下さい〕（e-stop 停止後約 15 秒間表示）
- (3) 表示画面〔始点 A を登録して下さい〕
- (4) 表示画面〔始点 B を登録して下さい〕
- (5) 準備進捗メータ

補足：

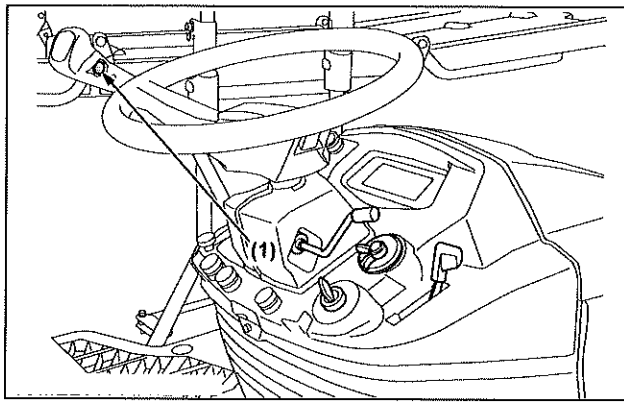
- 液晶モニタに〔ウォームアップ中〕を表示しているときは、直進キープ機能をはたらかせるシステムのウォーミングアップ（準備）を行っています。このとき、準備するまでの目安となる時間を表示します。
 - 一度ウォーミングアップ（準備）を行うと、短時間でエンジンを再始動したときは、〔ウォームアップ中〕の画面は表示されません。
2. 〔e-stop をして下さい〕が表示されると、主変速レバーを操作して〔e-stop〕位置にしてエンジンを停止します。
 3. 〔e-stop をして下さい〕の表示が消えたあと、エンジンを再始動します。



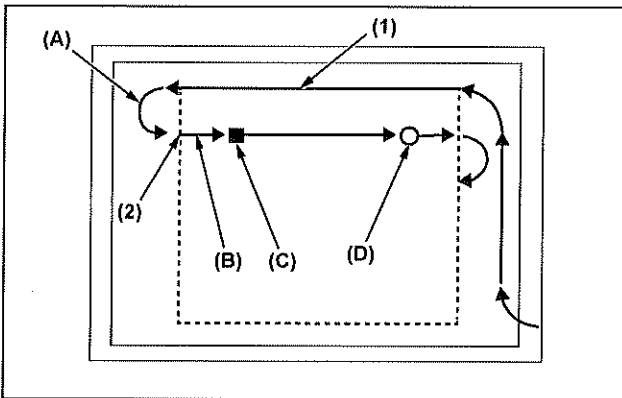
- (1) 主変速レバー
- (A) [前進]
 (B) [N] (中立)
 (C) [後進]
 (D) [e-stop]

補足：

- エンジン停止中にシステムの初期化を行います。このとき、エンジンが動いているなど機械が大きく揺れているときは、システムの初期化に時間が掛かる場合があるため、必ずエンジンは停止して、機械を静止状態にしてください。
- システムの初期化は約 15 秒後に終わり、液晶モニタに〔始点 A を登録してください〕を表示します。
- システムの初期化が終わったあと、e-stop 機能を使用しないまたは、メインスイッチのキー操作をしない状態で一定時間が経過すると、システムの再設定が必要になります。このとき、液晶モニタの画面に〔e-stop をして下さい〕が再度表示されます。
- 液晶モニタの画面に〔e-stop をして下さい〕が再度表示されたときは、直進工程の植付作業が終わったあと、必ず機体を停車してから再度システムの再設定を行ってください。再設定を行わない状態で植付作業を行うと GS 機能がはたらきません。



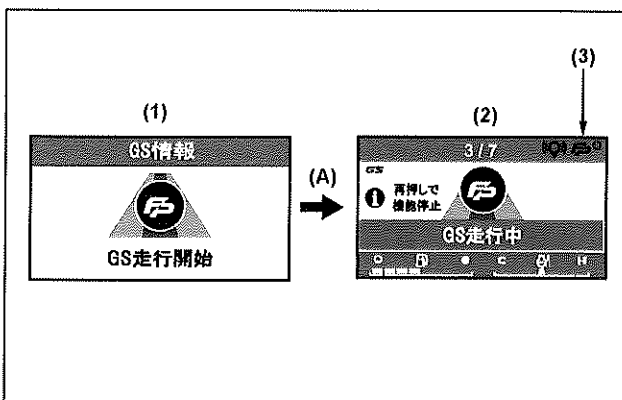
(1) GS スイッチ



- (1) 基準線
- (2) 植付開始位置
- (A) 植付開始位置まで走行する
- (B) 3 m 以上植付作業を行うと同時に機体の方向を基準線と平行に合わせる
- (C) GS スイッチを押して直進キーブ機能を「入」の状態にする
- (D) GS スイッチを押して直進キーブ機能を「切」の状態にする

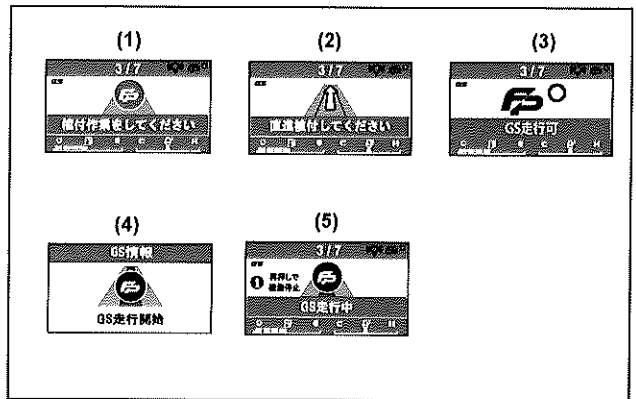
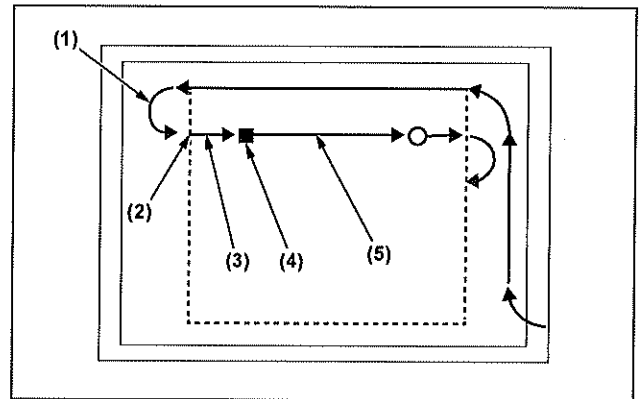
補足：

- 直進キーブ機能がはたらくと、「ピー・ピピ」と音が鳴り、各基準登録スイッチのランプが点滅します。このとき、液晶モニタに【GS 走行開始】を約 3 秒間表示後、【GS 走行中】を表示します。また液晶モニタ上部の直進キーブ機能可否判定マークが点滅します。



- (1) 表示画面【GS 走行開始】
- (2) 表示画面【GS 走行中】
- (3) 直進キーブ可否判定マーク
- (A) 画面移動

- 作業の進捗状況に応じて液晶モニタに以下の画面を表示します。

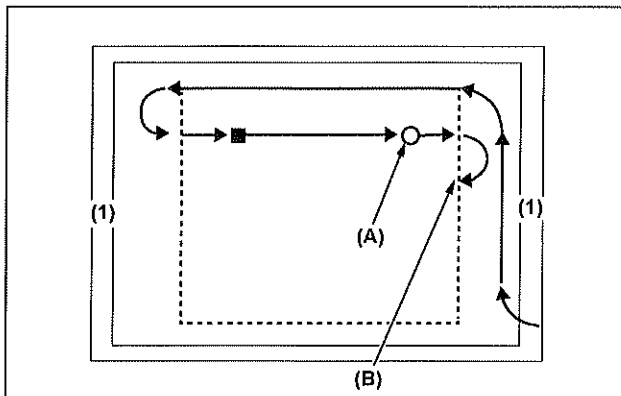


- (1) 表示画面【植付作業をしてください】
- (2) 表示画面【直進植付してください】
- (3) 表示画面【GS 走行可】
- (4) 表示画面【GS 走行開始】
- (5) 表示画面【GS 走行中】

- GS スイッチを押すときは、基準線に対して機械の進行方向がずれるのを防ぐため、直進する距離を長めにしてください。また、基準線と機械が平行でハンドルを真直ぐにした状態にしてください。
- GS スイッチを押したとき、直進キーブ機能がはたらか条件が揃っていない場合は、ブザーが鳴り、液晶モニタに以下の画面が表示されます。状況に合わせて処置を行ってください。

表示画面	発生状況	処置
	GPS 測位レベルのマークの色が灰色で直進キーブ機能可否判定マークが不可のとき	手動で操作する または、GPS 測位レベルのマークの色が灰色以外の色に変わるまで待つ
	植付部が上昇しているとき	植付部を降ろして作業状態にする
	停車しているとき	直進走行する
	植付作業前の直進距離が 3 m 以下のとき	3 m 以上直進走行する
	副変速レバーが [移動] 位置のとき	副変速レバーを [植付] 位置にする
	前輪の位置が一定角度以上に傾いているとき (ハンドルを回し過ぎのとき)	ハンドルを操作して前輪を進行方向に真直に向ける
 	基準線と平行に走行していないとき	ハンドルを左方向または、右方向に操作し、機体を進行方向に向ける

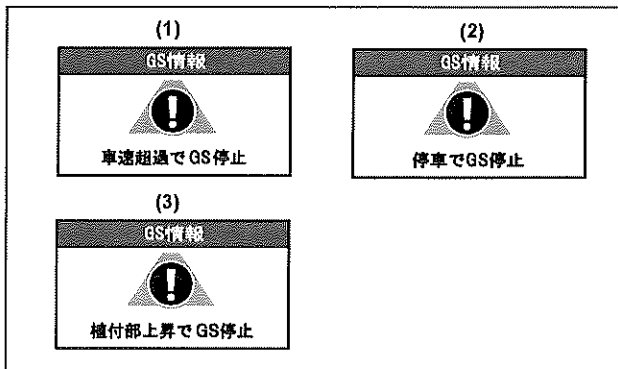
7. ほ場のあぜが近付いたときは、GS スイッチを押して、直進キーブ機能を停止します。
8. 旋回したあと、次行程の植付作業を行います。



- (1) あぜ (A) 直進キーブ機能を停止する (B) 次行程まで走行して同じ要領で植付作業を繰り返す

補足：

- 直進キーブ機能は、以下の条件で停止します。
 なお、機械が基準線に対して平行状態であれば、GS スイッチを押すと直進キーブ機能がはたります。このとき、植付作業を 3 m 行わなくても、GS スイッチを押すと直進キーブ機能がはたります。
 - 副変速レバーを [移動] 位置にして植付作業を行う。
 - 走行を停止する。
 - 植付部を上昇させる。



- (1) 表示画面 [車速超過で GS 停止]
- (2) 表示画面 [停車で GS 停止]
- (3) 表示画面 [植付部上昇で GS 停止]

- GS スイッチを [切] にすると、「ピー・ピピッ」と音が鳴り、各基準登録スイッチのランプが点灯し、液晶モニタに [GS 走行停止] が表示され GS 機能が停止します。
- 長期間に渡り機械を使用しなかった場合、現在地を測位するまでに 30 分程度かかることがあります。このとき、液晶モニタに [GPS 測位不可] が表示されます。

また、このあと 30 分以上経過しても [GPS 測位不可] の表示が消えない場合は、GPS アンテナユニット側のコネクタを抜いたあと、3 秒以上待ってからコネクタを差込んで取り付けてください。(56 ~ 57 ページ参照)

10.1. 安心機能について

安心機能は、直進キープ機能の使用状況に応じて、作業者のサポートをする機能の総称です。安心機能には以下の各機能があります。

- (1) ほ場外での誤使用防止機能
- (2) GPS 受信状態不良時の安心機能
- (3) あぜ接近時の安心機能
- (4) ほ場外への逸脱防止機能
- (5) 手動操舵優先機能

(1) ほ場外での誤使用防止機能

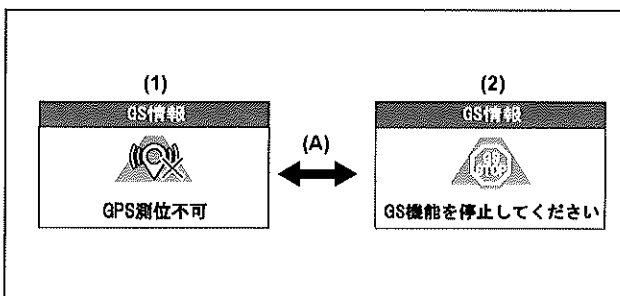
ほ場外で誤って直進キープ機能がはたらいている状態になり、思わぬ方向へ機械が走行することを防ぐ機能です。

植付部が接地していない状態で GS スイッチを押すと、液晶モニタに [植付部を降ろしてください] と表示します。このとき、直進キープ機能ははたらきません。

(2) GPS 受信状態不良時の安心機能

GPS 測位精度が不安定になると、機械の進行方向にずれが発生するおそれがあることをお知らせする機能です。

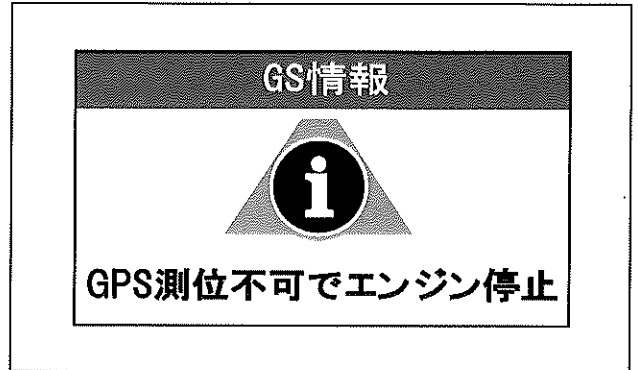
直進キープ機能がはたらいているとき、GPS 測位精度が不安定になると「ピピピッ」と音が鳴ります。このとき、直進精度が低下するおそれがあるため、基準線に対して機械の進行方向にずれが発生しないように、注意して植付作業を行ってください。機械の進行方向にずれが発生した場合は、直進キープ機能を停止したあと、手動のハンドル操作で植付作業を行ってください。また、GPS 位置情報が利用できなくなると、警報ブザーが鳴ると同時に液晶モニタに [GPS 測位不可] と [GS 機能を停止してください] を表示します。以下の画面を表示したときは、直進キープ機能を停止したあと、手動のハンドル操作で植付作業を行ってください。



- (1) 表示画面 [GPS 測位不可] (A) 交互に表示
- (2) 表示画面 [GS 機能を停止してください]

補足：

- GPS 測位不可のまま直進キープ機能での植付作業を続けると、約 5 秒後にエンジンが停止し、液晶モニタに [GPS 測位不可でエンジン停止] が表示されます。このとき、エンジンは e-stop 状態で停止しています。再始動するときは周囲の安全を確認後、ブレーキペダルを踏んでください。

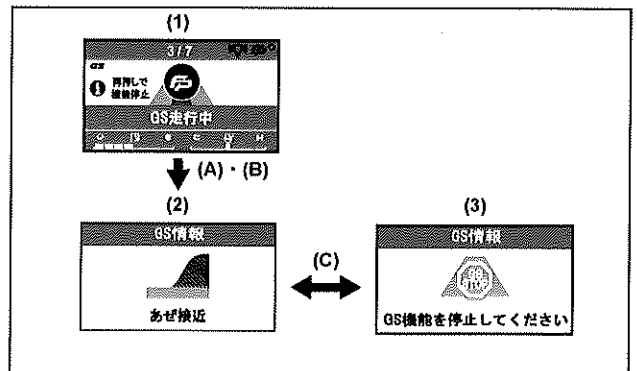


- 直進キープ機能を停止すると、警報ブザーは停止します。

(3) あぜ接近時の安心機能

直進キープ機能がはたらいているとき、あぜへの接近をお知らせする機能です。

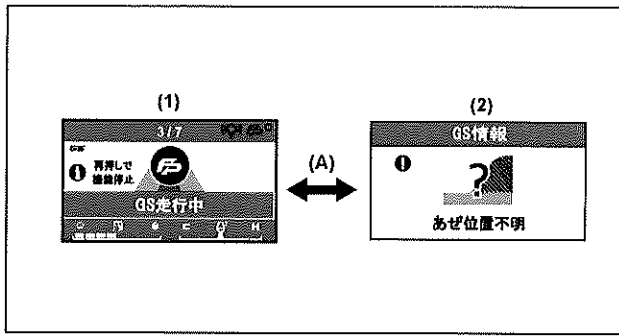
あぜに接近すると液晶モニタに [あぜ接近] と [GS 機能を停止してください] が表示され、警報ブザーが鳴ります。さらに接近すると本機側のブザーも併せて鳴ります。



- (1) 表示画面 [GS 走行中] (A) 画面移動
- (2) 表示画面 [あぜ接近] (B) あぜに接近
- (3) 表示画面 [GS 機能を停止] (C) 交互に表示してください

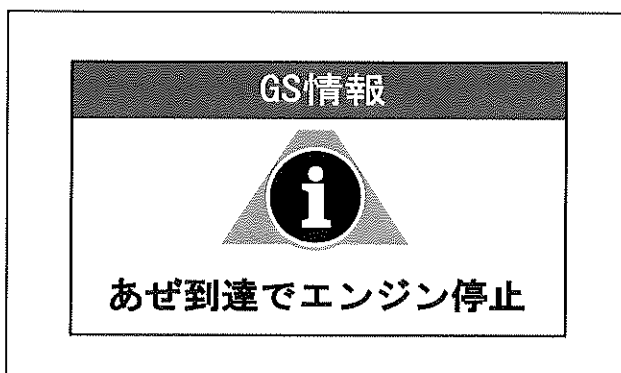
補足：

- この機械は、前行程の最後に 180 度回転したあと、植付部を接地させた位置をあぜの位置として登録します。あぜの位置を登録していない状態で直進キープ機能がはたらくと、液晶モニタに [あぜ位置不明] が表示され、同時に「ピピッ…」と警報ブザーが鳴り、基準登録スイッチのランプが点滅します。



(1) 表示画面【GS 走行中】 (表示例)
 (2) 表示画面【あぜ位置不明】 (表示例)
 (A) 交互に表示

- あぜに接近して警報ブザーが鳴っているとき、GS スイッチを押したままの状態にすると、直進キープ機能を使用して植付作業を続けて行うことができます。このとき、液晶モニタに「あぜ位置不明」が表示され、同時に「ピピッ…」と警報ブザーが鳴り、基準登録スイッチのランプが点滅します。
- 液晶モニタに「あぜ位置不明」を表示しているときは、あぜに近付いても警報が発生しないため、あぜに衝突しないように注意してください。
- 直進キープ機能がはたらいているとき、あぜ接近による警報が発生している状態で GS スイッチを操作しないまま植付作業を続けると、登録されたあぜの位置に機械が到達したとき、エンジンが停止します。このとき、液晶モニタに「あぜ到達でエンジン停止」が表示され、エンジンは e-stop 状態で停止状態になります。また、エンジンを再始動するときは周囲の安全を確認後、ブレーキペダルを踏んでください。



- 直進キープ機能を停止すると、警報ブザーは停止します。

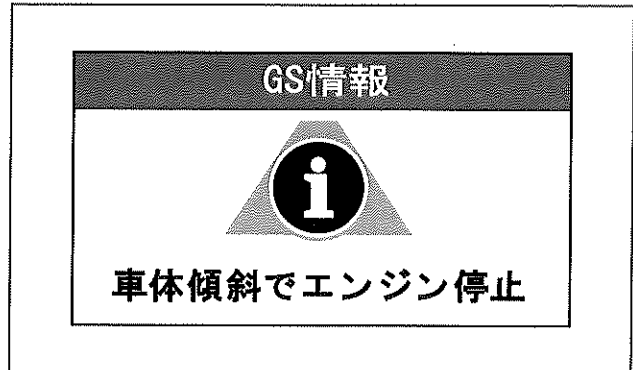
(4) ほ場外への逸脱防止機能

機械があぜを乗り越えて、ほ場外に逸脱することを防ぐ機能です。

直進キープ機能がはたらいているとき、機械が前後、左右に大きく傾くと、エンジンが自動的に停止します。

補足：

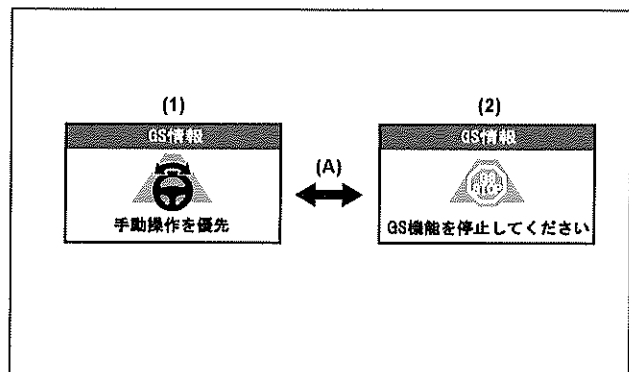
- エンジンが停止したとき、液晶モニタに「車体傾斜でエンジン停止」が表示され、エンジンは e-stop 状態で停止状態になります。また、エンジンを再始動するときは周囲の安全を確認後、ブレーキペダルを踏んでください。



(5) 手動操舵優先機能

直進キープ機能がはたらいている状態で、障害物などによる緊急回避が必要になったとき、手動のハンドル操作を優先する機能です。手動操舵優先機能がはたらくと、アシスト力が小さくなり、手動操舵ができるようになります。

手動でハンドルを操作すると、液晶モニタに「手動操作を優先」と「GS 機能を停止してください」を一定時間交互に表示して警報がはたらきます。警報がはたらくと、「ピー」と連続してブザーが鳴ります。



(1) 表示画面【手動操作を優先】 (A) 交互に表示
 (2) 表示画面【GS 機能を停止してください】

重要

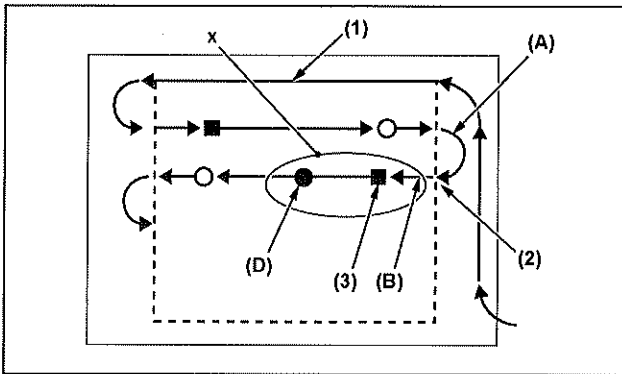
- 手動操舵優先機能を頻繁に使用すると、駆動モータに負荷が掛かり破損するおそれがあるため、緊急回避以外の目的で手動操舵優先機能を使用しないでください。

補足：

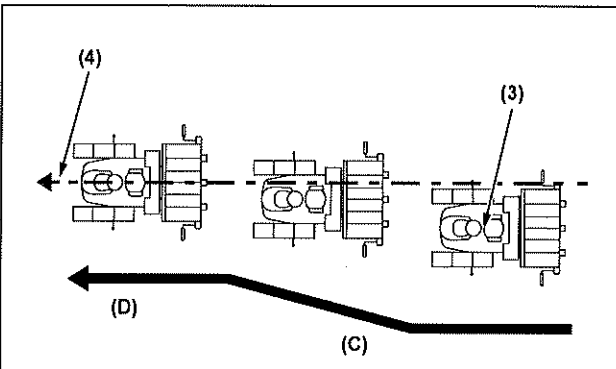
- 緊急回避（手動でのハンドル操作）が終了したあとは、なるべく早く GS スイッチを押して、直進キープ機能を「切」の状態にしてください。
- GS スイッチを押して、直進キープ機能を「切」の状態にすると警報は停止します。そのあと、再度 GS スイッチを押すと、直進キープ機能がはたらいっている状態になります。

11. 条間アシスト機能について

条間アシスト機能は直進キープ機能を開始すると、隣接条間との位置ずれを補正する機能です。条間が揃うと通常の直進キープ機能が働きます。



上図 x 部



- (1) 基準線
- (2) 植付開始位置
- (3) GS スイッチ【入】位置
- (4) 条間アシスト機能の目標ライン
- (A) 植付開始位置まで旋回する
- (B) 3 m 以上植付作業を行いなから機体の方向を基準線と平行に合わせる
- (C) 条間アシスト機能がはたらく
- (D) 目標ラインに合うと直進キープ機能に移行する

補足：

- 条間アシスト機能は必要に応じて使用してください。また、以下の状況や状態のときは使用を避けてください。
 - GPS 測位精度により、一時的に直進精度が低下したとき

- 凹凸のある場所が多く、スリップしやすい場所で旋回および走行が不安定なとき

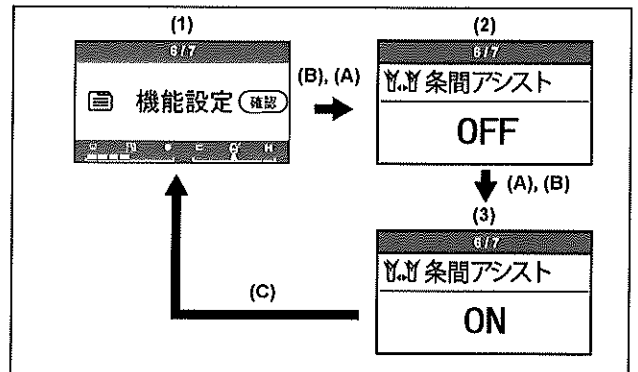
- 条間アシスト機能がはたらいっているときの目標ラインは、前回直進キープ機能を停止する直前の走行位置から規定の条間を開けた始点 A と終点 B との平行線です。

[条間アシスト機能の設定のしかた]

1. マルチスイッチを操作してメイン画面の【機能設定】を選択したあと、マルチスイッチを押します。
2. マルチスイッチを操作して【条間アシスト】を選択したあと、マルチスイッチを押します。
3. マルチスイッチを右方向に回して【OFF】(切)から【ON】(入)に切り替えたあと、マルチスイッチを押して確定します。

補足：

- 出荷時の【条間アシスト】設定は【OFF】です。
- 4. 戻るスイッチを押すと、【機能設定】に戻ります。



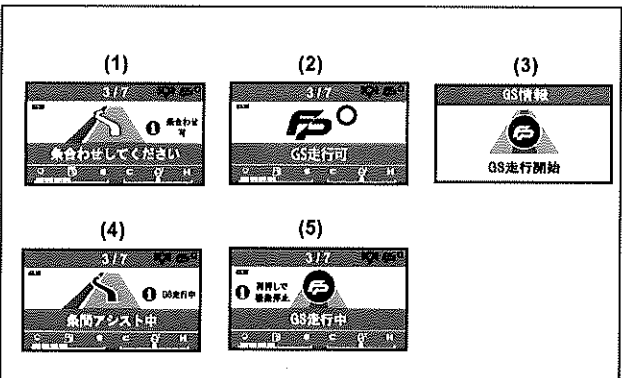
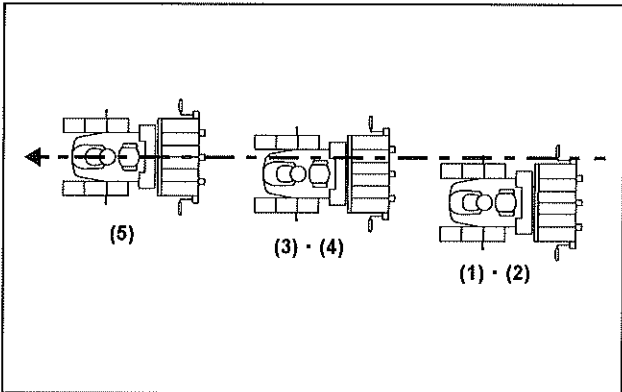
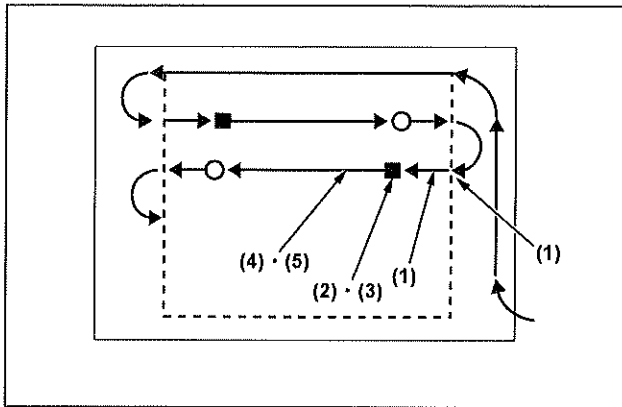
- (1) メイン画面：【機能設定】画 (A) マルチスイッチを回して選択
- (2) 選択画面：【条間アシスト】 (B) マルチスイッチを押す【OFF】画面 (C) 戻るスイッチを押す
- (3) 選択画面：【条間アシスト】【ON】画面

補足：

- 条間アシスト機能を使用しないときは、逆の手順で条間アシストを【OFF】(切)にしてください。
- 5. 条間アシスト機能を一度はたらかせると、次行程から GS スイッチを押して【入】にすると条間アシスト機能がはたらかきます。
- 6. 条間アシスト機能で条間が合うと、その地点を基準とした通常の直進キープ機能がはたらかきます。

補足：

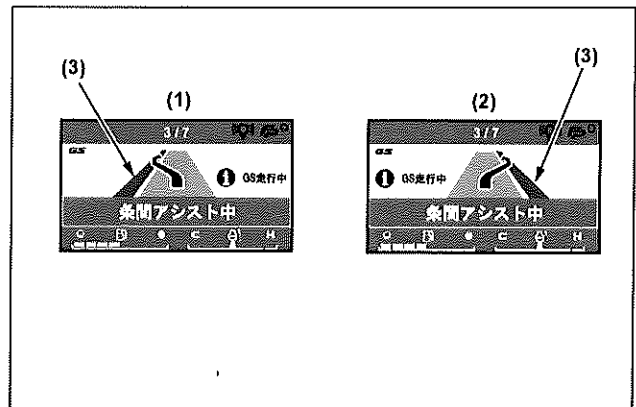
- 作業の手順に従って液晶モニタに以下の画面表示をします。



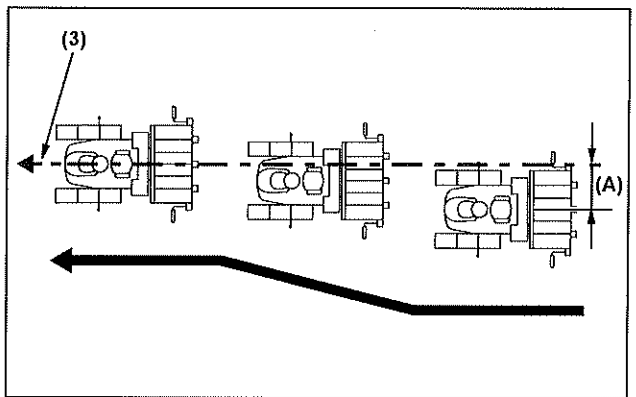
- (1) 表示画面【条間合わせしてください】
- (2) 表示画面【GS 走行可】
- (3) 表示画面【GS 走行開始】
- (4) 表示画面【条間アシスト中】
- (5) 表示画面【GS 走行中】

補足：

- 旋回後、目標ラインから一定距離離れて植付部を降ろした場合、液晶モニタに【条間合わせしてください】が表示されます。その状態で走行するとブザーが「ピッ…ピッ…」と間欠吹鳴します。GSスイッチを押すと条間アシスト機能が作動し【条間アシスト中】と表示されます。
- 目標ラインからの位置ズレの範囲に応じて画面表示の目標ラインの色が変化します。条間が合うと【GS 走行中】に表示が変わり、直進キープ機能に移行します。

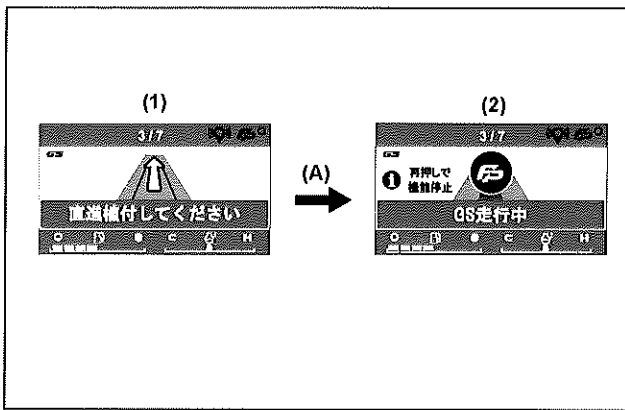


位置ズレの範囲	目標ラインの色
7 ~ 30 cm	青色
30 ~ 50 cm	黄色



- (1) 表示画面【条間アシスト中】 (A) 位置ズレの範囲
(左方向に条合わせ中)
- (2) 表示画面【条間アシスト中】
(右方向に条合わせ中)
- (3) 目標ライン

- 位置ズレの範囲が 7 cm 以内のときは、【条間アシスト中】の代わりに【直進植付してください】が表示されます。この状態で GS スイッチを押すと、直進キープ機能が作動し、【GS 走行中】が表示されます。



(1) 表示画面【直進植付してください】 (A) GS スイッチを押す
 (2) 表示画面【GS 走行中】

- 以下の状態が発生したときは条間アシスト機能を停止または、GS スイッチを「切」にして手でハンドル操作してください。
 - GPS 測位レベルの低下が原因で位置ズレが発生したとき
 - GPS 測位レベルが安定していても、電離層遅延やほ場条件などの衛星配置とは相関がないさまざまな要因により位置ズレが発生したとき
- GPS 測位レベルが安定すると、その地点から GS スイッチを「入」にすると、直進キープ機能がはたらきます。
- 以下の画面が表示されているときは条間アシスト機能が作動しません。

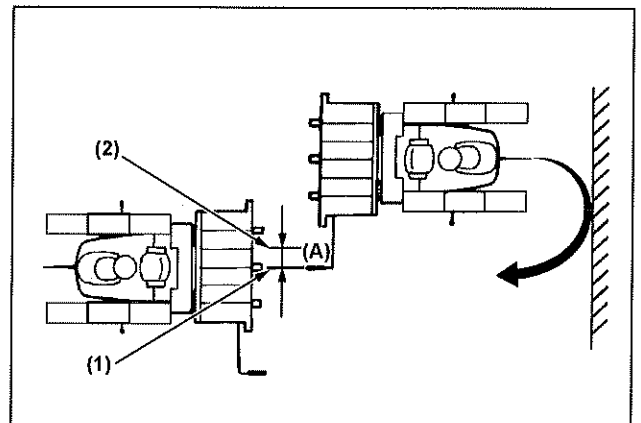
表示画面	表示の発生原因
	<ul style="list-style-type: none"> ● 田植機の植付方向と基準線の位置ズレが 50 cm 以上のとき
	<ul style="list-style-type: none"> ● 以下のような状況で隣接条の情報不足しているとき <ul style="list-style-type: none"> - 始点 A 点、終点 B 点取得直後 - 同一行程内 - GPS 測位不可後 - 手動操作優先後 - エラー発生後

- 条間アシスト機能を作動させたい場合は、手動操作で田植機を基準線に近付けて、画面表示【条間合わせしてください】での植え付ける直線の色が青色または、黄色に変わってから GS スイッチを操作してください。
- 条間アシスト機能がはたらくのは旋回後の 1 回だけです。
- 苗補給時など、e-stop でいったんエンジンを停止後、再度エンジンを始動しても隣接条間の情報は残ります。
- GS スイッチを【切】にしてから次行程までの移動する時間が長くなると、条間アシスト機能の位置精度が低下します。

11.1 条間アシスト幅の調整

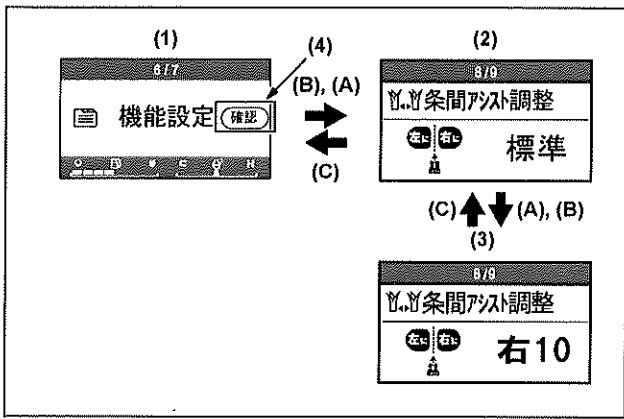
条間アシスト機能がはたらいているとき、条間が右側または、左側に寄りやすい場合に調整してください。調整を行うときは、液晶モニタのメイン画面：【機能設定】から行ってください。

※調節例：条間アシスト幅【標準】を【右 10】に調整する場合（条間アシスト幅を標準位置から右側に 20cm 寄せる場合）



(1) 調整前の植付直線 (A) 調整幅：20 cm
 (2) 目標ライン

1. マルチスイッチを操作してメイン画面の【機能設定】を選択したあと、スイッチを押します。
2. マルチスイッチを操作して【条間アシスト調整】を選択します。
3. 条間アシスト幅を【標準】の状態からマルチスイッチを右方向に回して【右 10】を選択したあと、マルチスイッチを押して確定します。
4. 戻るスイッチを押すと、【機能設定】に戻ります。



- (1) メイン画面：[機能設定] 画面
- (2) 条間アシスト幅：[標準] 画面
- (3) 条間アシスト幅：[右 10] 画面
- (4) 選択画面 [確認]
- (A) マルチスイッチを回して選択
- (B) マルチスイッチを押す
- (C) 戻るスイッチを押す

補足：

- 出荷時の条間アシスト幅の位置は、[標準] です。
- 条間アシスト幅の調整は [左 10]、[左 8]、[左 6]、[左 4]、[左 2]、[標準]、[右 2]、[右 4]、[右 6]、[右 8]、[右 10] の 11 段階あります。また、調整幅は 1 段階で約 4 cm、左右 20 cm 程度の調整ができます。
- マルチスイッチで調整するとき、条間アシスト幅の表示画面は [標準] から右に回すと右側、左に回すと左側に寄せる画面を表示します。

12. スリップ補正機能について

スリップ補正機能は、ほ場の状態によって車輪がスリップしても車輪の回転数や肥料の繰出量を調整し、設定した通りの株数や肥料の繰出量で植付作業を行う機能です。スリップ補正機能には、施肥キープ機があります。

補足：

- スリップ補正機能は、GPS アンテナと後輪側にある回転センサで、植付作業時のスリップ率を常時把握し、設定した株数または、施肥量に補正を行います。

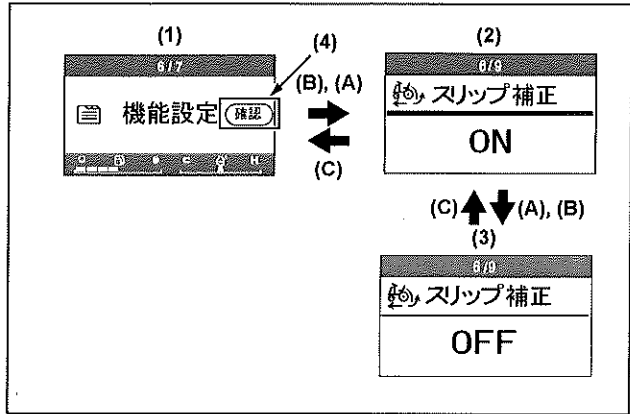
12.1 スリップ補正機能使用の切り替え

ほ場条件や苗、肥料の条件によりスリップ補正機能を使用するまたは、使用しないを切り替えるときは、液晶モニタのメイン画面：[機能設定] から行ってください。

1. マルチスイッチのダイヤルを操作してメイン画面：[機能設定] を選択したあと、マルチスイッチで選択画面の [確認] を押します。
2. マルチスイッチのダイヤルを操作して選択画面 [スリップ補正] を選択します。

3. マルチスイッチのダイヤルを左または、右方向に回して [OFF] (切) または、[ON] (入) を選択したあと、マルチスイッチを押して確定します。
4. 戻るスイッチを押すと、メイン画面：[機能設定] を表示します。

※切替例：スリップ補正機能を使用しない場合



- (1) メイン画面：[機能設定] 画 (A) マルチスイッチを回して選択
- (2) スリップ補正：[ON] 画面 (B) マルチスイッチを押す
- (3) スリップ補正：[OFF] 画面 (C) 戻るスイッチを押す
- (4) 選択画面 [確認]

補足：

- 出荷時のスリップ補正は [ON] です。
- マルチスイッチのダイヤルを左に回すと [OFF]、右に回すと [ON] にそれぞれ切り替わります。
- スリップ補正を [OFF] に設定すると、スリップ率は次画面のスリップ率の設定値に固定されます。
- スリップ補正 [ON] に設定してスリップ補正機能がはたらいっているとき、GPS の測位が不可になると、それまで作業を行っていたスリップ率を破棄し、元の設定値に戻して作業を継続します。また、GPS 測位が復帰すると再度スリップ補正機能がはたらきます。(GPS 測位については 57 ページ参照)

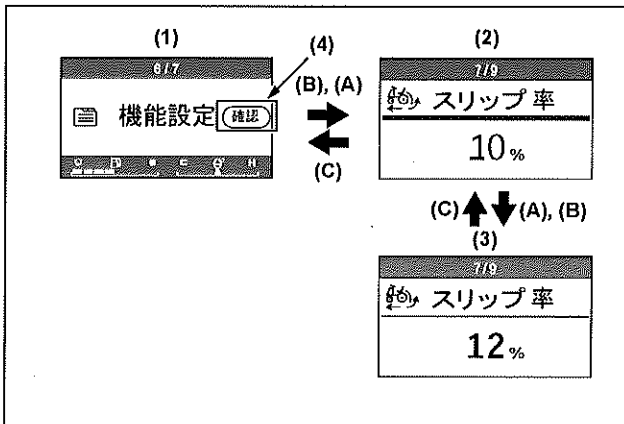
12.2 スリップ率の調節

スリップ補正を [OFF] にしてスリップ補正機能を使用しないときに、ほ場で車輪のスリップが多い場合または、少ない場合は、スリップ率を調節してください。調節を行うときは、液晶モニタのメイン画面：[機能設定] から行ってください。

1. マルチスイッチのダイヤルを操作してメイン画面：[機能設定] を選択したあと、マルチスイッチで選択画面の [確認] を押します。
2. マルチスイッチのダイヤルを操作して選択画面 [スリップ率] を選択します。
3. マルチスイッチのダイヤルを回してスリップ率を選択したあと、マルチスイッチを押して確定します。

4. 戻るスイッチを押すと、メイン画面：[機能設定] を表示します。

※調節例：スリップ率を 10%から 12%に変更する場合



- (1) メイン画面：[機能設定] 画 (A) マルチスイッチを回して選
面 択
(2) スリップ率：[10%] 画面 (B) マルチスイッチを押す
(3) スリップ率：[12%] 画面 (C) 戻るスイッチを押す
(4) 選択画面 [確認]

補足：

- 出荷時のスリップ率は [10%] です。
- マルチスイッチのダイヤルを左に回すとスリップ率は減少し、右に回すと増加します。
- スリップ率は 0～30%の範囲で 1%ごとに調節ができます。

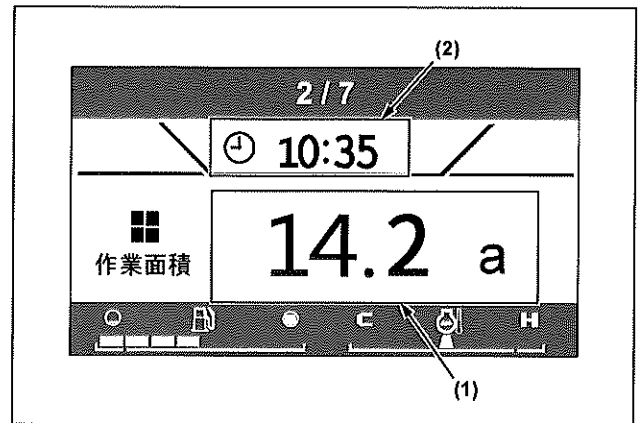
13. 10 アール (a) お知らせ機能について

10a お知らせ機能は植付作業を行った作業面積を計測し、目安として植付面積が 10a 完了したことをお知らせする機能です。

補足：

- 作業面積を確認後、残りの植付作業に必要な苗や肥料の量を確認および調節を行ってください。

1. マルチスイッチのダイヤルを操作してメイン画面：[作業面積] を選択したあと、マルチスイッチを押します。

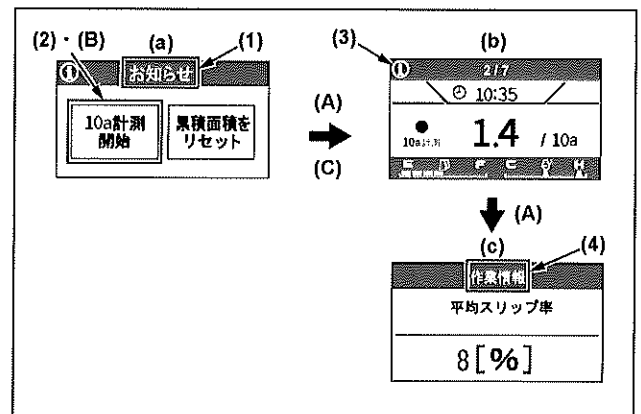


- (1) 累積作業面積 (2) 時計 (現在の時刻を表示)

補足：

- 時刻は GPS 受信状態ですれが発生する場合があります。
- メイン画面：[作業面積] の表示状態は、累積の作業面積と現在の時刻を表示します。

2. 画面に表示されるお知らせ内容に従ってマルチスイッチで操作します。



- (1) 表題 [お知らせ] (A) 画面移動
(2) 選択画面 [10a 計測開始] (B) 選択してマルチスイッチを
(3) お知らせマーク 押す
(4) 表題 [作業情報] (C) 10a 計測を開始

補足：

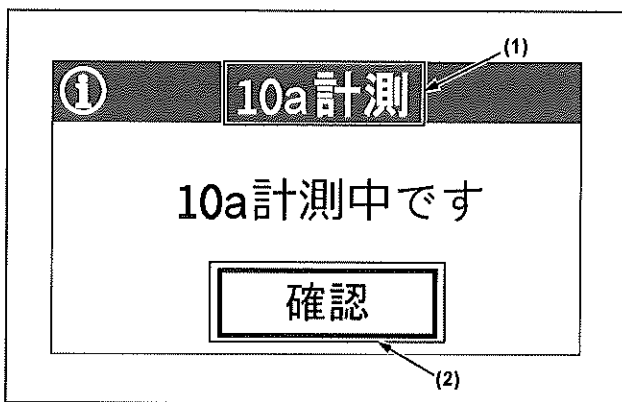
- お知らせ画面の [平均スリップ率] (表題 [作業情報]) は 3 秒後にメイン画面：[作業面積] を表示します。

- a. マルチスイッチのダイヤルでお知らせの選択画面 [10a 計測開始] を選択し、マルチスイッチを押します。
- b. 10a の作業面積計測が開始すると同時に、お知らせの表題 [10a 計測] の [10a 計測中] を表示します。このとき、お知らせマークが点灯します。

- c. 10a の作業面積計測が終了すると、お知らせ画面【10a 作業が終了しました 苗・肥料を確認してください】を表示し、ブザーが鳴りますので、苗や肥料の使用状況を確認します。このとき、マルチスイッチで選択画面の【確認】を押すと、メイン画面：【作業面積】の表示画面に戻ります。

補足：

- 10a の作業面積計測中は、お知らせの表題【10a 計測】の【10a 計測中です】が格納されていますのでメイン画面：【お知らせ】で確認してください。また、マルチスイッチで選択画面の【確認】を押すと、10a 計測が終了するまで再度格納されます。

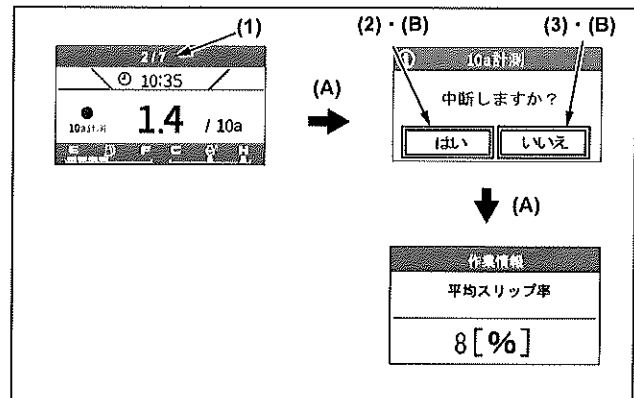


(1) 表題【10a 計測開始】 (2) 選択画面【確認】

- 10a の作業面積計測中にエンジンが停止した場合、エンジンを再始動すると、エンジンが停止した状態から継続して計測します。
- 累積面積のリセット、10a の作業面積計測中に計測を中断するときは、以下の手順で操作してください。

※ 10a の作業面積計測中に計測中断する場合

- 10a の作業面積計測中に計測を中断するときは、メイン画面：【作業面積】の表示状態で、マルチスイッチを押したあと、以下の手順で 10a 計測を中断してください。



(1) 表示画面：【10a 計測】 (A) 画面移動
 (2) 選択画面【はい】 (B) 選択してマルチスイッチを押す
 (3) 選択画面【いいえ】

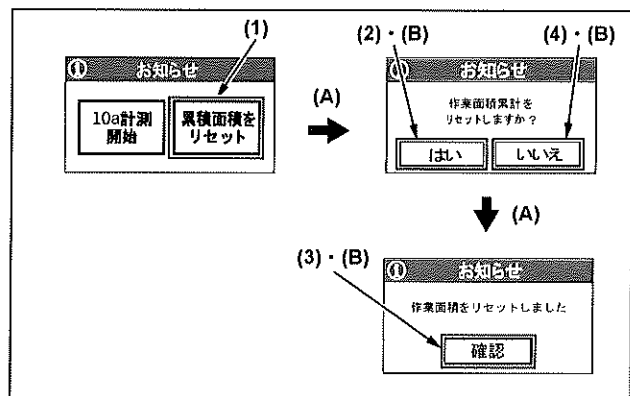
- 選択画面【中断しますか?】の【いいえ】を押すと表示画面の【10a 計測】を表示します。

補足：

- お知らせ画面の【平均スリップ率】(表題【作業情報】)は 3 秒後にメイン画面：【作業面積】を表示します。

※ 作業面積をリセットする場合

- 累積面積のリセットを行うときは、マルチスイッチで選択画面【累積面積のリセット】を選択し、マルチスイッチを押したあと、以下の手順で累積面積のリセットを行ってください。



(1) 選択画面【累積面積をリセット】 (A) 画面移動
 (2) 選択画面【はい】 (B) 選択してマルチスイッチを押す
 (3) 選択画面【確認】
 (4) 選択画面【いいえ】

- 選択画面【作業面積累計をリセットしますか?】の【いいえ】を押すとメイン画面：【作業面積】を表示します。
- 選択画面【作業面積をリセットしました】の【確認】を押すか、3 秒間放置後に、メイン画面：【作業面積】を表示します。

施肥作業

1. ほ場と肥料について

ほ場や肥料が施肥作業に適さなければ、苗が正常に発育しないことがありますので、施肥機に合ったほ場条件や肥料を使用してください。

1.1 施肥作業時のほ場条件

施肥作業を行うとき、田植作業のほ場条件と合わせて以下の事項を守ってください。

1. 夾雑物（わら、刈株、堆肥、雑草など）は施肥田植え時の障害になるので、耕うん・代かき時に下層部に埋込むようにしてください。

補足：

- 耕うん・代かき装置は購入先とご相談のうえ、夾雑物を下層に埋込む働きができる機種を選んで使用してください。
- 夾雑物が表層部（地表面～深さ 8 cm 程度の範囲）にあると、作溝器、ふく土板に引っ掛かって、施肥ムラ（生育ムラ）をおこすおそれがあります。
- 収穫時コンバインのカッターで、わらを切断散布したときは、その上に石灰窒素を散布して秋のうちによくスキ込んで、腐らせておくようにしてください。

2. 耕うん・代かき時の化学肥料の基肥散布は、絶対にしなないでください。

補足：

- 基肥を全層施肥と側条施肥に分施する農法を行う場合には、その指定要領に従ってください。

3. ほ場の深さは、10 cm～25 cm が適しています。30 cm 以上（補助車輪の場合は 35 cm）の深さでは使用できません。
4. 代かき時の均平度をよくして、地表面からの水深が、なるべく一定になるようにしてください。代かき後、田面に凹凸がある場合は凸の部分が水面から露出していると土壌硬度が硬くなるので、充分湛水して、地表面の凹凸にかかわらず土の硬さを一定に保つようにし、田植えの直前に充分落水するようにしてください。

補足：

- 土壌の硬軟差が大きいとふく土性能に影響します。

5. 作業時の水の深さは、浅水とし 0.5 cm～2 cm 程度が適当です。
 - a. 田面の水が皆無（水深 0 cm）の場合には作業が困難ですから必ず走り水をしてください。水が皆無の場合には下記のような現象が起こります。

- 作溝器に泥詰まりを生じ、肥料が詰まって無施肥区ができ、生育ムラの原因となります。
- 車輪による泥のかき上げやフロートの泥押しを生じます。

- b. 田面の水が多すぎる（水深 2 cm 以上）場合には、作溝器内の上部やホース内に水が浸入し肥料の落下状態が悪くなり、所定の深さに埋設できなくなります。また肥料詰まりや肥料詰まり予知センサの誤作動も発生しやすくなります。
6. ほ場の土の硬さは泥を指でかいてみて跡が少しふさがれる程度が適当です。
 - a. ほ場の土壌硬度（125 g のサゲフリを地表面上 1 m の高さから落下させて、地表面から土中に入った深さ）は 7 cm～18 cm の範囲内とします。
 - b. ほ場が軟かすぎるとフロートによる泥押しのため隣接条間の確保が困難になるばかりでなく、植付姿勢も乱れます。
 - c. ほ場が硬すぎると車輪のスリップが増し、株間が狭くなるばかりでなく、作溝施肥跡のふく土が不完全となり、肥料溶出のおそれがあります。

補足：

- 特殊な条件のほ場（基盤整備直後の田や温田など）では、作業に支障をきたすことがありますので、あらかじめ購入先の技術員にご相談ください。

1.2 肥料について

1. 肥料は市販の粒状肥料の中から施肥作業に適したものを選んでください。

重要

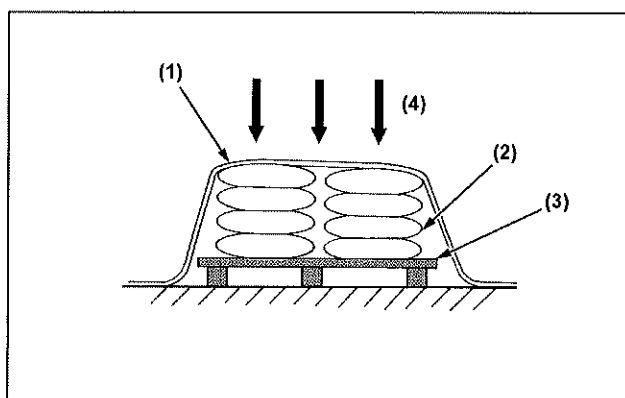
- 施肥作業に適さない肥料を使用した場合は、以下のような不具合が発生することがあります。
 - － 肥料詰まりにより施肥機の故障が発生する。
 - － 繰出精度が不良となり施肥量に誤差が生じる。
 - － 肥料詰まりや施肥ムラが生じる。
- 市販されている側条施肥田植機専用肥料を使用してください。また、使用する肥料は以下の表を参考にして吸湿性の少ない肥料を選定してください。

吸湿性の少ない	吸湿性の多い
<ul style="list-style-type: none"> • 硫安系化成 • 硫化磷安系高度化成 • 塩化磷安系高度化成 • IB 化成 	<ul style="list-style-type: none"> • 尿素系高度普通化成 • 硝安系高度普通化成 • CDU 化成

2. 肥料は開封していない新しい物または、粉末の少ない物を使用してください。
3. 湿気を帯びた肥料や長期保存していた肥料は、使用を避けてください。

補足：

- 雨天時、肥料や肥料袋がぬれないように台の上
に肥料を置き、上からシートを掛けてください。



- (1) シート
- (2) 肥料
- (3) 台
- (4) 雨

4. ホッパに肥料を補給するときは、ふるい網を通してください。

1.2.1 一発肥料使用時の注意

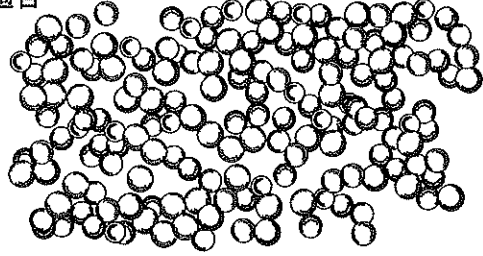
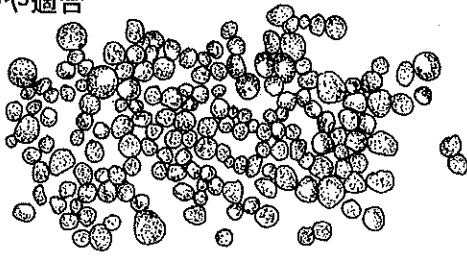
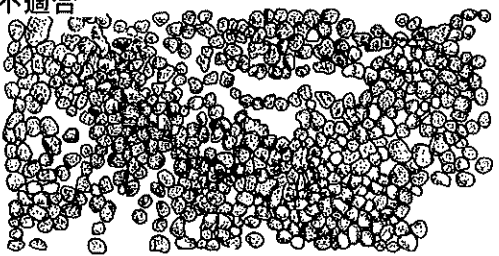
一発肥料をご使用の際は、以下の項目をご確認のうえ、あらかじめ農業改良普所などの農業指導機関と良くご相談し、適切な施肥設計に基づいた肥培管理を行ってください。

重要

- 以下のような肥料は、肥料詰まりの原因となるため使用しないでください。
 - 湿気を帯びた肥料や粉の出やすい肥料
 - 砕けにくく硬い粒と砕けやすく柔らかい粒がブレンドされた肥料
 - 粒の形状が不揃いな肥料や手でつまんだときに砕けやすい肥料

補足：

- 施肥作業を行うときは、毎回計量を行って計量値を確認してください。(118 ページ参照) 施肥量が調節されずに目標値からずれが発生する場合があります。
- 被覆肥料の溶出は施肥後の気温変化によって大きく左右されます。また、品種、土壌の影響も受けることがあります。例えば、平年より暑い日が続くと早く溶出が終了するため、過繁茂になったり、肥料切れによって予期せぬ追肥が必要になったりすることがあります。
- 同じ銘柄の肥料でも年毎に特性が変化する場合があります。作業前に必ず以下の表を参照して肥料の特性の確認や計量を行ってください。

使用可否 の目安	粒の特性				見本 (実物大)
	硬さ	大きさ	形状	ばらつき	
○ 適合	硬い *1	2 ~ 4 mm	円形	少ない	○ 適合 
↑	↑	↑	↑	↑	△ やや適合 
↓	↓	↓	↓	↓	× 不適合 
× 不適合	柔らかい *2	2 mm 以下	角形	多い	

*1 保湿性が低く、べとべとしない。

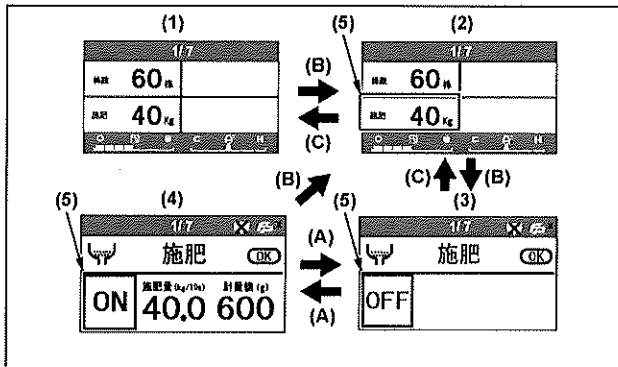
*2 保湿性が高く、べとべとする。

2. 施肥作業前の準備

警告

- 平坦な場所で行ってください。

1. メイン画面：【作業条件】の【施肥】選択画面で【OFF】（施肥全条停止）を選択しているときは、マルチスイッチを操作して、【施肥】選択画面の【ON】を選択したあと、施肥量を設定します。（118～121 ページ参照）



- (1) メイン画面：【作業条件】画 (A) マルチスイッチを回して選画面（4分割画面）
- (2) 施肥選択画面 (B) マルチスイッチを押す
- (3) 施肥【OFF】画面 (C) 戻るスイッチを押す
- (4) 施肥【ON】画面
- (5) 水色の枠（選択枠）

補足：

- 戻るスイッチを押すと、前の画面に戻ります。
- 施肥を全条停止するときは、選択画面の【ON】を【OFF】に変更してください。

2. 各部の点検を行い、汚れや詰まりがあるときは、掃除を行います。（132～135 ページ参照）また、破損や摩耗があるときは、交換を行ってください。（141～143 ページ参照）

重要

- 雨天時に作業を行ったあと長時間放置すると肥料が固着し、翌日以降の施肥作業に異常が発生（施肥がされないなど）するおそれがあります。

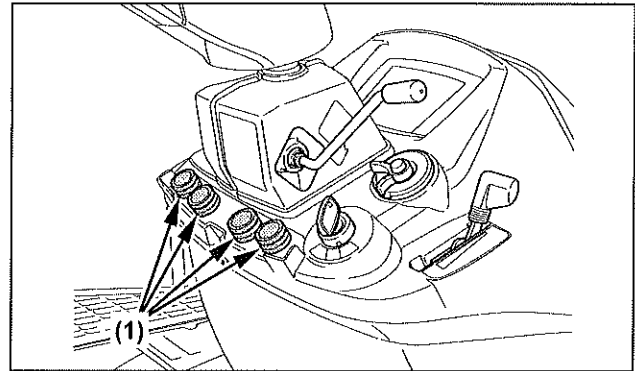
補足：

- ロールやブラシ、肥料搬送の各ダクトを取り外して掃除やブラシの点検などを行ったときは、エアもれが発生しないように正しく取り付けてください。（130～140 ページ参照）

3. 以下の項目に異常がないか点検・確認し、異常があれば正しく取り付け各部を作業状態にします。

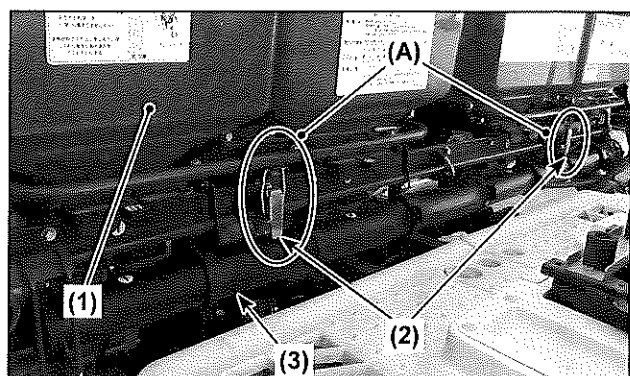
補足：

- 各部品はエアもれが発生しないように正しく取り付けてください。
- a. 各あぜぎわスイッチが【入】状態（スイッチのランプが消灯している）になっているか全条確認します。



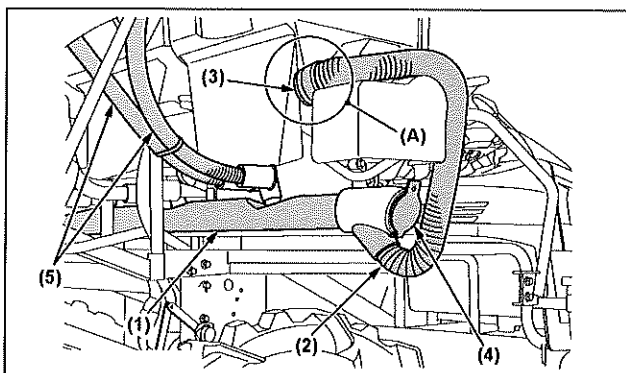
(1) あぜぎわスイッチ

- b. ホッパ開閉ロック金具がロック状態にあることを確認します。
- c. 各ホース、各ダクトが正しく接続されているか確認します。
- d. 残肥排出ホースの排出側に取り付けている排出ホースを固定する長穴のゴム部が、収納金具に掛けられていることを確認します。
- e. エア抜きキャップのふたが閉じているか確認します。
- f. 残肥排出ホースが収納状態でふたが閉じているか確認します。

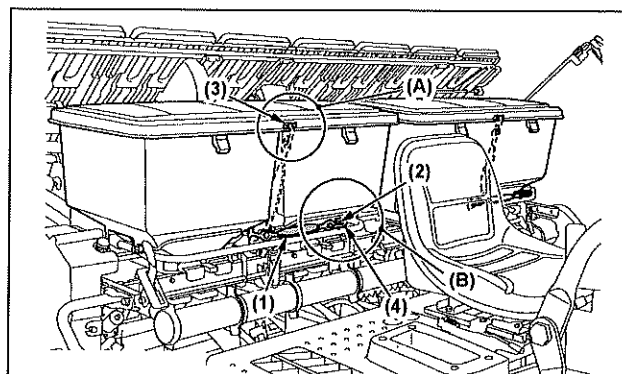


(1) ホッパ
(2) ロック金具
(3) ダクト

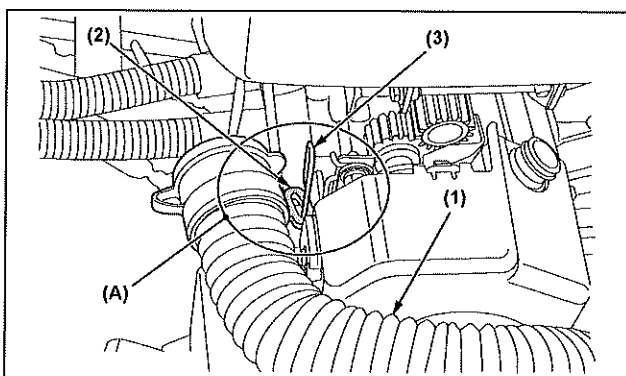
(A) ロック状態



- (1) 残肥排出ダクト
 - (2) 残肥排出ホース
 - (3) 残肥排出ホースキャップ
 - (4) エア抜きキャップ
 - (5) 施肥ホース
- (A) 収納状態



- (1) ゴムバンド
 - (2) ピン
 - (3) フック部
 - (4) 金具
- (A) 金具をフック部から外す
(B) 金具をピンに引っ掛ける

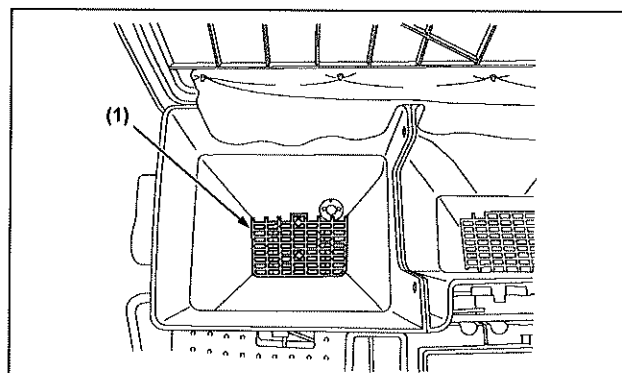


- (1) 残肥排出ホース
 - (2) 長穴のゴム部
 - (3) 収納金具
- (A) 収納状態

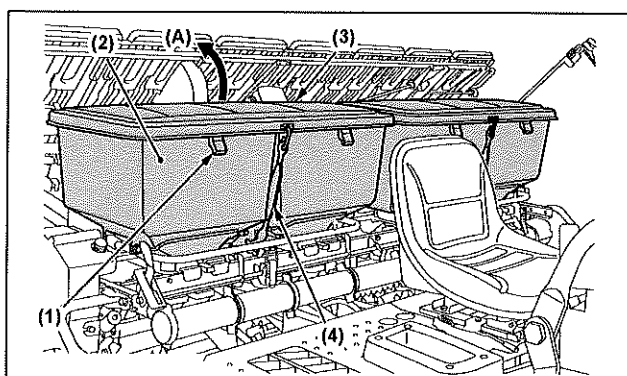
重要

- フックを片方だけ外して無理に開けると、もう片方のフック部やふたが破損することがあります。
- ホツパ内には肥料以外のものは入れないでください。また、ホツパ、カバー（ホツパ）に強い力をかけないでください。破損の原因になります。
- ネットを取り外した状態では肥料を入れないでください。肥料のかたまりがロール溝に入り、詰まりの原因になります。

4. 施肥量を決めて、繰出量を調節します。
(118～121 ページ参照)
5. ゴムバンドを取り外したあと、左、右2箇所
のフックを外し、ホツパのふたを開いて肥料を入
れます。



- (1) ネット



- (1) フック
 - (2) ホツパ
 - (3) ふた
 - (4) ゴムバンド
- (A) 開ける

補足：

- ゴムバンドをフック部から取り外したあと、収納位置のピンに金具を引っ掛けて収納状態にしてください。

重要

- 肥料が原因で目詰まりを起こし、成育ムラが生じないようにするため以下の事項に注意してください。
 - ネットに残った大きな肥料は取除く。
 - ホツパ内に雨水や掃除時に水が入らないようにする。
 - 連日の作業を行うときでも必ず肥料を排出する。
 - 1 晩置いて露が発生したときは、ホツパ内、ネット、ロール部の露を拭取る。

重要

- 開封後しばらくして湿気を吸った肥料で、固まったものは使用しない。
- 運搬時にホッパ内の肥料は空にする。(振動により目詰まりが発生することがあるため)
- ロール溝に肥料粉が付着しているときは、必ず掃除してください。

補足：

- 重さ (kg) は肥料の種類によって異なる場合がありますが、ホッパ容量 (L) は以下の通りです。

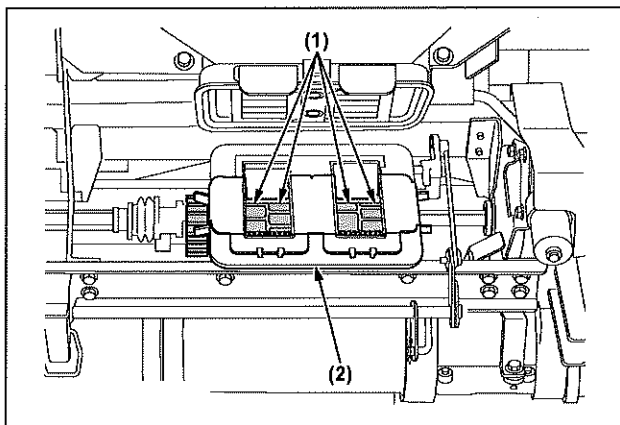
ホッパ容量	120 L (約 108 kg)
-------	---------------------

6. エンジンを始動し、ブロワ、各ダクト、各ホースの接続部からエアもれしていないか確認します。

補足：

- エアもれしていると、詰まりの原因になります。

7. ロール溝、ロールケース内部に肥料が付着していないか確認してください。

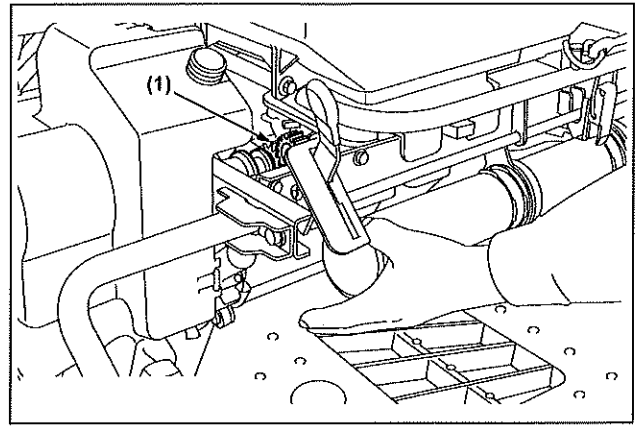


(1) ロール溝
(2) ロールケース

3. 施肥作業のしかた

警告

- 施肥作業中は回転駆動部に触れないように注意してください。
- 施肥機が破損するおそれがあるため、肥料や苗の補給作業中に施肥機にもたれるなどして体重を掛けないでください。施肥機が破損するとケガをするおそれがあります。



(1) 回転駆動部

エンジンを始動すると同時にブロワが回転し、十字ポンパレバーの操作で植付クラッチを【入】にすると、苗の植付クラッチが【入】の状態になると同時に施肥モータが車速と連動して回転する状態になります。また、ブロワはエンジン回転中は、常時回転します。(植付部最上昇位置のとき、メイン画面:【作業条件】の【施肥】選択画面で【OFF】(施肥全条停止)を選択しているときブロワは停止します。)

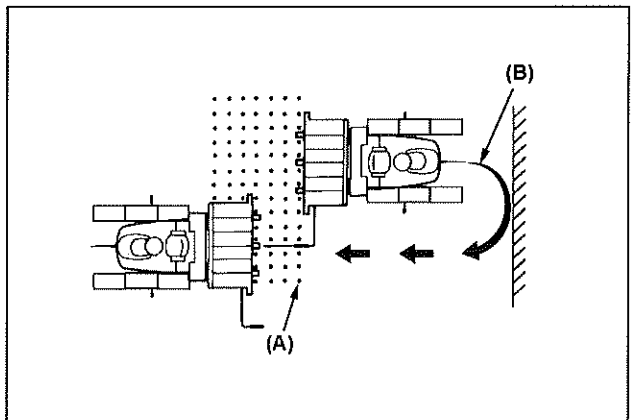
施肥ムラ(成育ムラ)の防止

施肥ムラがあると、苗の成長異常となりますので以下の事項に注意してください。

1. 植付始めは低速で行ってください。

重要

- 施肥始めは、植付始めより、少し遅れる傾向となります。
- 高速で植付けを始めると施肥遅れが顕著になり施肥ムラが発生します。
- 主変速の2速、3速(2、3ノッチ)くらいで、植付けを始めたほうが施肥効果が安定します。



(A) 植付始めは低速で
(B) 旋回はゆっくりと

2. 必ず減速してから停止してください。急停止すると多肥になる場合があります。
3. 植付速度は一定の速さで、真直ぐ行ってください。施肥ムラや覆土異常の原因となります。
4. 枕地の植付や変形田での植付時、交差植えや無植箇所を少なくしてください。多肥になったり、肥料がムダになる場合があります。
5. 肥料切れのセンサが点灯したら早目に肥料を補給してください。
6. 肥料は側条施肥専用のものを使用してください。吸湿性の多い肥料、やわらかい肥料、不揃いの肥料は使用しないでください。詰まりの原因となります。
7. 田面に水気が無く硬くなっている場合は、ふく土がされにくいので、田植作業に適したほ場条件で作業を行ってください。

施肥作業中の確認

作業中のふく土状態やホッパ内の肥料の減り具合がいつもと比べて異常がないか確認し、処置をします。

重要

- 植付部を降ろした状態で旋回すると作溝器の破損の原因となったり、詰まりの原因となります。

補足：

- 蛇行運転をすると、ふく土が正しくされないことがあります。
- ほ場では植付部を下げた状態で長時間放置しないでください。肥料が湿気を帯びると肥料詰まりの原因となります。

肥料の補給のしかた

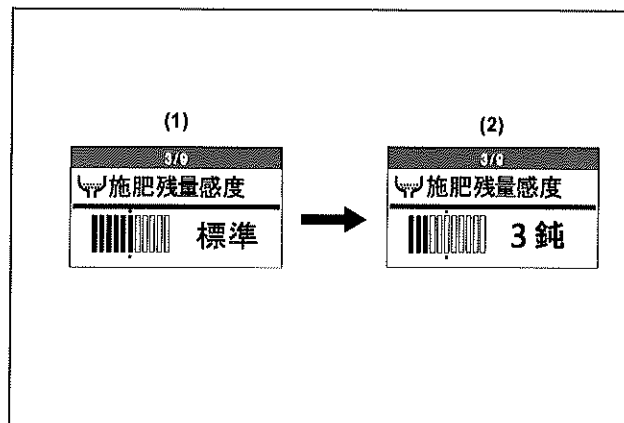
肥料の残量が少なくなり、メインパネルの苗切れモニタのランプが点滅すると同時にお知らせ音が鳴り、液晶モニタに「[切れ] 肥料を補給してください」を告知します。お知らせ音が鳴ったときは、早目に肥料を補給してください。

補足：

- お知らせ音は断続で8回鳴ったあと停止し、肥料を補給すると肥料切れモニタのランプは消灯します。
- 肥料を補給するときは苗の補給と同じ要領で停止し、なるべく枕地で行ってください。
- 肥料の種類やホッパ内の状態により、ホッパ内に肥料が充分入っていてもお知らせを告知する場合があります。このような場合はホッパ内に肥料が充分入っていることを確認したあと、マルチスイッチを操作して液晶モニタのメイン画面：[機能設定]

の【施肥残量感度】を【鈍】側（鈍感）の方向に調節して作業を続けてください。

※イラストは【標準】から鈍感方向に調整した場合



(1) 施肥残量感度：[標準]

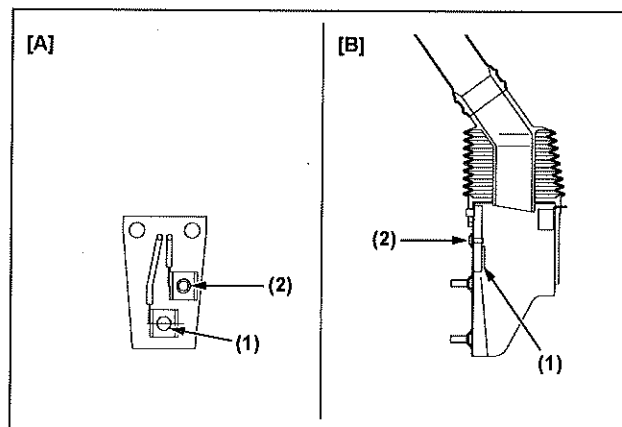
(2) 施肥残量感度：[3 鈍]

- 周囲が暗くなると残量センサの反応が鈍くなるため、センサ感度を敏感側に調整してください。

肥料詰まりの予知センサについて

肥料詰まり予知センサは、作溝器内に泥水や小粒肥料、肥料粉などの異物が付着して発生する肥料詰まりを予知するセンサです。作溝器内に肥料などの付着が発生すると、センサがはたらき、メインパネルの肥料詰まりモニタのランプが点滅すると同時にお知らせ音が鳴り、液晶モニタに「[詰まり] 条ごとに確認してください」を告知します。お知らせ音が鳴ったときは、作溝器内の異物を取除き、全条の作溝器の点検と掃除を行ってください。

肥料詰まりの予知センサについて



(1) (+) 電極

(2) (-) 電極

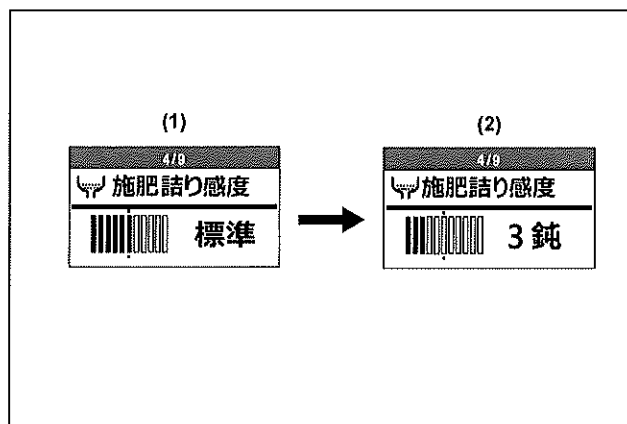
[A] 正面

[B] 側面

補足：

- 深水ほ場で、苗補給や肥料補給などで一時停止したときに、肥料が詰まっていないのに警報がでる場合があります。点検して、詰まっていなければマルチスイッチを操作して液晶モニタのメイン画面：[機能設定] の [施肥詰り感度] を [鈍] 側（鈍感）の方向に調節して作業を続けてください。

※イラストは [標準] から鈍感方向に調整した場合



(1) 施肥詰り感度：[標準]

(2) 施肥詰り感度：[3 鈍]

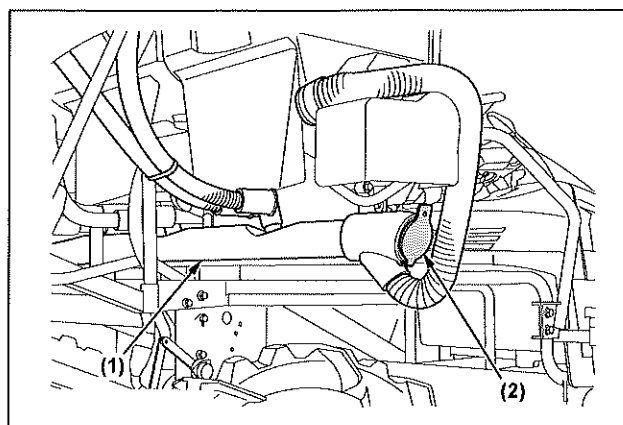
- 乾いた肥料がセンサ付近に付着しても警報が出ない場合があります。ときどき、作溝器内を点検してください。
- 作溝器内の後側（センサと反対側）に肥料が付着しても警報が出ない場合があります。
- ほ場の水位が高いほど予知センサがはたらきやすくなりますので注意してください。

4. ホツパ内の肥料の排出のしかた

警告

- 平たんな場所で行ってください。
- 肥料の排出を行うときは、エア抜き口をのぞいたり、エア抜き口の前に立たないでください。肥料の粒や粉が噴出して思わぬ事故に繋がるおそれがあります。

1. 残肥排出ダクトの右端にあるエア抜きキャップを外します。



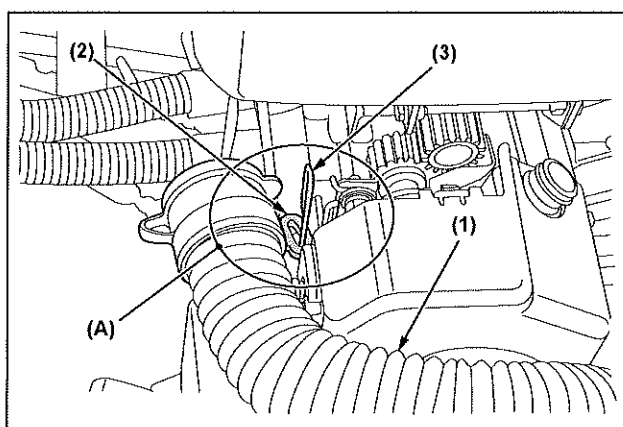
(1) 残肥排出ダクト

(2) エア抜きキャップ

補足：

- エア抜きキャップを残肥排出ダクトから外し忘れると、残肥排出時に送風での搬送が悪くなり肥料が滞留する場合があります。

2. 空の肥料袋などの肥料受けを準備します。
3. 収納金具に取り付けている残肥排出ホースの長穴のゴム部を外して残肥排出ホースを外します。



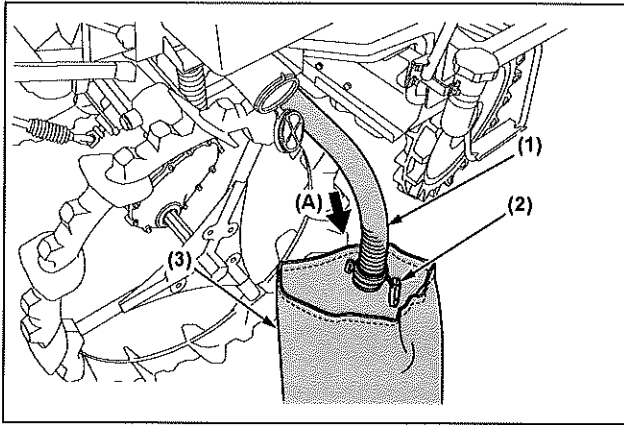
(1) 残肥排出ホース

(A) 残肥排出ホースを外す

(2) 長穴のゴム部

(3) 収納金具

4. 残肥排出ホースを収納位置から取り外し、残肥料排出ホースのキャップを外したあと、空の肥料袋などの肥料受けにホースを伸ばします。

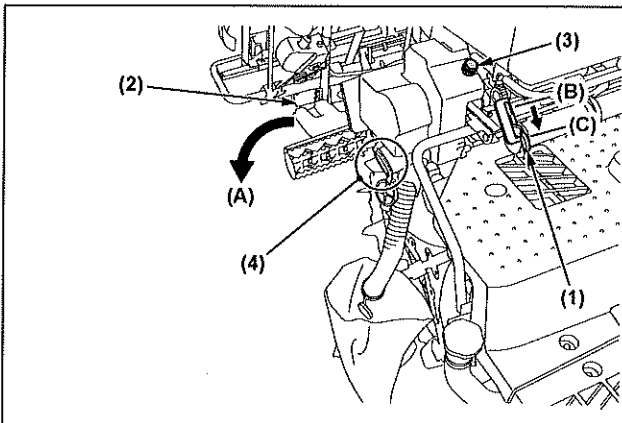


(1) 残肥排出ホース (A) 伸ばす
 (2) 残肥排出ホースのキャップ
 (3) 空の肥料袋など

補足：

- 空の肥料袋などの肥料受けは残量が入る大きさのものを選んでください。また、肥料排出中に肥料受けがいっぱいになると新しい肥料受けに交換してください。

5. エンジンを始動したあと、十字ポンパレバーを操作して、植付部をプロフが始動するまで少し下げます。
6. 残肥排出レバーを「排出」位置にすると、残肥を排出します。

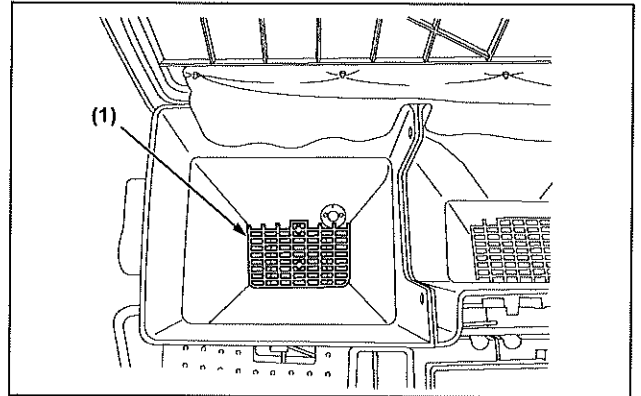


(1) 残肥排出レバー (A) プロフが始動するまで植付部を少し下げる
 (2) 植付部 (B) 【施肥】位置
 (3) 計量ボタン (C) 【排出】位置
 (4) エア抜き口

補足：

- 肥料の排出中は、残肥排出ホースの先端部が肥料に埋もれないように注意してください。
- 洗車後はダクト内に水がたまっていることがありますので注意してください。また、排出ダクト内で肥料が滞留すると、肥料の流れが悪くなります。
- ホッパ内の肥料を全て抜いたあと、残肥排出レバーを「施肥」位置にし、計量ボタンを押すと（ランプ点灯）、ロール内の肥料が作溝器から排出されます。

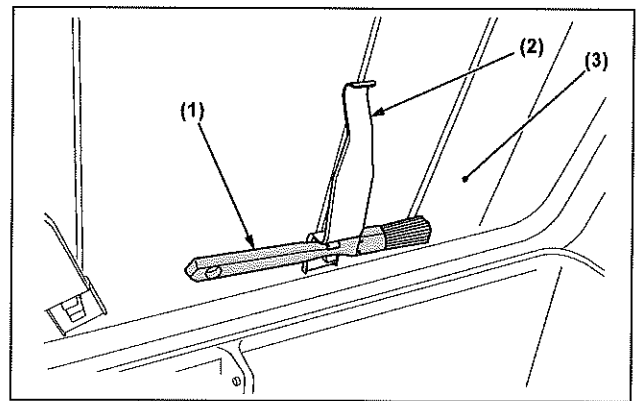
7. 排出が終わるとホッパを開き、ネットの上に肥料や異物が残っている場合は取除き、ネットを取り外して、付属の掃除ブラシでホッパ、ロールケース内の掃除をします。



(1) ネット

補足：

- ロール溝内に肥料がのこっていると湿気などで固まり、目詰まりの原因となります。
- ロール溝内やブラシの毛の中に肥料や肥料粉が残ったまま作業を続けると、施肥量が変わるなどの異常が発生するおそれがあります。
- 掃除ブラシは出荷時、ホッパのふたの裏側に取り付けています。なくさないように保管してください。



(1) 掃除ブラシ (3) ふた
 (2) 空の肥料袋おさえ

8. ネットを取り付けたあと、ホッパを閉じて残肥排出レバーを「施肥」位置にします。
9. 排出した肥料の袋の口を閉じたあと、残肥排出ホースを収納位置に取り付けます。このとき、収納時の残肥排出ホースを固定するゴム部をフックに掛けて固定します。
10. 残肥排出ホースのキャップおよびエア抜きキャップを取り付けそれぞれふたをします。

重要

- 肥料にはさびを発生させる成分が含まれているため、1日の作業が終わったあとは肥料を排出して水洗いを充分行ってください。特にエア抜き、植付フレーム、および植付ケース各周辺(132～135ページ参照)は必ず行ってください。
- 残肥排出ホースは確実に収納して固定してください。収納金具から長穴のゴム部が外れていると、排出ホースが破損するおそれがあります。

水洗装置の使いかた

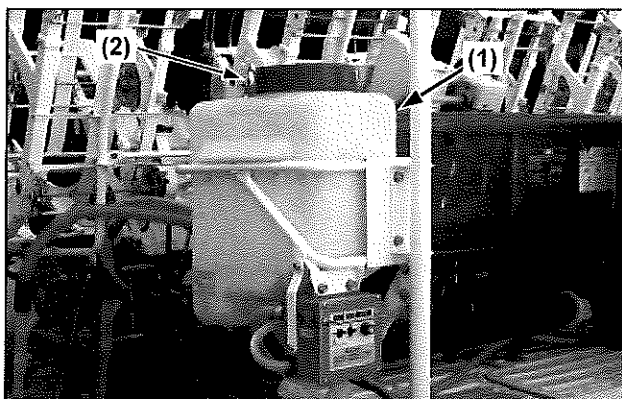
重要

- 水洗装置は田植機の苗のせ台・苗受・ロック板・タイミングベルトなどに泥が堆積して植付不調となることを防止するための装置ですが、散水量は少量であることから、苗の水分が不足している場合には十分な効果が得られません。
- 苗・ポットに充分、水が浸透している状態で使用した時、少量の水を補給することによって泥の堆積を最小限にすることができます。苗は必ずしっかりぬらしてから使用してください。
- タンク入口にこし網とポンプ入口に高性能なる過フィルタを設けて水中のゴミを除くようにしておりますが、タンクに入れて使用する水は水道水、またはできるだけ清浄な水路の水を使用してください。ひどくにごった水・ゴミの多い水・化学物質を含んだ水を使用すると、フィルター・散水管の目詰まり、内部の腐食などをおこすおそれがあります。
- 電源スイッチを[ON]にしておけば、田植作業に伴い自動的にポンプが作動します(植付クラッチが[切]の時は作動しません)ので枕地旋回、苗補給の時もスイッチを切る必要はありません。

1. 左右両側のタンクのふたを回して外し、水道水、または清浄な水路水を入れます。

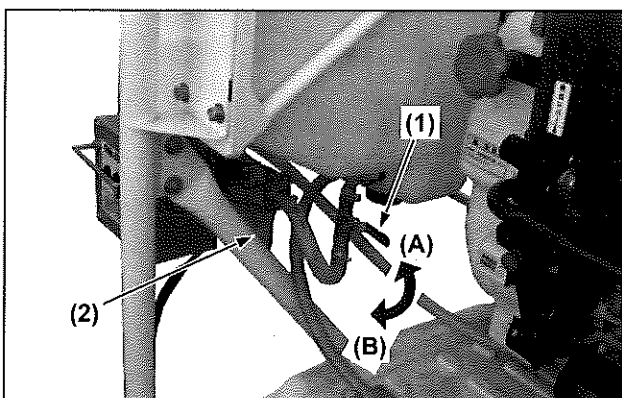
補足：

- タンク容量は左右合わせて48リットル入り、調量ダイヤルの位置、植付速度によって約50～200a程度使用できます。
- 左右のタンクはホースで連結されています。



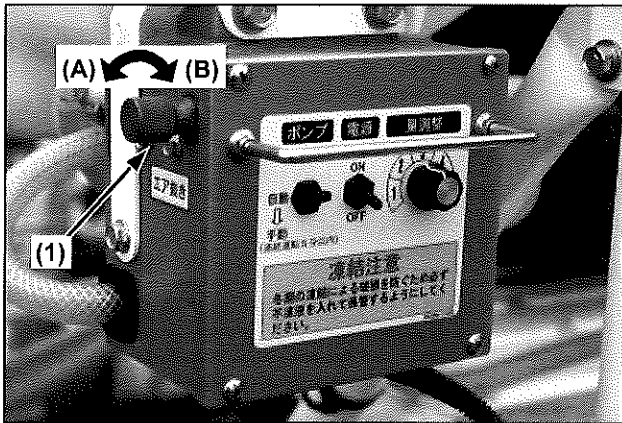
(1) タンク
(2) ふた

2. 右側タンク下部のバルブを[開]にし、フィルターカップをゆるめて、水があふれてきたら、しっかりと締め付けます。



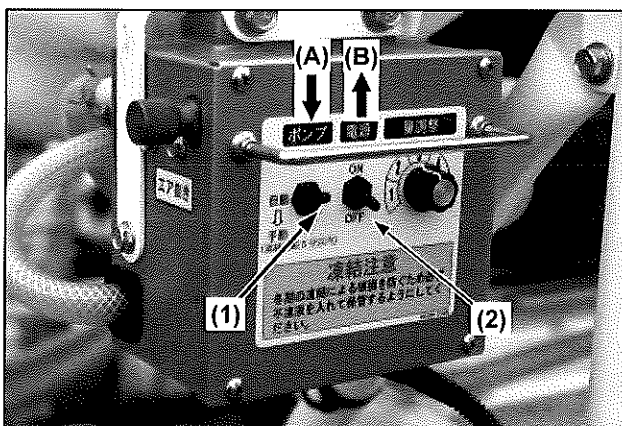
(1) バルブ (A) 閉じる (B) 開く
(2) フィルターカップ

3. ポンプケース右側のエア抜きキャップをゆるめて穴から水が出るようにします。



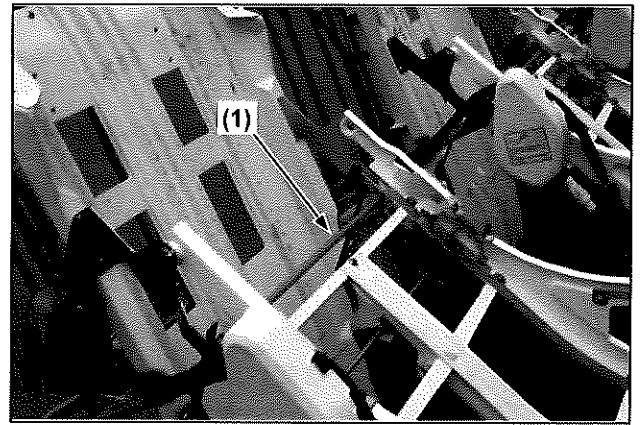
(1) エア抜きキャップ (A) ゆるめる (B) 締める

4. 田植機のエンジンを始動し、十字ポンパレバーで植付クラッチを【入】にします。
 5. ポンプケースの電源スイッチを【ON】(入)にします。
 6. ポンプケースのポンプスイッチを【手動】にして、エア抜きの穴から勢いよく連続して水が出て、完全にエア抜きができたことを確認して、ポンプスイッチを【自動】に戻します。



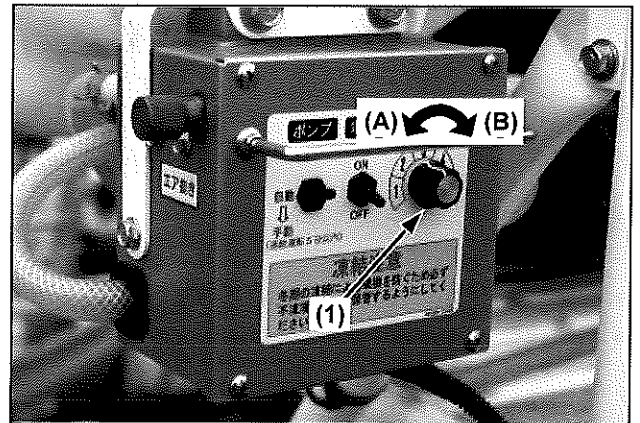
(1) ポンプスイッチ (A) 【手動】
 (2) 電源スイッチ (B) 【ON】(入)

7. エア抜きキャップをしっかりと締め付けたあと、再度ポンプスイッチを【手動】にして散水管まで水を送ります。
 8. 各植付部の散水管から安定して水が出るようになれば準備完了です。



(1) 散水管

9. 調量ダイヤルを調節して適当な位置で使用します。
 ダイヤル左端【1】のとき
 …ポンプが0.5秒作動し6秒停止します。
 ダイヤル右端【5】のとき
 …ポンプが2秒作動し6秒停止します。



(1) 調量ダイヤル (A) 【1】 少ない (B) 【5】 多い

重要

- ポンプの手動連続運転は5分以内にしてください。さらに続ける場合は、5分以上休んでからにしてください。
- タンクに水のない状態での空運転は絶対に避け、水が少なくなったら早めに補給するようにしてください。空運転を続けるとポンプが破損するおそれがあります。

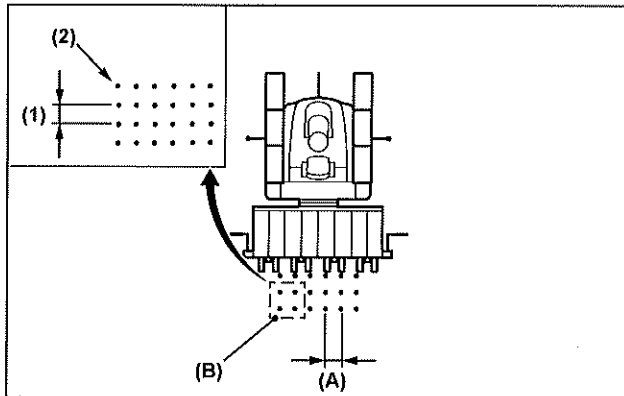
作業に合わせた各部の調節・調整のしかた

⚠ 警告

- 平たんな場所で行ってください。

1. 植付株数の調節

植付株数は、マルチスイッチを操作して液晶モニタの画面：【作業条件】の【株数】の設定を変更して調節を行ってください。



(1) 株間 (A) 機械条間：33 cm
(2) 株 (苗) (B) 3.3 m² 内の株数

補足：

- 植付株数の調節は 10 段階あります。
- 株数は、3.3 m² 内に植え付ける苗の数です。
- 植付株数は、株間が狭くなると多くなり、株間が広がると少なくなります。

1. マルチスイッチを操作して、液晶モニタのメイン画面：【作業条件】を選択します。
2. マルチスイッチで水色枠を【株数】に選択したあと、マルチスイッチを押して確定します。
3. 株数の表示が点滅状態となり、マルチスイッチを回して以下の表を参照して株数の調節を行ないます。

※標準

株数(株/3.3m ²)	72	67	63	59	56	50	46	41	38	33
株間 (cm)	14	15	16	17	18	20	22	24	26	30

補足：

- 出荷時の株数は以下の通りです。
 - 内地仕様：63 株 / 16 cm
 - 北海道仕様：67 株 / 15 cm

2. 植付株数および苗の使用量について

10 アール (a) 苗箱 (箱) 使用量目安表

株間 (cm)	14	15	16	17	18	20	22	24	26	30
植付株数 (株/3.3m ²)	72	67	63	59	56	50	46	41	38	33
苗箱数 (10a 当たり)	48	45	42	40	38	34	31	28	26	23

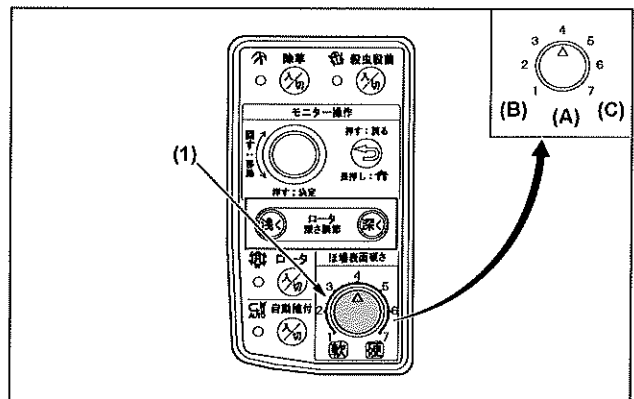
- 箱は、目安の苗箱の使用量

補足：

- 苗箱 (箱) 使用量目安表はあくまで目安です。苗箱は多めに準備してください。

3. フィットセンサダイヤルの調節

植付部の下側にあるフロートが、植付速度に応じて植付深さを一定に保つため、高速作業時にフロートの浮上りによる浅植えのないように制御していますが、ほ場の状態により、泥を押し下り、凹凸が充分整地されないときは、ダイヤルでフロートの感度調節を行ってください。調節は 7 段階行えます。



(1) フィットセンサダイヤル (A) ほ場表面硬さ
(B) 軟 (C) 硬

3.1 設定位置

ほ場状態を確認しながら、ダイヤルで下記の表を目安に感度調節を行ってください。

ほ場状態		フィットセンサダイヤル設定位置
軟い ↑	トロトロした状態で、泥押しをする。	1～3
	整地も良く、泥押しが少ない。	4
硬い ↓	硬くて整地が悪い。	5～6
	凹凸が激しく、荒れている (車輪跡または足跡が残る)。	7

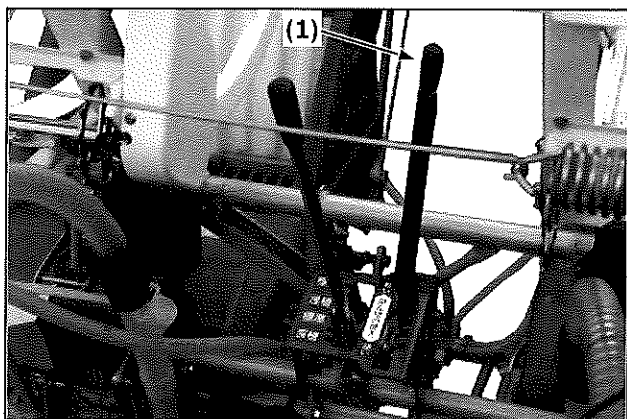
補足：

- 調整を行ったときは、植付深さの調節も同時に行ってください。

4. 油圧感度調節レバーの調節

フィットセンサダイヤルを【1】に設定しても、フロートの沈下が大きく泥押しをする軟らかいほ場の場合、逆により強くフロートで整地を行ないたい場合に調節を行なってください。

1. エンジンを始動したあと、植付部を上昇させます。
2. 油圧感度調節レバーを前後に操作して7段階の調節を行ない、切欠溝に確実にセットします。



(1) 油圧感度調節レバー

補足：

- レバーを後の溝にセットするとフロートが浮き上がり易くなり、前の溝にセットするとフロートが、ほ場表面をしっかりと押し付けるようになります。

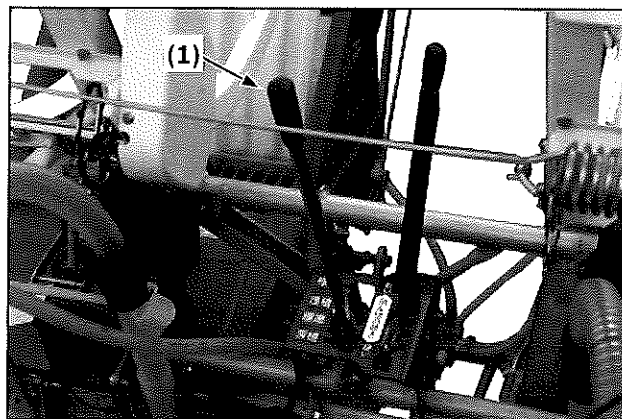
重要

- 側条施肥の作溝器を土中に押し込むため、フロートを一定以上の荷重で押し付ける必要があります。一番【軟い】位置では表土が少しでも硬めの場所にくるとフロートが浮き上がり、ころび苗となります。【硬い】側へ調節できないときは、植付深さ調節レバーをもう一段【深い】側に調節してください。

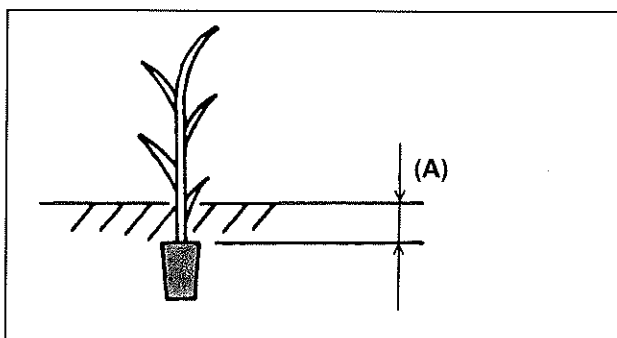
5. 植付深さの調節

ほ場や苗の条件に合わせて、苗の植付深さの調節をレバーで行なってください。調節は1～4 cmの間で7段階の中から選びます。

1. 植付部を上昇させます。
2. 植付深さ調節レバーを前後に操作して7段階の調節を行ない、切欠溝に確実にセットします。



(1) 植付深さ調節レバー



(A) 植付深さ

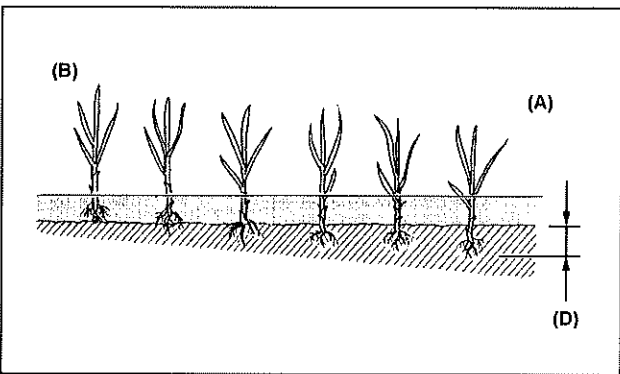
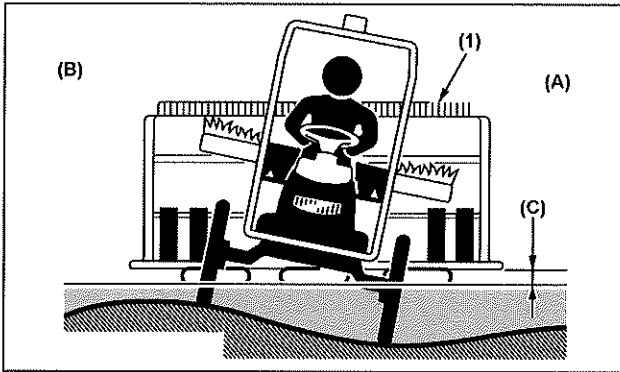
重要

- 調節をするときは、植付部を上昇させてから行なってください。
- 植付深さは必ずほ場でためし植えをして確認してください。
- 浅植えになるほど、良いほ場条件・苗条件が必要です。特に極浅位置では表土がトロトロの所や水深3cm以上の所では、浮き苗・ころび苗となり使用できません。
- 調節を行なった後、植付状態を確認し、異常があれば、整地板の高さ調節を行なってください。(117ページ参照)

6. モンローの調節

モンロー（植付部自動水平制御装置）は、機体が左、右に傾くと、自動的に植付部（苗のせ台）を水平状態に修正、保持する装置です。

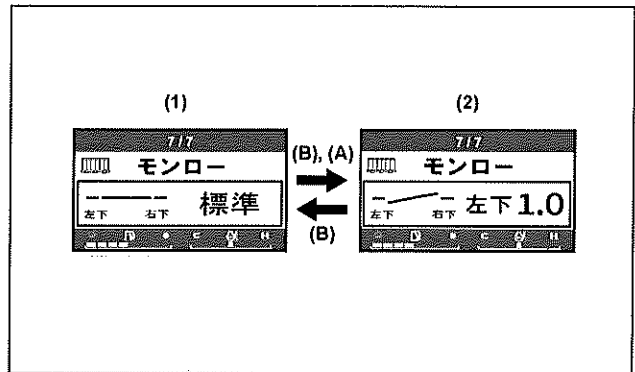
あぜぎわなどの傾斜地で、自動車体水平制御（モンロー）がはたらいていても、植付状態が左右均等にならないときは調節を行ってください。



(1) 植付部（苗のせ台）
 (A) 左
 (B) 右
 (C) 水平
 (D) 植付深さ

1. マルチスイッチを操作して、液晶モニタのメイン画面：[モンロー] を選択します。
2. マルチスイッチを押して確定します。
3. モンローの調節画面で、マルチスイッチを回して植付部の角度調節を行います。
4. マルチスイッチを押すと、植付部の角度の設定が終わります。

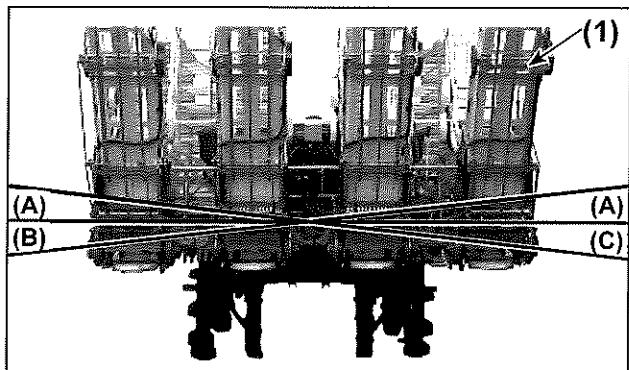
※変更例：植付部の角度 [標準] を [左下 1.0] に調節する場合



- (1) メイン画面：[モンロー] 画 (A) マルチスイッチを回して選画面（4分割画面） 択
- (2) モンロー変更画面 (B) マルチスイッチを押す

補足：

- 出荷時の植付部の角度は、[標準]（0度）です。
- 植付部は最大で左、右各約2度の角度調節ができます。
- 植付部の角度の調節は、[左下 2.0] ~ [右下 2.0] まで 21 段階あります。また、植付部の角度は約 0.2 度単位で増減します。
- 戻るスイッチを押すと、前の画面に戻ります。



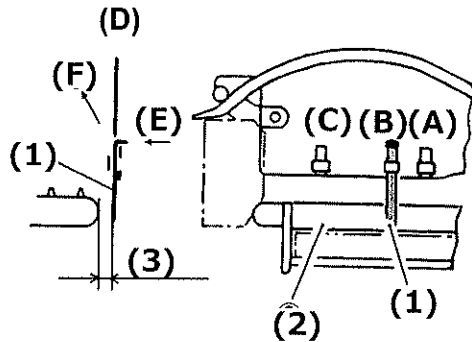
(1) 植付部
 (A) 約 2 度
 (B) 左下方向に調節
 (C) 右下方向に調節

7. 苗支持板の調節

苗支持板は植付爪で苗を取るわずかの間、苗を支持する役目をしています。

苗の丈に応じて調節を行ないます。

- ・ 苗丈が 8 cm 以下の場合は前の位置にします。
- ・ 苗丈が 8 ~ 25 cm の場合は中央の位置にします。
- ・ 苗丈が 25 cm 以上の場合は後の位置にします。



- | | |
|--------------|-----------|
| (1) 苗支持板 | (A) 前の位置 |
| (2) タイミングベルト | (B) 中央の位置 |
| (3) 1 ~ 3cm | (C) 後の位置 |
| | (D) 外し方 |
| | (E) 1- 押す |
| | (F) 2- 引く |

⚠ 注意

- ・ 苗支持板の調節はエンジンを停止し手袋をして行なってください。これを怠るとケガをするおそれがあります。

🔑 重要

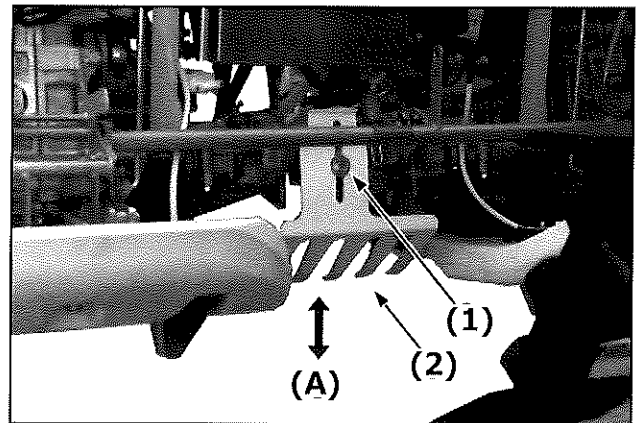
- ・ 苗支持板を何かに引っ掛けたりして大きく変形させた場合は、外して直してください。変形していると植付姿勢が悪くなります。

8. 整地板の調節

整地板は標準位置で出荷しています。

植付深さレバーの設定位置（[深植] ↔ [極浅]）やほ場状態に合わせて、高さを調節してください。

1. ボルトをゆるめます。
2. 整地板を上または下に調節します。
3. ボルトを締め付けます。
4. 同じ要領で反対側と中央の整地板を同じ高さに調節します。



- | | |
|---------|-----------|
| (1) ボルト | (A) 上下に調節 |
| (2) 整地板 | |

9. 施肥量の調節

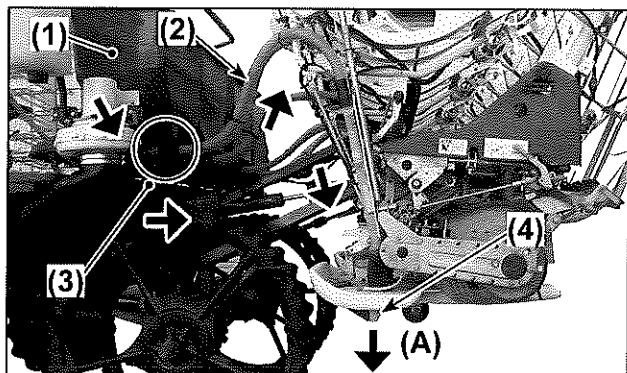
施肥量はメインパネルの【作業条件】から施肥設定量と計量値を設定します。施肥設定量は10 aあたりの施肥量を入力します。また、計量値は計量機能で測った値を入力します。

補足：

- 肥料の種類や状態により、計量値が変わることがあるため、古い肥料の使用は避けてください。また、使用する肥料を変更するときは、再度計量を行ってください。

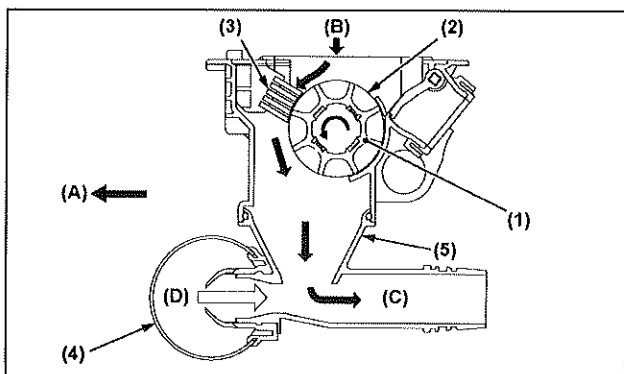
9.1 肥料の流れ

1. ホッパ内の肥料がロールケース内に入ってきます。
2. ロールケース内のロールの溝に肥料が入ります。
3. ロールが回転し、肥料が落ちます。
4. ブロワからの送風により、ロートからホースを通り作溝器から排出されます。



- (1) ホッパ (A) 排出
 (2) 施肥ホース
 (3) ロールケース
 (4) 作溝器

ロールケース内



- (1) ロール (A) 前方
 (2) ロール溝 (B) ホッパ側 (肥料)
 (3) ブラシ (C) 施肥ホース側
 (4) ダクト (D) 送風
 (5) ロート

9.2 施肥量の調節範囲

施肥量（肥料の繰出量）の調節範囲は、10 kg/10 a ~ 90 kg/10 a です。また、1 kg 単位で設定が行えます。

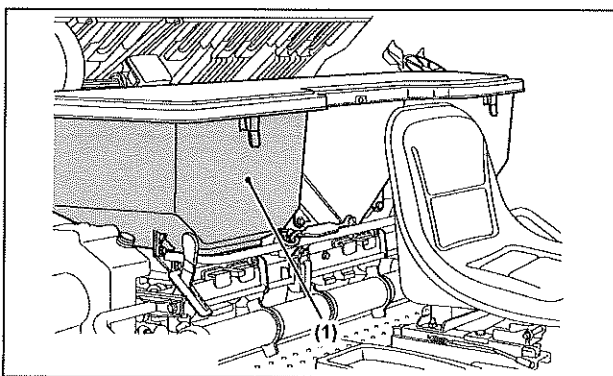
補足：

- ほ場や肥料などの条件により 80 kg/10 a ~ 90 kg/10 a の調節範囲は使用できない場合があります。
- 出荷時に取り付けている標準のロールの施肥量の調節範囲は、10 kg/10 a ~ 80 kg/10 a です。また、80 kg/10 a ~ 100 kg/10 a の調節範囲で施肥作業を行うときは、オプション部品の増量ロールを使用してください。(177 ページ参照)

1. 平たんな場所に機械を止めたあと、植付部を最上昇位置から少し下げた位置にし、エンジンを停止します。
2. 目標とする施肥量（10 a 当りに播く量）を決めます。

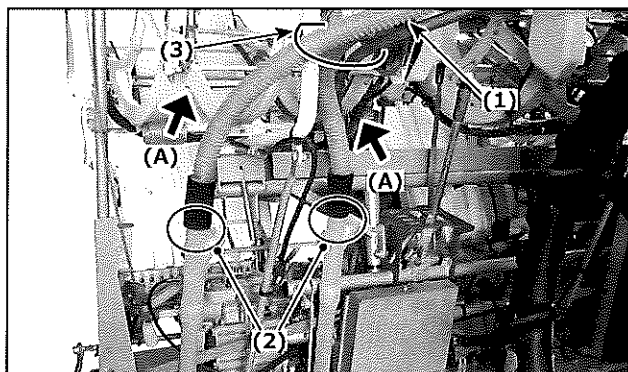
補足：

- 植付部が最上昇位置のときは、ブロワが動かないため、植付部を最上昇位置にしないでください。
3. 肥料の計量を行い、計量後の肥料重量をメインパネルの計量値に入力して施肥量の設定を行います。
 - a. 計量を行うため、右側2条分（ブロワと反対側の2条分）のホッパ内に肥料を入れます。



(1) ホッパ (右側2条分)

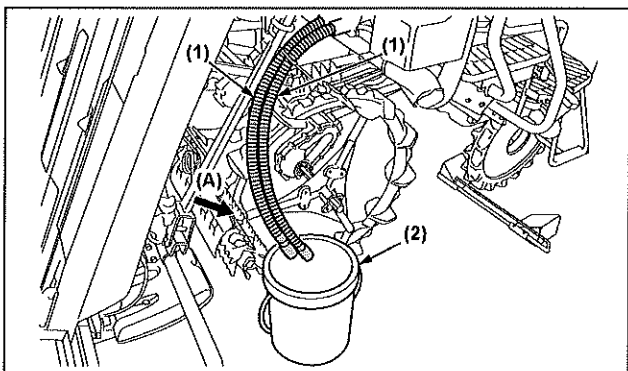
- b. バケツなど空の容器を準備し、植付部右側の2条分の施肥ホースを接続部から抜取ったあと、空の容器に取り外した施肥ホースを移動します。



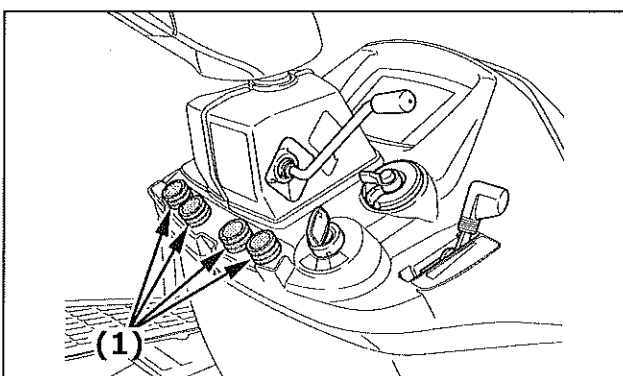
(1) 施肥ホース（右側2条分） (A) 抜取る
(2) 接続部
(3) 施肥ホースガイド

補足：

- 施肥ホースを取り外したあと、施肥ホースを施肥ホースガイドから抜取ってください。

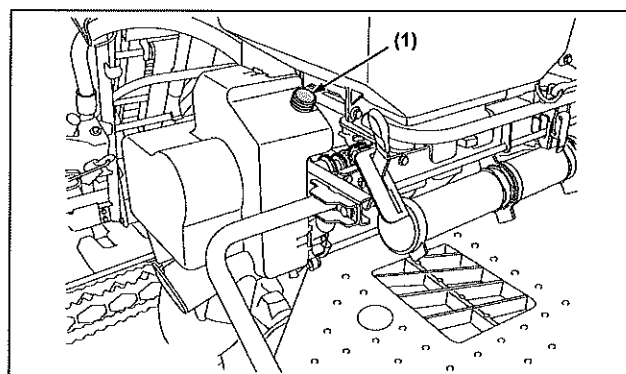


(1) 施肥ホース（右側2条分） (A) 移動する
(2) バケツなど空の容器



(1) あげぎわスイッチ

- c. ホッパを閉じたあと、再度エンジンを始動します。
- d. 運転席に座り、エンジンを始動したあと、あげぎわスイッチを左側から順番に押して【切】（ランプ点灯）の状態にしていき、右端のあげぎわスイッチのみ【入】（ランプ消灯）の状態にします。
- e. ホッパ右側にある計量ボタンを押すと、計量ボタンのランプが点灯し、計量が始まり施肥ホースから肥料が空の容器に繰り出されます。



(1) 計量ボタン

- f. 肥料の繰出しが終わると、ロールが自動で停止します。容器に排出された肥料を右側2条分のホッパ内に戻します。

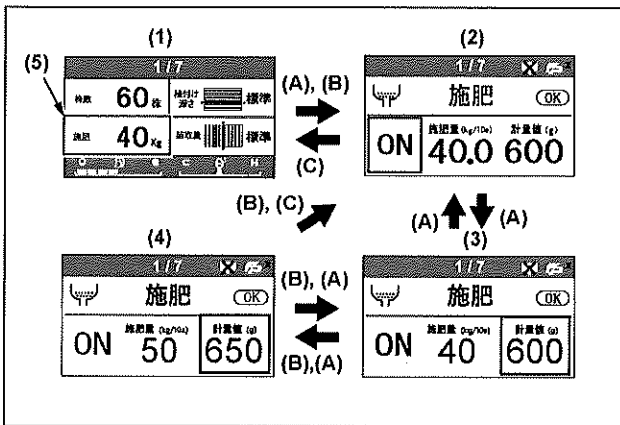
補足：

- 1回目に行う計量の繰出しは、ロール溝に肥料が十分に溜まっていないおそれがあります。2回目の繰出量を測定することで、計量値の精度を高めることができます。

- 計量中（ランプ点灯）に計量ボタンを押すと計量を中断し、ランプが消灯します。

- g. 再度手順 e. と同じ要領で計量を行います。
- h. 肥料の計量が終わると、ロールが自動で停止します。容器に排出された肥料の重量測定を行い、計量値を確認します。このとき、必要に応じて紙などに計量値を記入しておきます。
- i. 計量値の確認が終わると、運転席に座りマルチスイッチを操作して、液晶モニタのメイン画面【作業条件】の選択画面【施肥】から計量値の設定を行います。
- マルチスイッチを操作して、液晶モニタのメイン画面【作業条件】を選択します。
 - マルチスイッチのダイヤルで水色枠を【施肥】を選択したあと、マルチスイッチを押して確定します。
 - 施肥量、計量値の調節画面で、マルチスイッチを回して計量値の設定を行います。

※変更例：計量値が 650 g の場合（600 g から 650 g に変更する場合）



- (1) [施肥] 選択画面 (A) マルチスイッチを回して選択
- (2) 施肥 [ON] 画面 択
- (3) 計量値 [600] g 画面 (B) マルチスイッチを押す
- (4) 計量値 [650] g 画面 (C) 戻るスイッチを押す
- (5) 水色の枠（選択枠）

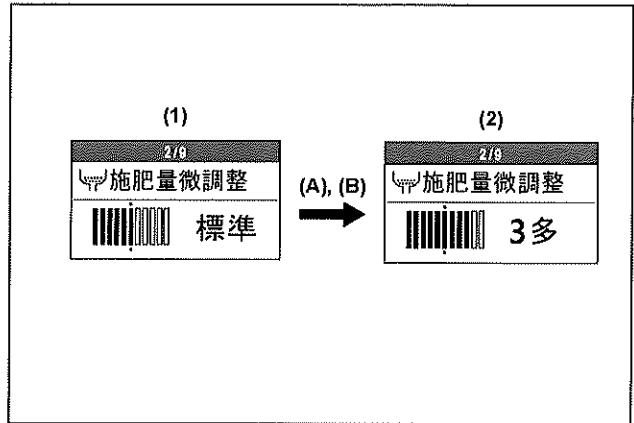
重要

- 構造上、施肥ブラシは肥料繰出しにより繰出方向に馴染むため、初期～50時間程度までは正確な施肥をするために、作業前の計量をお勧めします。

補足：

- 戻るスイッチを押すと、前の画面に戻ります。
- 出荷時の計量値は [600] g です。また、施肥量は [40] (kg/10 a) です。
- 計量値は、5 g 単位で変更できます。
- 計量値により、メインパネルに入力が行える最大の繰出量が変わります。最大の繰出量を越えて施肥作業を行うときは、オプション部品の「増量ロール」をご購入ください。
- 施肥作業中に施肥量の微調整を行うときは、液晶モニタのメイン画面 [機能設定] の [施肥量微調整] を選択したあと、多いまたは、少ない方向に調節してください。

※イラストは [標準] から多い方向に調整した場合



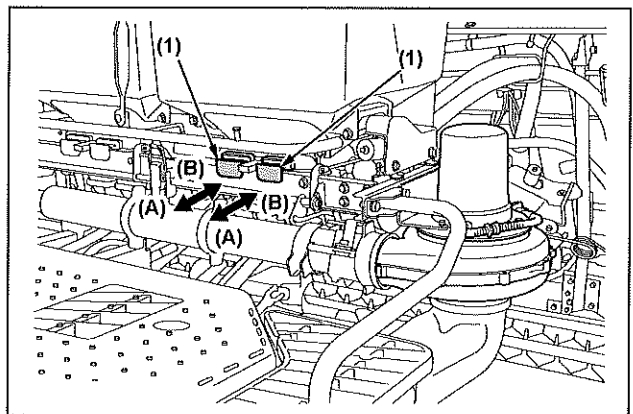
- (1) 施肥量微調整：[標準] (A) マルチスイッチを回して選択
- (2) 施肥量微調整：[3多] (B) マルチスイッチを押す

- 出荷時の施肥量微調整は、[標準] 位置です。
- 施肥量の微調整は、[5少]～[5多]まで11段階あります。また、施肥量の微調整は、1目盛りで目標とする施肥量の約2%です。
- 施肥ブラシの摩耗が原因などで、同じ計量値で設定しても実際に繰り出される肥料の量が多いときなど微調整を行ってください。

9.3 施肥条止めのしかた

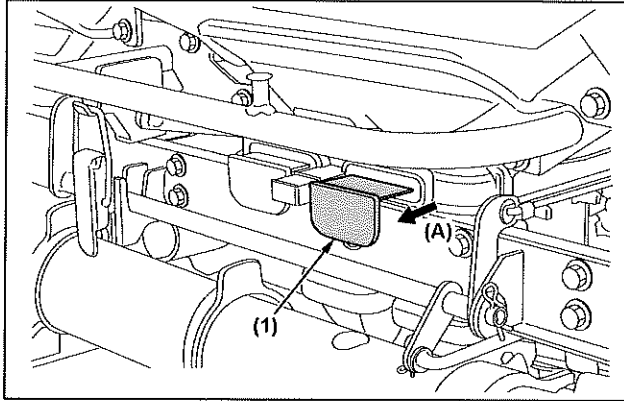
あぜぎわを植え付けるときなどで、肥料の繰出しを1条または、2条分停止するときは条止めシャッタを使用してください。

条止めシャッタで肥料の繰出しを停止するときは、いっぱいまで引出してください。また、肥料を繰り出すときは、いっぱいまで押し込んでください。



- (1) 条止めシャッタ (A) 引出す
- (B) 押込む

※イラストは左端 1 条分の肥料繰出停止状態



(1) 条止めシャッタ

(A) 引出す

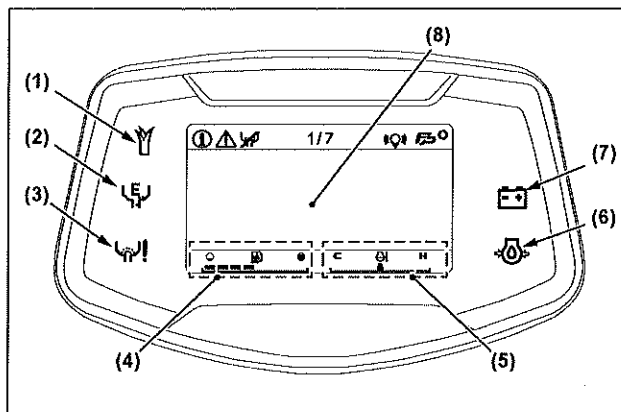
重要

- 条止めシャッタをいっぱいまで引出すとき、必要以上に引っ張らないでください。また、上下方向に曲げないでください。破損や変形するおそれがあります。

メインパネルによる異常と処置

警告

- エンジン周りの点検や処置を行うときは、エンジンを必ず止めてください。
- エンジン停止直後は、エンジンにさわらないでください。また、ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。
- 取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。
- 苗および肥料を補給するときは、走行を停止し、駐車ブレーキを掛けて行ってください。



- (1) 苗切れモニタランプ
- (2) 肥料切れランプ
- (3) 肥料詰まりランプ
- (4) 燃料計
- (5) 水温計
- (6) オイルランプ
- (7) 充電ランプ
- (8) 液晶モニタ

補足：

- この [メインパネルによる異常と処置] で記載している警報以外で、液晶モニタに表示される各警報については [メインパネルによる警報と処置] (124 ページ) を参照してください。

ブザーが鳴り、パネル内のランプが点灯または、点滅したときや計器が異常を示したときは、以下の処置を行ってください。

ランプまたは計器	警報		現象	処置	参照ページ
	ランプ表示、液晶モニタ	ブザー			
充電ランプ (充電警報)	ランプ点灯	-	<ul style="list-style-type: none"> バッテリーに充電されていません。 そのまま作業を続けるとバッテリー上がりとなり、エンジンの始動ができなくなります。 	<ul style="list-style-type: none"> 発電装置が異常を起こしていますので、購入先へ連絡してください。 	-
水温計 (水温警報)	目盛り点滅	連続	<ul style="list-style-type: none"> 水温計が上昇し、目盛りが [H] (赤線) 位置で点滅したときは水温が上昇しています。 そのまま作業を続けるとオーバヒートします (オーバヒート時は、警報ブザーが鳴ります。) 	エンジンを停止後、30 分以上たってから以下の点検と処置をします。 冷却水量 <ul style="list-style-type: none"> 冷却水が不足しているときは、リザーブタンクに清水を補給します。 冷却水の水もれが発生しているときは、ラジエータ排水プラグ、ラジエータホースのバンドを増締めします。 	148
				ラジエータフィン <ul style="list-style-type: none"> ラジエータフィンに汚れや詰まりがあるときは、掃除して取除きます。 	150
燃料計 (燃料警報)	燃料計の表示が点滅	-	<ul style="list-style-type: none"> 燃料の残量が少なくなると、最後の 1 目盛りが赤線位置で点滅します。 そのまま作業を続けるとエンジンが停止します。 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料を補給します。 	145
オイルランプ (油圧警報)	ランプ点灯	-	<ul style="list-style-type: none"> エンジンのオイル圧力が不足しています。 そのまま作業を続けるとエンジンが動かなくなります。 	<ul style="list-style-type: none"> エンジンを停止後、オイル量の点検と処置をします。 エンジンが焼付きを起こしていますので、購入先へ連絡してください。 	146

(次ページへ続く)

ランプまたは計器	警報		現象	処置	参照ページ
	ランプ表示、液晶モニタ	ブザー			
苗切れモニタランプ (苗切れ警報)	ランプ点滅	断続 (8回)	• 苗が残り少なくなっています。	• 苗を補給します。	86
施肥モニタ 肥料切れランプ (肥料切れ警報)	ランプ点滅	断続 (8回)	• 肥料が残り少なくなっています。	• 肥料を補給します。	106
施肥モニタ 肥料詰まりランプ (肥料詰まり警報)	ランプ点滅	断続 (8回)	• 肥料が詰まっています	• 作溝器内を確認して詰まりセンサに付着している異物を取除きます。また、異物がないときは、メイン画面：[機能設定]の[施肥詰まり感度]で詰まりセンサの感度を調整します。	109

重要

- 処置したあとに異常が直らないときは、購入先へ連絡してください。

補足：

- 警報ランプは、異常を処置すると消灯します。
- 警報ブザーは断続で8回鳴りますが、警報ブザーが鳴っている最中に他にも異常が発生したときは、そのときから断続で8回ブザーが鳴ります。
- 警報ブザーが鳴り終わったあと、警報モニタランプが点灯中または、点滅中に主変速レバーを[後進]位置にすると、バックブザーが鳴ります。そのあと、主変速レバーを[N](中立)位置にすると警報(異常)確認のため、警報ブザーが再度8回鳴ります。
- 燃料、苗切れ、肥料切れの各警報が発生すると、液晶モニタに以下のお知らせを表示します。
 - 燃料警報：[燃料を補給してください]
 - 苗切れ警報：[苗補給してください]
 - 肥料切れ警報：[「切れ」肥料を補給してください]

メインパネルによる警報と処置

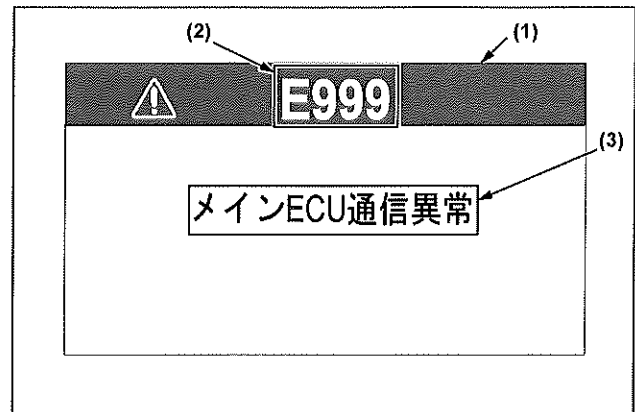
警告

- 点検や処置を行うときは、エンジンを必ず止めてください。
- エンジン停止直後は、エンジンにさわったり、ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。
- 外したカバー類は必ず取り付けてください。

機体に異常が発生したときには、液晶モニタに警報内容を表示します。故障を未然に防ぐため液晶モニタに警報内容が告知されたときは、植付作業をいったん中止して警報による異常の原因を取除いてください。

液晶モニタに警報が告知されると、告知画面に表題のエラーコードが表示されます。警報の告知内容により植付作業が行える場合がありますが、作業終了後は、直ちに購入先に連絡して処置してください。

※イラストは警報 [E999] の告知画面



(1) 液晶モニタ告知画面 (2) 表題 (エラーコード : [E999]) (3) 告知内容

エラーコード	告知内容	異常内容	異常箇所	処置	備考
E001	メータパネル通信異常	メータパネルとの通信ができない。	メータパネルまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E002	植付 ECU 通信異常	モンロー調整	植付 ECU または、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E003	GPS 通信異常	GPS アンテナとの通信ができない。	GPS アンテナまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E004	SW ボックス通信異常	スイッチボックスの操作ができない。 (メータパネル操作はボンパレバーで代用可能となる。ただしエンジン停止状態でメインスイッチのキー【運転】位置のみ。)	スイッチボックスまたは、配線	スイッチボックスに異常が発生すると、マルチスイッチおよび戻るスイッチの操作が行えません。このとき、エンジン停止でメインスイッチのキーを【運転】位置にし、植付部を最上昇位置にすると、十字ボンパレバーで一時的に操作が行えます。ただし、作業が終わったあとは購入先に必ず連絡して処置してください。	
E005	施肥モータドライバ通信異常	施肥機肥料が繰り出せない。	施肥モータドライバまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	

(次ページへ続く)

エラーコード	告知内容	異常内容	異常箇所	処置	備考
E007	GS-ECU 通信異常	走行コントローラとの通信ができない。	GS-ECU または、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E008	操舵モータドライバ通信異常	操舵モータドライバとの通信ができない。	操舵モータドライバまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E009	姿勢計測ユニット通信異常	姿勢計測ユニットとの通信ができない。	姿勢計測ユニットまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E101	ポンパ下降 SW 異常	十字ポンパレバーを操作しても植付部が下降しない。	ポンパスイッチまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E102	ポンパ上昇 SW 異常	十字ポンパレバーを操作しても植付部が上昇しない。	ポンパスイッチまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E103	ポンパマーカ右 SW 異常	十字ポンパレバーを操作しても右マーカが降りない。	ポンパスイッチまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E104	ポンパマーカ左 SW 異常	十字ポンパレバーを操作しても左マーカが降りない。	ポンパスイッチまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E105	ポンパ拡張 SW 異常	十字ポンパレバーを操作しても強制上昇・下降しない。	ポンパスイッチまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E106	マルチ SW 異常	メータパネル画面操作ができない。	スイッチボックス	購入先に連絡して処置してください。	
E108	自動植付 SW 異常	自動植付機能が使用できない。	スイッチボックス	購入先に連絡して処置してください。	
E109	除草剤散布機 SW 異常	除草剤散布機が使用できない。	スイッチボックス	購入先に連絡して処置してください。	オプション装着時
E111	戻る SW 異常	メインパネル画面操作ができない。	スイッチボックス	購入先に連絡して処置してください。	
E201	メイン ECU5V ショート	全てのセンサ機能がはたらかない。	本機コントローラまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E202	植付 ECU5V ショート	モンロー調整が正常にはたらかない。	植付 ECU または、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E203	フィットセンサダイヤル異常	フィットセンサがはたらかない。	スイッチボックス	購入先に連絡して処置してください。	
E205	植付クラッチモータセンサ異常	植付クラッチが切れないまたは、入らない。	植付クラッチモータセンサまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E206	株間センサ異常	株数調整が機能しない。	株間センサまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E207	ハンドル切れ角センサ異常	自動植付けが作動しない。	切れ角センサまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E208	リンクセンサ異常	植付部が昇降しない。	リンクセンサまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E209	あぜぎわクラッチセンサ(苗載台)異常	あぜぎわクラッチ(苗載台)がはたらかない。	各条クラッチセンサまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E210	ローリングセンサ異常	植付部の自動水平制御がはたらかない。 (モンローがはたらかない。)	ローリングセンサまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E214	フロートセンサ異常	泥押しまたは、植付姿勢の悪い状態が続く。	フロートセンサまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E217	あぜぎわクラッチセンサ(施肥機)異常	あぜぎわクラッチ(施肥機)がはたらかない。	各条クラッチセンサまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E218	施肥モータセンサ異常	施肥機が肥料を繰り出さない。	施肥モータ	購入先に連絡して処置してください。	

(次ページへ続く)

エラーコード	告知内容	異常内容	異常箇所	処置	備考
E219	操舵角度センサ異常	操舵センサが正常にはたらかない。	操舵センサ	購入先に連絡して処置してください。	
E220	姿勢計測ユニット異常	姿勢計測ユニットが正常にはたらかない。	姿勢計測ユニット	購入先に連絡して処置してください。	
E221	操舵角度センサ異常	舵角センサが正常にはたらかない。	舵角センサ	購入先に連絡して処置してください。	
E222	左後車軸回転センサ異常	左後車軸回転センサが正常にはたらかない。	左後輪回転センサ	購入先に連絡して処置してください。	
E223	右後車軸回転センサ異常	右後車軸回転センサが正常にはたらかない。	右後輪回転センサ	購入先に連絡して処置してください。	
E224	植付 HST 出力回転センサ異常	植付 HST 出力回転センサが正常にはたらかない。	植付 HST 出力回転センサ	購入先に連絡して処置してください。	
E225	植付 HST 入力回転センサ異常	植付 HST 入力回転センサが正常にはたらかない。	植付 HST 入力回転センサ	購入先に連絡して処置してください。	
E227	水温センサ異常	水温センサが正常にはたらかない。	水温センサまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E303	電動ラジエータモータリレー出力断線	電動ラジエータがはたらかない。	ラジエータリレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E304	下降ソレノイド出力断線	植付部が昇降しない。	昇降バルブ	購入先に連絡して処置してください。	
E305	上昇ソレノイド出力断線	植付部が昇降しない。	昇降バルブ	購入先に連絡して処置してください。	
E309	植付クラッチモータ正転リレー出力断線	植付クラッチが切れないまたは、入らない。	植付クラッチリレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E310	植付クラッチモータ逆転リレー出力断線	植付クラッチが切れないまたは、入らない。	植付クラッチリレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E311	オルタネータ電源管理リレー出力断線	オルタネータがはたらかない。	オルタネータ電源管理リレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E312	あぜぎわクラッチモータ(苗)正転リレー出力断線	あぜぎわクラッチモータ(苗)リレーまたは、配線がはたらかない。	あぜぎわクラッチモータ(苗)リレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E313	あぜぎわクラッチモータ(苗)逆転リレー出力断線	あぜぎわクラッチモータ(苗)リレーまたは、配線がはたらかない。	あぜぎわクラッチモータ(苗)リレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E332	あぜぎわクラッチモータ(施肥)正転リレー出力断線	あぜぎわクラッチモータ(施肥)リレーまたは、配線がはたらかない。	あぜぎわクラッチモータ(施肥)リレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E333	あぜぎわクラッチモータ(施肥)逆転リレー出力断線	あぜぎわクラッチモータ(施肥)リレーまたは、配線がはたらかない。	あぜぎわクラッチモータ(施肥)リレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E334	ブロワモータリレー出力断線	ブロワが回らない。	ブロワリレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E335	施肥補助モータリレー出力断線	施肥補助モータが回らない。	施肥補助モータリレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E340	除草剤散布機リレー出力断線	除草剤散布機が使用できない。	除草剤散布機リレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	オプション装着時
E403	電動ラジエータモータリレー出力ショート	電動ラジエータがはたらかない。	ラジエータリレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E404	下降ソレノイド出力ショート	植付部が昇降しない。	昇降バルブ	購入先に連絡して処置してください。	
E405	上昇ソレノイド出力ショート	植付部が昇降しない。	昇降バルブ	購入先に連絡して処置してください。	

(次へ続く)

エラーコード	告知内容	異常内容	異常箇所	処置	備考
E406	株間モータ増速出力ショート	株間調整ができない。	株間センサまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E407	株間モータ減速出力ショート	株間調整ができない。	株間センサまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E409	植付クラッチモータ正転リレー出力ショート	植付クラッチが切れないまたは、入らない。	植付クラッチリレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E410	植付クラッチモータ逆転リレー出力ショート	植付クラッチが切れないまたは、入らない。	植付クラッチリレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E411	オルタネータ電源管理リレー出力ショート	オルタネータがはたらかない。	オルタネータ電源管理リレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E412	あぜぎわクラッチモータ(苗)正転リレー出力ショート	あぜぎわクラッチモータ(苗)リレーまたは、配線がはたらかない。	あぜぎわクラッチモータ(苗)リレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E413	あぜぎわクラッチモータ(苗)逆転リレー出力ショート	あぜぎわクラッチモータ(苗)リレーまたは、配線がはたらかない。	あぜぎわクラッチモータ(苗)リレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E414	左マーカモータ正転リレー出力ショート	左マーカが作動しない。	左マーカモータリレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E415	左マーカモータ逆転リレー出力ショート	左マーカが作動しない。	左マーカモータリレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E416	右マーカモータ正転リレー出力ショート	右マーカが作動しない。	右マーカモータリレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E417	右マーカモータ逆転リレー出力ショート	右マーカが作動しない。	右マーカモータリレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E418	モンローモータ左リレー出力ショート	植付部の自動水平制御がはたらかない。 (モンローがはたらかない。)	モンローモータリレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E419	モンローモータ右リレー出力ショート	植付部の自動水平制御がはたらかない。 (モンローがはたらかない。)	モンローモータリレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E432	あぜぎわクラッチモータ(施肥)正転リレー出力ショート	あぜぎわクラッチモータ(施肥)リレーまたは、配線がはたらかない。	あぜぎわクラッチモータ(施肥)リレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E433	あぜぎわクラッチモータ(施肥)逆転リレー出力ショート	あぜぎわクラッチモータ(施肥)リレーまたは、配線がはたらかない。	あぜぎわクラッチモータ(施肥)リレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E434	プロワモータリレー出力ショート	プロワが回らない。	プロワリレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E435	施肥補助モータリレー出力ショート	施肥補助モータが回らない。	施肥補助モータリレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E440	除草剤散布機リレー出力ショート	除草剤散布機が使用できない。	除草剤散布機リレーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	オプション装着時
E501	スタータ動作不良	スタータが回らない。	スタータまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E502	燃料カットソレノイド動作不良	エンジンが停止しない。	燃料カットソレノイドまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E537	操舵モータ動作不良	操舵モータが正常にはたらかない。	操舵モータ	購入先に連絡して処置してください。	
E702	直進キープシステム電圧異常	直進キープシステムの電圧が低下している。	バッテリーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	

(次へ続く)

エラーコード	告知内容	異常内容	異常箇所	処置	備考
E703	施肥モータドライバ電圧異常	施肥モータへの電圧が低下している。	バッテリーまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	
E704	施肥モータドライバ異常	施肥線出停止。	施肥モータドライバ	購入先に連絡して処置してください。	
E705	施肥モータ負荷異常	施肥線出停止。	施肥機詰まりまたは、施肥モータ	施肥機ホッパ内に異物が噛み込んでいないか確認または、ロールを掃除する。それでもすぐに警報が出た場合は購入先に連絡して処置してください。	
E999	メイン ECU 通信異常	メインパネルが正常に表示しない。	本機コントローラまたは、配線	購入先に連絡して処置してください。	

メンテナンス

各部の開閉と脱着のしかた

警告

- 平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めてから行ってください。
- 取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

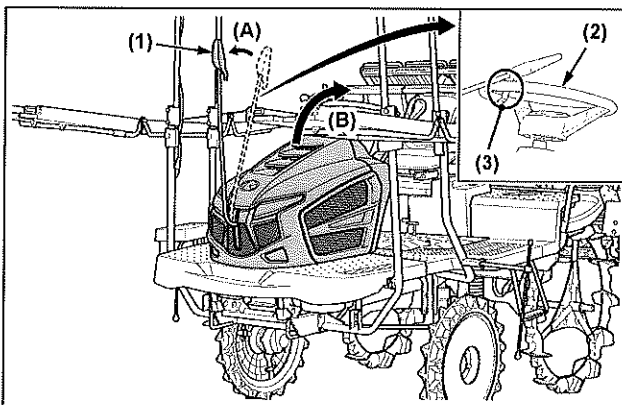
1. ボンネットの開閉

警告

- オーバヒートなどでボンネットを開けて点検や整備するときは、次の手順に従ってください。
 1. 作業を中止する。
 2. エンジンを約 5 分間アイドリング回転で運転した後、エンジンを停止する。
 3. エンジン停止後 30 分以上経過してから開ける。
 4. 点検や整備で内部に触れるときは、ヤケドの危険性がないことを確認する。
- エンジンが冷えてないとき、ボンネットを開けるとラジエータ部、リザーブタンク部などより熱湯が噴出し、高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

開きかた

1. マスコットを前方に倒したあと、ボンネットを持上げて開きます。
2. ボンネットを開いた状態で、ハンドルにマスコットのフックを引掛けます。



- (1) マスコット (A) 前方に倒す
(2) ハンドル (B) 持上げる (開く)
(3) フック

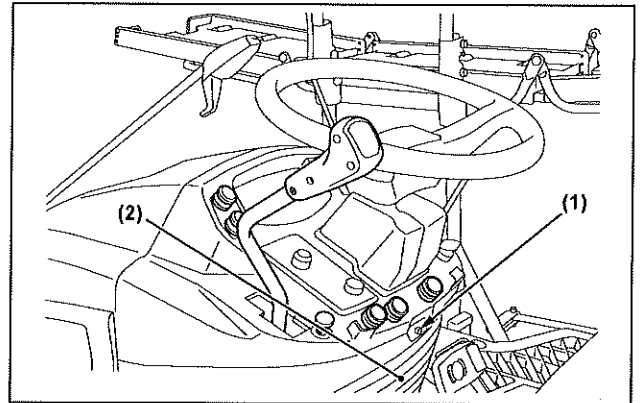
閉じかた

ハンドルからマスコットのフックを取り外したあと、ボンネットを閉じます。閉じたときは、カチッと音がします。

2. リヤカバーの脱着

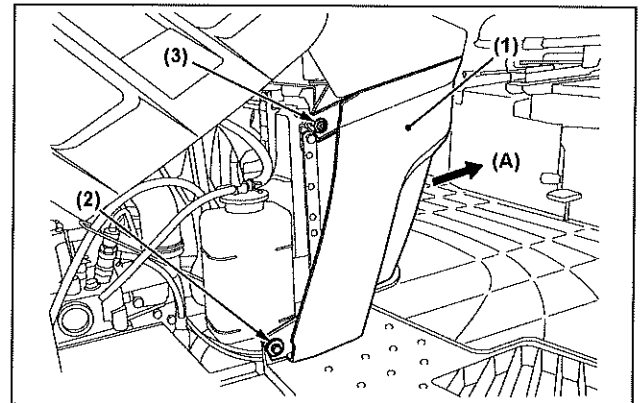
取外しかた

1. ボンネットを開きます。
2. リヤカバーの中央上側と下側にある左右のボルトをそれぞれ取り外したあと、リヤカバーを後方に引いて取り外します。



- (1) ボルト
(2) リヤカバー

※イラストは左側



- (1) リヤカバー (A) 引いて取り外す
(2) ボルト
(3) 樹脂リベット

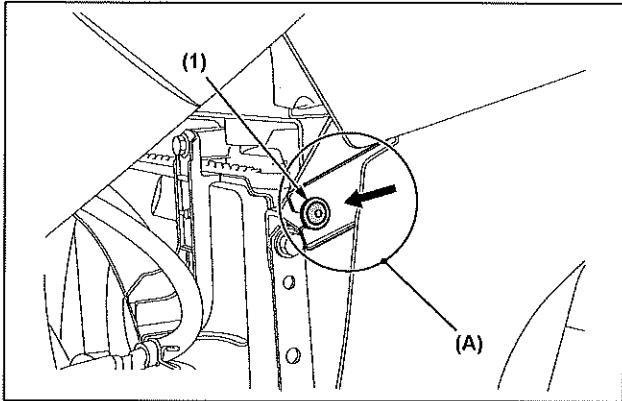
取付けかた

取り外した逆の手順で取り付けます。

補足：

- リヤカバーを取り付けるとき、左右の上側にある樹脂ボルトの内側に差込んでからボルトを取り付けてください。

※イラストは左側

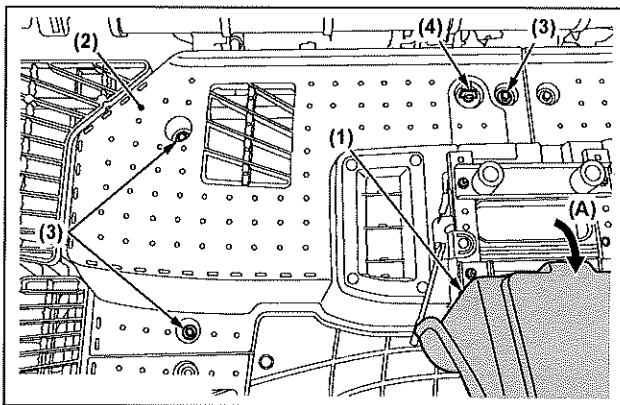


(1) 樹脂リベット (A) 樹脂リベットの内側に差込む

3. 運転席下カバー（右）の脱着

取外しかた

1. 運転席を前方に倒します。
2. ボルトおよびT字ボルトを取り外したあと、運転席下カバー（右）を外します。



(1) 運転席 (A) 倒す
(2) 運転席下カバー（右）
(3) ボルト
(4) T字ボルト

取付けかた

取外しかたの逆の手順で取り付けます。

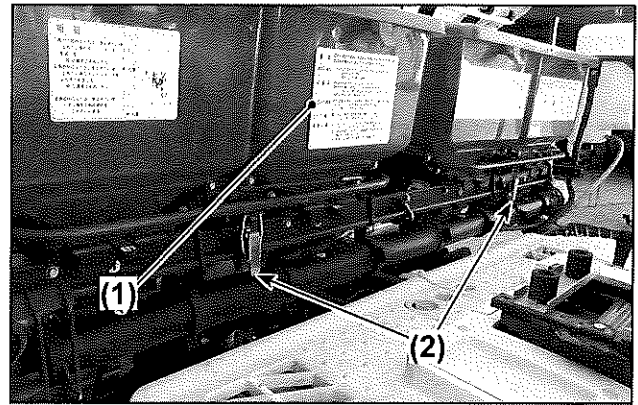
4. ホッパ部の開閉

重要

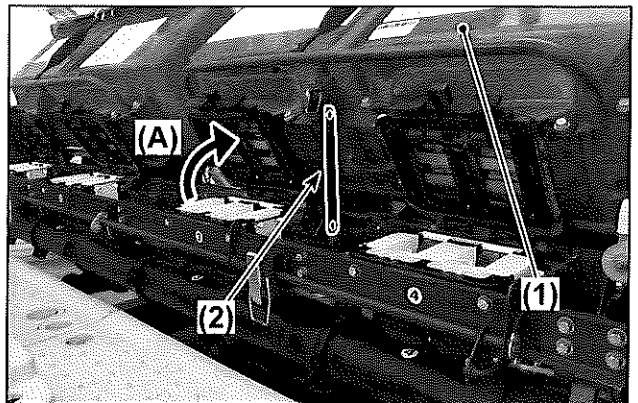
- 田植機を平たんな場所に置き、エンジンを停止させ、肥料をすべて排出してください。

開きかた

1. ホッパ内の肥料を空の状態にします。
2. 植付部を上昇させ、ロックします。
3. 運転席を前方に倒します。
4. ロック金具を解除して、施肥機本体を後部へ倒します。



(1) ホッパ
(2) ロック金具



(1) ホッパ (A) 倒す
(2) 規制金具

補足：

- ホッパ部を開いたとき、規制金具が確実に掛かっていることを確認してください。

閉じかた

取開きかたと逆の手順でホッパ部を閉じます。

補足：

- ホッパ部を閉じるときは、規制金具を手前に引きながら閉じてください。このとき、ホッパ部との間に手が挟まれないように注意してください。
- ホッパ部を閉じたときは、ロック金具で必ず固定してください。

5. ロールとブラシの脱着

重要

- 田植機を平たんな場所に置き、エンジンを停止させ、肥料をすべて排出してください。

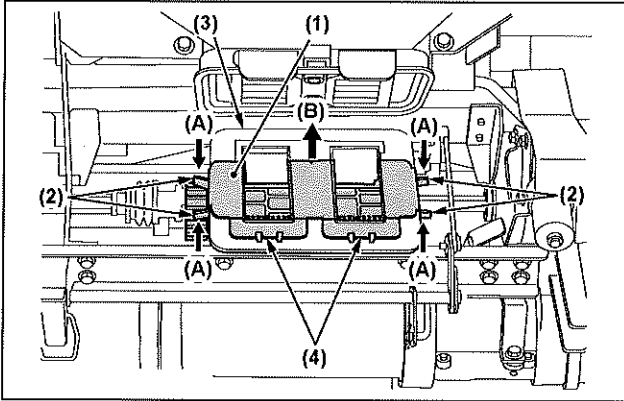
外しかた

1. ホッパ内の肥料を空の状態にします。
2. ホッパ部を開きます。

補足：

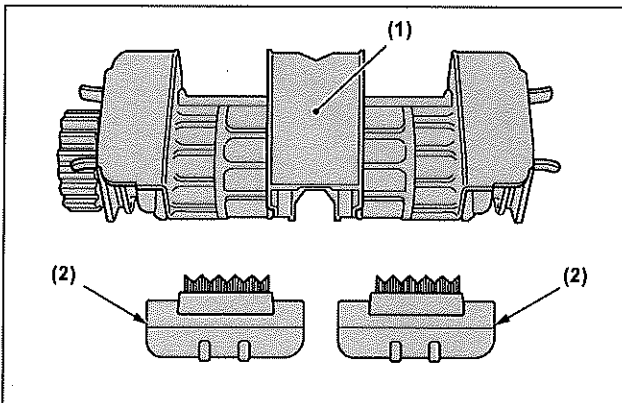
- ホッパ部を開いたとき、規制金具が確実に掛かっていることを確認してください。

3. ロールアッシの両端にあるロック解除レバーを指で内側に挟み込んだ状態で、ロールアッシをロールケースから上に持上げます。このとき、ロールアッシが少し持上がった状態でブラシを先に取り外します。



(1) ロールアッシ (A) 挟み込む
 (2) ロック解除レバー (B) 持上げて取り外す
 (3) ロールケース
 (4) ブラシ

※イラストはロールアッシとブラシを取り外した状態

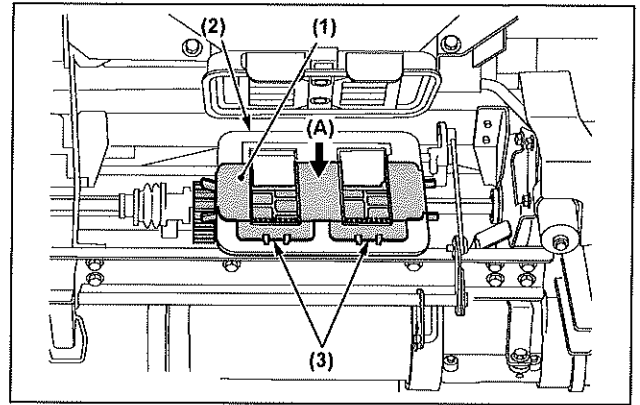


(1) ロールアッシ
 (2) ブラシ

取付けかた

取外しの逆の手順で行ってください。

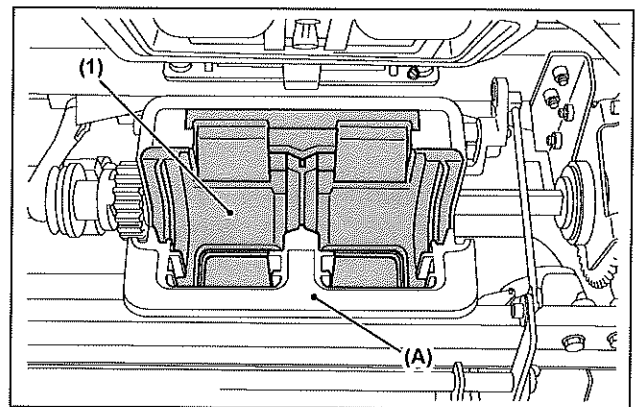
1. ロールアッシをロールケースに取り付けるとき、パチッと音がするまで押し込んだあと、ブラシを取り付けます。



(1) ロールアッシ (A) パチッと音がするまで押し込む
 (2) ロールケース
 (3) ブラシ

補足：

- ロールアッシを取り付けるときは、以下の事項に注意してください。
 - ロールケースの形状に合わせて取り付けてください。
 - 各ブラシも合わせて、それぞれ取り外したところへ必ず取り付けてください。
 - ロールアッシとギヤがかみ合わないため、パチッと音がするまで押し込めないときは、ロールを少し回してください。
 - ロールケース内の肥料や粉をブラシなどで取除いてください。



(1) ロールケース内 (A) 肥料や粉をブラシなどで取除く

- ロールアッシを取り付けたあと、ロールケース上面の肥料や粉をブラシなどで確実に取除いてください。ロールケース内へ水が侵入する原因となります。

2. ホッパ部を閉じます。

重要

- ホッパ部を閉じたときは、ロック金具を必ず掛けてホッパ部が開かないようにしてください。

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように、各部の手入れを充分行ってください。

警告

- エンジンを必ず止めてください。
- 取り外したり、開いた回転部のカバー類は必ず取り付けてください。回転部に衣服などが巻込まれてケガをするおそれがあります。
- 植付部を上げた状態で作業するときは、油圧ロックレバーで下降防止をしてください。さらに枕木などを使用して落下防止を行ってください。
- 空運転するときには必ず植付部を上昇させてください。
- オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。
- バッテリー、マフラ、エンジン、燃料タンク周辺部にゴミや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので、取除いてください。
- 清掃を行うときは、手袋などの保護具を着用してください。部品の鋭利な部分に素手で触るとケガをするおそれがあります。

1. 各部の掃除

一日の作業が終わったあとは、各部の泥やゴミ、施肥部の掃除を必ず行ってください。

重要

- ボンネット内部および運転席下部の電装品には水を掛けないでください。故障の原因となります。
- 取り外したボルトやナットは、必ず締付けてください。
- 肥料には錆を発生させる成分が含まれているため、1日の作業が終わったあとは肥料を排出して水洗いを充分行ってください。特に施肥機とその周辺部、植付フレーム、リンク支点、植付ケース各周辺は必ず行ってください。

1.1 施肥部

重要

- 条止めシャッタに肥料が付着した状態で長時間放置すると錆が発生するなどして固着するおそれがありますのでロールケース内の肥料は必ず排出し、掃除を行ってください。

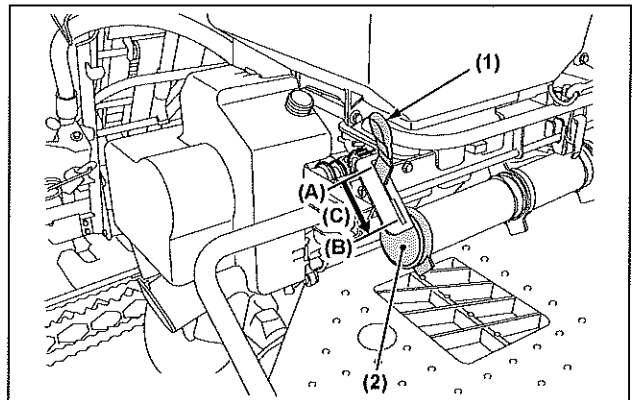
重要

- 水洗い後すぐに作業しないでください。詰まりや施肥異常の原因になります。
- 施肥部を高圧水で洗淨しないでください。ゴムや樹脂の嵌合部が変形して水が入り、肥料詰まりの原因になります。

1. ホッパ内およびロールケース内のロール、ブラシやロートの肥料を取除きます。湿っているときは、乾いた布などでふき取ります。
2. ホッパ、ロールケース、ロート内部の汚れが落ちないときは、水洗いします。特にロールケース軸受部やロートに、肥料が残っていないことを確認してください。

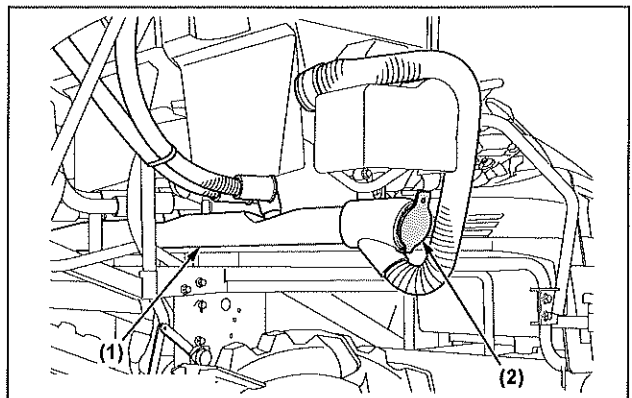
【水洗いのしかた】

- a. 各ホッパ内の肥料を全て排出したあと、残肥排出レバーを【排出】位置にします。
- b. 肥料を搬送するダクトの右側にあるキャップを外します。



- (1) 残肥排出レバー (A) 施肥
(2) 搬送ダクトのキャップ (B) 排出
(C) 引く

- c. 残肥排出ダクトの右側にあるエア抜きキャップを外します。



- (1) 残肥排出ダクト
(2) エア抜きキャップ

- d. 各ホッパ内に水を入れてホッパ内の肥料を洗い流します。
- e. ホッパ部を開いたあと、ロールケース内の肥料を洗い流します。
- f. ホッパ部を閉じたあと、エンジンを始動します。
- g. 植付部の位置を確認し、最上昇位置の場合は少し下降します。このときブロウが作動します。

補足：

- 植付部が最上昇位置のときは、ブロウは作動しません。

- h. 残肥排出レバーを【排出】位置から【施肥】位置に切り替えて、搬送ダクト、施肥ホース内の水分を取除きます。
- i. 残肥排出レバーを再度【施肥】位置から【排出】位置に切り替えて、残肥排出ダクト、残肥排出ホース内の水分を取除きます。
- j. 水洗い後は施肥部（ホッパ、ロールケース内のロール、ブラシ、ダクト）をよく乾燥させてください。

重要

- 乾燥させないと肥料が残り固着して、施肥ムラや詰まりの原因となります。

補足：

- 水洗いを行ったときは、ロートやブラシを必ず乾燥させてください。
- 各ダクトを取り外して掃除や乾燥したあと、取り付けるときは各ダクトの取付位置に注意してください。（134 ページ参照）

- 3. ブラシは毛の間にはさまった肥料を取除き、水で洗ったあと、水分をふき取り乾燥させてください。

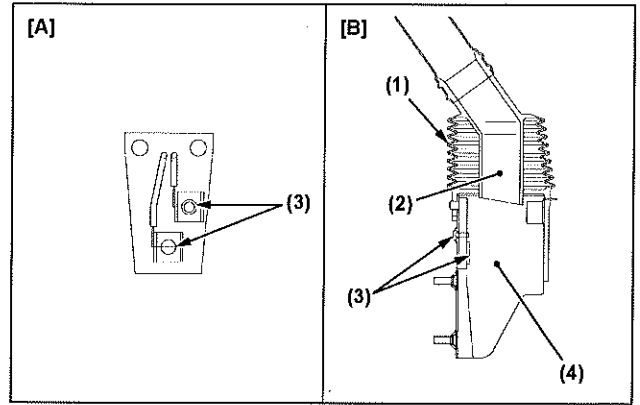
補足：

- ブラシを乾燥させるとき、直接太陽光があたらないようにしてください。ブラシが変形するおそれがあります。

- 4. 作溝器や詰まりセンサ部の泥や水はよく取除いてください。

補足：

- 洗剤の空容器などを利用して水を入れ、電極部分などに付着した肥料を洗い流してください（ホース内はぬらさないこと）。温った肥料が電極に付着すると電通してブザーとランプで知らせます。



- (1) ジャバラ
- (2) 施肥ホース
- (3) 電極
- (4) 作溝器

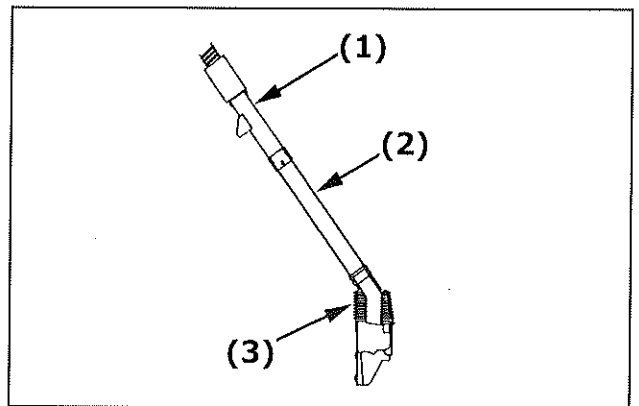
[A] 正面
[B] 側面

補足：

- 施肥ホースジャバラの中も同時に掃除してください。
- 5. 各パイプ（シタ）の掃除をするときは、エア抜き（パイプ）、パイプ（シタ）、ジャバラをセットした状態で外してください。

重要

- エア抜き（パイプ）、パイプ（シタ）、ジャバラを分解しないでください。破損するおそれがあります。



- (1) エア抜き（パイプ）
- (2) パイプ（シタ）
- (3) ジャバラ

掃除が終わったあとは、取り外した各部品を必ず取り付けてください。

補足：

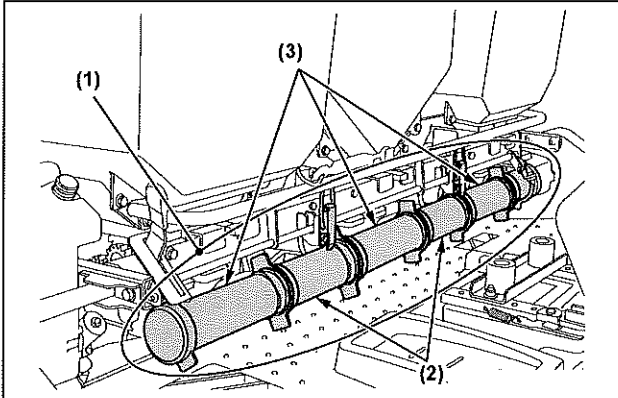
- 各ホースやパイプを取り付けるときは、取り外したところに必ず取り付けてください。また、取付けたが分からないときは、購入先に連絡してください。

1.2 肥料搬送ダクト

重要

- 田植機を平坦な場所に置き、エンジンを停止させ、肥料を全て排出してください。

1. ホッパ内の肥料を空の状態にします。
2. 運転席を前方に倒します。
3. 肥料搬送ダクトの各ゴムダクトを取り外して、各ダクトを取り外します。

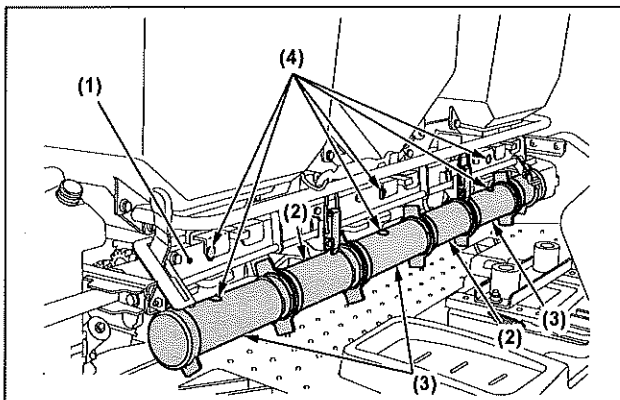


- (1) 肥料搬送ダクト
(2) ゴムダクト
(3) ダクト

4. 肥料搬送ダクトの各ダクトの掃除や乾燥をします。
5. 掃除や乾燥が終わったあと、取り外したときの逆の手順で各ダクトを取り付けます。

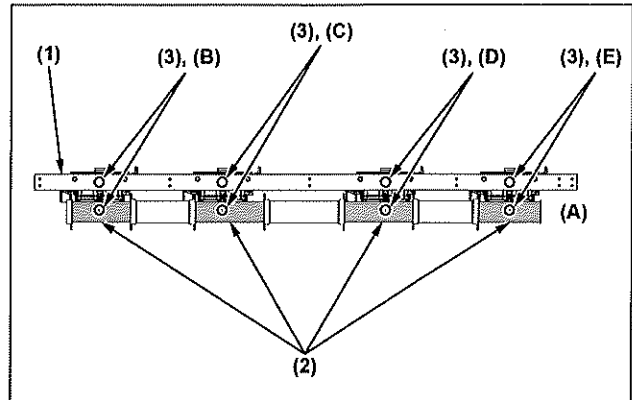
補足：

- 各搬送ダクトを取り付けるとき、ホッパ取付フレームに貼られている番号ラベルの番号に合わせて、ゴムダクトを除く各ダクトに貼られている番号ラベルの番号を合わせて取り付けてください。このとき、各ダクトの番号ラベルを上側に向けて上側から見える状態で取り付けてください。



- (1) ホッパ取付フレーム
(2) ゴムダクト
(3) ダクト
(4) 番号ラベル

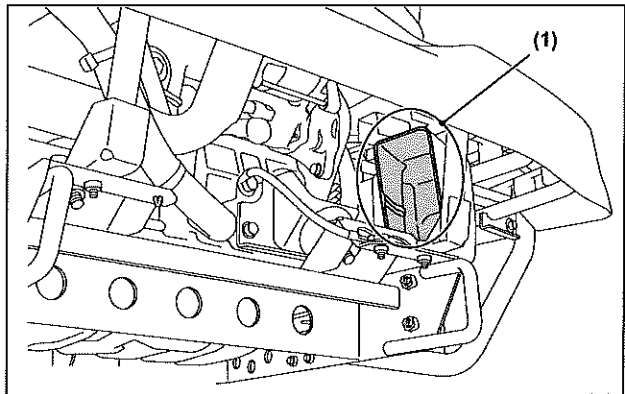
肥料搬送ダクトのレイアウト図



- (1) ホッパ取付フレーム (A) プロア側
(2) ダクト (B) 番号ラベル①
(3) 番号ラベル (C) 番号ラベル②
(D) 番号ラベル③
(E) 番号ラベル④

1.3 ブロワダクト吸入口

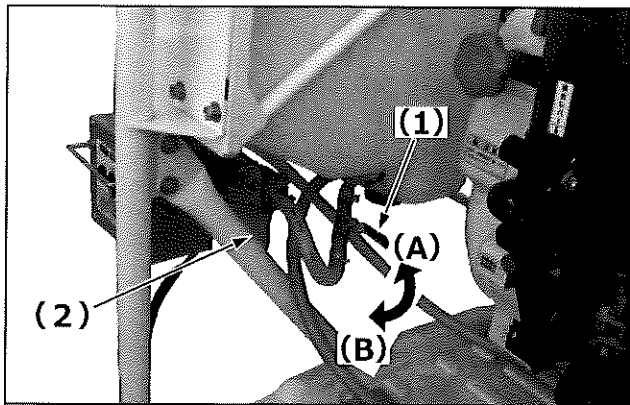
ブロワダクト吸入口に泥などの詰まりが発生すると、ブロワからの風量が低下し、肥料の排出が悪くなったり、施肥ホースへの詰まりの原因になります。定期的に掃除を行ってください。



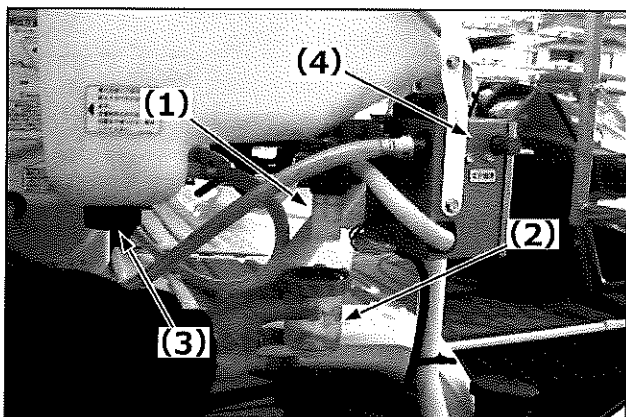
- (1) ブロワダクト吸入口

1.4 水洗装置の掃除

タンクに水があるにもかかわらず水の出が悪くなった時は、右側タンク下部のバルブを【閉】にしてフィルターのカップを外し、中のフィルターを引き抜いて水で洗い、中のフィルターをしっかりと奥まで入れ、フィルターカップをしっかりと締めてください。



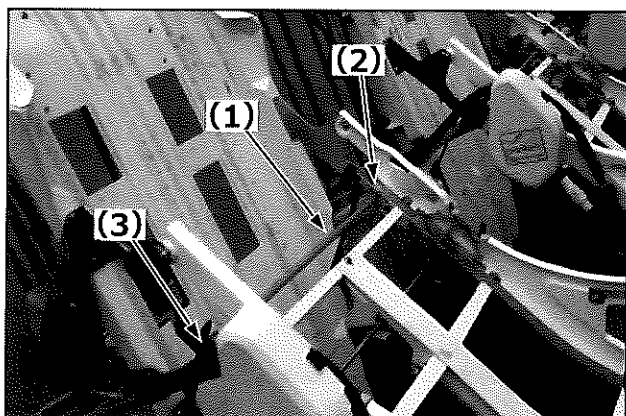
(1) バルブ (A) [閉]
(2) フィルターカップ (B) [開]



(1) フィルター
(2) フィルターカップ
(3) 排水口
(4) ポンプケース

左右両側のタンク内部も点検し、ゴミが多い時は排水口キャップを外し、タンク内部を洗浄してください。洗浄後は排水口キャップをしっかり締めてください。

散水管が詰まったときは散水管エルボとフタを外し、内部とノズルを洗浄してください。洗浄後は元通り取り付けてください。



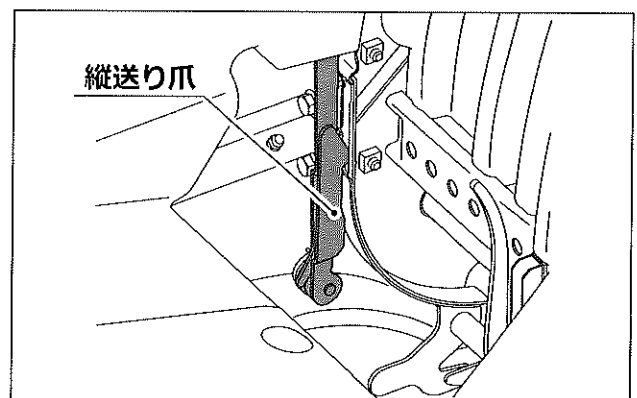
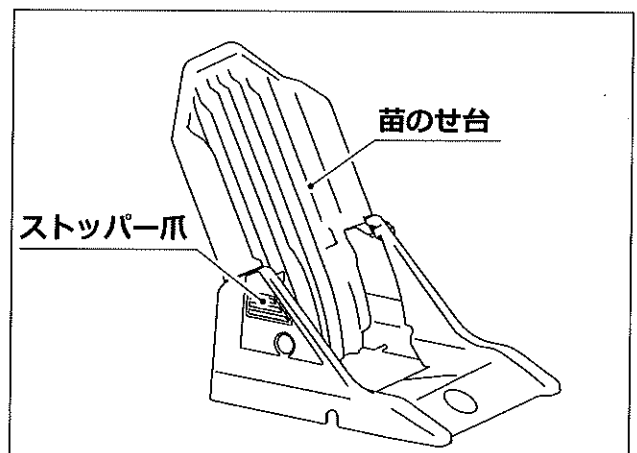
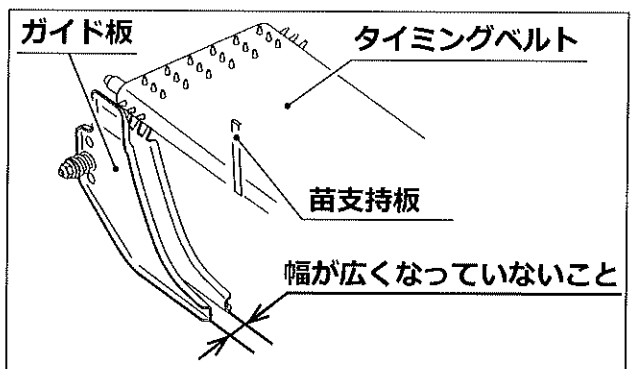
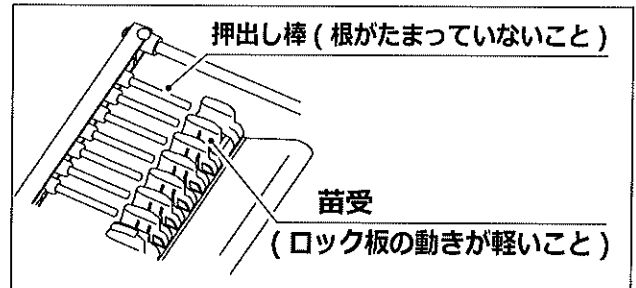
(1) 散水管
(2) 散水管エルボ
(3) 散水管フタ

ポンプケースは電気製品ですので、ケース内部の水は厳禁です。田植機を洗浄する時は高圧水がかからないように注意し、軽く洗う程度にしてください。

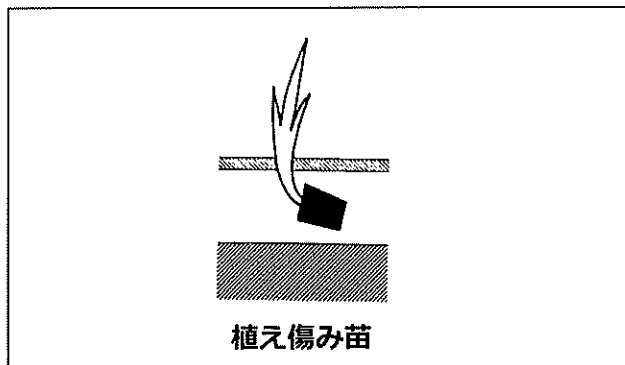
1.5 植付部の水洗い

苗受・押し棒・タイミングベルト・ガイド板・苗のせ台・縦送り爪・ストッパー爪等をよく水洗いしてください。

休憩・食事のとき・ほ場をかえるときなどには必ず洗ってください。



ガイド板に泥・異物がつまり幅が広がると植え傷みの原因となるので、きれいに洗ってください。(変形している場合は修正または交換してください)
 苗支持板を変形させないように注意してください。
 植付不調になります。



2. 注油のしかた

田植作業を始める前または、後に各部の注油やグリスの塗布・注入を行なってください。

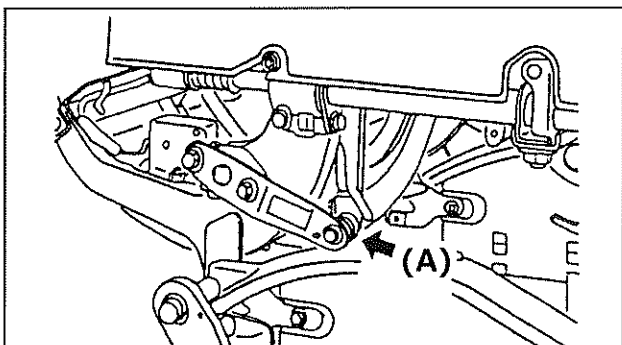
重要

- 注油やグリス塗布をする前に、水が付着しているときはふき取って行ってください。

2.1 注油、グリス塗布・注入箇所

● 縦送り爪下 (グリス塗布)

必ず毎日注油してください。

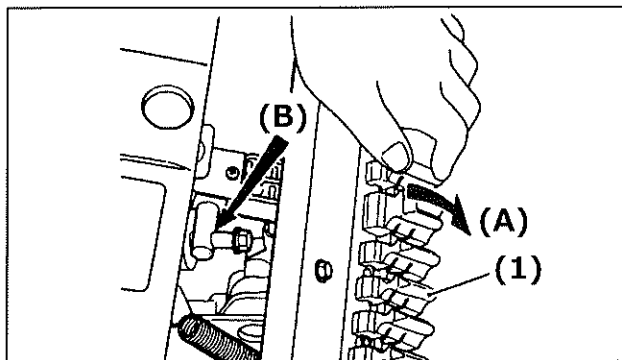


(A) 左右両端 (8箇所)

● 上下送りバネ軸 (グリス塗布)

必ず毎日注油してください。

苗受が上部に上がった状態にして、手で軽く苗受を下方方向に押えてグリスを塗布してください。



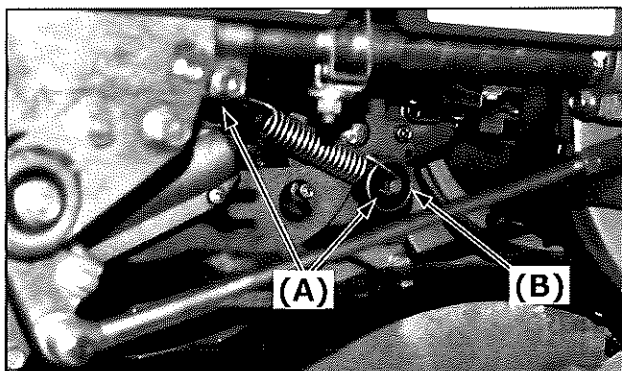
(1) 苗受

(A) 下方方向に押える

(B) グリスを塗布する (4箇所)

● 苗受ローラーの外周 (グリス塗布)

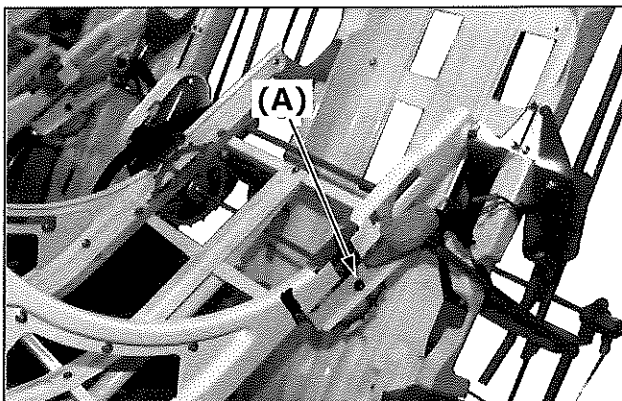
● 苗受ローラーバネの両端 (グリス塗布)



(A) 外周部 (3箇所)

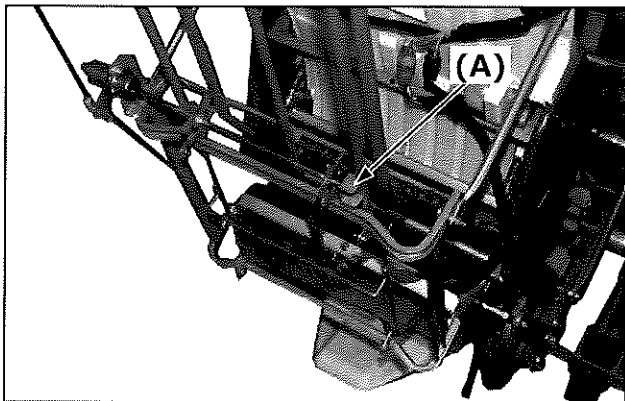
(B) バネの両端 (6箇所)

● 自動供給プーリ軸受 (グリス塗布)



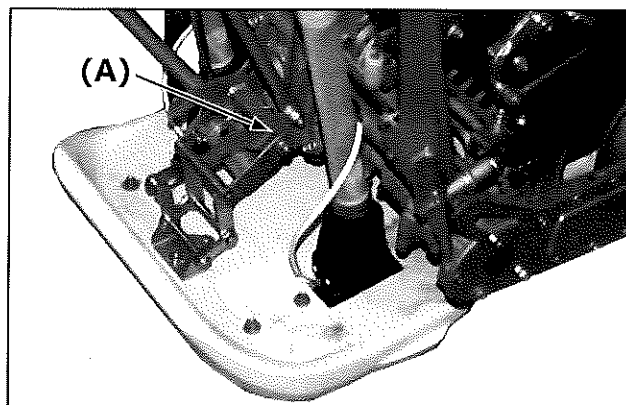
(A) 軸受部 (16箇所)

● 空箱送り軸受 (グリス塗布)



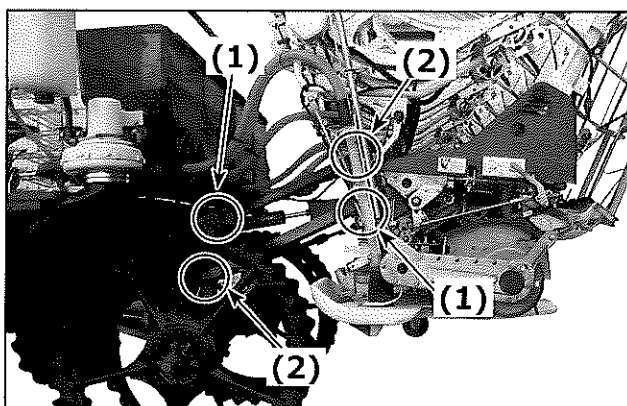
(A) 軸受部 (20箇所)

● フロート支点部 (グリス塗布)



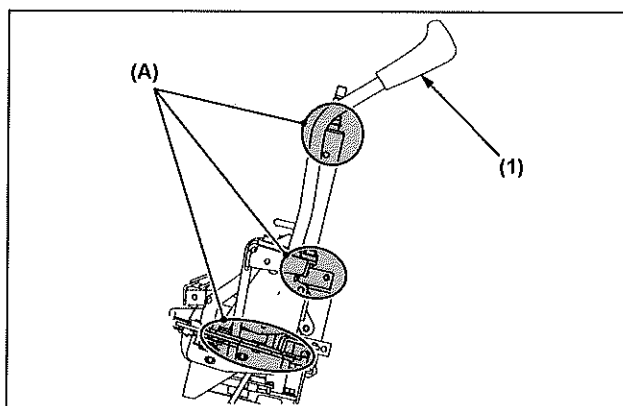
(1) フロート支点部 (4箇所)

● リンク支点部 (グリス塗布、注入)



(1) 油圧シリンダ支点部
(2) リンク支点部

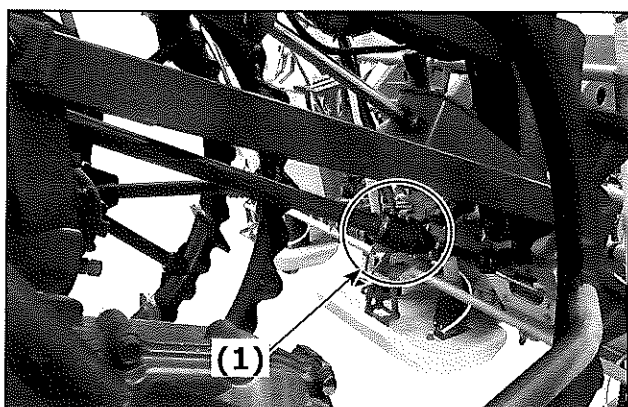
● 主変速レバー支点部、デテント部 (グリス塗布)



(1) 主変速レバー (A) グリス塗布

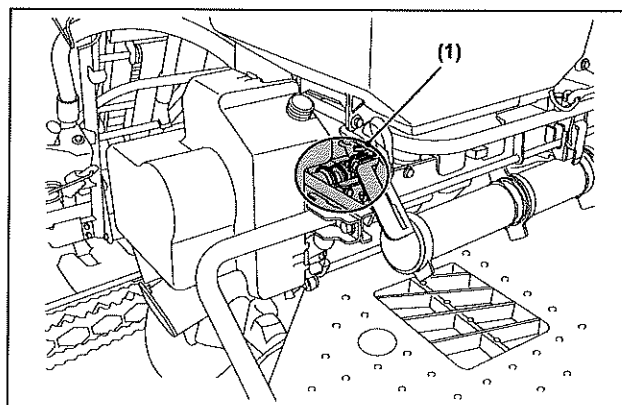
● プロペラシャフト接続部 (グリス塗布)

プロペラシャフト接続部にあるゴムブーツを外してから、グリスを塗布してください。



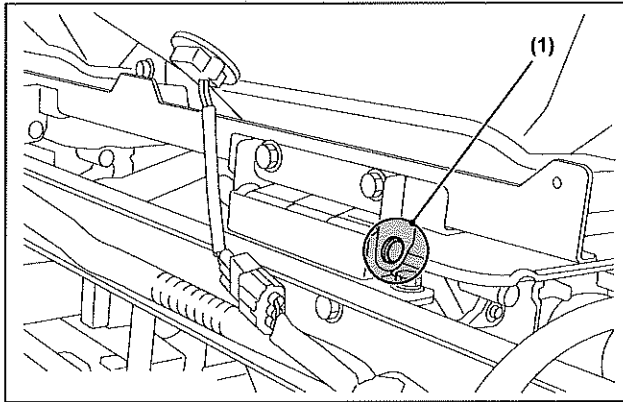
(1) プロペラシャフト接続部

● 爪クラッチ部 (グリス塗布)



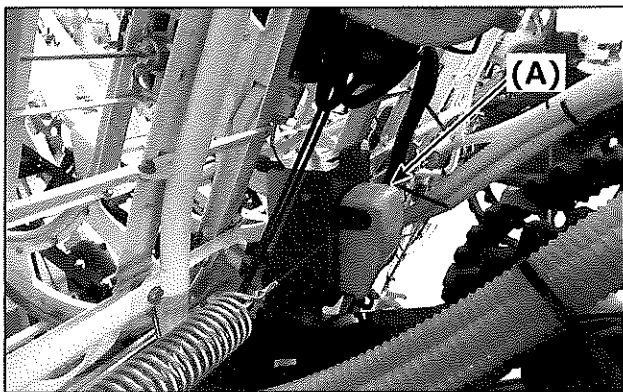
(1) 各条クラッチ部 (各条ごと)、ローラクラッチ部、および爪クラッチ部

● 施肥フレーム回転部 (グリス塗布)

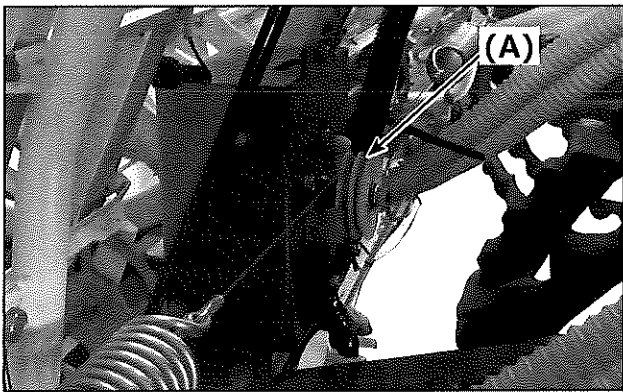


(1) フレーム回転部

● モンローユニット部 (カバーを外してグリス注入)

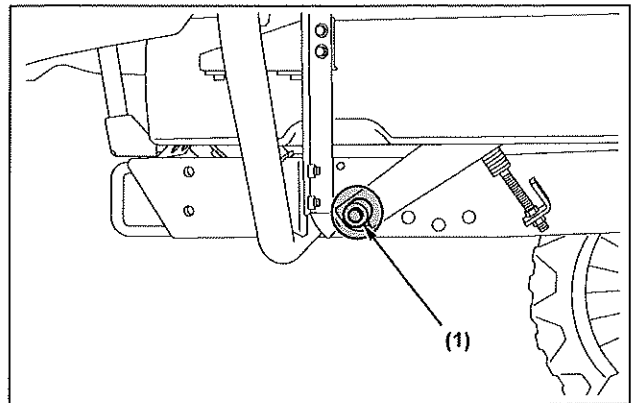


カバー内拡大図



(A) グリス塗布

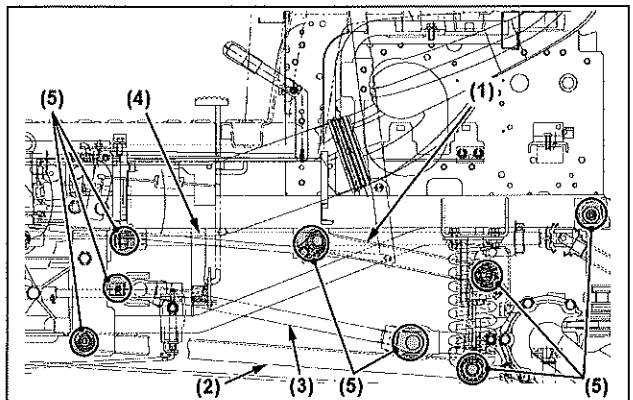
● ミッション駆動ベルトテンションプーリ支点部 (グリス注入)



(1) グリスニップル

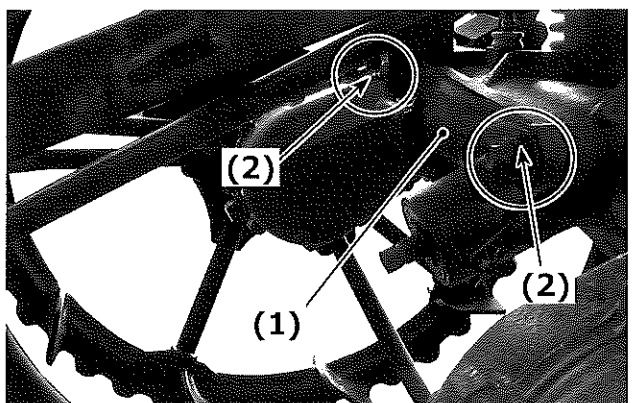
● サスペンションアッパーリンクとサスペンションロアリンクの支点部 (8箇所) (グリス注入)

● 走行シャフトユニバーサルジョイント部 (グリス注入)



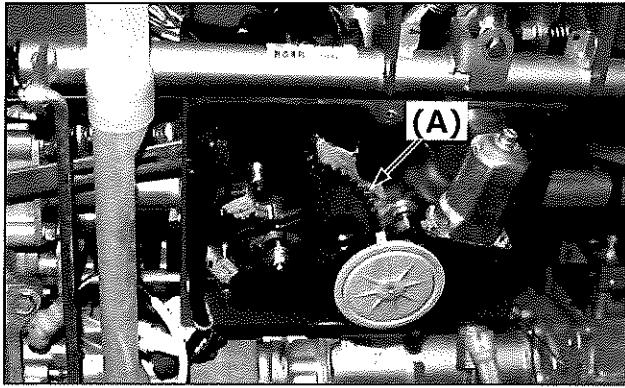
- (1) サスペンションアッパーリンク
- (2) サスペンションロアリンク
- (3) 走行シャフト
- (4) 取付シャフト
- (5) グリスニップル

● リアサスペンションロッド支点部 (2箇所) (グリス注入)



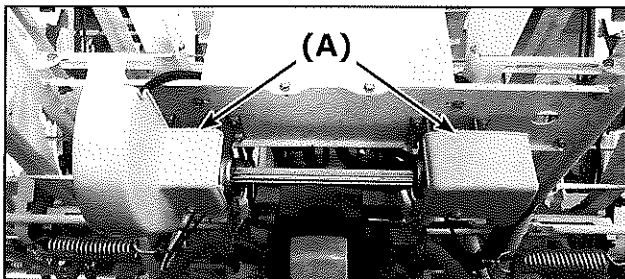
- (1) リアサスペンションロッド
- (2) グリスニップル

● 電動モーター部（筋付マーカ）（グリス塗布）

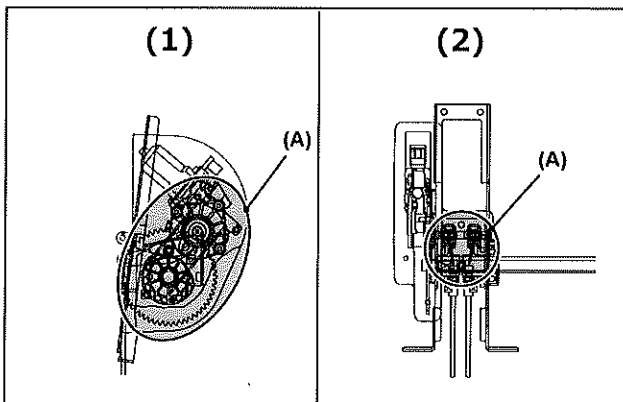


(A) グリス塗布（2箇所）

● 電動各条クラッチユニット部
（各条ごとにカム部、モータギヤ部）（グリス塗布）



カバー内拡大図

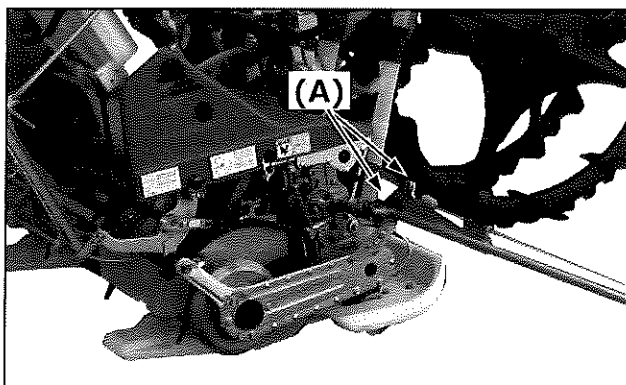


(1) 側面

(A) グリス塗布

(2) 正面

● 筋付マーカ支点（グリス塗布）



(A) 筋付マーカ支点（左右2箇所）

定期点検

定期点検は、田植作業を行う人が定期的に行う点です。

田植機は、使用時間と使用状況に応じて劣化が進みその構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくとは故障や事故の原因となり、ひいては田植機の寿命を短くしてしまいます。

田植機の持つ性能がいつまでも充分発揮できるよう、定期的に点検を行いましょう。

警告

- 各部の点検、調整、交換作業を行うときは、平たんな場所で駐車ブレーキを掛けエンジンを必ず止めて、各レバー類を切位置にして、回転部を止めてから作業をしてください。
- 点検を行うため、取り外した回転部のカバー類は必ず取り付けてから作業をしてください。衣服などが巻き込まれるおそれがあります。
- 燃料の補給中およびバッテリーの点検、充電、交換中は火気厳禁。
- 植付部を上げた状態で作業を行うときは、油圧昇降ロックレバーで油圧をロックし、植付部の下降防止を行ってください。
- ボンネットを開けるときは、内部が充分冷え、ヤケドのおそれがないことを確認してください。
- 燃料やオイルがこぼれたときは、きれいにふき取ってください。
- エンジンを掛けた状態で、わらや雑草の上に駐車しないでください。

注意

- オイルの補給中は火気厳禁。

補足：

- 専門的な技術および特殊工具を必要とする場合および 141 ~ 142 ページの参照ページ欄に☆印のある項目は、購入先にご相談ください。
- 点検や交換の時期は、使用条件および環境に大きく左右されます。従ってひとつの目安として早めの点検をお願いします。

1. 廃棄物の処理について

警告

廃棄物をみだりに捨てたり焼却すると、環境汚染につながります。廃棄物を処理するときは次の注意事項を守ってください。

- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しおよび河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄または、焼却するときは、購入先または、産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。

2. 洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり機械を破損、損傷、故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書およびラベルに従って、正しく使用してください。

注意

洗浄ノズルを拡散にし、2 m 以上離して洗車してください。

もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、次のような問題が発生するおそれがあります。

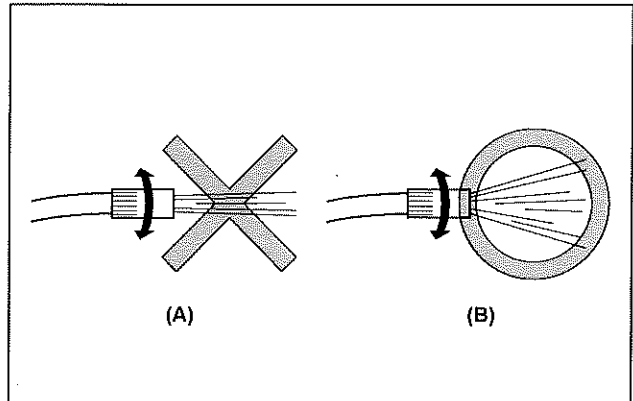
- 電気配線部被覆の損傷や断線により、火災を引き起こすおそれがあります。
- マフラ、排気管、その周辺の断熱材の破損やはがれにより、火災を引き起こすおそれがあります。
- 油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。

重要

● 洗車のしかたが不適切な場合、以下のような機械の破損、損傷、故障の原因になります。

- シール、ラベルの剥がれ
- 電装部品、エンジン室内、ラジエータ室内などへの浸入による故障
- タイヤ、オイルシールなどのゴム類、化粧カバーなどの樹脂部品、ガラスなどの破損
- 塗装およびメッキ面の皮膜剥がれ
- 断熱材の破損やはがれによる火災

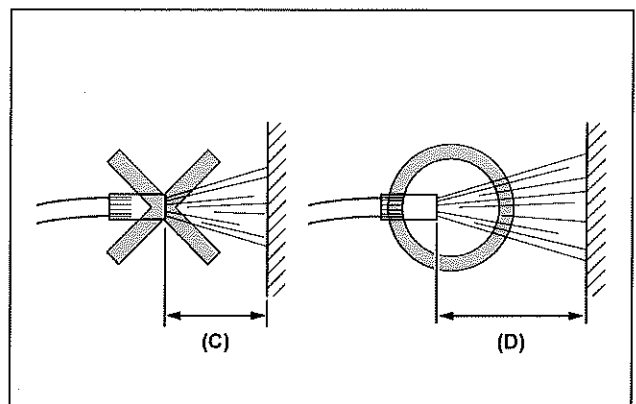
直射洗車禁止



(A) 直射

(B) 拡散

近距離洗車禁止



(C) 2 m 未満

(D) 2 m 以上

重要

- 直接オルタネータに水および油類をかけないでください。発電不良の原因になります。

3. 使用者が行ってはいけない修理

次の部位に異常があるときは、購入先に必ず連絡して修理を依頼してください。

- コントローラ（マイコン）や電気系統（自動制御関係）の機器および部品
- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
- 油圧系統
- 植付部の動力系統

4. 定期点検一覧表

○：点検と調整 △：交換 ▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目	点検・ 処置	点検・交換時期									参照 ページ
		作業前後	シーズン 前後	50 時間	100 時間	200 時間	400 時間	1500 時 間	1 年ごと	2 年ごと	
エンジン部											
オルタネータ駆動 ベルト	調整・ 交換	○：100 時間ごと △：200 時間ごと									154 ☆
エアクリーナエレ メント	掃除・ 交換	○：100 時間ごと（日常点検でも汚れがひどいときは都度掃除） △：1 年ごとまたは、6 回清掃後									151
インレットパイプ （エアクリーナ）	点検・ 交換					○				△	- ☆
インレットマニホ ルド	点検					○					- ☆
燃料タンクの燃料 こしあみ	掃除		○			○					145
燃料噴射管	掃除					○					☆
燃料パイプ	点検・ 交換					○				△	- ☆
（作業前後点検し、燃料もれしているときは締付バンドの締付または、交換）											
燃料フィルタアッ シ	交換				○		△				☆
燃料噴射ノズル開 弁圧	点検							○			☆
オイルフィルタ カートリッジ	-	△：初回 50 時間ごと、それ以降 200 時間ごと									150
ラジエータホース	点検・ 交換	○								△	- ☆
（作業前後点検し、水もれしているときは締付バンドの締付または、交換）											
ラジエータフィン・ ネット	掃除				○						150
各バンド	点検・ 交換					○				△	☆
走行部および操作部											
ミッションオイル フィルタカートリ ッジ	交換	▲：50 時間目 △：100 時間ごと									154
ミッション駆動ベ ルト	点検・ 交換	△：摩耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れが発生したとき									153 ☆
タイヤ	点検・ 交換	○									154 ☆
△：8mm 以上摩耗したとき											
エアタイヤの空気 圧	調整	○								エアタイ ヤ装着時	155 ☆
植付部											
縦送り爪左右 （上、下）	点検・ 交換	○									-
△：摩耗や変形、支点部の動きが悪いとき											
押し棒	点検・ 交換	○									-
△：破損、摩耗、取付部のガタが大きくなったとき											
苗受	点検・ 交換	○									-
△：破損、変形、摩耗が大きくなったとき											
苗支持板	点検・ 交換	○									-
△：欠落、変形、摩耗が大きくなったとき											
植付爪 ガイド板	点検・ 交換	○									-
△：変形、摩耗が大きくなったとき											
タイミングベルト 土落しブラシ	点検・ 交換	○									-
△：伸び、キレツ、変形が発生したとき											
苗箱ブレーキ板	点検・ 交換	○									-
△：摩擦が大きくなったとき											

○：点検と調整 △：交換 ▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目	点検・処置	点検・交換時期								参照ページ	
		作業前後	シーズン前後	50時間	100時間	200時間	400時間	1500時間	1年ごと		2年ごと
植付部											
送り押え板、左右アーム外	点検・交換	○									-
△：摩擦が大きくなったとき											
スプロケット先板 スプロケット上板	掃除・交換	○									-
△：摩擦が大きくなったとき											
施肥部											
施肥ブラシ	交換	○									155
△：摩耗がひどいとき											
ホース	点検・交換	○									- ☆
△：破損時											
ロート・ロール	掃除	○									155
駆動部（ワンウェイ）	点検・交換	○									☆
△：施肥量が極端に少なくなったとき											
ブロワダクト吸入口	掃除	○									134
電装部											
バッテリー	充電・交換	○：セルモータが回りにくい、ライトが暗いときなど △：バッテリー上り（セルモータが回らない）とき								156	
ワイヤハーネス・バッテリーコード	点検・交換	○									159 ☆
△：破損時											
ヒューズ・スローブローヒューズ	交換	△：破損時（ヒューズ切れ）								160	
ランプ（電球）	交換	△：破損時（球切れ）								163	

● 参照ページに☆印のある整備項目の交換については、購入先に連絡または、整備工場で行ってください。

補足：

- 表の時間は目安です。機械の使用条件や使用環境などによって、消耗部品の調整や交換時期は異なります。
- 使用時間については、メインパネルのデジタル表示を参照して確認してください。
- 外観に亀裂や破損が見られる場合は、購入先に連絡または、整備工場に交換してください。

5. 給油、注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量 (L)	種類	参照ページ
			点検	交換			
燃料	燃料タンク	給油		-	容量・・・ 約 28	ディーゼル軽油	145
オイル	エンジン	補給・交換	作業前または、作業後	初回・・・ 50 時間目 2 回目以降・・・ 200 時間ごと	規定量・・・ オイルゲージの 下限と上限の間 容量・・・ 約 3.4	D10W-30	146
	ミッションケース	補給・交換	作業前または、作業後	初回・・・ 50 時間目または、3 年 経過後	規定量・・・ オイルゲージの 下限と上限の間 容量・・・ 約 11	クボタ純オイルスーパー UDT-2	147
	後車軸ケース	補給・交換	作業前または、作業後	2 回目以降・・・ 100 時間ごとまたは、 3 年経過後	規定量・・・ オイルゲージの 下限と上限の間 容量・・・ 約 5.8		147
	植付部ミッションケース	補給	作業シーズン前、後	初回・・・ 50 時間目 2 回目以降・・・ 200 時間ごと	規定量・・・ 各約 1.4	ギヤオイル #90	148
水・液	冷却水 (リザーブタンク)	補水	作業前または、作業後	2 年 (冬季停止時は排出)	規定量・・・ タンク側面の [LOW] (下限) と [FULL] (上限) の間 LOW : 0.08 FULL : 0.575	清水または、不凍液を 35% 入れる	148
グリス	縦送り爪左右	補給	作業前または、作業後	適宜・毎日	適量	油・グリス	136
	上下送りバネ軸						
	ブレーキペダル支点		作業前、後	適宜 (目安 20 時間ごと)			
	ミッション駆動ベルトテンションプーリー支点部						
	油圧シリンダ支点部						
	リンク支点部						
	プロペラシャフト接続部						
	施肥機駆動部						
	施肥フレーム回動部						
	植付ロアーリンク						

(次へ続く)

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量 (L)	種類	参照ページ
			点検	交換			
グリス	モンローユニット部	補給	作業前、後	適宜 (目安 20 時間ごと)	適宜	油、グリス	136
	センサ支点						
	エンジンテンションブリー支点部						
	サスペンションアッパーリンクとサスペンションロアリンクの支点部						
	走行シャフトユニバーサルジョイント部						
	リヤサスペンションロッド支点部						
	マーカ用電動モータ部						
	電動各条クラッチユニット部						
	各条クラッチ部						
	ローラクラッチ部						
爪クラッチ部							
施肥フレーム回動部							

- 参照ページに☆印のある整備（分解作業）については、購入先に連絡してください。
- 使用時間については、メインパネルのデジタル表示を参照して確認してください。

重要

各部への補給と交換

- 点検するときは、機械を平たんな場所において行ってください。傾いていると正確な量を示しません。
- エンジンオイル量の点検は、エンジン停止後、5分以上経過してから行ってください。
- ミッションケース、後車軸ケースは、使用開始から 50 時間に満たない場合でも、3 年経過後オイル交換をしてください。
- 使用するオイルは、指定のオイルを使用してください。
- 補給や交換の際は、ごみや水が混入しないようにしてください。

6. 燃料、オイルの点検、補給、交換

警告

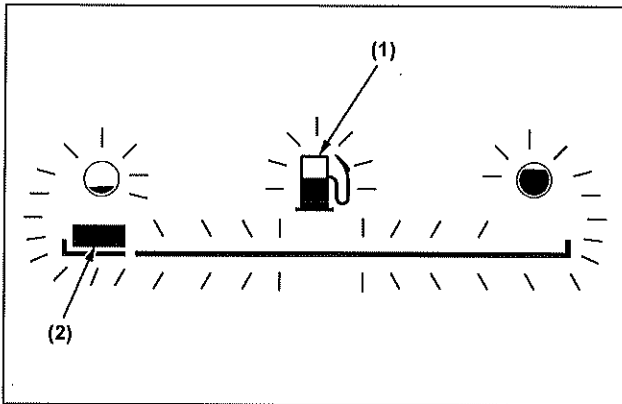
- 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
- エンジン停止直後は、エンジン周りや各部オイルが熱くなっているため、引火火災やヤケドをするおそれがあります。

重要

- 補給、交換を行うときは、機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
 - 廃油は使用しないでください。
 - 給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。
 - 使用するオイルはクボタ純オイルを使用してください。
- 点検するときは機体を水平な場所に置いて行ってください。傾いていると正確な量を示しません。

6.1 燃料の補給

燃料計のデジタルメータが【E】（空）に近づき、燃料計が点滅したら早めに燃料を補給してください。



(1) 燃料計
(2) 目盛り（点滅）

重要

- 燃料は、ディーゼル軽油を必ず使用してください。また、下記のような燃料は使用しないでください。エンジンがかからなかったり、エンジンの不調や故障の原因になります。
 - 古い燃料
 - 錆、泥、水、ゴミなどの異物が混入した燃料（錆が発生している容器内に保管していた場合など）
 - 軽油以外の液体が混入した燃料（水など他の液体が混入した容器内に保管していた場合など）

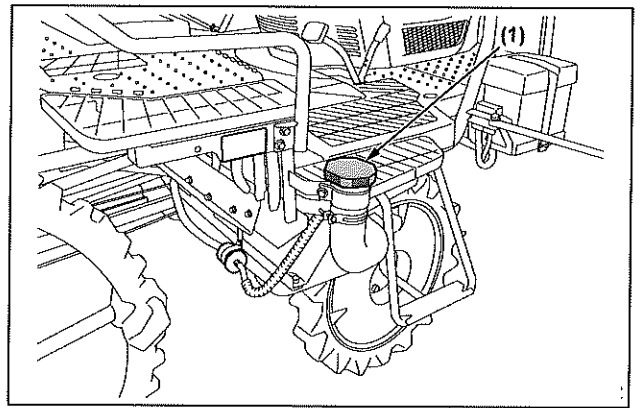
補足：

- 燃料の補給後は、燃料キャップを確実に取り付けてください。燃料キャップの締忘れや締付不足があると、燃料キャップが脱落するおそれがあります。
- 燃料計が点滅しても、警報ブザーが鳴らないため、燃料切れに注意してください。

6.1.1 給油

燃料を給油するときは平坦な場所でエンジンを止め、燃料キャップを外してください。

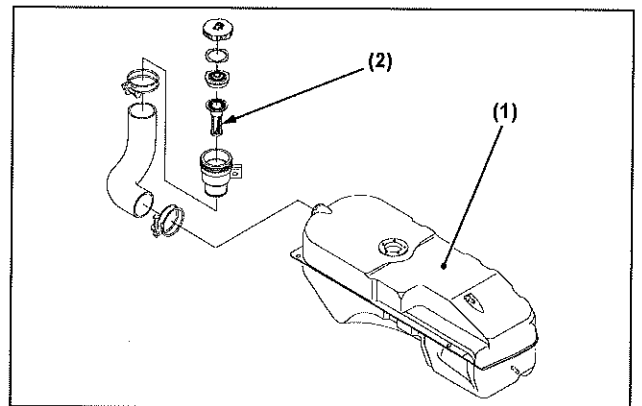
燃料の種類	燃料タンクの容量
ディーゼル軽油	約 28 L



(1) 燃料キャップ（給油口）

重要

- 給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにごみなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。



(1) 燃料タンク
(2) 燃料こしあみ

6.1.1.1 満タン警報ブザー

燃料給油の際、燃料があふれることを未然に防ぐため、満量に近づくとブザーが鳴り作業者に知らせます。

1. メインスイッチのキーを [運転] 位置にします (エンジンは始動しないでください。)

補足：

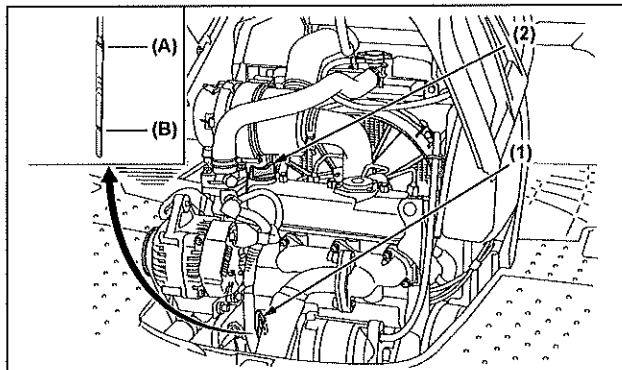
- メインスイッチのキーが [停止] 位置または、[e-stop] 機能でエンジンが停止状態のときは、満タン警報ブザーは鳴りません。

2. 燃料を給油します。
3. 燃料給油を感知して、メインパネルにある燃料計のデジタル表示が上昇します。
4. 満量に近づくとブザーが鳴ります。

6.2 エンジンオイルの点検、補給、交換

点検、補給

1. ボンネットを開いたあと、給油栓を外します。
2. オイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。
3. もう一度差し込んでから抜き、オイルゲージの上限と下限の間にオイルがあるか点検します。
4. 不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油します。
5. さらに、油もれの無いことも調べます。



- (1) オイルゲージ (A) 上限
(2) 給油栓 (給油口) (B) 下限

交換

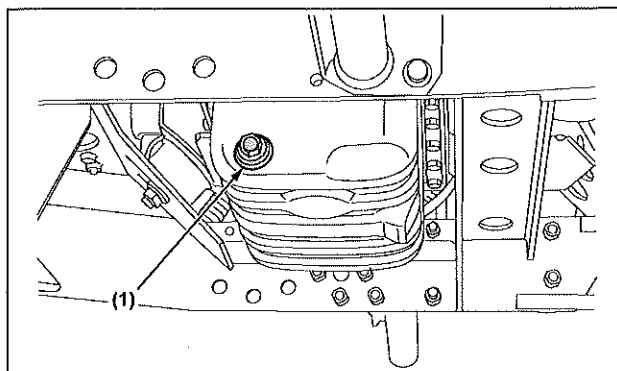
排油のしかた



警告

- マフラやエンジンオイルが充分冷えてからオイルを排出してください。

1. 給油栓を外します。
2. 排油プラグを外し、オイルを排出します。



(1) 排油プラグ (排油口)

排油のしかた

1. 排油プラグを締付けます。
2. 給油口から規定量のオイルを給油します。
3. 給油栓を締付けます。

重要

- エンジンオイルを補給・交換するときに、ごみなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。
- 指定以外のオイルは使用しないでください。指定以外のオイルを使用すると、出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗または、劣化してエンジントラブルの原因となります。

ディーゼルエンジン用 [C F 級以上] のオイルをお使いください。

気温により、下表のように使い分けてください。

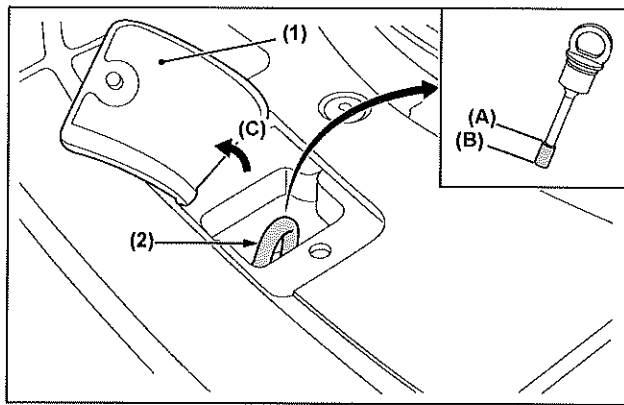
気温	オイルの種類	規定オイル容量
0℃以下	SAE10W または、10W-30	約 3.4 L
0 ~ 25℃	SAE20 または、10W-30	約 3.4 L
25℃以上	SAE30 または、10W-30	約 3.4 L

※ 10W-30 はオールシーズン用です。

6.3 ミッションオイルの点検、補給、交換

点検、補給

1. 植付部を下降させたあと、副変速レバーを [圃場作業] 位置にします。
2. ステップ前方にあるゴムカバーをめくり、オイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。
3. オイルゲージをもう一度差し込み、いっぱいまで押込んでから抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか点検します。
4. 不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油します。
5. さらに、油もれの無いことも調べます。

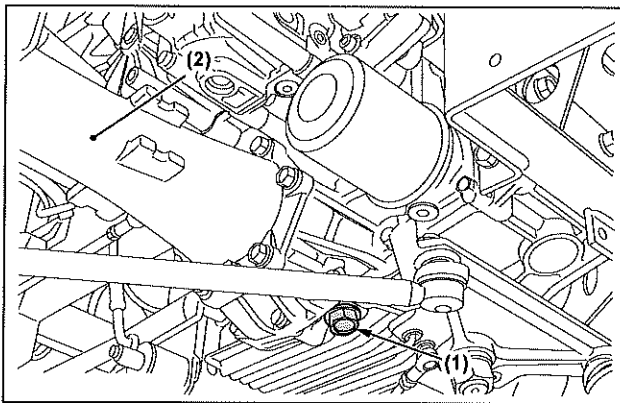


(1) ゴムカバー (A) 上限
(2) オイルゲージ (給油口) (B) 下限
(C) めくる

交換

排油のしかた

1. オイルゲージを外します。
2. 排油プラグを外し、オイルを排出します。



(1) 排油プラグ (排油口)
(2) 前車軸ケース (右側)

給油のしかた

1. 排油プラグを締付けます。
2. 給油口から規定量のオイルを給油します
3. オイルゲージを差込んでください。

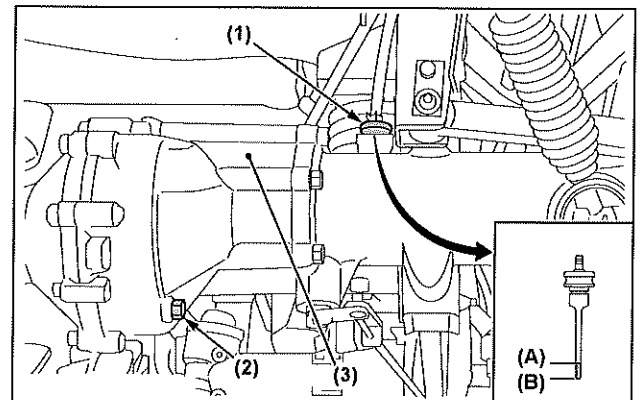
オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイルスーパー UDT-2	約 11 L

重要

- 給油したあとエンジンを約 1 分回転させて、再度点検を行い不足しているときは、オイルを追加補給してください。

**6.4 後車軸ケースオイルの点検、補給、交換
点検、補給**

1. オイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。
2. もう一度差し込んでから抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか点検します。
3. オイルが不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油します。
4. さらに、油もれないことも調べます。



(1) オイルゲージ (給油口) (A) 上限
(2) 排油プラグ (排油口) (B) 下限
(3) 後車軸ケース

交換

排油のしかた

1. オイルゲージを外します。
2. 排油プラグを外し、オイルを排出します。

給油のしかた

1. 排油プラグを締付けます。
2. 給油口から規定量のオイルを給油します
3. オイルゲージを差込んでください。

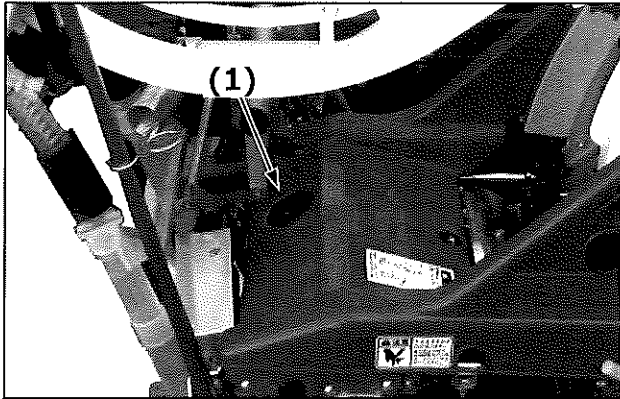
オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイルスーパー UDT-2	約 5.8L

6.5 植付ミッションオイルの交換

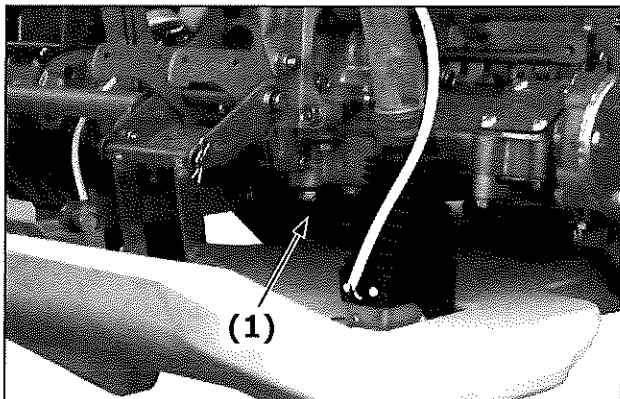
交換

排油のしかた

1. 給油口を外します。
2. 排油プラグを外し、オイルを排出します。



(1) 給油口



(1) 排油プラグ (排油口)

給油のしかた

1. 排油プラグを締付けます。
2. 給油口から規定量のオイルを給油します

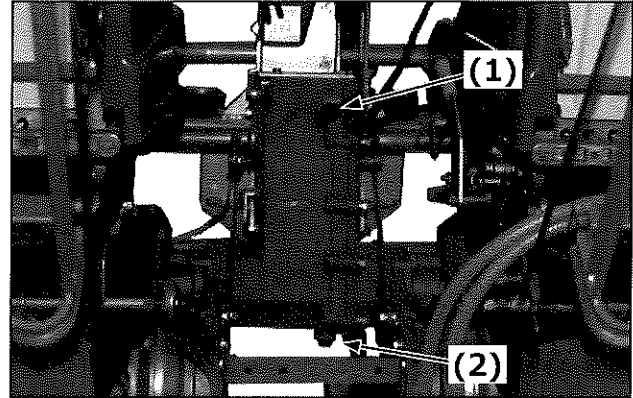
オイルの種類	オイル容量
ギヤオイル #90	各約 1.4L

6.6 植付中間ケースオイルの交換

交換

排油のしかた

1. 排油プラグを外し、オイルを排出します。



(1) 給油口
(2) 排油プラグ

給油のしかた

1. 排油プラグを締付けます。
2. 給油口から規定量のオイルを給油します

オイルの種類	オイル容量
ギヤオイル #90	約 1.2L

7. ラジエータ冷却水の点検、交換

警告

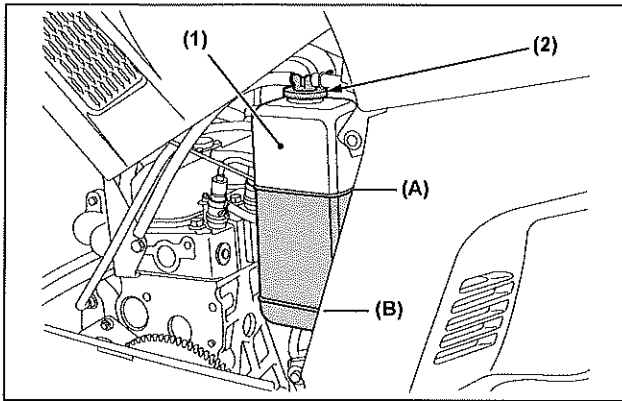
- ラジエータキャップやリザーブタンクは、エンジン運転中および停止直後に開けると、熱湯が噴出することがありますので、エンジン停止後充分冷えてからにしてください。
- 異なるメーカーの不凍液を混用しないでください。

補足：

- [FULL] (上限) の線以上は補給しないでください。

点検

1. ボンネットを開きます。
2. リザーブタンクの水量が [LOW] (下限) と [FULL] (上限) の間にあるか確かめます。
3. [LOW] (下限) の線より下にあるときは、リザーブタンクのキャップを外して清水を補給します。



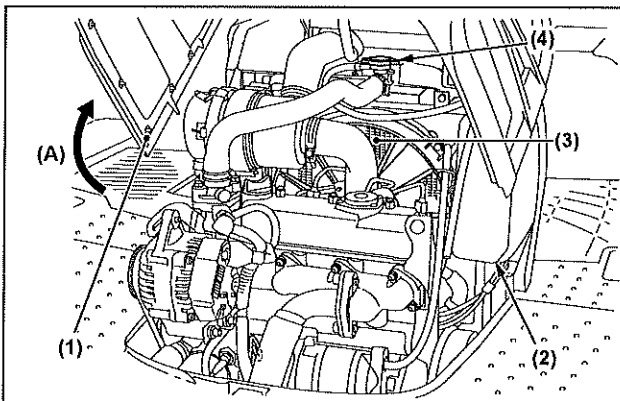
(1) リザーブタンク (A) FULL (上限)
(2) キャップ (B) LOW (下限)

重要

- 冷却水が自然に不足したときは、必ず清水を補給してください。不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。

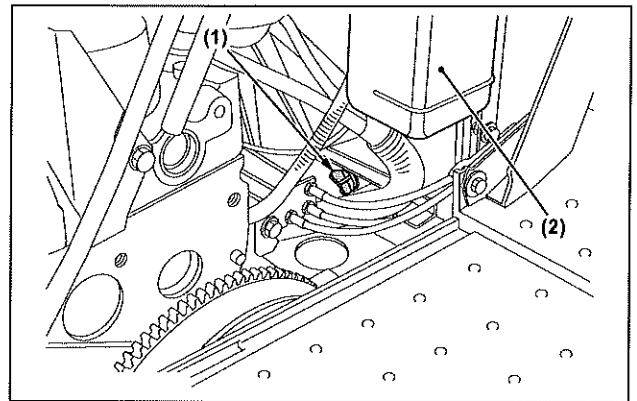
交換

1. ラジエータの冷却水は排水プラグを外したあと、ラジエータキャップを外して排水します。



(1) ボンネット (A) 開ける
(2) リザーブタンク
(3) ラジエータ
(4) ラジエータキャップ

2. リザーブタンクの冷却水は、タンクのステーからリザーブタンクを外して排水します。



(1) 排水プラグ (排水口)
(2) リザーブタンク

3. 水道水でごみやさびが出なくなるまで洗います。
4. 排水プラグを締付けたあと、目標温度 (外気温) の比率分 (混合比) の不凍液をラジエータおよびリザーブタンクに入れます。

重要

- 不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
- 不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
- 不凍液 (ロングライフクーラント) の有効使用期間は 2 年間です。必ず 2 年で交換してください。
- 排水プラグを締め忘れると水もれが発生するおそれがあります。

補足 :

- 不凍液混合比は、寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して、以下の表を参照して混合比を決めてください。また、不凍液はエチレングリコール (EG) タイプのロングライフクーラントをご使用ください。

不凍液混合比率表

外気温 (°C)	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-40
比率	水 (%)	75	70	65	60	55	45
	不凍液 (%)	25	30	35	40	45	55

- 出荷標準不凍液は 50%
- ラジエータ容量は以下の表のとおりです。

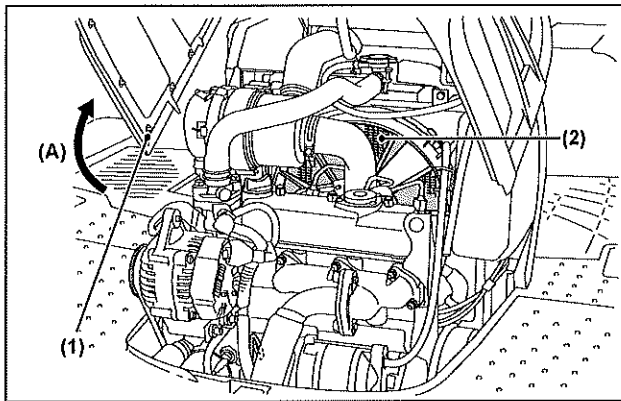
ラジエータ容量	約 1.5 L (エンジンを含めると 2.5 L)
---------	---------------------------

- 新しい冷却水に交換を行ったあとは、必ず不凍液を入れて、5 分間エンジンを空回転し、不凍液の混合を早めてください。そのあと、リザーブタンクの水量を確かめておいてください。

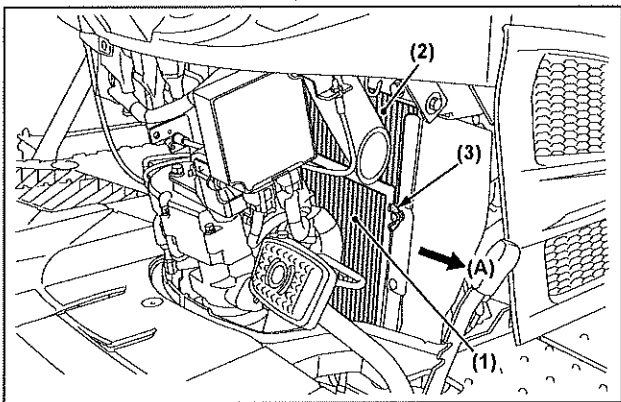
5. ラジエータキャップ、リザーブタンク、およびキャップを取り付けます。

8. ラジエータフィンの掃除

1. ボンネットを開いたあと、リヤカバーを取り外します。(129 ページ参照)



(1) ボンネット (A) 開ける
(2) ラジエータフィン



(1) ラジエータネット (A) 引く
(2) ラジエータフィン
(3) 蝶ボルト

補足：

- ラジエータネットは蝶ボルトを取り外し、右側に引くと取り外せます。
2. 圧縮空気を使用するなどしてラジエータ部およびエンジンに付着しているごみ、泥などを掃除します。

重要

- ヘラ、ドライバなど固いものを使用して、ラジエータフィンは掃除しないでください。ラジエータフィンを傷め、ラジエータの機能を低下させる原因になります。
- エンジンの不調または、故障の原因となりますので、水を掛けしないでください。

9. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

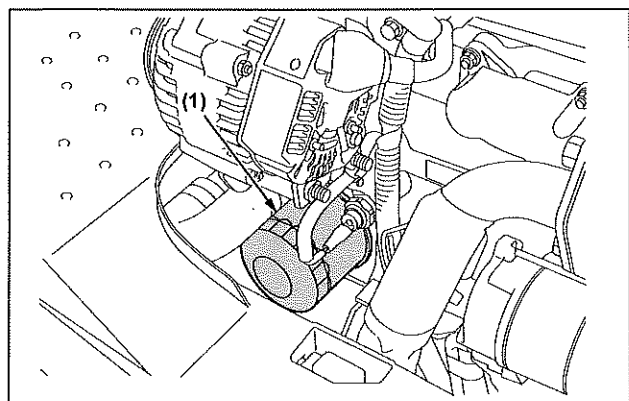
エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときは、エンジンオイルの交換（146 ページ参照）と同時に変換してください。交換するときは、エンジンルームをオープンしてください。

交換

1. 専用工具を使ってエンジンオイルフィルタカートリッジを取り外します。

補足：

- 取り外しかたや専用工具については、購入先にご相談ください。
2. 新しいエンジンオイルフィルタカートリッジを取り付けます。



(1) エンジンオイルフィルタカートリッジ

重要

- 新しいエンジンオイルフィルタカートリッジは O リングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
- エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに、ごみなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり、エンジンの故障の原因となります。

3. オイルゲージの上限線までオイルを補給します。
4. 5 分程度エンジンを運転して各部および油圧（オイルランプ）に異常がないことを確認してから、エンジンを止め、再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確かめます。

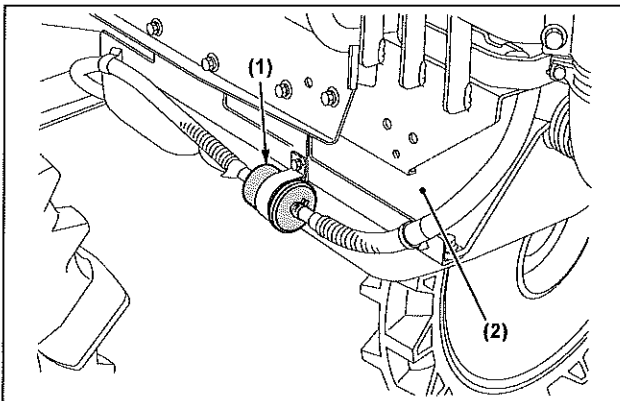
補足：

- オイルフィルタカートリッジを交換すると、オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

10. 燃料フィルタアッシの交換

交換

運転時間が 200 時間ごとに燃料フィルタアッシを交換してください。燃料フィルタアッシは燃料タンクの後側にあります。



(1) 燃料フィルタアッシ
(2) 燃料タンク

重要

- 燃料フィルタアッシを組付けるとき、ごみやほこりが付着しないように注意してください。

補足：

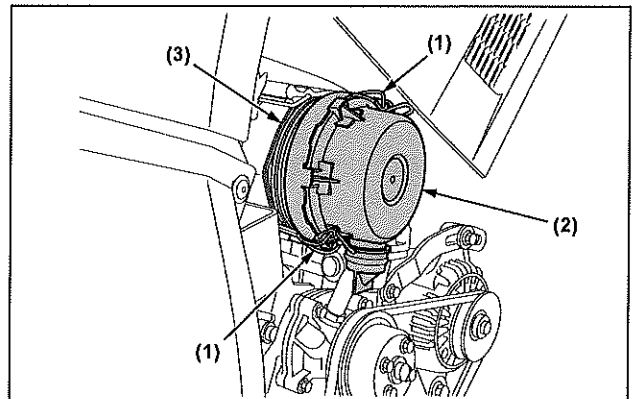
- 燃料フィルタアッシを組付けるとき、組付ける方向を間違えないように注意してください。
- フィルタ下部に水が溜まっているときは、早目に交換してください。
- 燃料タンクにごみなどの異物や水が混入すると、フィルタの目詰まりが早くなったり、フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。
- 交換後は、メインスイッチのキーを [運転] 位置にすると 5 ～ 10 秒で自動的にエア抜きされます。

11. エンジンバルブクリアランスの点検

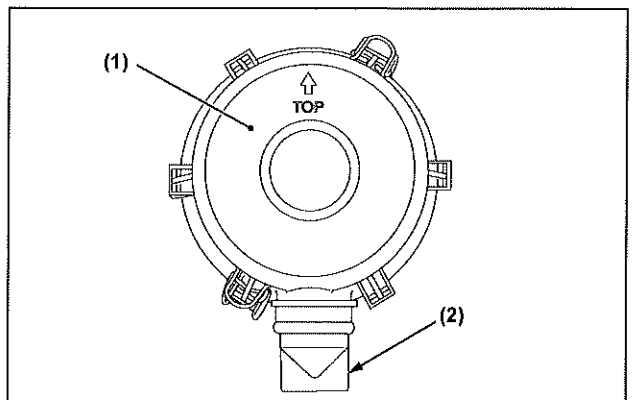
運転時間が 800 時間ごとに購入先で点検および交換をしてもらってください。

12. エアクリーナエレメントの点検、掃除、交換

ボンネットをオープンし、クランプ 2 箇所を外してダストカップを取り外してください。ダストカップ内側のごみはエバキュエータバルブをつまんで取除いてください。



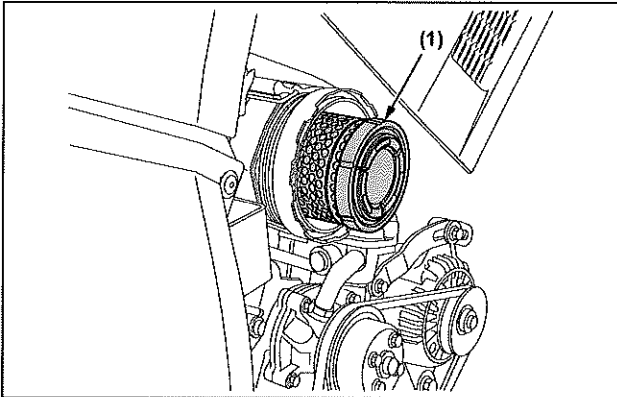
(1) クランプ
(2) ダストカップ
(3) エアクリーナ



(1) ダストカップ
(2) エバキュエータバルブ

点検、掃除、交換

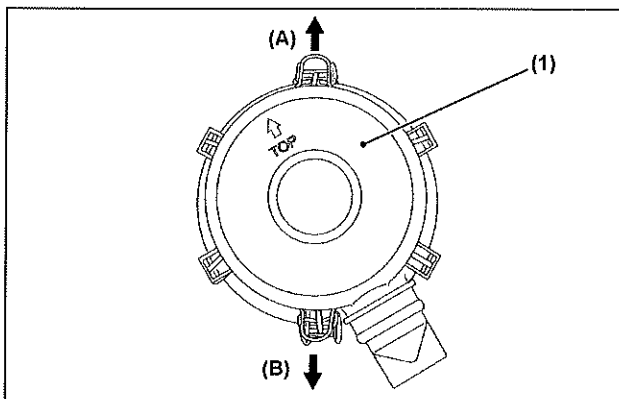
エレメントの点検を行い、掃除または、交換を行ってください。エレメントの掃除は、エレメントの内側から空気を吹きつけるか、または軽く振ってごみを取除いてください。汚れのひどい場合は、交換してください。



(1) エレメント

重要

- 高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので、オイルを使用しないでください。
- エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗または、劣化してエンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行ってください。
- エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除前は、たたいたり固い物に当たって変形させるとエンジンの故障の原因となりますのでしないでください。
- エレメントを取り付けたあと、ダストカップの取付方向に注意してください。



(1) ダストカップ

(A) 上側
(B) 下側

重要

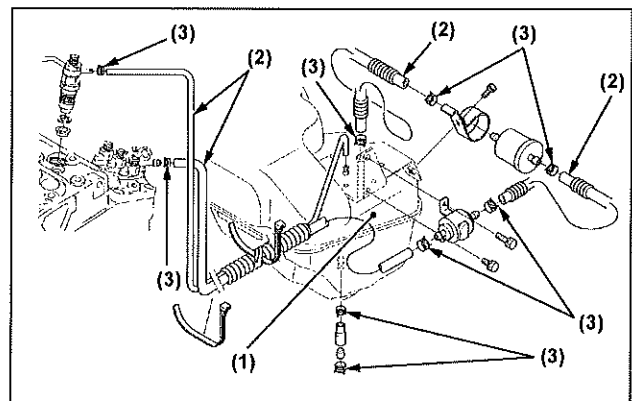
- エレメントを掃除する場合、エアの圧力は 205 kPa (2.1 kgf/cm²) をこえないよう注意し、エアーガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。また、エアはエレメントの内側から外側に通してください。

13. パイプ・ホース類の点検、交換

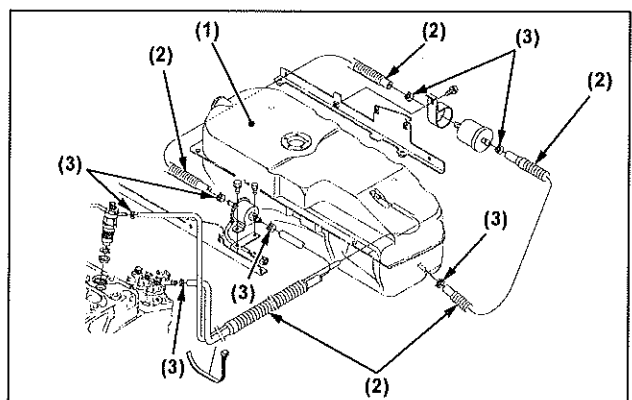
警告

- 運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあるため、ホースの点検および交換を行うときは、バンドの締付けを行ってください。
- 燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起こし火災の原因となります。

・燃料パイプ

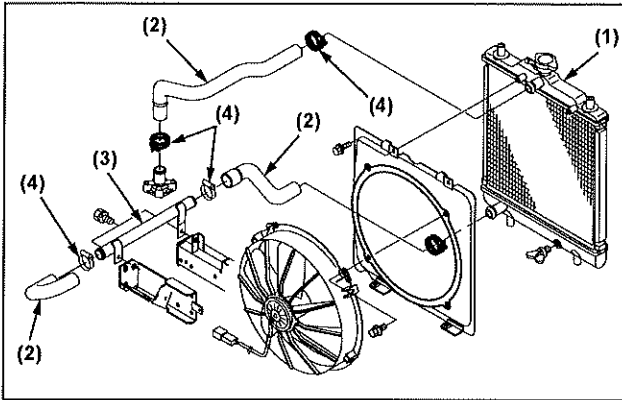


(1) 燃料タンク
(2) 燃料パイプ
(3) バンド

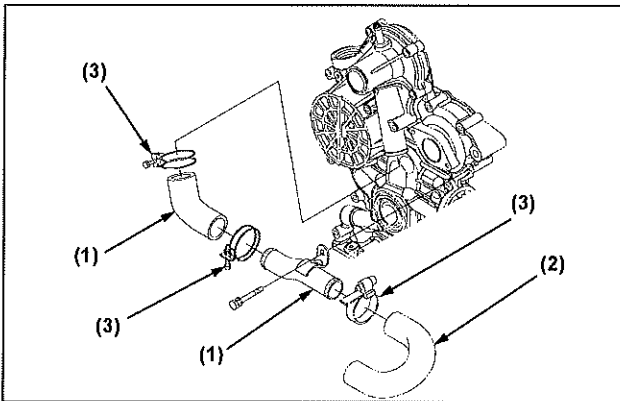


(1) 燃料タンク
(2) 燃料パイプ
(3) バンド

- ・ラジエータホース
- ・ウォーターパイプ

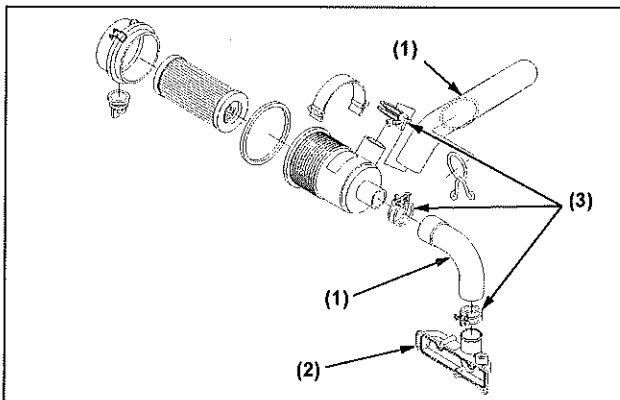


- (1) ラジエータ
- (2) ラジエータホース
- (3) ラジエータパイプ
- (4) バンド



- (1) ウォータパイプ
- (2) ラジエータホース
- (3) バンド

・エアクリーナ






- (1) ウォータパイプ
- (2) インレットマニホールド
- (3) バンド

14. ミッション駆動ベルトの点検

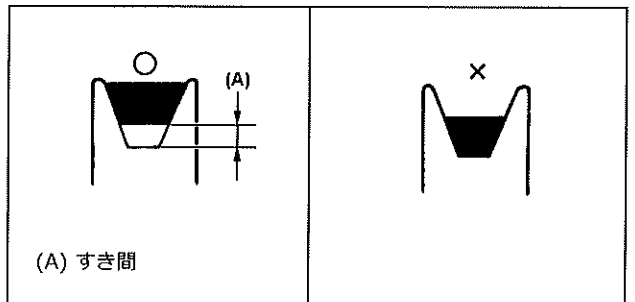
点検

各部のベルトを点検するときは、以下の事項をよく確認してください。

- ・ベルトの焼付き、摩耗、被覆のはがれ、き裂、ひび割れ

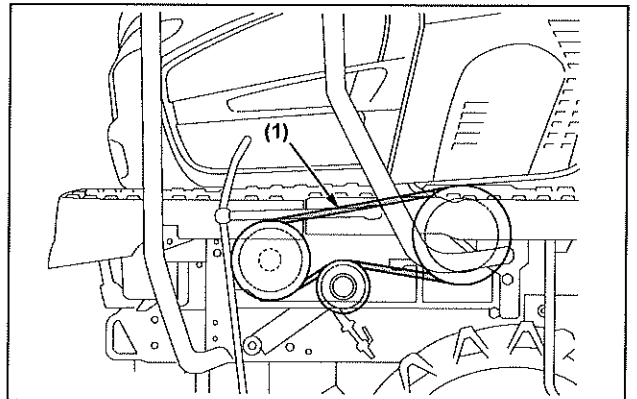
焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
		

- ・ベルトの底部とプーリ溝部のすき間

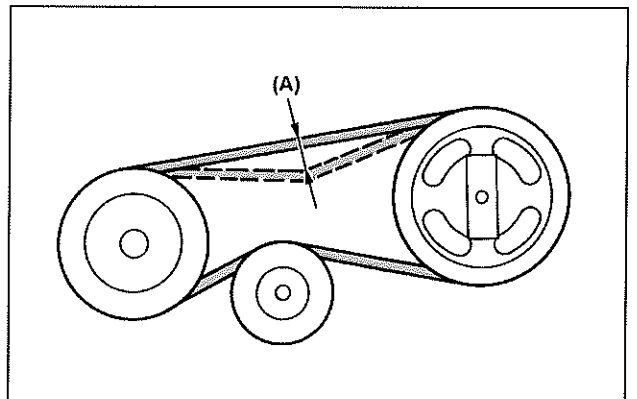


(A) すき間

- ・ベルトの伸び (たわみ量)



(1) ミッション駆動ベルト



(A) たわみ量

補足：

- 異常があれば購入先へ連絡してください。

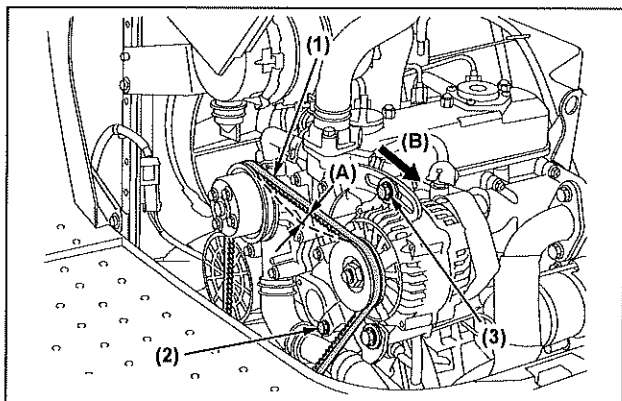
重要

- ベルトは必ず純正品を使用してください。

15. オルタネータ駆動ベルトの点検、調整

指先でベルトの中央部を押したとき(約60～70N {6～7 kg} の荷重) のたわみ量を5～10 mmに調整します。

1. ボンネットをオープンします。
2. オルタネータの取付ボルトと調整ボルトをゆるめます。
3. オルタネータを引っ張ります。
4. 調整ボルトを締付けたあと、取付ボルトを締付けます。



- (1) オルタネータ駆動ベルト (A) たわみ量：5～10 mm
 (2) 取付ボルト (B) 引く
 (3) 調整ボルト

5. ボンネットを閉じます。

16. ミッションオイルフィルタカートリッジの交換

交換

1. 植付部を降ろします。
2. 排油プラグを外し、ミッションオイルを排出します。(146 ページ参照)
3. 専用工具を使ってミッションオイルフィルタカートリッジを取り外します。

補足：

- 取外しかたや専用工具については、購入先にご相談ください。
4. 新しいミッションオイルフィルタカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で締付けます。

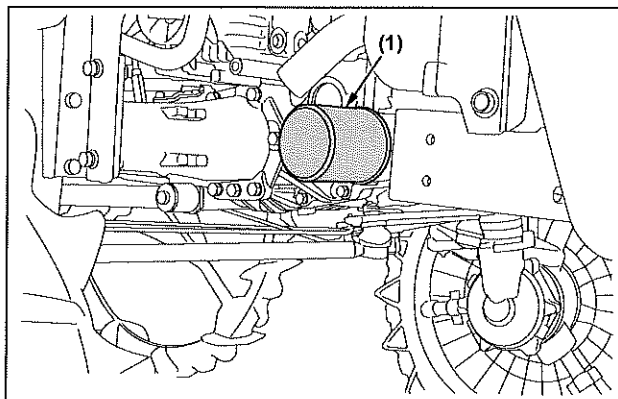
補足：

- ミッションオイルフィルタカートリッジを交換すると、ミッションオイルフィルタカートリッジに入る量だけミッションオイルの油面が下がります。

5. オイルゲージの上限線までオイルを補給します。

重要

- ミッションオイルを交換するときに、ゴミなどの異物が混入するとミッションオイルフィルタの目詰まりが早くなったり、ミッションの故障の原因となります。



- (1) ミッションオイルフィルタカートリッジ

6. 5分程度エンジンを運転して各部に異常がないことを確認してから、エンジンを止め、再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確かめます。

重要

- ミッションオイルを交換するときに、ゴミなどの異物が混入するとミッションオイルフィルタの目詰まりが早くなったり、ミッションの故障の原因となります。
- 給油したあとエンジンを約1分間以上負荷をかけずに回転させて、オイルゲージで点検を行い、下限より少ないときは、ミッションオイルを追加補給してください。

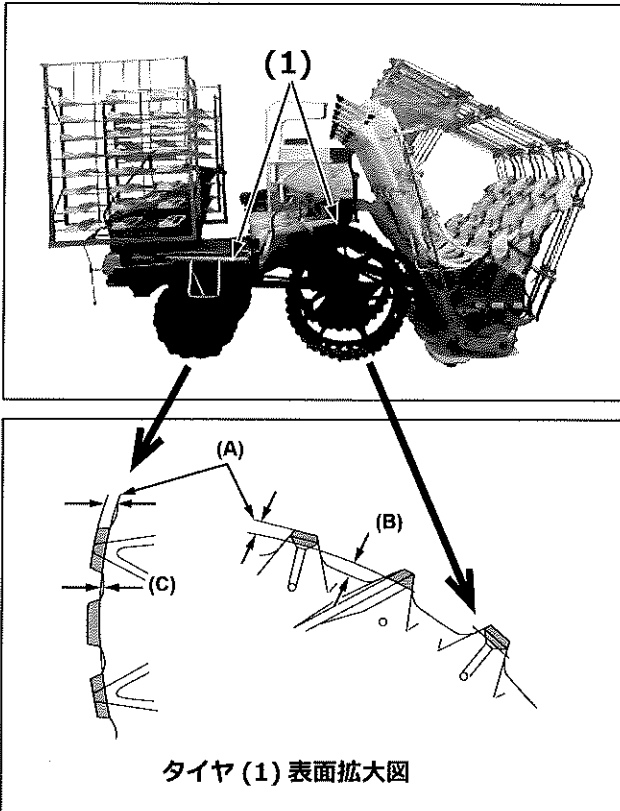
17. タイヤの点検

警告

- タイヤが摩耗するとスリップを起こしやすくなり、あゆみ板の上などで脱輪して転倒するおそれがあります。

点検

1. 前輪および後輪共にタイヤの摩耗や破損（ひび割れなど）を点検します。
2. 8 mm 以上摩耗している場合や破損がひどい場合は、購入先に連絡して交換します。



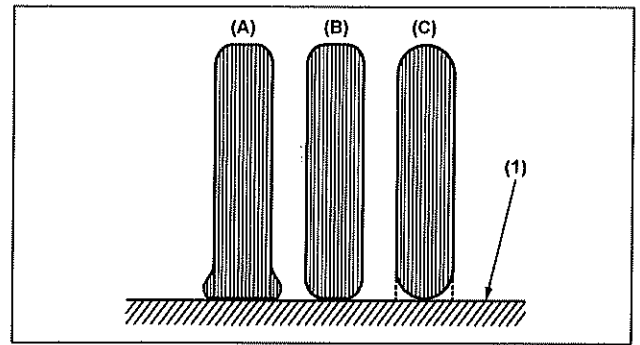
- (A) 摩耗量 8 mm 以内
- (B) 残り 13 mm
- (C) 残り 2 mm

18. 前輪エアタイヤ、後輪タイヤ [エアタイヤ装着時] 空気圧の点検、調整

警告

- タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起す原因になります。
- タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
- タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。特別教育を受けた人が行うように、法律で決められています。

タイヤの空気圧が適正であることを調べます。外観から判断する目安は以下の通りです。



- (1) 接地面
- (A) 空気が不足
- (B) 標準
- (C) 空気が多い

標準空気圧

※前輪

空気圧	245 kPa (2.5 kgf/cm ²)
-----	---------------------------------------

※後輪 [エアタイヤ装着時]

空気圧	314 kPa (3.2 kgf/cm ²)
-----	---------------------------------------

重要

- 自動車と違い、タイヤチューブの容量が小さいので、空気圧は絶えず点検してください。
- 空気が不足するとパンクの原因になります。

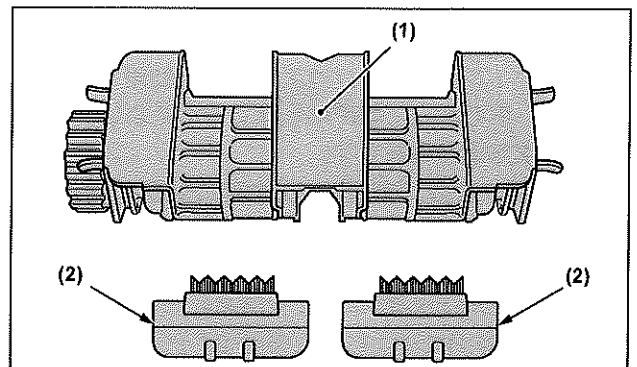
19. 施肥ブラシの点検、掃除、交換

施肥ブラシが摩耗や変形をすると、肥料の線出量にバラツキが発生しますので、掃除を行うと同時に、ブラシの点検を行ってください。

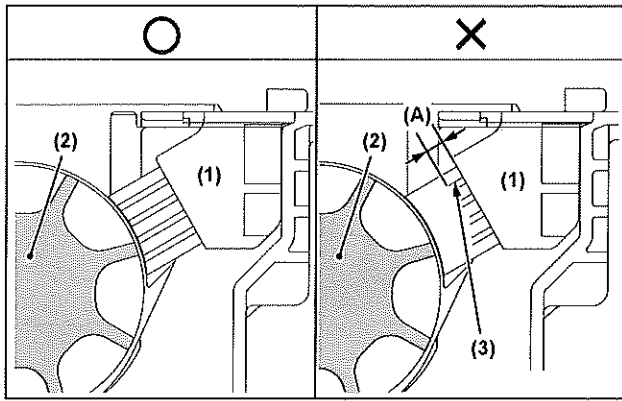
点検、掃除、交換

ロールアッシと施肥ブラシを取り外して掃除してください。また、施肥ブラシの摩耗や変形がひどい場合は、新しい施肥ブラシを購入して交換してください。

※イラストは 2 条分用



- (1) ロールアッシ
- (2) ブラシ



(1) ブラシ (A) 8 mm
 (2) ロールアッシ
 (3) 1 列目の毛

補足：

- 施肥ブラシの長さが 8 mm 以下になると、肥料の繰出量にバラツキが大きくなるため、施肥ブラシ 1 列目の毛の長さが 8 mm 以下になると交換してください。
- 施肥ブラシが摩耗するとロール 1 回転当たりの繰出量が変わり、施肥量に誤差が生じるため、定期的に計量を行ってください。

20. バッテリーの点検、交換

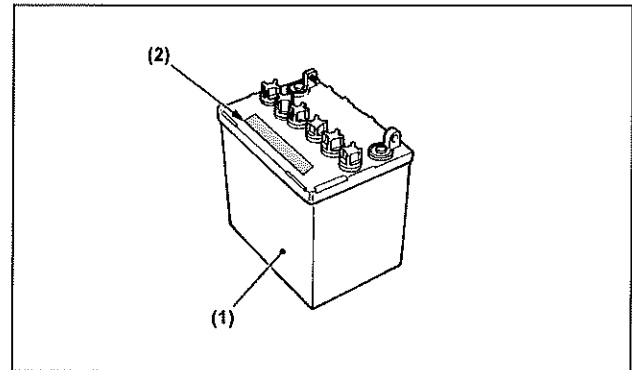
⚠ 危険

- バッテリーの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、（+）端子と（-）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリーのガスで引火爆発するおそれがあります。
- バッテリーを取扱うときは、必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリーに入っている電解液（希硫酸）により、失明やヤケドの原因となります。
- 充電器やブースタケーブルを使用するときの取扱いは、それぞれの取扱説明書に従って行ってください。取扱いを誤ると引火爆発するおそれがあります。
- この 12 V バッテリーはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。
- 急速充電は厳禁です。

⚠ 警告

- バッテリーを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

バッテリー上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。



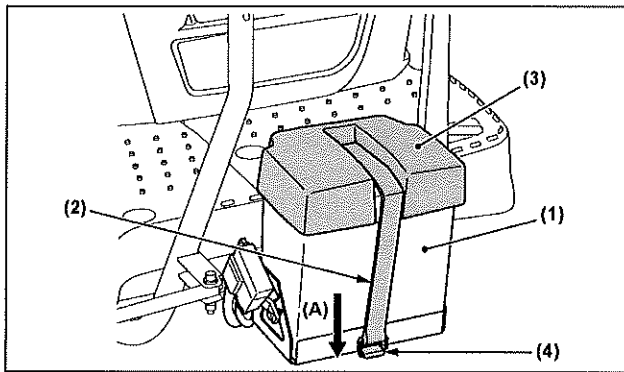
(1) バッテリー
 (2) 注意ラベル

⚠ 危険

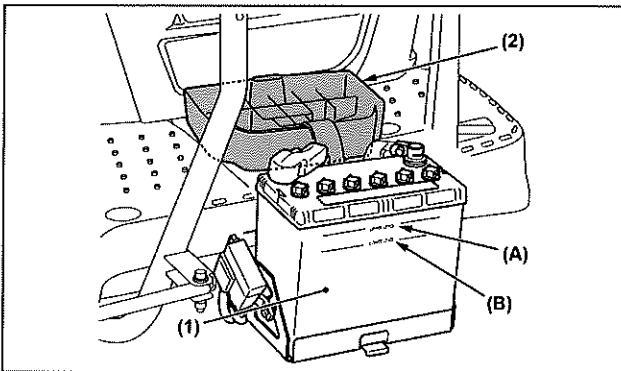
- バッテリーは液面が [LOWER]（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。[LOWER] 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。すぐ [UPPER] LEVEL と [LOWER] LEVEL の間に補水してください。
- バッテリー液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。
- バッテリーの電解液（希硫酸）が目に入った場合は、ただちに多量の清水で洗浄したあと、速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。

バッテリーの状態を点検し、異常があれば処置します。

1. バッテリーを固定しているゴムバンドをフックから外して、バッテリーの上部カバーをステップ側に置きます。
2. バッテリー液の量を点検し、[UPPER] LEVEL（最高液面線）と [LOWER] LEVEL（最低液面線）の間に液量があるか確認し、不足しているときは補水キャップを外して補水します。



(1) バッテリー (A) 外す
 (2) ゴムバンド
 (3) バッテリー上部カバー
 (4) フック部



(1) バッテリー (A) UPPER LEVEL (最高液面線)
 (2) バッテリー上部カバー (B) LOWER LEVEL (最低液面線)

重要

- バッテリー液が不足して極板が空気中に露出しますと、バッテリーの寿命は著しく短くなります。
- バッテリー液を補充する場合は、必ず精製水を補充してください。希硫酸、井戸水、泥水などは絶対に入れないでください。
- バッテリーに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

補足：

- バッテリーの中の電解液は使っているうちに蒸発して減ってきます。
3. バッテリーが破損して液もれが発生しているときは、交換します。

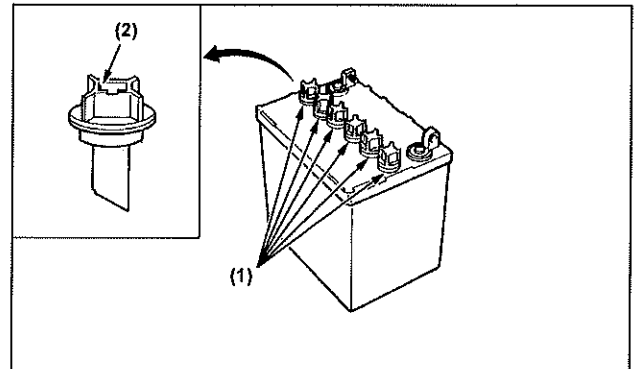
重要

- 液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

4. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除します。

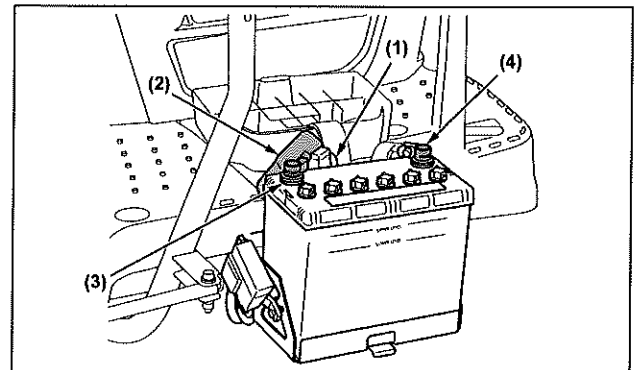
重要

- 排気口をふさぎますと、バッテリー内部で発生するガスによりバッテリーの内圧が上がり、破損する原因となります。



(1) 補水キャップ
 (2) 排気口

5. バッテリーを点検したあと、異常があれば処置します。
- バッテリーが破損して液もれが発生しているときは、交換します。
 - (+) 端子のゴムキャップをめくり、バッテリーケーブルの破損や、(+) 端子、(-) 端子にゆるみがないか確認し、ケーブルの交換や端子の増締めを行います。



(1) ケーブル
 (2) ゴムキャップ
 (3) (+) 端子
 (4) (-) 端子

補充電、交換

警告

- バッテリーは、次の順序で取り替えてください。順序を誤ると、ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
 - 取外時は、(-) 端子側 (アース側) から外す。
 - 取付時は、(-) 端子側 (アース側) を最後に接続する。

警告

- バッテリーを転倒させる、衝撃を与えるなどしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより、失明やヤケドをするおそれがあります。
- バッテリーを機体に取り付けた状態での充電は避けてください。バッテリーの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。
- バッテリーの取付方向を間違えないでください。（+）と（-）が逆に取り付けられると接続ケーブルが損傷し、火災の原因となるおそれがあります。
- バッテリーを投げる、落とす、斜めにする、衝撃を与えるなどしないでください。バッテリーに入っている電解液（希硫酸）により、失明やヤケドの原因となることがあります。
- 補充電中は補水キャップ全てを取り外して行いますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

重要

- バッテリーを交換するとき、バッテリーは以下の表の指定バッテリーを使用してください。電圧や容量が違くと故障の原因となります。

バッテリー型式	55B24L(S)
---------	-----------

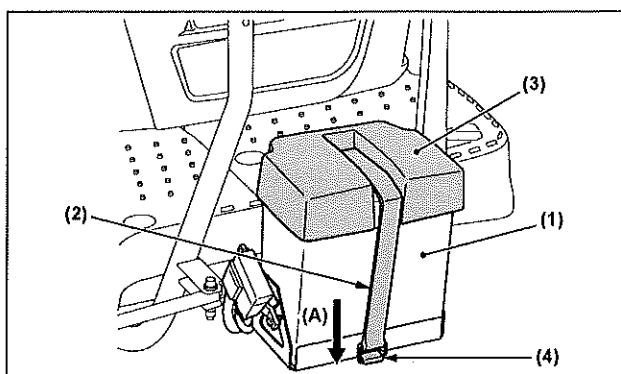
重要

- バッテリーはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。
- バッテリーは正しく取り付けてください。傾くなどすると転倒や液もれの原因となります。
- 機械にバッテリーを搭載した状態で急速充電をしないでください。

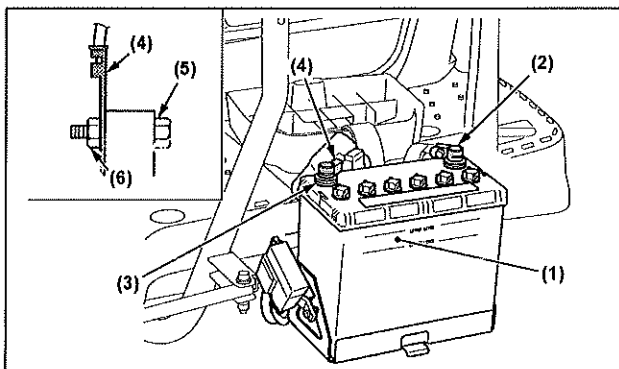
以下のような状態が発生したときは補充電を行ってください。また、補充電を行っても短時間で再発するときや状態が良くならないときは、バッテリーの寿命ですので交換を行ってください。

- スタータモータの回転が、いつもより弱い。
- アクセルの加減で、ヘッドランプの明るさが変わる。
- バッテリー電解液の減りが早い。

1. バッテリーを機体から取り外します。
 - a. バッテリーを固定しているゴムバンドをフックから外して、バッテリーの上部カバーをステップ側に置きます。
 - b. ケーブル端子のボルトとナットを取り外し、端子からケーブル端子を取り外します。取り外すときは、必ず（-）端子側から取り外します。
 - c. バッテリーを取り外します。



(1) バッテリー
(2) ゴムバンド
(3) バッテリー上部カバー
(4) フック部
(A) 外す



(1) バッテリー
(2) (-) 端子
(3) (+) 端子
(4) ケーブル端子
(5) ボルト
(6) ナット

重要

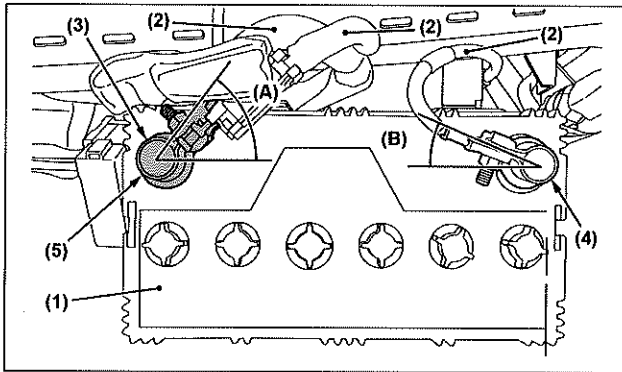
- バッテリーを斜めにしたり、横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ、衣服の損傷の原因となります。

2. 補充電を行うときは、平たんで風通しの良い場所を選んで行います。充電は、バッテリーの（+）を充電器の（+）側に、バッテリーの（-）を充電器の（-）側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行ってください。
3. 補充電が終わるとバッテリーを取り外したときと逆の手順で取り付けます。

重要

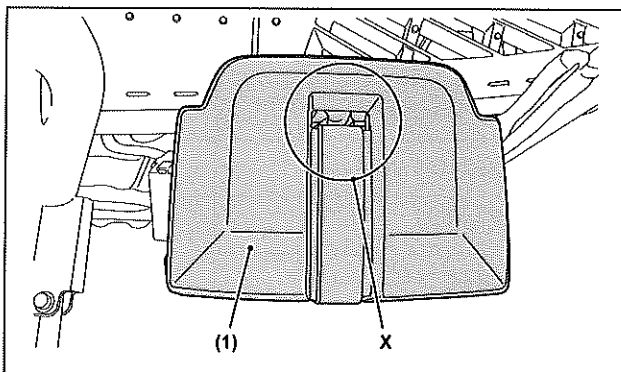
● バッテリーを正しく取り付けなければ、バッテリーケーブルが雨水などの水滴によって腐食し、故障の原因となるおそれがあります。バッテリーを取り付けるときは、次の事項を守ってください。

－ バッテリーケーブルのケーブル端子を端子に取り付けるとき、(+) 端子側はバッテリーの内側方向に 50～55 度の範囲に、(-) 端子側は 18～22 度の範囲に向けて、それぞれ取り付けてください。



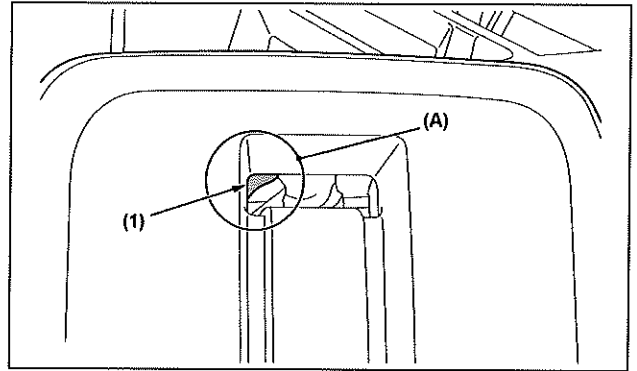
(1) バッテリー (A) 50～55 度 (参考)
 (2) ケーブル (B) 18～22 度 (参考)
 (3) ケーブル端子
 (4) (-) 端子
 (5) (+) 端子

－ バッテリーにバッテリー上部カバーを取り付けたあと、バッテリー上部カバーのすき間からバッテリーの (+) ケーブルのゴムキャップが見える場合は、再度バッテリーケーブルのケーブル端子の取付角度を調整してください。



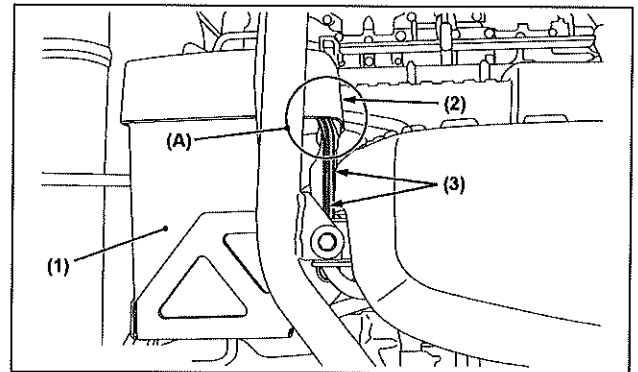
(1) バッテリー上部カバー

X部拡大図



(1) (+) ケーブルのゴムキャップ (A) すき間

－ バッテリーにバッテリー上部カバーを取り付けたあと、バッテリー上部カバーにバッテリーケーブルが接触している場合は、再度バッテリーケーブルのケーブル端子の取付角度を調整してください。



(1) バッテリー (A) バッテリー上部カバーとバッテリーケーブルが強く接触しないこと
 (2) バッテリー上部カバー
 (3) バッテリーケーブル

21. ワイヤハーネス (配線) の点検、交換

警告

● ワイヤハーネス被覆の損傷やコネクタ (端子) の接触不良によるろう電やショート (短絡) は火災の原因となります。

コネクタ (端子) の接続状態を点検し、ゆるみや外れがあるときは確実に差込みます。被覆の損傷状態を点検し、被覆が破れているときは、購入先に連絡して交換します。

22. 各ヒューズの交換

ヒューズケース 1

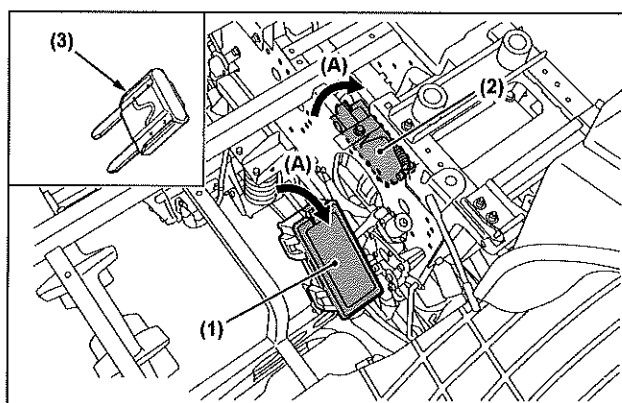
補足：

- ヒューズを交換するときは、ヒューズケース右下に設置してあるヒューズ抜きを使用してください。

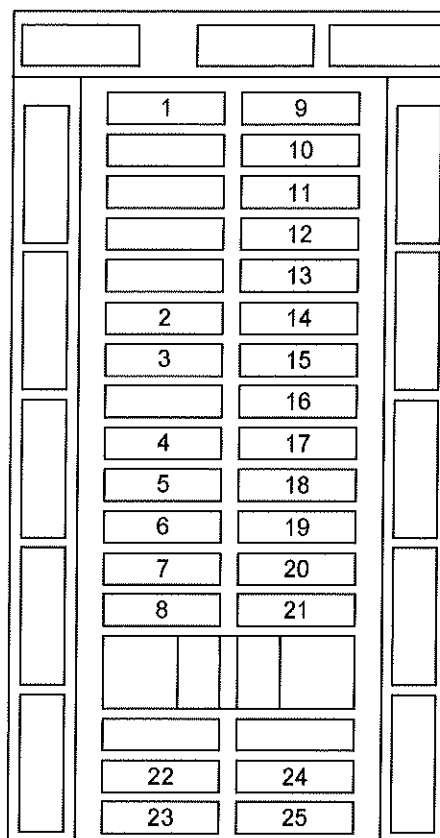
ヒューズ切れによる異常が発生したときは、ヒューズを交換してください。

1. メインスイッチのキーを [停止] 位置にしエンジンを止めます。
2. 運転席下カバー (右) を取り外します。(130 ページ参照)
3. ヒューズケースのカバーを取り外します。
4. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズを予備ヒューズから選んで交換します。
5. バッテリー側面のスローブローヒューズが切れているときは付属部品の中にある予備のスローブローヒューズと交換します。
6. 運転席下カバー (右) を取り外した逆の手順で取り付けます。

※イラストは運転席下カバー (右) を取り外した状態



- (1) ヒューズケース 1 のカバー (A) 取り外す
 (2) ヒューズケース 2 のカバー
 (3) ヒューズ



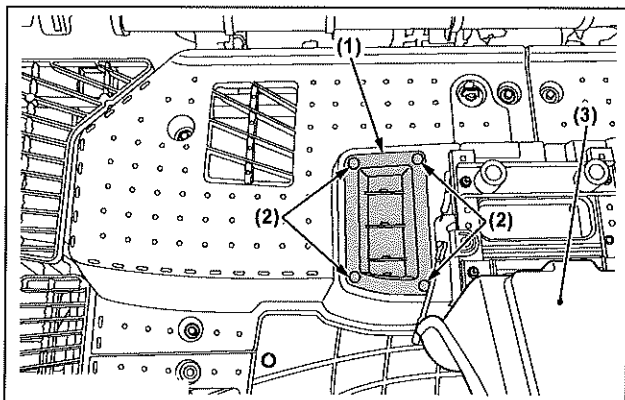
図番	回路	容量
1	操向ドライバ	30A
2	P T O	20A
3	キープ株間	20A
4	燃料カットソレノイド	20A
5	WIFI (バッテリー)	5 A
6	補助モータ	20 A
7	GS (バッテリー)	5 A
8	ECU (バッテリー)	10 A
9	スタータ	10 A
10	回転センサ	5 A
11	ECU (負荷)	10 A
12	施肥ユニット	10 A
13	ライト	10 A
14	メータパネル	5 A

(次へ続く)

図番	回路	容量
15	スイッチ	10 A
16	セフティ SW	5 A
17	オルタネータ	10 A
18	WIFI (IG)	5 A
19	GS ユニット	5 A
20	ECU (植付)	5 A
21	ECU (本機)	5 A
22	(予備)	5 A
23	(予備)	10 A
24	(予備)	30 A
25	(予備)	20 A

補足：

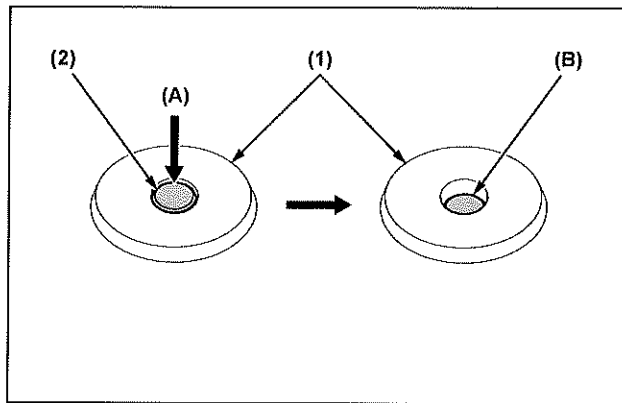
- ヒューズケース 1 のヒューズを交換するとき、運転席後右部にあるカバーの樹脂クリップを取り外し、カバーを取り外してもヒューズの交換が行えます。



- (1) カバー
- (2) 樹脂クリップ
- (3) 運転席

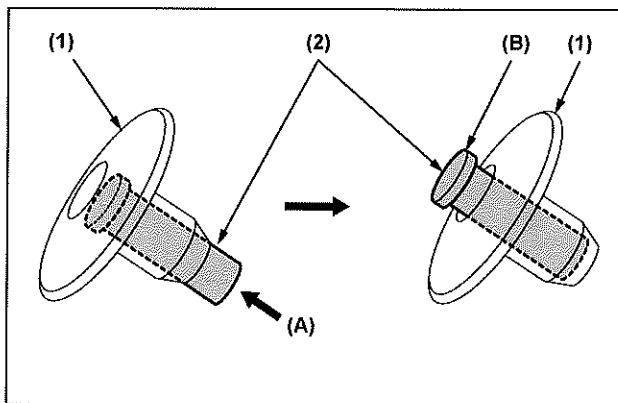
- 樹脂カバーを取り外すとき、樹脂クリップの中央にあるロックピン部を「カチッ」と音が鳴るまで押込んでロックを解除して各樹脂クリップを取り外してください。また、取り付けるときはロックピン部を上まで上げてからカバーにセットしたあと、樹脂クリップの上面と同じ位置まで押ししてください。このとき、押し込み過ぎないように注意してください。

樹脂クリップ取り外し (ロックピンを押込んで取り外す)



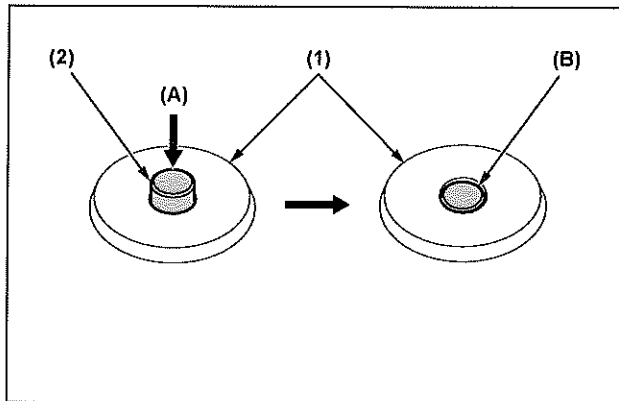
- (1) 樹脂クリップ (A) 「カチッ」と音が鳴るまで押す
- (2) ロックピン部 (B) ロック解除状態

樹脂クリップ取付け (ロックピンを押上げて取り付ける)



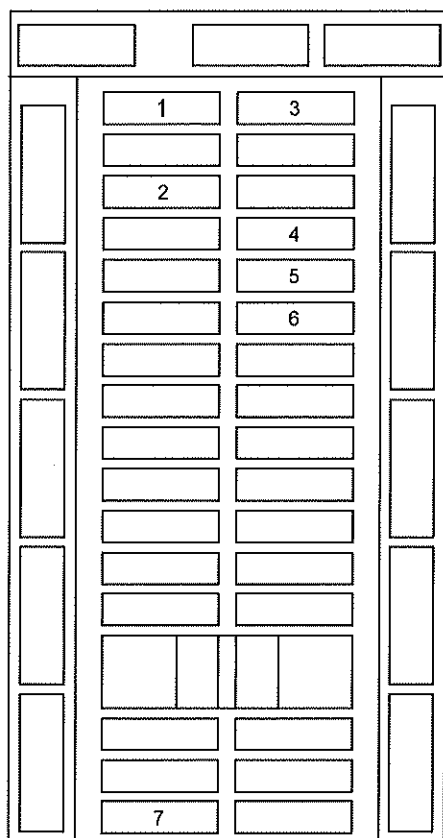
- (1) 樹脂クリップ (A) 押上げる
- (2) ロックピン部 (B) ロック解除状態

樹脂クリップのロック (ロックピンを押してロックする)



- (1) 樹脂クリップ (A) 押す
- (2) ロックピン部 (B) ロック状態

ヒューズケース 2



図番	回路	容量
1	ロータ	20A
2	オプション	20A
3	あぜぎわ (施肥機)	20A
4	あぜぎわ (植付)	20A
5	マーカ	20A
6	作業灯	20A
7	(予備)	20A

補足：

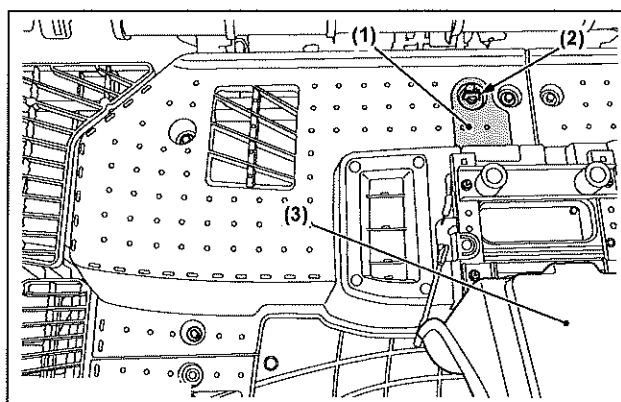
- ヒューズケースカバー表面のラベルで容量 (A) を確認してください。

重要

- ヒューズを交換してもすぐに切れてしまう場合は、針金、銀紙などで代用せず、購入先に連絡してください。

補足：

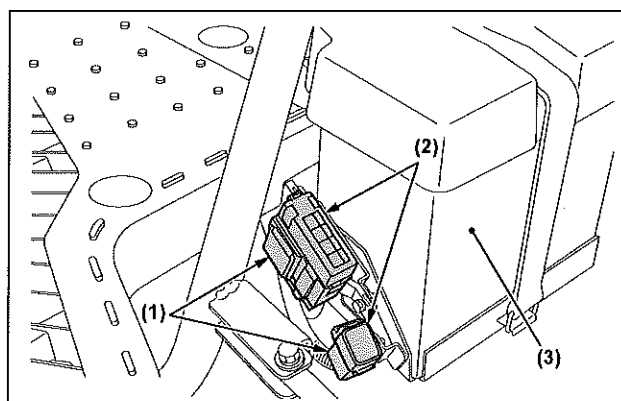
- ヒューズケース 2 のヒューズを交換するとき、運転席後部にあるカバーの T 字ボルトを取り外し、カバーを取り外してもヒューズの交換が行えます。



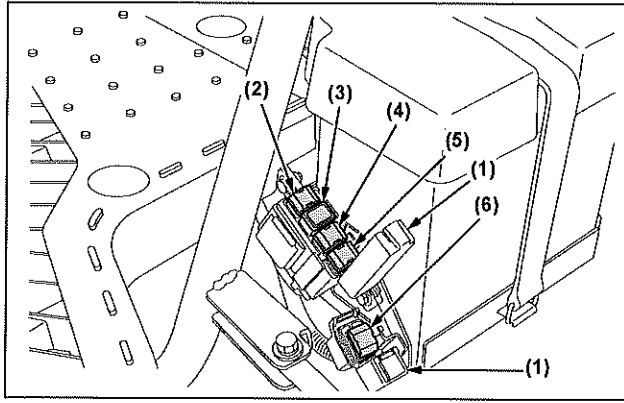
- (1) カバー
- (2) T 字ボルト
- (3) 運転席

22.1 スローブローヒューズの点検、交換

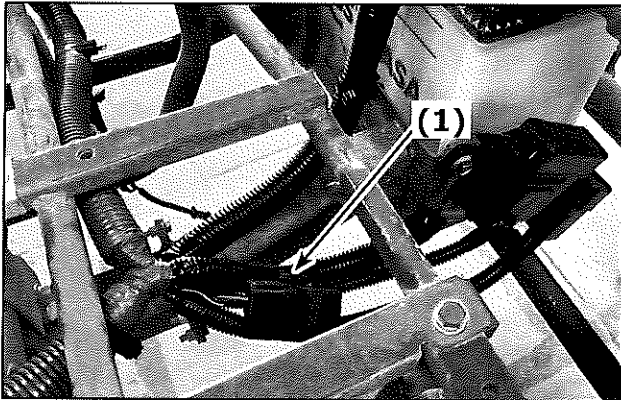
スローブローヒューズは、過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し、切れているときは新しいヒューズと交換してください。点検を行うときは、スローブローヒューズが入っているヒューズボックスのカバーを開いてください。



- (1) ヒューズボックス
- (2) カバー
- (3) バッテリ



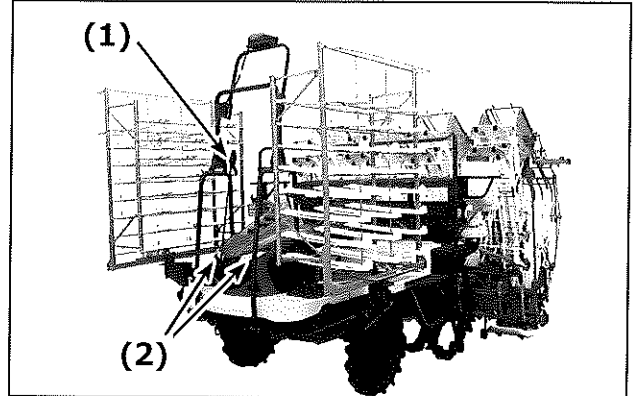
- (1) カバー
- (2) スローブローヒューズ (60A メイン用)
- (3) スローブローヒューズ (40A ブロフ用)
- (4) スローブローヒューズ (30A 施肥モータ用)
- (5) スローブローヒューズ (30A ラジエータ用)
- (6) スローブローヒューズ (30A モンロー用)



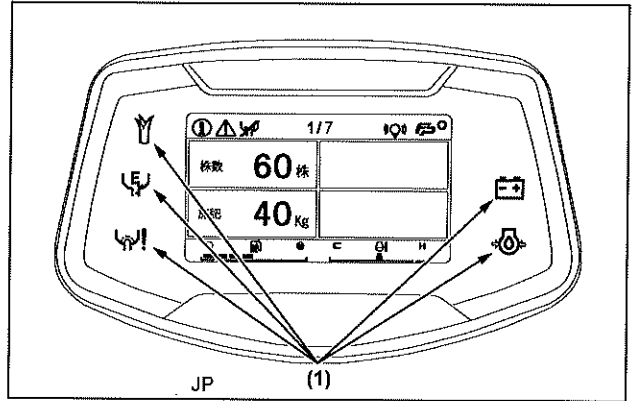
(1) 自動供給装置・水洗装置スローブローヒューズ (30A)

23. ランプ (電球) の点検、交換

ランプ (電球) 切れがないか点検し、切れているときは交換してください。



(1) マスコットランプ
(2) ヘッドランプ



(1) 各モニタランプ

補足：

- メインパネルのモニタランプおよびマスコットランプは LED のため、単品交換はできません。

植付作業後の手入れ

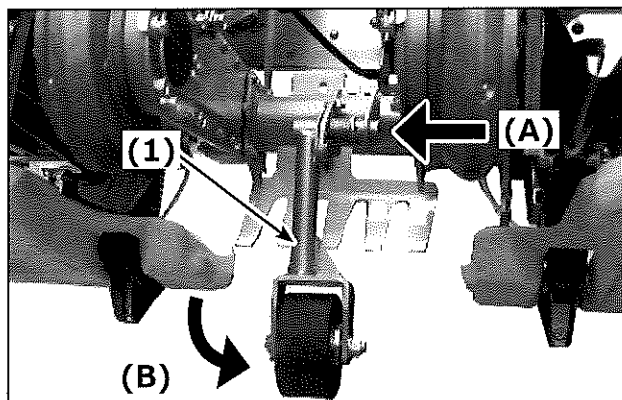
植付作業が終わったあとは、機械の点検、整備を怠らず翌日または、翌年の田植作業に備えてください。

1. 毎日の作業後の機体の手入れ

警告

- 掃除する場合は、必ずエンジンを停止させてから行ってください。
- 燃料抜き取り時は火気厳禁。

1. 平たんな場所に田植機を停めます。
2. 機体各部の泥などを取除いたあと、必要に応じて各部に注油を行います。(136 ページ参照)
3. 格納場所に田植機を格納します。
4. 植付部スタンドをセットします。



(1) 植付部スタンド (A) 押す
(B) 下へ下げる

5. 植付部を下降させます。
6. 駐車ブレーキをかけます。
7. メインスイッチのスイッチキーを抜き取ります。

重要

- スタンドをセットしないまま植付部を下降させると、作溝部・植付爪を变形させ、植付不調、施肥不調となるおそれがあります。

2. 長期格納時の手入れ

田植えのシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき、格納する前の各部の点検、整備を念入りに行ってください。

2.1 長期格納時の各部の掃除、注油、補修のしかた

重要

- 機体を洗う場合は、電装部品に水がかからないようにしてください。

1. 機体を平たんな場所に停めます。
2. 以下の事項を行います。
 - 水洗い後、ごみや水滴を充分拭取り、油をしみこませた布で清掃してください。
 - 各グリース塗布箇所にはグリース、注油箇所には注油を行ってください。(136 ページ参照)
 - 塗布したグリースや油がタイミングベルトに付着したら、必ずふき取ってください。
 - 植付爪の先端など、錆やすい所にはグリースを塗ってください。
 - 各部のゆるみを調べ、増締めを行ってください。

2.2 長期格納時のラジエータ冷却水の手入れのしかた

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため、排水または、不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。冷却水の補給、交換を行ってラジエータおよびリザーブタンクには、不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。(148 ページ参照)

重要

- 冷却水には、不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比 50%）、よく水と混ぜ合せてからお使いください。

ラジエータ容量	約 1.5 L (エンジンを含めると 2.5 L)
---------	---------------------------

重要

- 不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
- 不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
- 不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は 2 年間です。必ず 2 年で交換してください。

2.3 長期格納時のバッテリーの手入れのしかた

⚠ 危険

- 保管や持運びの際にバッテリーに火気を近づけたりショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

⚠ 警告

- バッテリーを点検するときには、エンジンを停止し、メインスイッチのキーを [切] にしてください。

重要

- 長期間使用しない場合は、できるだけバッテリーを機体から取り外してください。
- 取り外したバッテリーは、保管前に点検し、必要に応じて充電を行ってください。また、補水タイプのバッテリーは、補水してから充電を行ってください。
- バッテリーは保管中でも自己放電するので夏は1ヵ月、冬は2ヵ月に1回それぞれ点検し、必要に応じて充電を行ってください。
- 機体に取り付けている場合は、(-)側のケーブルを必ず取り外してください。
- バッテリーは、以下のような場所で保管してください。
 - 直射日光が当たらない (温度が低く変化の少ない) 乾燥している場所
 - 雨露が少なく、水没のおそれがない場所
 - バッテリーの有害なガス、液、粉じんの発生が起こらない場所

2.4 長期格納時の各レバーその他の手入れのしかた

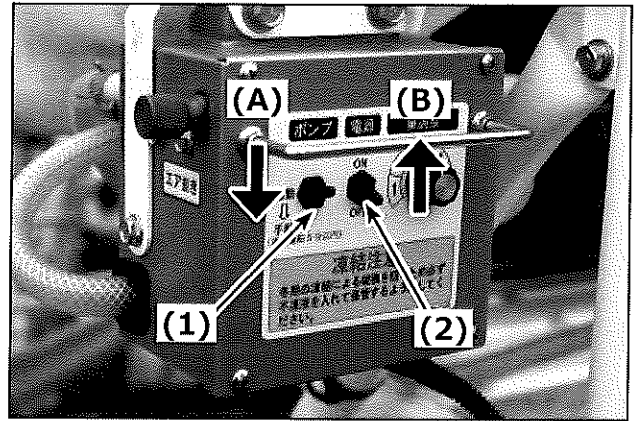
点検、整備が終わったあと、納屋などに停めておくときの手入れです。

1. 植付部スタンドをセットし、植付部を地面に接地させます。
2. 駐車ブレーキを掛けます。
3. メインスイッチのキーは、必ず抜取って保管します。

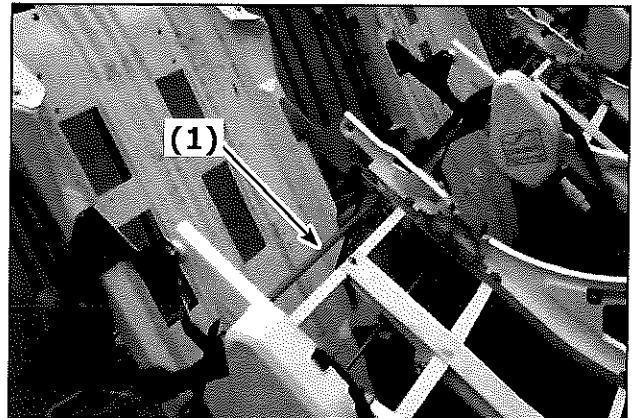
2.5 水洗装置の手入れのしかた

使用後は内部の防錆、ゴミの固着を防ぐため、タンクに清水 (水道水) を入れてポンプを作動させ、内部を充分洗浄してください。

冬期の凍結を防止するため、タンクに不凍液を入れ、散水管から出るまでポンプを作動させてから保管して下さい。



(1) ポンプスイッチ (A) [手動]
(2) 電源スイッチ (B) [ON] (入)



(1) 散水管

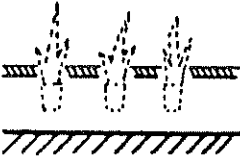
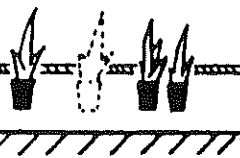
重要

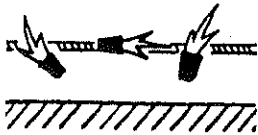
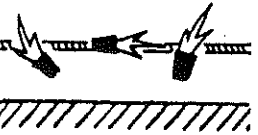
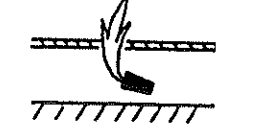
- 冬期の凍結による破損を防ぐため、必ず不凍液を入れ、散水管から出るまでポンプを作動させてから保管するようにしてください。
- 不凍液の混合比率は 149 ページを参考にしてください。

不調と処置

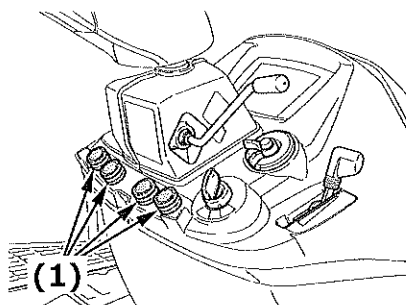
1. 植付作業時の不調と処置

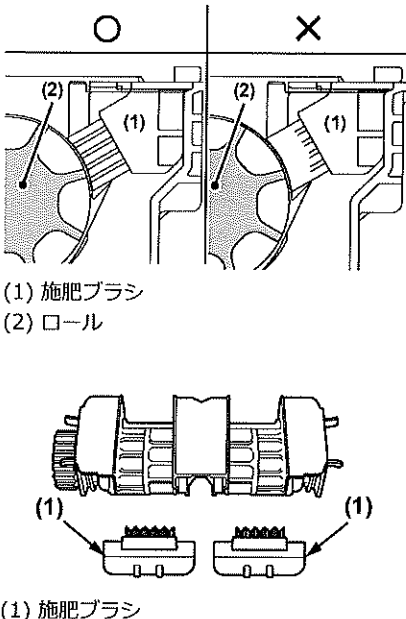
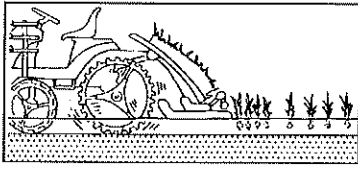
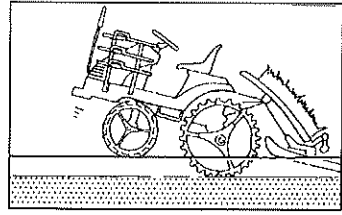
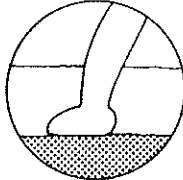
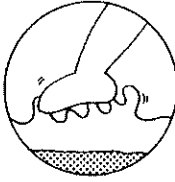
- 田植え作業は、田植機・苗・ほ場の3拍子そろって初めて良い植付と高能率が得られます。田植機の点検、苗・ほ場の良い条件作りに心がけてください。
- 下記の原因以外については部品の消耗等がありますので、購入先にご相談ください。

不調内容	原因		処置
 <p>連続欠株ができる</p>	苗	<ul style="list-style-type: none"> ○根張りが悪い。(ポットがくずれる) ○根が張りすぎている。(硬くて抜けない) ○苗箱の表や裏に土が多く付いている。 ○重粘土の箱土を使用。 ○砂質土・火山灰土の箱土を使用。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ぬらし方に注意。(p74 参照) ○植付速度を遅くする。 ○充分ぬらす。(p74 参照) ○太苗用の苗受に交換する。(注文部品) ○苗箱を洗う。(p74 参照) ○充分ぬらす。(p74 参照) ○ぬらし方に注意。(p74 参照) ○植付速度を遅くする。
	田植機	<ul style="list-style-type: none"> ○縦送り爪(下)の注油不足。 ○押し棒の元に根がたまっている。 ○苗受けに土や小石がつまっている。(ロック板の動きが悪い) ○空箱受で空箱がつまっている。 ○苗箱の角穴が雑草でふさがっている。 ○苗箱が破損している。 ○ガイド板に小石がつまって安全クランチが働いている。(植付中間ケースからカチカチと音がする。) ○株間 14 cmでの植付け。 ○押し棒・縦送り爪・苗箱ブレーキ板の磨耗または調整不良。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日注油。(p136 参照) ○根を取除く。(p135 参照) ○苗受をよく洗う。(p135 参照) ○つまった空箱を取除く。(p87 参照) ○雑草を取除く。(p75 参照) ○破損した苗箱は使用しない。 ○古くて壊れ易い苗箱は使用しない。(p75 参照) ○ガイド板につまった小石を取除く。(p85 参照)(エンジンを停止して行なう) ○植付速度を遅くする。 ○部品交換または調整。
 <p>連続欠株ができる (2株植えになる)</p>	苗	<ul style="list-style-type: none"> ○根張りが悪い。(ポットがくずれる) ○根渡りしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ぬらし方に注意。(p74 参照) ○植付速度を遅くする。 ○根を切断する。
	田植機	<ul style="list-style-type: none"> ○苗支持板の変形。 ○タイミングベルトの上に土がたまっている。 ○タイミングベルトの調整不良。 ○植付爪の調整不良。 	<ul style="list-style-type: none"> ○苗支持板の修正・交換。(p117 参照) ○タイミングベルトを洗う。(p135 参照) ○タイミング調整。 ○タイミング調整。

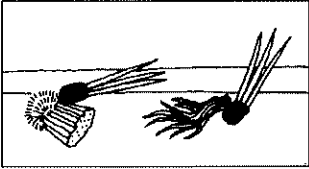
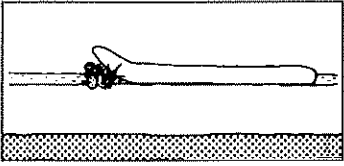
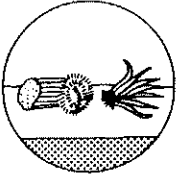
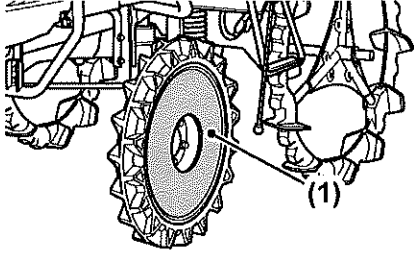
不調内容	原因		処置
 植付姿勢が悪い (浮き苗・ころび苗)	苗	○根張りが悪い。(ポットがくずれる) ○徒長苗	○ぬらし方に注意。(p74 参照) ○植付速度を遅くする。 ○葉先を切断する。 ○植付速度を遅くする。
	ほ場	○ほ場が軟らかすぎる。 ○ほ場が硬すぎる。 ○ほ場に水が多すぎる。 ○ほ場が粘土質である。	○水を落とす又は、田植を遅らせ 適度な硬さになるまで待つ。 ○植付速度を遅くする。 ○植付深さを深くする。 ○油圧感度の調節を行なう。 (p115 参照) ○整地板の高さを高くする。 ○水を 1～3 cm 入れる。 ○再度代かきを行なう。 ○植付速度を遅くする。 ○油圧感度の調節を行なう。 (p115 参照) ○水を少なくする。 ○植付速度を遅くする。 ○ほ場に 1～3 cm 水を入れる。
	田植機	○苗支持板の変形。 ○苗受けに土や小石がつまっている。 ○ガイド板に泥がつまっている。 ○ガイド板の変形。 ○フロート後部が浮いている。	○苗支持板の修正・交換。 (p117 参照) ○苗受を洗う。(p135 参照) ○ガイド板をよく洗う。 ○ガイド板の修正・交換。 ○フィットセンサダイヤル の調節。(p114 参照)
 フロート通過後に植 付けた苗が倒れる	ほ場	○ほ場が極端に軟らかすぎる。 (表土がトロトロで足跡もつかない状態)	○ほ場を硬くする。 ○植付速度を遅くする。 ○油圧感度の調節を行なう。 (p115 参照)
	田植機	○フロート後部が浮いている。	○フィットセンサダイヤル の調節。(p114 参照)
 植え傷み苗ができる	苗	○根張りが悪い。 ○貧弱苗。	○植付速度を遅くする。
	田植機	○ガイド板に泥・異物がつまってガイ ド板幅が開いている。 ○ガイド板の変形。 ○苗支持板の変形・欠落。	○泥・異物を取り除く。 ○ガイド板の修正・交換。 ○苗支持板の修正・交換。 (p117 参照)

不調と処置

不調内容	原因	処置
フロートで泥を押す。	<ul style="list-style-type: none"> ○油圧感度調節が適正でない。 ○ほ場が軟らかすぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○油圧感度の調節を行なう。 (P115 参照) ○ほ場を硬くする。
散水管から水がでない。 (ポンプは回る)	<ul style="list-style-type: none"> ○タンクに水がない。 ○タンク出口にゴミが詰まっている。 ○フィルターが目詰りしている。 ○散水管が目詰りしている。 ○エア抜きが不十分。 ○モーター・ポンプの故障。 	<ul style="list-style-type: none"> ○水を補給する。(P112 参照) ○タンク内部、フィルター、散水管を掃除する。(P134 参照) ○再度エア抜きを行なう。(P113 参照) ○部品交換を行なう。
散水管から水がでない。 (ポンプは回らない)	<ul style="list-style-type: none"> ○電源スイッチが「切」となっている。 ○配線の外れ、断線。 ○電源スイッチ、ケース内の基盤、ポンプの故障。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ [入] にする。(P113 参照) ○配線を確認し、断線の場合は部品交換する。 ○部品交換する。
施肥をしない、施肥量がばらつく	<ul style="list-style-type: none"> ○機械の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○あぜぎわスイッチが [切] 位置のときは [入] 位置にする。  <p>(1) あぜぎわスイッチ</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○各部の詰まり 	<ul style="list-style-type: none"> ○ホッパ内に肥料の詰まりがあれば取除く。 ○ホッパ内、ロールケース内、各ホース、作溝器内に付着した肥料は取除く。(132 ページ参照) <p>補足：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 深水ほ場で、苗補給、肥料補給などで一時停止したときに、詰まっていないのに警報が出る場合があります。点検して詰まっていなければ、マルチスイッチを操作して液晶モニタのメイン画面：[機能設定] の [施肥量残量感度] を [鈍] (鈍感) の方向に調整して作業を続けてください。 ● 乾いた肥料がセンサ付近に付着しても、警報が出ない場合があります。ときどき、作溝器内を点検してください。

不調内容	原因	処置
<p>施肥量が多くなる。 ホッパの肥料の減りが早くなる。</p>	<p>○施肥ブラシの摩耗、損傷</p>	<p>○施肥ブラシを交換する。(155 ページ参照)</p>  <p>(1) 施肥ブラシ (2) ロール</p> <p>(1) 施肥ブラシ</p>
<p>ロート、ホース内で肥料が詰まる。</p>	<p>○ブロワが回転していない。</p>	<p>○スローブローヒューズ切れのときは、交換する。(162 ページ参照) ○カプラが入っているか確認する。</p>
<p>走行抵抗が大きく、車輪がスリップして株間が狭くなる。</p>  <p>機体前部が浮き上りスリップする。</p> 	<p>株間が狭くなる深いほ場</p>  <p>強粘土質のほ場</p> 	<p>○補助輪を取り付けてスリップを少なくする。 ○株間を一段広くして坪当たり株数を確保する。 ○スリップ補正機能が「OFF」(切)の状態の場合は、「ON」(入)にする</p>

不調と処置

不調内容	原因	処置
<p>夾雑物の上では、苗が植わらない、植付姿勢が悪くなるなどする。</p>  <p>夾雑物がフロート、整地板、作溝器で押されてたまる。</p> 	<p>夾雑物の多いほ場 代かき後も刈株、わら、雑草などが多量に露出しているほ場。</p> 	<p>○代かき時、夾雑物をすき込む。 ○耕うん前に夾雑物をできるだけ取除く。</p> <p>○植付深さをやや深くする。 ○植付速度を遅くする。 ○整地板を上げ、夾雑物の掘起こしを少なくする。</p>
<p>前輪ホイールカバーに泥が付着し、隣接苗に泥を落とす。</p>	<p>強粘土質のほ場</p>	<p>○前輪ホイールカバーを取り外す。</p>  <p>(1) ホイールカバー</p>

2. 直進キープ機能の不調と処置

不調内容	原因	点検箇所	処置
直進キープ機能がはたらかない。	基準線が未登録	基準登録スイッチ（始点 A）、（始点 B）の各ランプ	各スイッチのランプが点灯していない場合は基準線の登録を行う。*1
	安心機能がはたらいている。	メータパネルの液晶表示部に表示された内容（告知）	【9. 直進キープ機能について】の【9.1 安心機能について】および【メインパネルによる異常と処置】の各項目を参照して処置を行う。*2
	異常または、故障が発生している。	メータパネルの液晶表示部に表示された内容（エラーコード）	購入先に連絡する。（【メインパネルによる警報と処置】）の各項目を参照して処置を行う。
直進精度が安定しない。	GPS 測位精度	メータパネルのデジタル表示部に表示された内容（GPS 測位レベル）	GPS 測位レベルが低い場合や一時的に直進精度が不安定になった場合など、基準線に対してずれが発生しやすくなったときは、常に周囲の状況に注意し、必要に応じて手動で植付作業を行う。*3
	基準線の設定	機体の進行方向	基準線に対して機体の進行方向にずれが発生する場合は、直進キープ機能をいったん停止し、再度基準線の登録を行う。*4*5
	植付速度	主変速レバー	植付作業時の直進精度が安定しない場合は、植付速度を速くせずに、主変速レバーを 3～5 速 （3～5 ノッチ）の範囲で使用する。*6

- 上記の不調・不具合で処置を行っても直らない場合は購入先に連絡してください。
- 上記の不調・不具合原因では場条件（耕盤の凹凸、暗渠など）や電離層遅延などの衛星配置と相関のないさまざまな要因によって、直進キープ機能の直進精度が悪化する場合があります。直進精度が不安定になる場合があります。

補足：

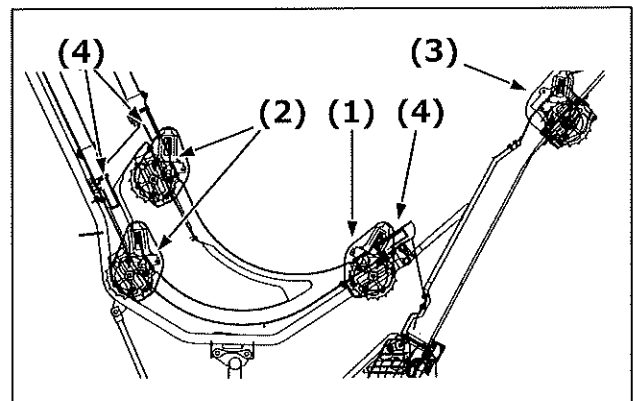
- *1 基準登録スイッチで A 地点（始点）および B 地点（終点）を登録するときは、基準登録スイッチの各ランプが点灯するまで長押し（1～2 秒程度）してください。
- *2 安心機能は直進キープ機能を正常にはたらかせるための補助機能です。機械の故障ではありません。
- *3 GPS 測位レベルが高い（GPS 測位レベルの測位レベルマークが緑色）ときでも直進精度が安定しない場合、しばらく時間が経過すると（30 分～60 分程度）直進精度が安定することがあります。
- *4 始点 A の設定から終点 B を設定するまでにかかる時間が長かった場合、基準線に対して機体進行方向にずれが発生することがあります。また、広いほ場でも面積の大きさに関わらず、始点 A と終点 B は **100m 以下**で登録すると直進精度が安定しやすくなります。
- *5 GS スイッチを押すときは、基準線に対して機械の進行方向がずれるのを防ぐため、直進する距離を長めにしてください。直進精度が安定しやすくなります。
- *6 直進精度が悪化（直進方向にずれが発生するなど）の原因となるため、急な増速および減速は行わないでください。

3. 自動供給装置の不調と処置

- 自動供給装置で作動不具合があったときは、メインパネルのランプ(点滅)・ブザー(断続8回)・LED マスコット(赤)で「自動供給づまり」のお知らせが出ます。
- 自動供給装置に苗があっても「自動供給づまり」が出るときは、次の確認と処置を行なってください。
 1. 液晶モニタで異常の発生したユニットを確認し、苗箱が詰まっていれば、詰まった苗箱を取り出します。
 2. 苗箱が詰まっていないのに警報が出るときは、スイッチのレバーが泥などの異物で作動できない時・コネクタの外れ・断線・スイッチの故障などが考えられます。この時は、次ページの表を参考にしてください。
 3. 異常を取り除き、苗を補給し植付クラッチをいったん「切」にして、再度「入」にするとランプが消灯します。消灯していない時は購入先へ連絡してください。

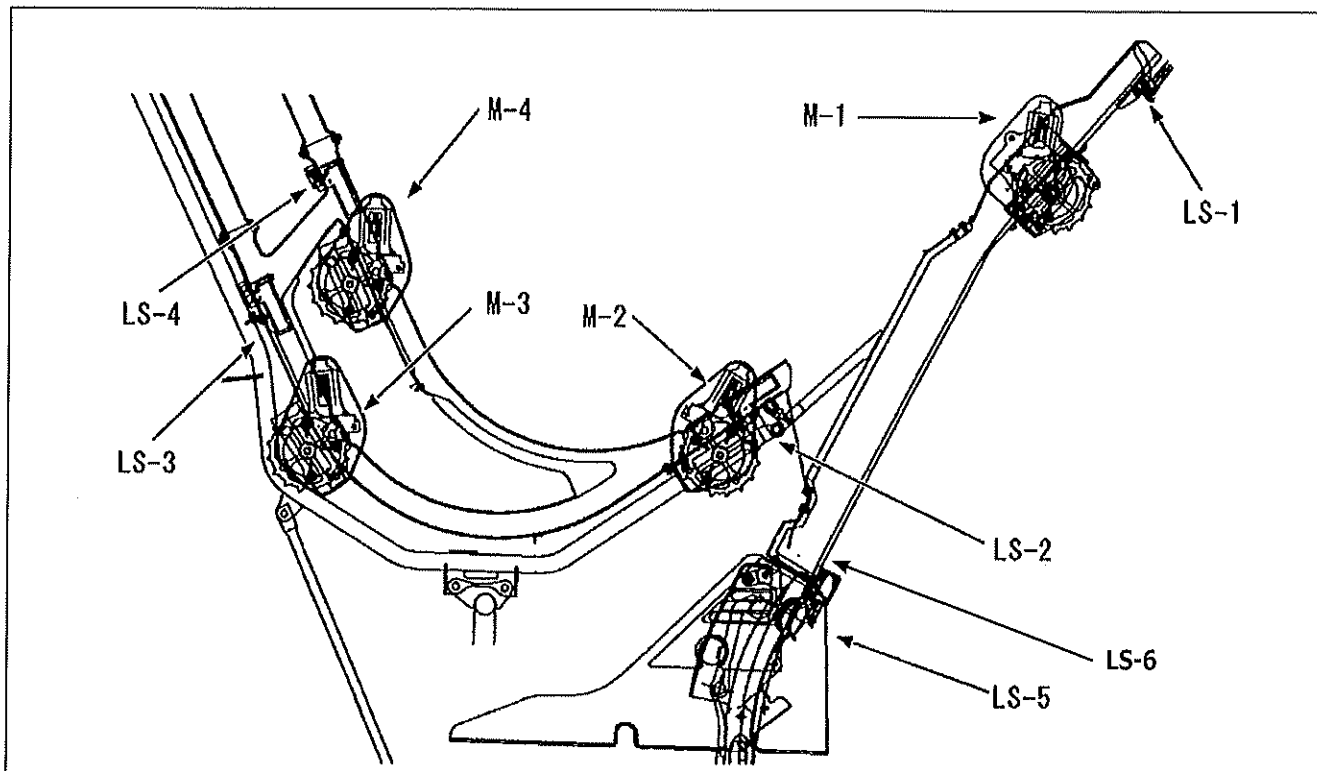
苗箱の詰まる原因

- 破損した苗箱・古い苗箱を使用している。
⇒破損した苗箱は使用しない。
- 苗箱のふちに土・雑草・ゴミが付着している。
⇒土・雑草・ゴミを取り除く。
- 各スイッチのレバーが土・ゴミなどの影響で動きが悪くなっている。
⇒土・ゴミなどの異物を取り除く。
- スプロケット先板、スプロケット上板の調整不良・変形または摩耗している。
⇒購入先に連絡し、調整または部品交換を行なう。
- スイッチレバーが摩耗している。
⇒購入先に連絡し、部品交換を行なう。
- レール内にゴミ・泥が堆積している。
⇒掃除を行なう。



- (1) スプロケット先板 (2箇所)
- (2) スプロケット上板 (4箇所)
- (3) 送り押え板 (2箇所)
- (4) スイッチレバー (3箇所)

4. スイッチ・電気関係の不調と処置



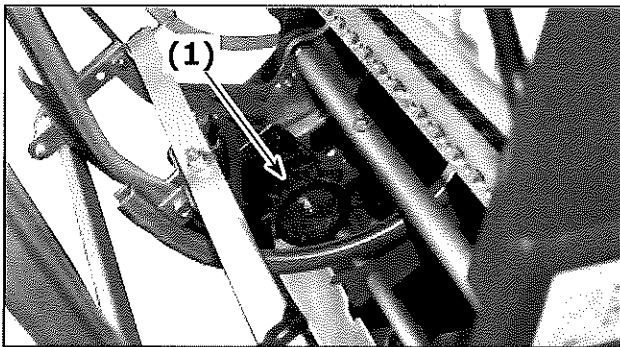
不調内容	原因		処置
苗載台の苗がなくなっても自給が作動しない。(警報も出ないので、欠株となる)	LS-5 LS-6	レバー押したまま	断線または、スイッチの故障
M-2が作動停止しM-1が逆転して5秒後に停止し警報が出る。(M-2に苗がある)	LS-1	レバー押したまま	断線または、スイッチの故障
M-2の苗は供給されるがその後M-3、M-4の苗は動かない。 次に苗載台に苗がなくなった時はM-2、M-1で空で作動し、5秒後に停止し警報が出る。(M-2に苗がない)	LS-2	レバー押したまま	
苗載台に苗があってもM-2とM-3、またはM-2とM-4が作動し苗載台に苗を押付け、5秒後に停止し警報が出る。	LS-2		断線または、スイッチの故障
自給下段の苗がなくなっても上段の苗が送られず、M-2、M-3が空で作動し、5秒後に停止し警報が出る。	LS-3	レバー押したまま	
下段に苗があっても、上段の苗だけが供給される。	LS-3		断線または、スイッチの故障
自給の苗がすべてなくなった後、M-2、M-4が空で作動し、5秒後に停止し警報が出る。	LS-4	レバー押したまま	
上段に苗があっても、下段の苗がなくなると苗切れ警報が出る。	LS-4		断線または、スイッチの故障
M-2からM-1へ供給された苗が苗載台から飛び出してしまい、5秒後に停止し、警報が出る。	LS-1		断線または、スイッチの故障

レバー押したままのときは、土・ゴミなどの異物を取り除く。

断線または、スイッチの故障の時は、購入先に連絡し、接続の確認、部品の交換を行なってください。

5. 連続欠株センサーの不調と処置

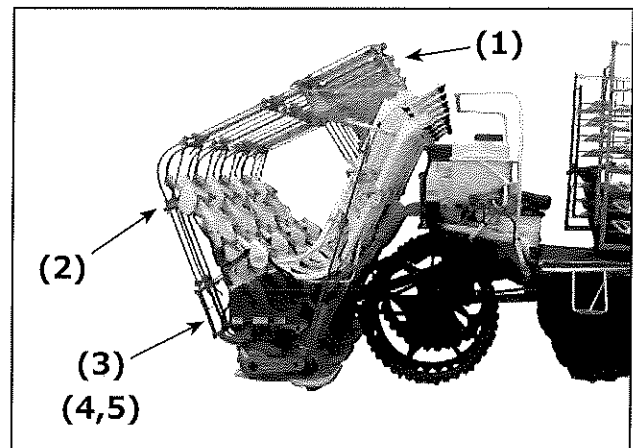
- 植付部の作動不具合で苗箱が確実に送れないようになり、そのまま作業を続けると、メインパネルのランプ（点滅）・ブザー（断続8回）・LED マスコット（赤）で【連続欠株】が出ます。
 1. 液晶モニタで異常の発生したユニットを確認し、植付部・空箱ガイド・空箱受に苗箱・空箱を取り出します。
 2. 苗箱・空箱が詰まっていないのに警報が出る時は、コネクタの外れ・断線・各センサの故障などが考えられます。このときは販売店に連絡してください。
 3. 異常を取り除くと、お知らせマークは消灯します。消灯しないときは購入先へ連絡してください。



(1) 空箱センサ（ローラ）

苗箱の詰まる原因

- 破損した苗箱・古い苗箱を使用している。
⇒破損した苗箱は使用しない。
- 苗箱のふちに土・雑草・ゴミが付着している。
⇒土・雑草・ゴミを取り除く。
- 空箱受に空箱を7枚以上ためている。
⇒空箱受の空箱は6枚以内で取り除く。
- 縦送り爪下 左・右の作動不良。
⇒必ず毎日確認し注油を行なう。
- 縦送り爪下 左・右の調整不良・変形または、摩耗している。
⇒購入先に連絡し、調整または部品交換を行なう。
- 苗箱ブレーキ板が摩耗している。
⇒購入先に連絡し、部品交換を行なう。
- 空箱ガイド・空箱受が変形または摩耗している。
⇒購入先に連絡し、調整または部品交換を行なう。
- 空箱センサーのローラが回転できないほど、泥・ゴミが堆積している。
⇒掃除を行なう。



- (1) 空箱受
- (2) 空箱ガイド
- (3) 植付部
- (4) 縦送り爪下 左・右
- (5) 苗箱ブレーキ板

サービス資料

主要諸元

型 式 名		みのる RXG-800		
区 分		RXG800	RXGH800	
駆 動 方 式		6 輪駆動 (前輪 2、後輪 4)		
機 体 寸 法	全 長 (mm)	4070		
	全 幅 (格納時) (mm)	2490		
	全 高 (mm)	2630		
	最低地上高 (mm)	440		
機 体 質 量 (kg)		1180		
エ ン ジ ン	型 式 名	D1105-E4-P-1		
	種 類	水冷 4 サイクル 3 気筒立形ディーゼル		
	総排気量 (L {c c})	1.123 {1123}		
	出力 / 回転速度 (kW {P S} / r p m)	18.1 {24.6} / 2800		
	使用燃料	ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量 (L)	28		
	始 動 方 式	セルスタータ		
バッテリー (V · A h)		12 · 36 {55B24L(S)}		
か じ 取 り 方 式		アッカーマン方式		
走 行 部	車 輪	種 類	前 輪	広幅エアタイヤ 650 × 140
		外形×幅 (mm)	後 輪	太リムゴムラグ車輪 950 × 155、ゴムラグ補助車輪 (内側) 900 × 90
			輪 距 (mm)	前 輪
			後 輪	1320、690
		軸 距 (mm)	1160	
変 速 方 式		油圧式トランスミッション [HST]		
変 速 段 数 (段)		H S T 主変速：前進無段・後進無段 [副変速：2 段]		
植 付 部	植 付 方 式		回転式強制植付	
	植 付 条 数 (条)		8	
	植 付 条 間 (cm)		33	
	植 付 株 間 (cm)		14、15、16、17、18、20、22、24、26、30	
	植 付 株 数 (株 / 3.3 m ²)		72、67、63、59、56、50、46、41、38、33	
	植 付 深 さ (cm)		1 ~ 4 (7 段)	
1 株 本 数 調 節		播種量の調節による		
苗 条 件	苗 自 動 供 給 装 置		連続 6 枚	
	苗 の 種 類		ポット苗	
	草 丈 (cm)		8 ~ 30	
	葉 令 (葉)		4 ~ 5.5	
施 肥 部 装 置	肥 料 の 種 類		粒状化成肥料	
	施 肥 方 式		側条作溝施肥・強制埋没	
	施 肥 位 置 (cm)		苗の側方：4.5、深さ：5	
	肥料ホッパ容量 (L {kg})		120 {108}	
	線 出 方 式		溝付ロール式	
	線 出 量 調 節 方 式		ロール回転数調節式	
線出量調節範囲 (kg / 10a)		10 ~ 80		
水洗装置タンク容量 (L)		48 (24 × 2)		
水洗装置使用水		水路の清水		
苗 と う 載 数 (箱)		60	72	
警 報 装 置		充電警報 [ランプ]、油圧警報 [ランプ]、後進時 [ブザー]、燃料計、水温計、苗切れ警報 [ランプ、ブザー]、LED マスコット、肥料切れ警報 [ランプ、ブザー]、肥料詰まり警報 [ランプ、ブザー]、あぜ位置未登録警報、自動直進設定不良警報 [ランプ、ブザー]、あぜ接近警報、GPS 受信状態不良警報、GPS システム故障警報 [ランプ、ブザー]		
作 業 速 度 (m / s)		0 ~ 1.4		
作 業 能 率 (計算値) (a/h {分 / 10a})		~ 67 {9 ~}		

※主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

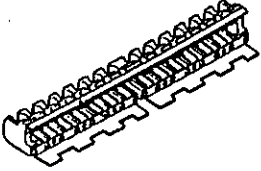
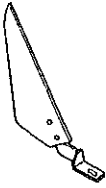
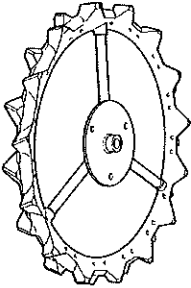
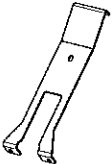
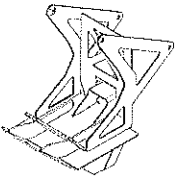
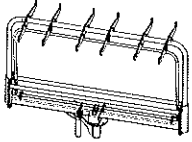
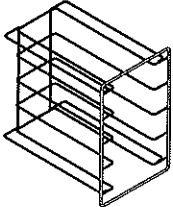
付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

取扱説明書	1
保証書	1
取扱いのポイントシート	1
取扱説明チェックシート	1
組付要領書（残量センサ金具）	1
スローブローヒューズ（60A）	1
スローブローヒューズ（30A）	1
スローブローヒューズ（40A）（施肥）	1
スローブローヒューズ（30A） （自給装置・水洗装置）	1
隣接マーカ	2
隣接マーカ取説	1
カナグ（ザンリョウセンサ）	4
ピッチング調節治具	1

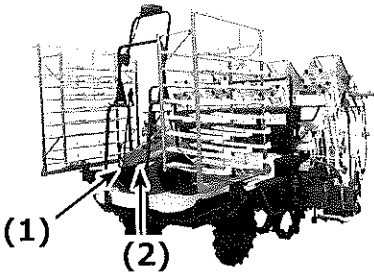
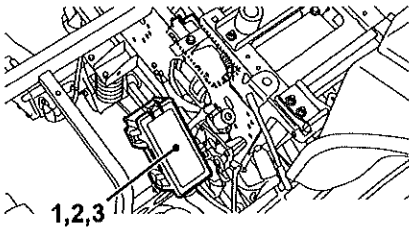
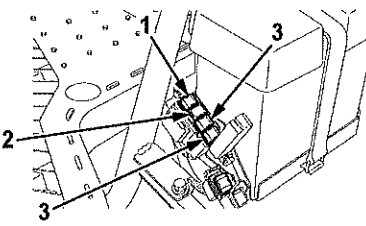
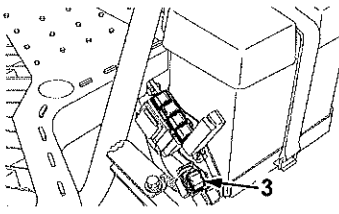
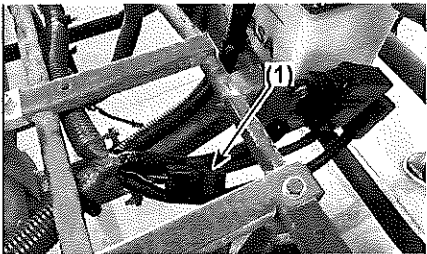
オプション (別売品)

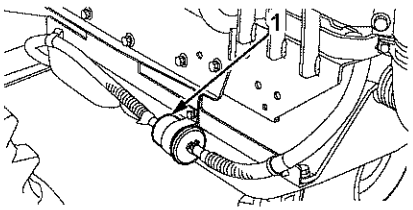
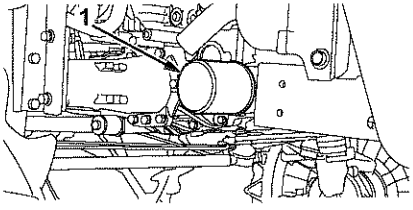
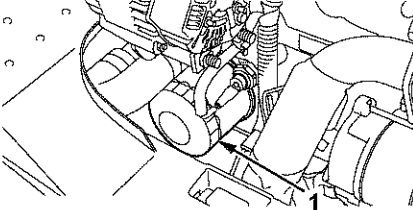
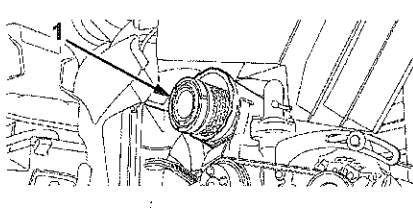
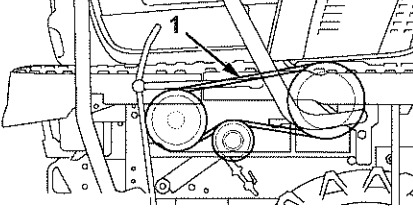
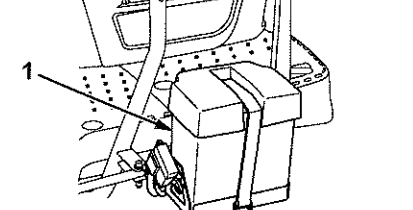
オプション (別売品) は純正品を使いましょう。

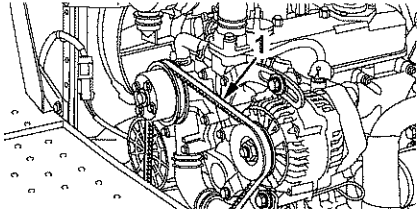
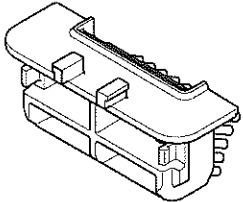
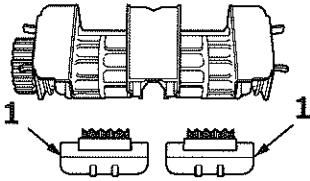
形状	品名	部品番号	備考
	苗受 C P	LTP-9403	太苗用 (突起なし) 根張りが強すぎて跳出ができないときに使います
	苗箱ガイド前 A Y	RXA8-91100	苗抜け防止用 (1台分) 苗張りが弱く苗箱から苗がとび出すときに使います
	車輪、キット (補助、外ゴム) (φ 900 ソリッド)	KU-PW400-98902	後輪の外に取付トリプル車輪として使用 (左右セット)
	車輪、キット (補助、外ゴム) (φ 900 幅 150)	KU-PR809-98903	
	キット (補助車輪、T、外) (φ 900 エアタイヤ)	KU-PF801-98403	
	センターレール補助 A Y	RXG80-91600	苗箱が自動供給部で詰まりやすいときに使います。
	溝切アタッチ A Y	RXG80-99100	ほ場への入排水の管理が簡単に行なえます。 (ほ場の条件により使用できない場合があります)
	カセット式 (ハンガー) 予備苗台 A Y	RXG80-92300	
	苗カゴ C P	RXG80-92331	

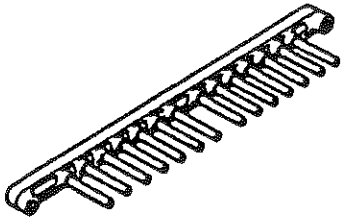
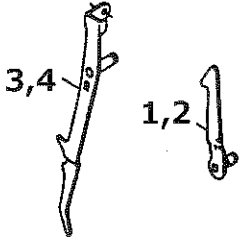
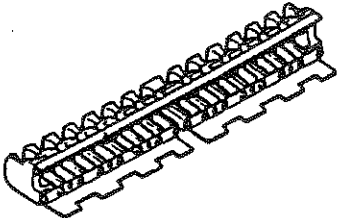
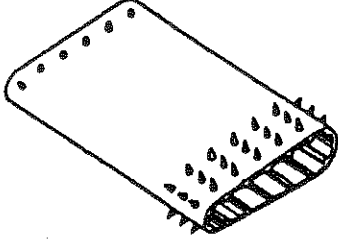

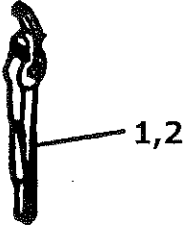
消耗部品

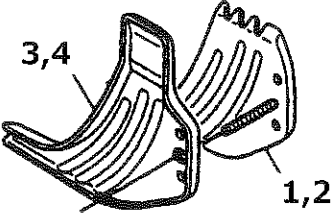
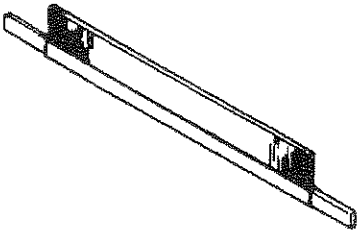
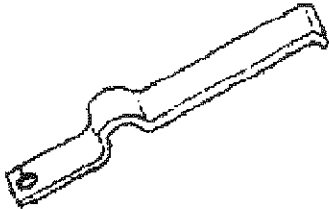
消耗部品は純正品を使いましょう。

形状	品名	部品番号	参照ページ
	1. ランプ (ヘッド RH、LED)	PW200-8517-0	163
	2. ランプ (ヘッド LH、LED)	PW200-8516-0	
	1. ヒューズ (ミニ 5A)	T1065-3043-0	160
	2. ヒューズ (10A、オート)	5H050-4162-0	
	3. ヒューズ (20A、オート)	5H050-4164-0	
	1. ヒューズ (スローブロー 60A ネジ)	KU-T1270-3050-1	162
	2. ヒューズ (スローブロー 40A ネジ)	KU-3W999-0006-1	
	3. ヒューズ (スローブロー 30A)	T1060-3051-0	
	3. ヒューズ (スローブロー 30A)	KU-TD060-3051-1	162
	1. スローブローヒューズ 30A (自給装置・水洗装置)	KU-1G111-6572-1	163

形状	品名	部品番号	参照ページ
	<p>1. フューエルフィルタアッシ</p>	<p>12581-4301-2</p>	<p>151</p>
	<p>1. フィルタ (オイル、カートリッジ) (ミッションオイル用)</p>	<p>66021-3606-0</p>	<p>154</p>
	<p>1. フィルタ (オイル、カートリッジ) (エンジンオイル用)</p>	<p>15241-3209-4</p>	<p>151</p>
	<p>1. エLEMENT (エアクリーナ)</p>	<p>K7311-8239-2</p>	<p>151</p>
	<p>1. V ベルト (50IN) (ミッション駆動ベルト)</p>	<p>PW409-8116-0</p>	<p>153</p>
	<p>1. バッテリ</p>	<p>07908-43560</p>	<p>156</p>

形状	品名	部品番号	参照ページ
	<p>1. ファンベルト (37.5 コグ)</p>	<p>16282-9701-3</p>	<p>154</p>
	<p>施肥ブラシ</p>	<p>PW200-9171-0</p>	<p>155</p>
	<p>1. ロール、アッシ (2)</p>	<p>PW200-9150-4</p>	<p>155</p>

形状	品名	部品番号	備考
	<p>押し棒座 C P</p>	<p>RXG80-22104(2)</p>	<p>破損、または磨耗したとき交換</p>
	<p>1. 縦送り爪下 (左) CP 2. 縦送り爪下 (右) CP 3. 縦送り爪上 (左) CP 4. 縦送り爪上 (右) CP</p>	<p>1. X4-3206(1)L 2. X4-3206(1)R 3. X4-3209(1)L 4. X4-3209(1)R</p>	<p>破損、変形、磨耗したとき交換</p>
	<p>苗受 C P</p>	<p>LPRH6-23401(2)</p>	<p>破損、変形、磨耗したとき交換</p>
	<p>タイミングベルト</p>	<p>LTP-3506(3)</p>	<p>破損、または伸びたとき交換</p>
	<p>苗支持板</p>	<p>LTP-3513(1)</p>	<p>欠落、または変形したとき交換</p>
	<p>1. 植付爪 (左) AY 2. 植付爪 (右) AY</p>	<p>1. LPRH6-24213(2)LAY 2. LPRH6-24213(2)RAY</p>	<p>欠落、または変形したとき交換</p>

形状	品名	部品番号	備考
	1. ガイド板内 (左)CP 2. ガイド板内 (右)CP 3. ガイド板外 (左) 4. ガイド板外 (右)	1. X4-4302(1)L 2. X4-4302(1)R 3. X4-4301(3)L 4. X4-4301(3)R	変形、または磨耗したとき交換
	土落しブラシCP	MRX8-22608(2)	磨耗したとき交換
	苗箱ブレーキ板	LPRH6-23713	磨耗したとき交換
苗のせ台上部	送り押え板 (左)CP 送り押え板 (右)CP	RXG8-25110(1)L RXG8-25110(1)R	磨耗したとき交換
自動供給装置 (スプロケット上部)	スプロケット上板 スプロケット先板	RXG8-25210(4) RXG8-25236(3)	磨耗したとき交換
自動供給装置 (スイッチレバー)	アーム外	RXG80-25305(2)	磨耗したとき交換



純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、いちばんよくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。



このラベルは、「(社)日本陸用内燃機
関協会排出ガス自主規制適合エンジン」
であることを示しています。

みのる産業株式会社

本社工場	〒709-0892 岡山県赤磐市下市 447 TEL(086)955-1123 (代) FAX(086)955-5520
東京支店	〒337-0042 埼玉県さいたま市見沼区南中野 210 TEL(048)683-9451 (代) FAX(048)683-9452
長野営業所	〒389-1104 長野県長野市豊野町浅野 582-4 TEL(026)257-6530 (代) FAX(026)257-6531
徳島営業所	〒771-1151 徳島県徳島市応神町古川字東 197 TEL(088)641-2311 (代) FAX(088)641-2324
九州支店	〒818-0066 福岡県筑紫野市大字永岡 1020-1 TEL(092)921-6006 (代) FAX(092)921-6008

ホームページ <https://www.minoru-sangyo.co.jp/>